

<第4章 調査結果〔解説・グラフ〕>

第4章 調査結果〔解説・グラフ〕

1. 新型コロナウイルス感染症対策について

(1) 不要不急の外出の自粛や休業等の要請に関する情報の入手先

問1 県では、4月3日以降、県民の皆さまや事業者の方々に対して、不要不急の外出の自粛や休業等の要請を行いました。これらの県が行った要請について、どのような媒体で情報を入手しましたか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「テレビ」が95.2%と1位になっている。

次いで、「新聞」が59.9%、「県・市町村の広報紙」が22.7%と続いている。

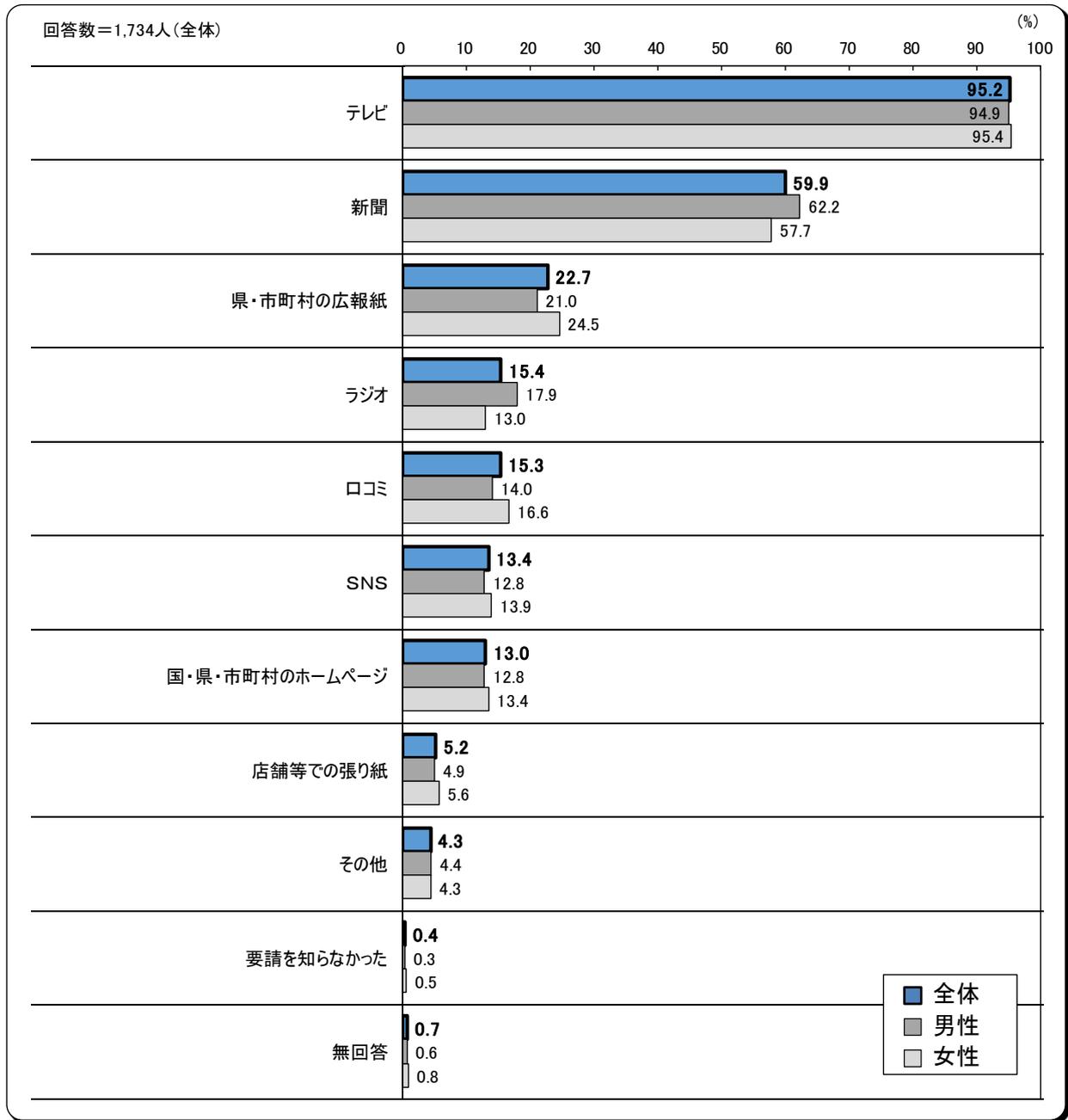
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,734 人
テレビ	95.2	1,650 人
新聞	59.9	1,039 人
県・市町村の広報紙	22.7	394 人
ラジオ	15.4	267 人
口コミ	15.3	265 人
SNS	13.4	233 人
国・県・市町村のホームページ	13.0	226 人
店舗等での張り紙	5.2	91 人
その他	4.3	75 人
要請を知らなかった	0.4	7 人
無回答	0.7	12 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「テレビ」が最も高く、次いで、「新聞」、「県・市町村の広報紙」となっている。

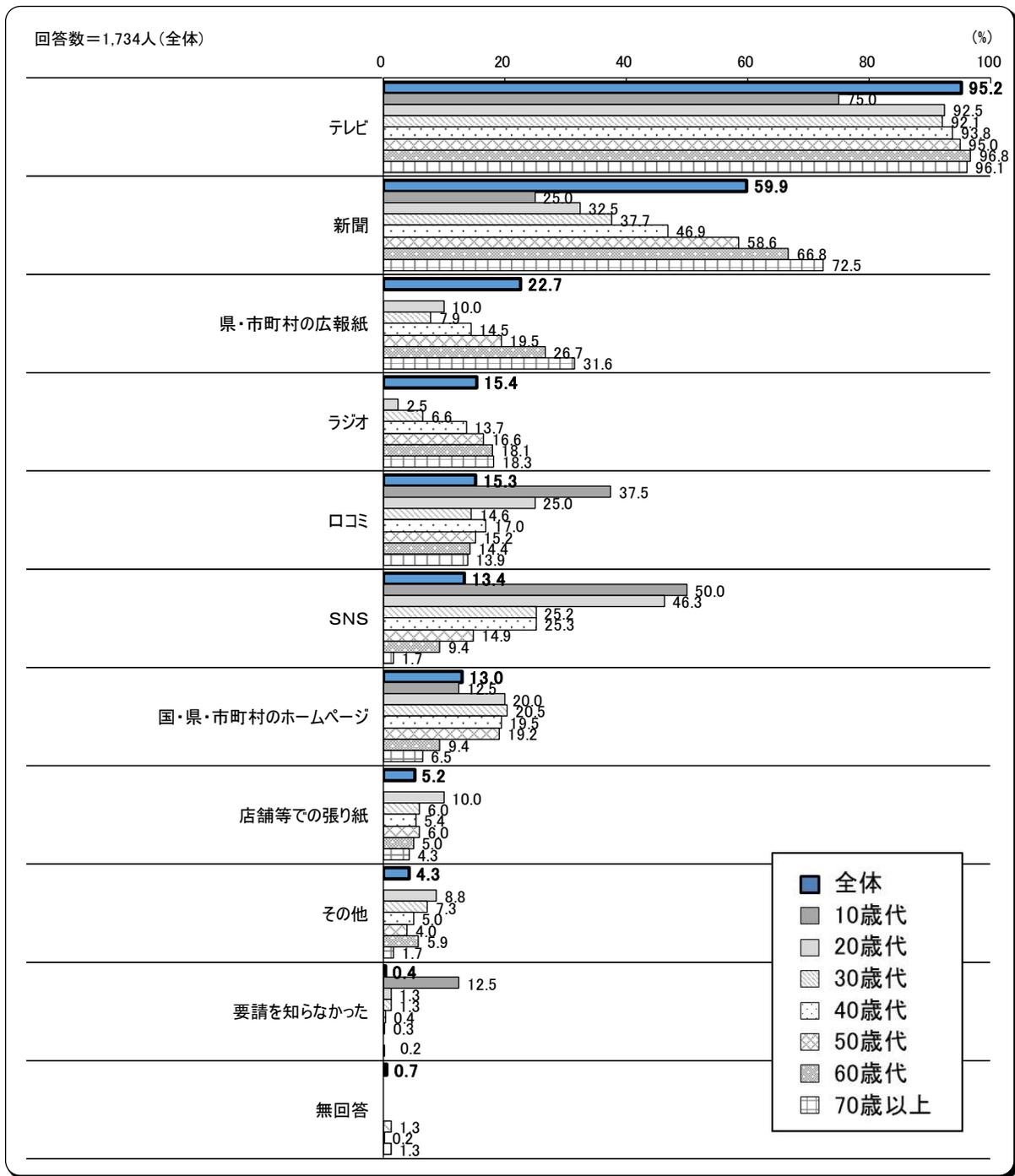
◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「テレビ」が最も高く、次いで、10歳代、20歳代では「SNS」、そのほかの年代では「新聞」となっている。

《年代別》



(2)外出等の自粛

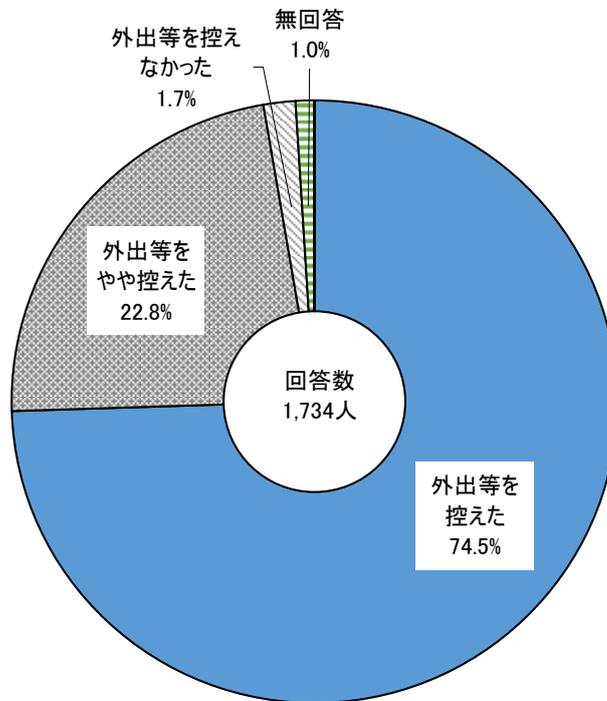
問2 県が行った要請に応じて外出等を控えましたか。(1つだけ○印)

【総合】

「外出等を控えた」が74.5%と1位になっている。

次いで、「外出等をやや控えた」が22.8%、「外出等を控えなかった」が1.7%と続いている。

《総合》

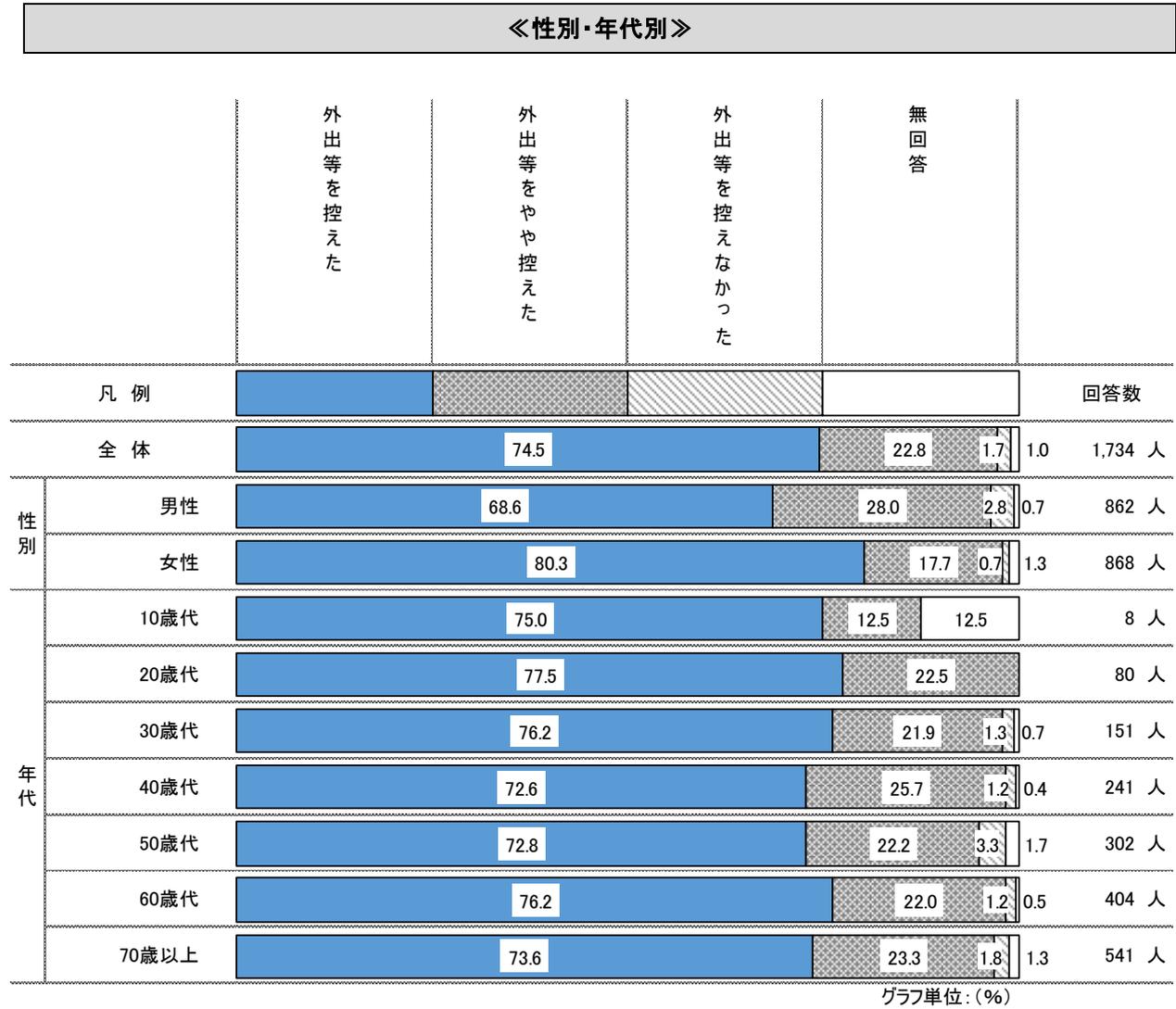


【性別】

男女ともに「外出等を控えた」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「外出等を控えた」が半数を超えて最も高くなっている。



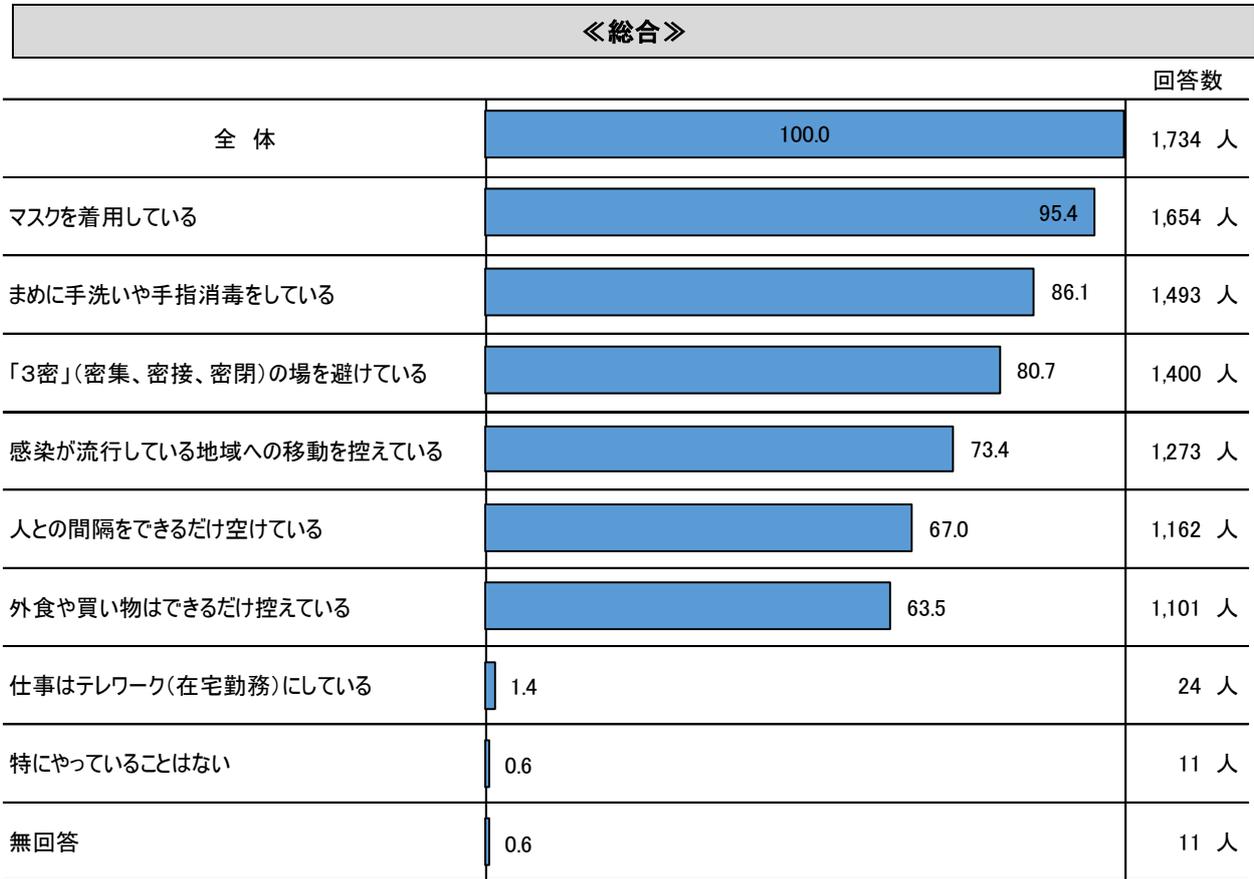
(3)新しい生活様式で実践している取り組み

問3 感染拡大を予防するための「新しい生活様式」について、実践している取り組みは何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「マスクを着用している」が95.4%と1位になっている。

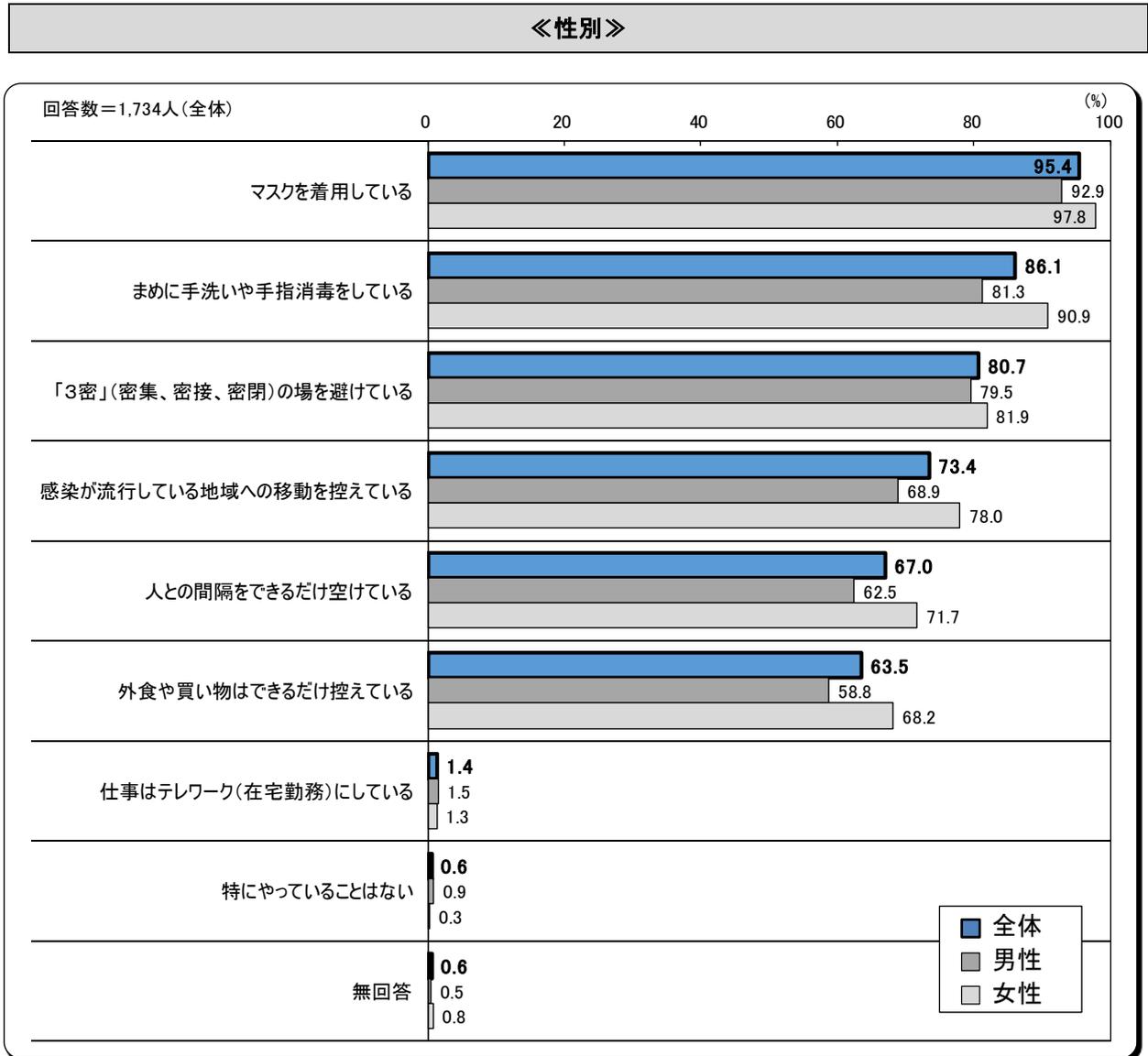
次いで、「まめに手洗いや手指消毒をしている」が86.1%、「「3密」(密集、密接、密閉)の場を避けている」が80.7%と続いている。



グラフ単位: (%)

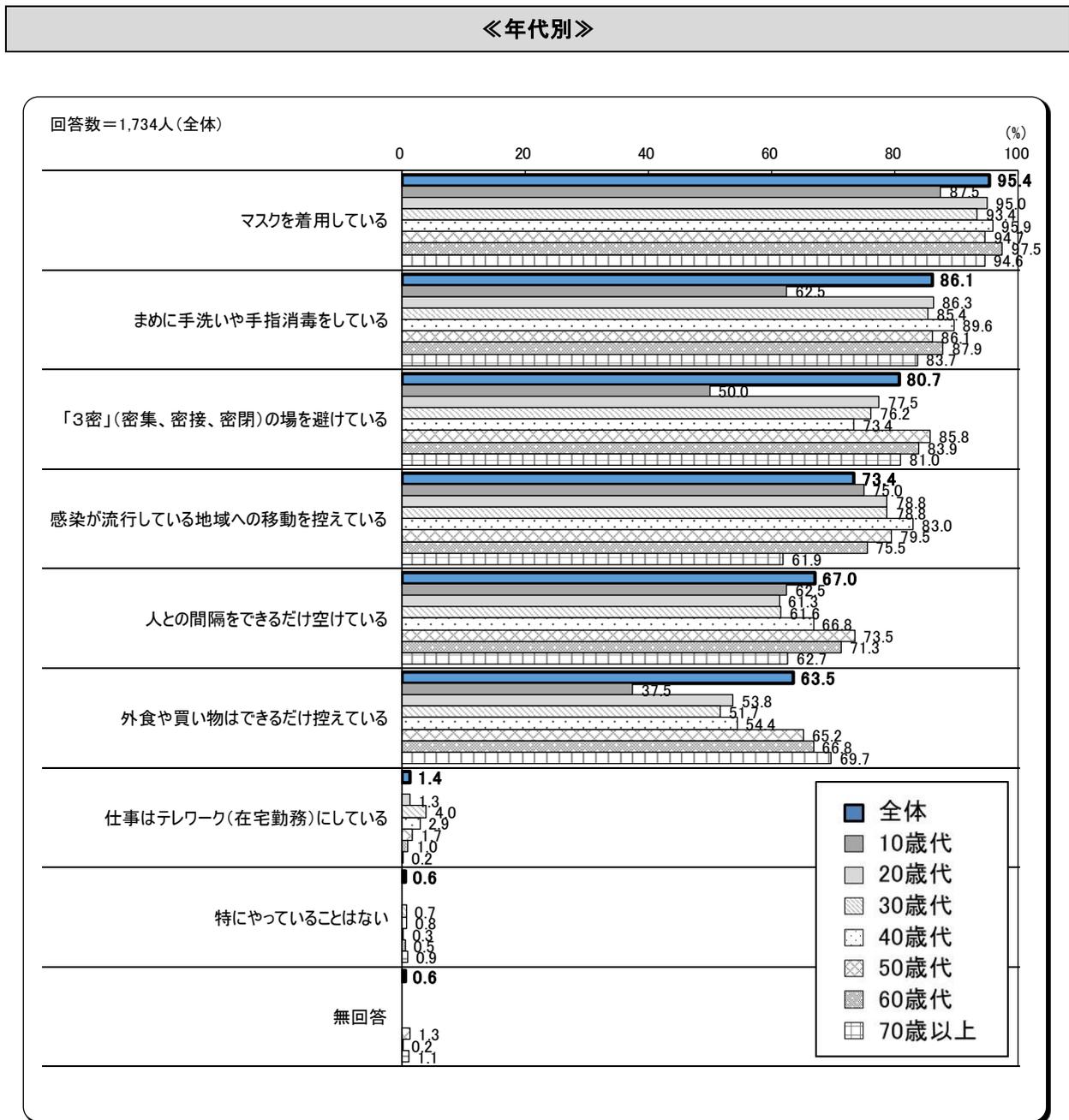
【性別】

男女ともに「マスクを着用している」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「マスクを着用している」が最も高くなっている。



(4)新型コロナウイルス感染症等で不安に感じていること

問4 新型コロナウイルス感染症やその影響について、不安に感じていることは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

「自分や家族、知人の感染」が88.4%と1位になっている。

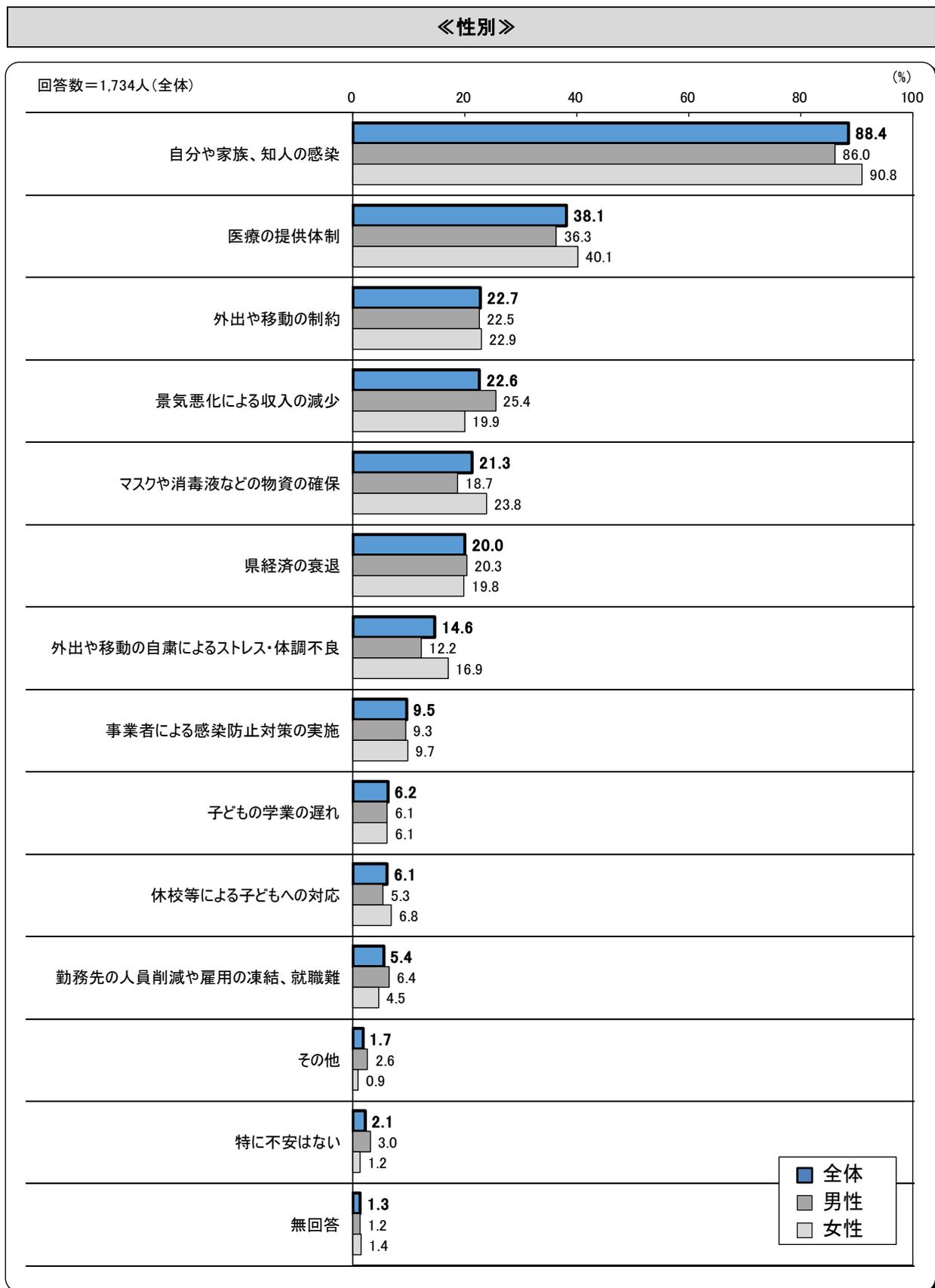
次いで、「医療の提供体制」が38.1%、「外出や移動の制約」が22.7%と続いている。

《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,734 人
自分や家族、知人の感染	88.4	1,532 人
医療の提供体制	38.1	661 人
外出や移動の制約	22.7	393 人
景気悪化による収入の減少	22.6	392 人
マスクや消毒液などの物資の確保	21.3	369 人
県経済の衰退	20.0	347 人
外出や移動の自粛によるストレス・体調不良	14.6	253 人
事業者による感染防止対策の実施	9.5	164 人
子どもの学業の遅れ	6.2	107 人
休校等による子どもへの対応	6.1	106 人
勤務先の人員削減や雇用の凍結、就職難	5.4	94 人
その他	1.7	30 人
特に不安はない	2.1	36 人
無回答	1.3	23 人

グラフ単位：(%)

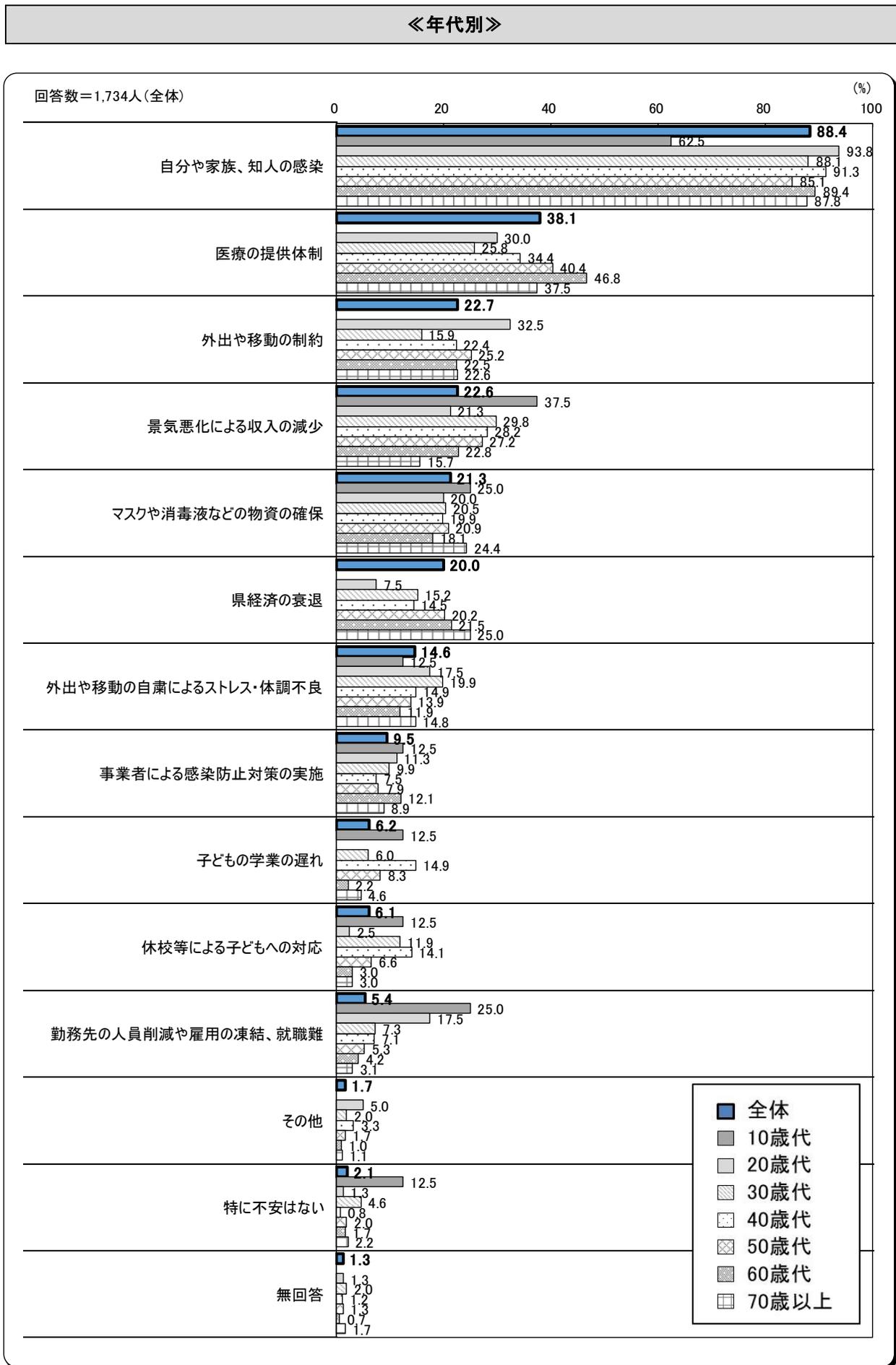
【性別】

男女ともに「自分や家族、知人の感染」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「自分や家族、知人の感染」が最も高くなっている。



2. 県の基本政策について

(1) 経済の活性化について

問5 「経済の活性化」について、第4期高知県産業振興計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（3つまで○印）

【総合】

「産業の担い手の育成・確保」が42.6%と1位になっている。

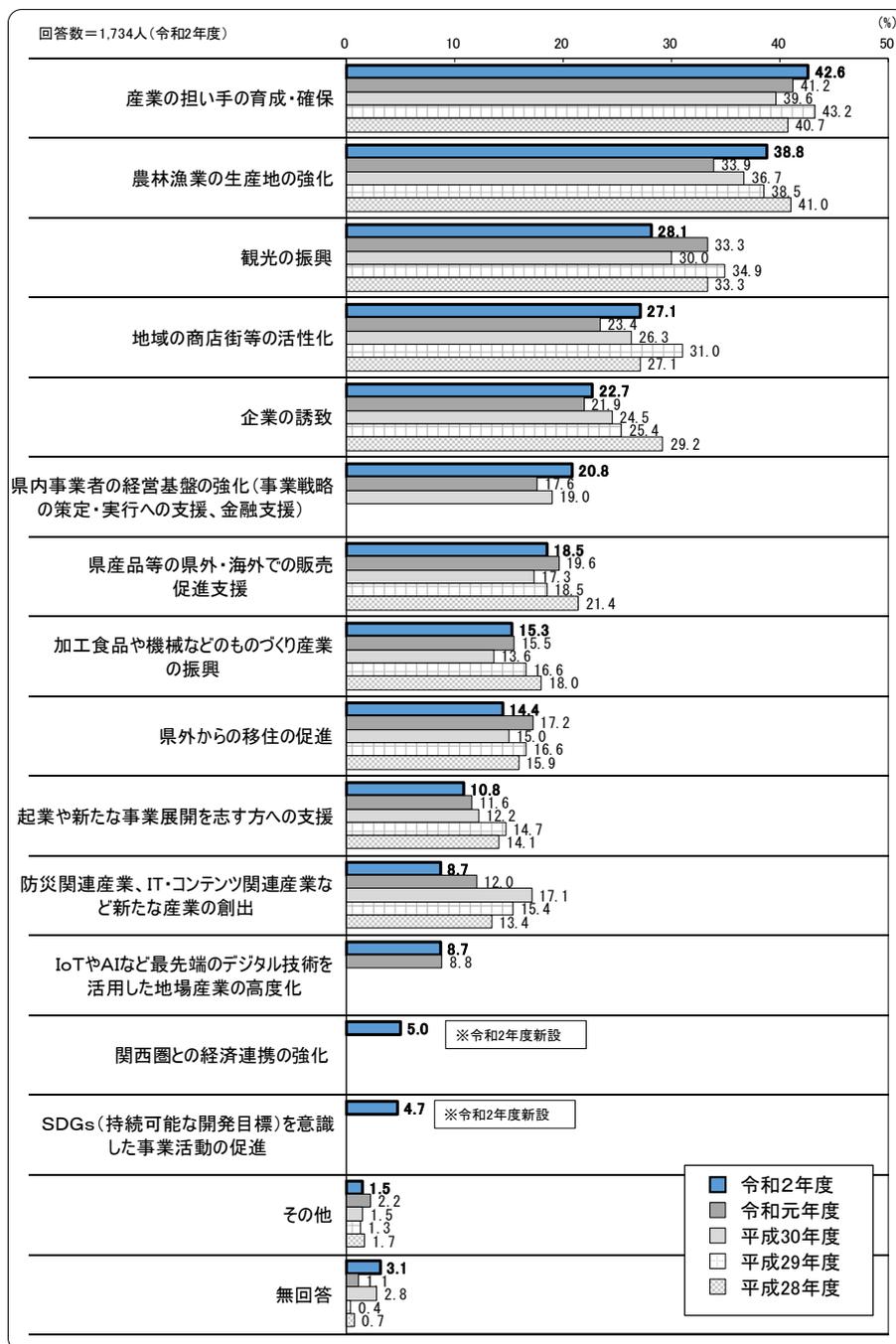
次いで、「農林漁業の生産地の強化」が38.8%、「観光の振興」が28.1%と続いている。

【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、ほぼ同じ傾向になっている。

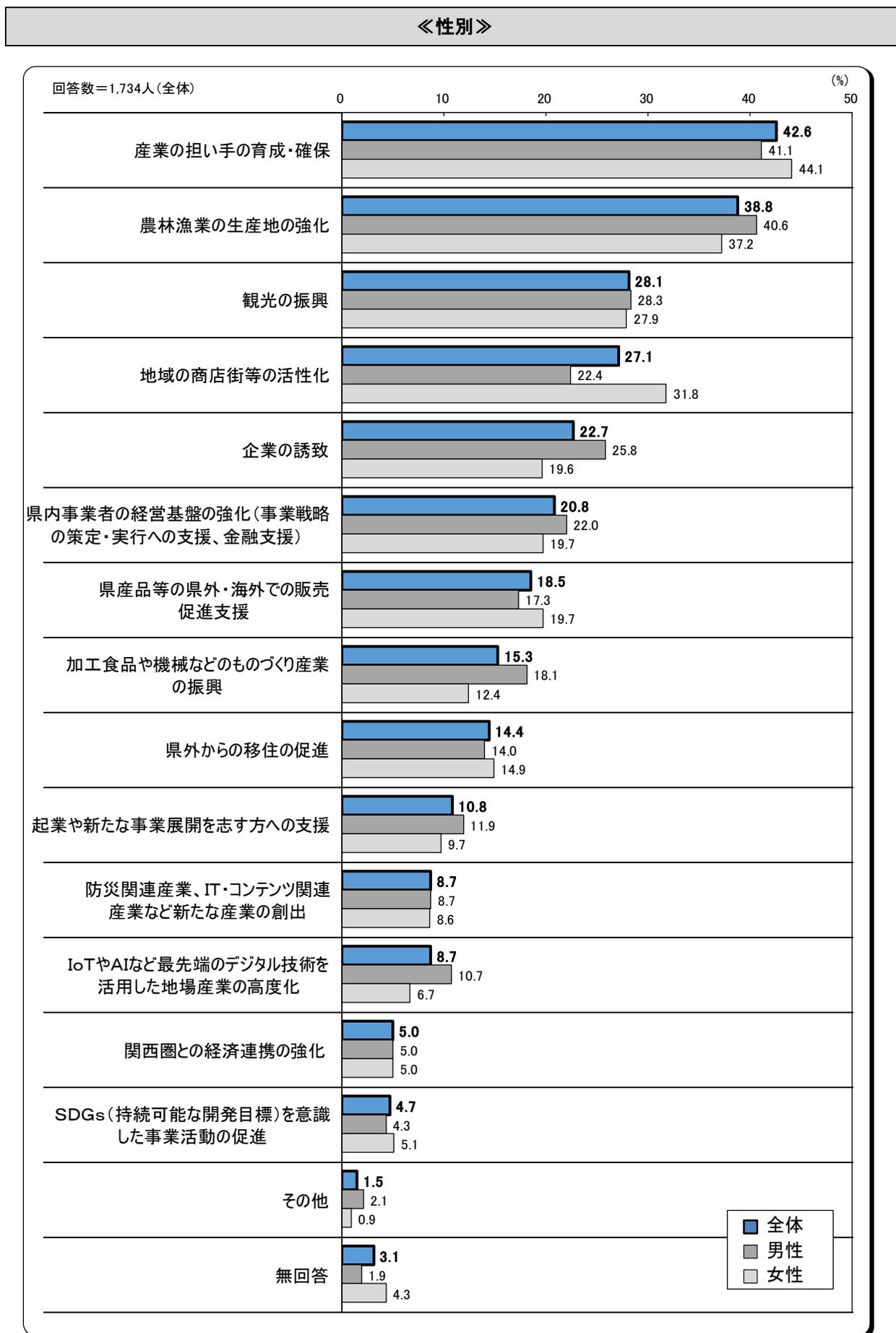
「農林漁業の生産地の強化」が減少傾向にあったが、昨年度と比べ4.9ポイント上昇し、「観光の振興」が昨年度と比べ5.2ポイント減少している。

《経年比較》



【性別】

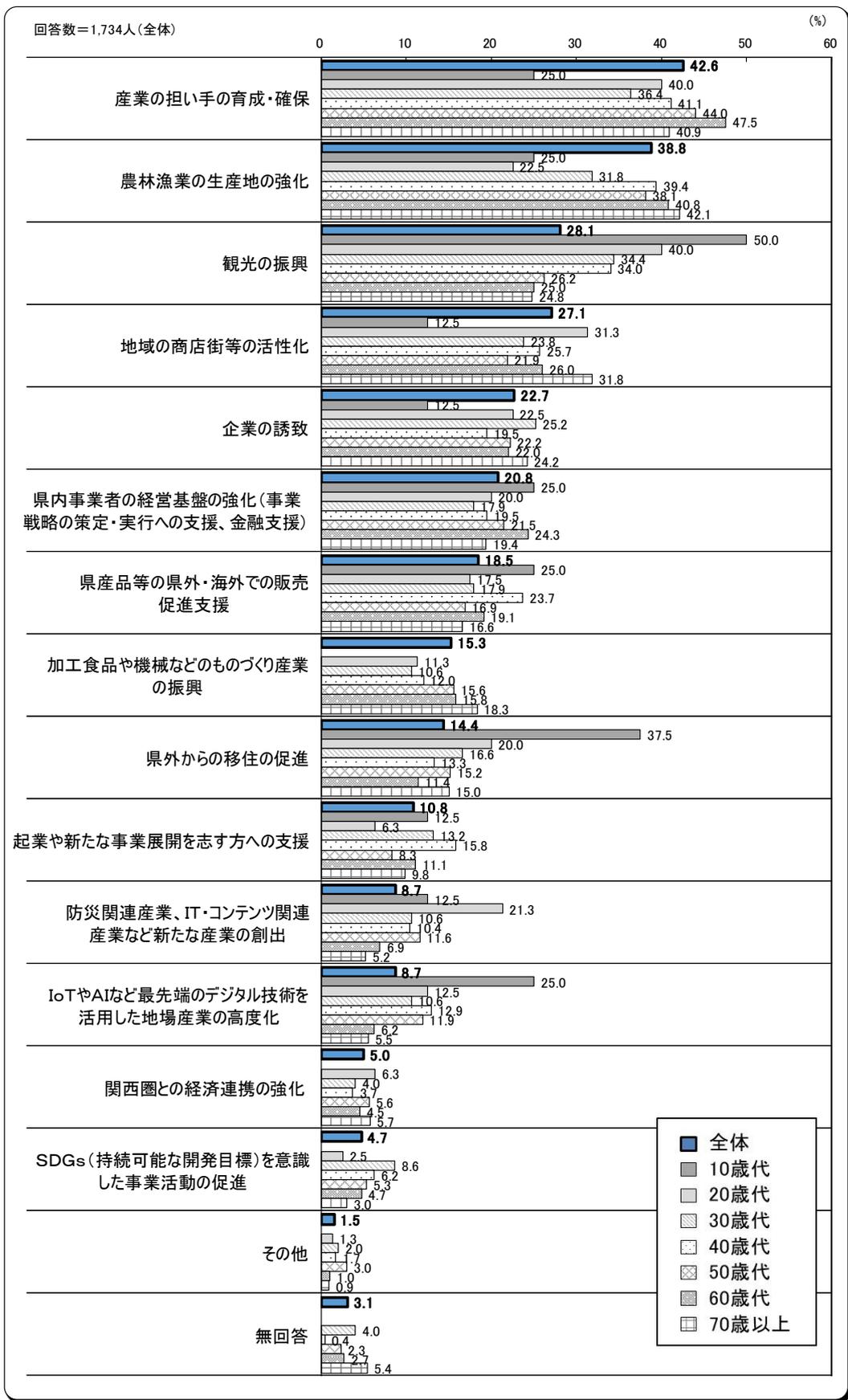
男女ともに「産業の担い手の育成・確保」が最も高く、次いで、「農林漁業の生産地の強化」が続いている。



【年代別】

10歳代では「観光の振興」が最も高く、20歳代では同率で「観光の振興」と「産業の担い手の育成・確保」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「産業の担い手の育成・確保」が最も高く、70歳以上では「農林漁業の生産地の強化」が最も高くなっている。

《年代別》



(2)「日本一の健康長寿県づくり」について

問6 「日本一の健康長寿県づくり」について、第4期日本一の健康長寿県構想に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（3つまで○印）

【総合】

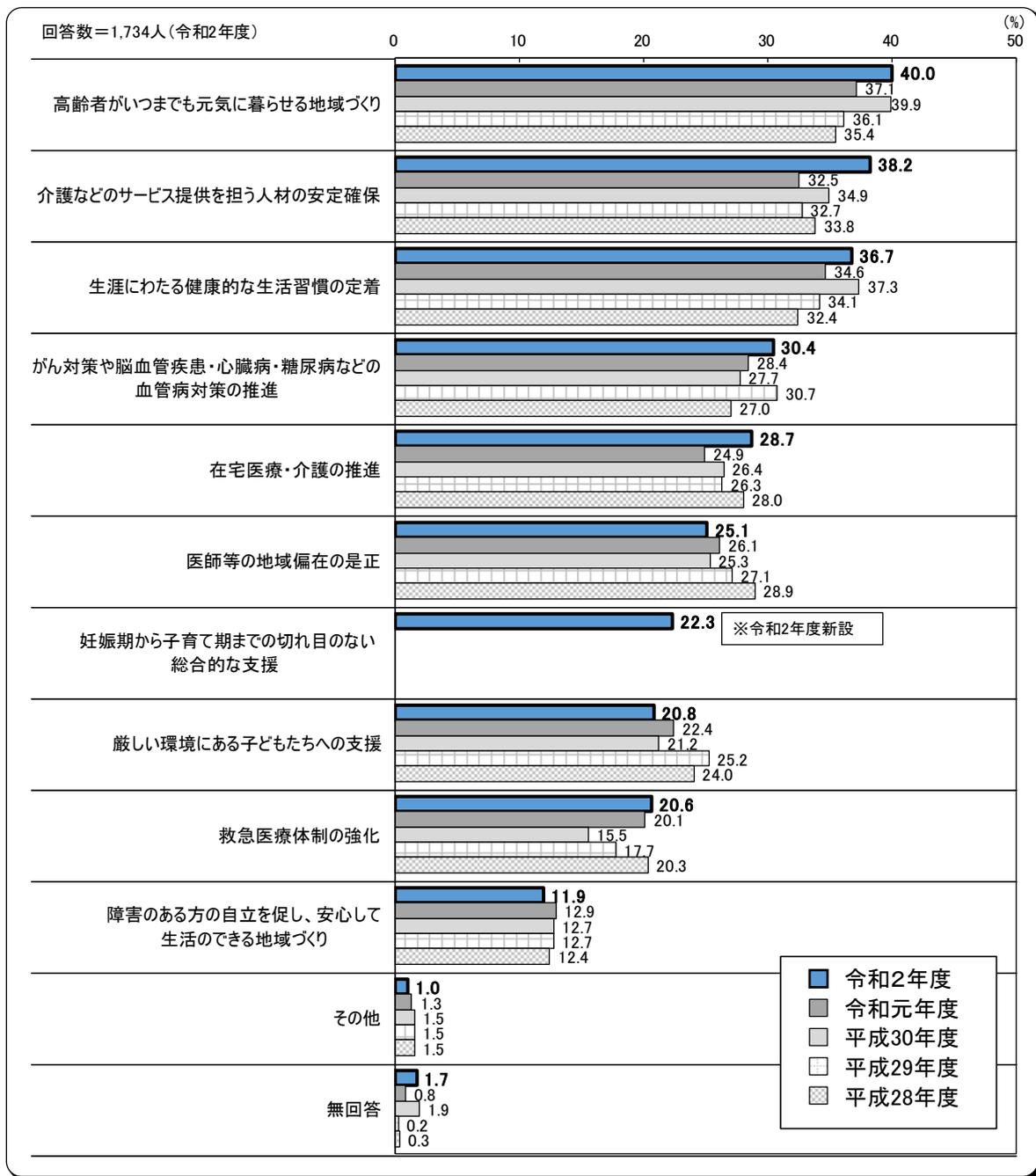
「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が40.0%と1位になっている。

次いで、「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が38.2%、「生涯にわたる健康的な生活習慣の定着」が36.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

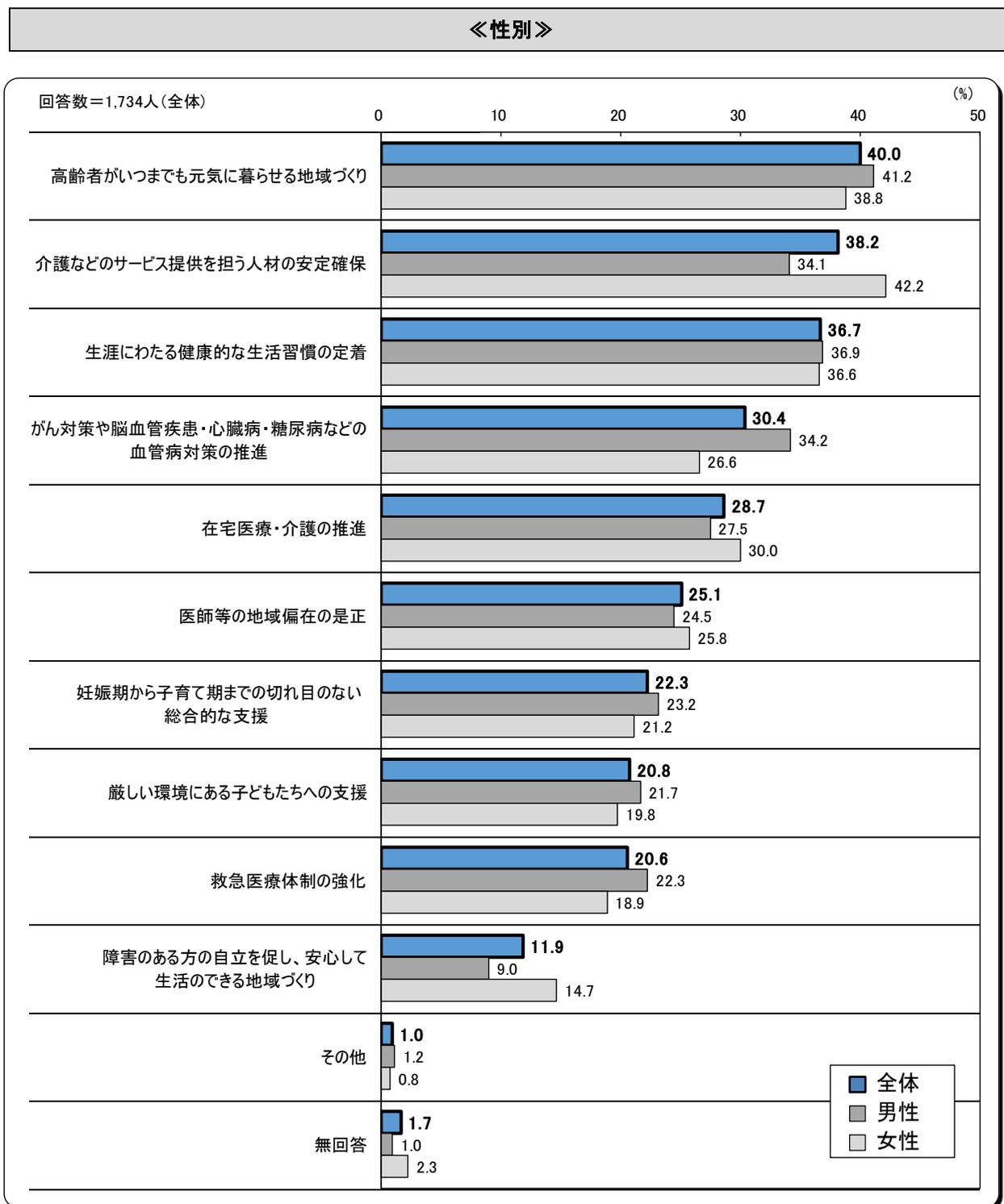
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度も昨年度と同じく「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が2.9ポイント増加して1位になっており、「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が5.7ポイント増加して4位から2位になっている。

《経年比較》



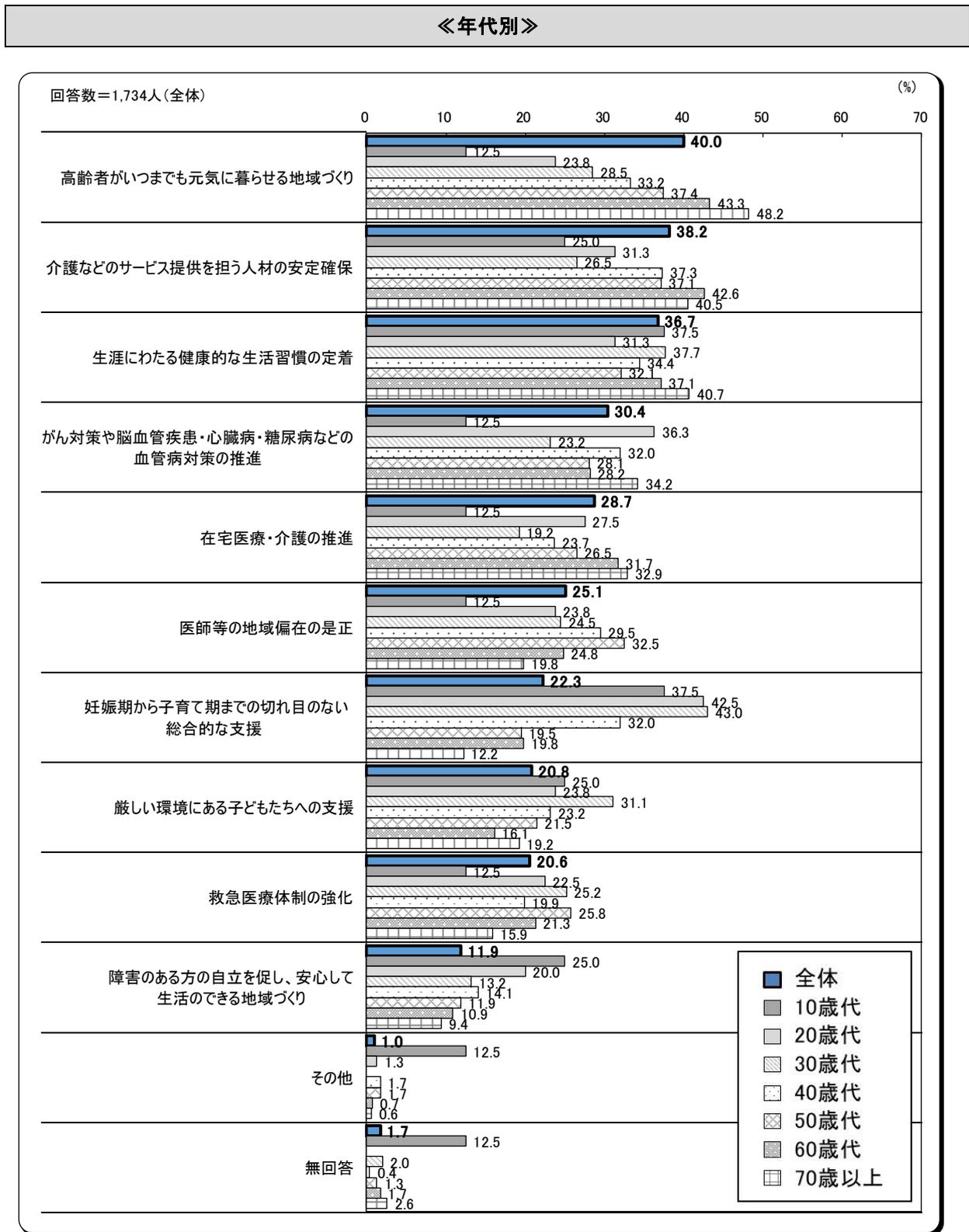
【性別】

男性では「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が、女性では「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では同率で「生涯にわたる健康的な生活習慣の定着」と「妊娠期から子育て期までの切れ目のない総合的な支援」が最も高く、20歳代、30歳代では「妊娠期から子育て期までの切れ目のない総合的な支援」が、40歳代では「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が、50歳代、60歳代、70歳以上では「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が最も高くなっている。



(3)「教育の充実と子育て支援」について

問7 「教育の充実と子育て支援」について、第2期教育等の振興に関する施策の大綱に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（3つまで○印）

【総合】

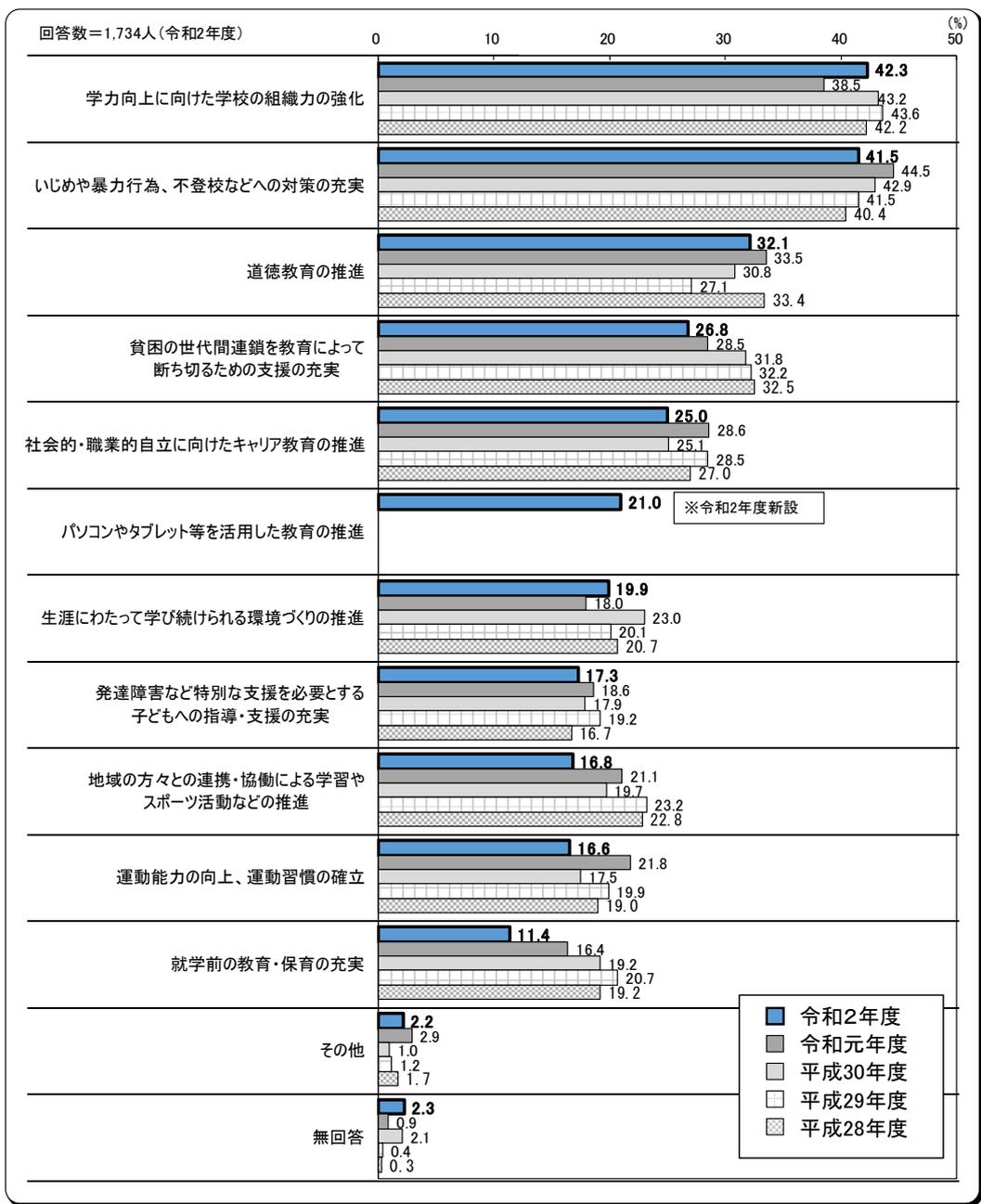
「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が42.3%と1位になっている。

次いで、「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が41.5%、「道徳教育の推進」が32.1%と続いている。

【過去の調査との比較】

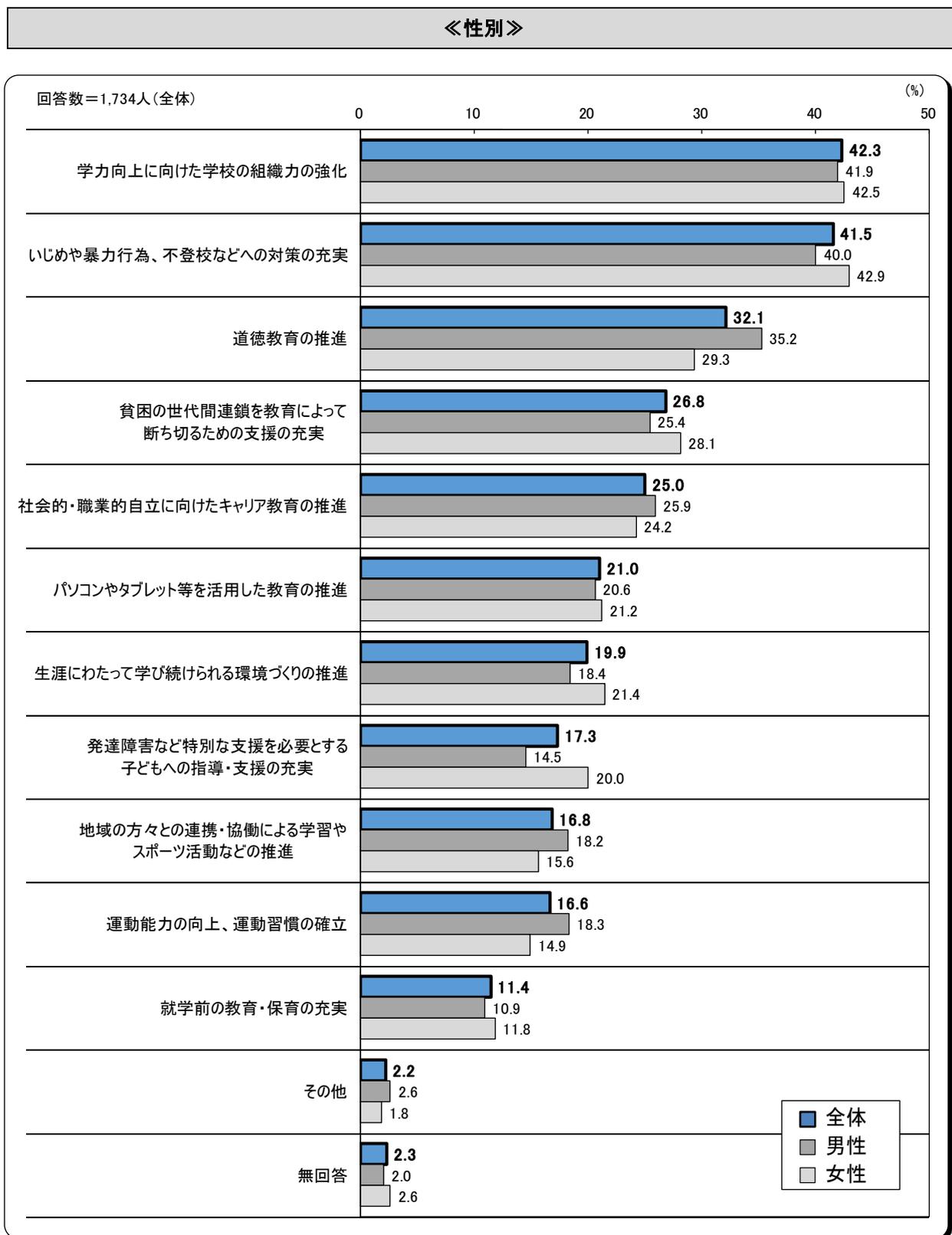
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度は「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が3.8ポイント増加し1位になっている。「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」は昨年度より3.0ポイント減少し2位になっている。

《経年比較》



【性別】

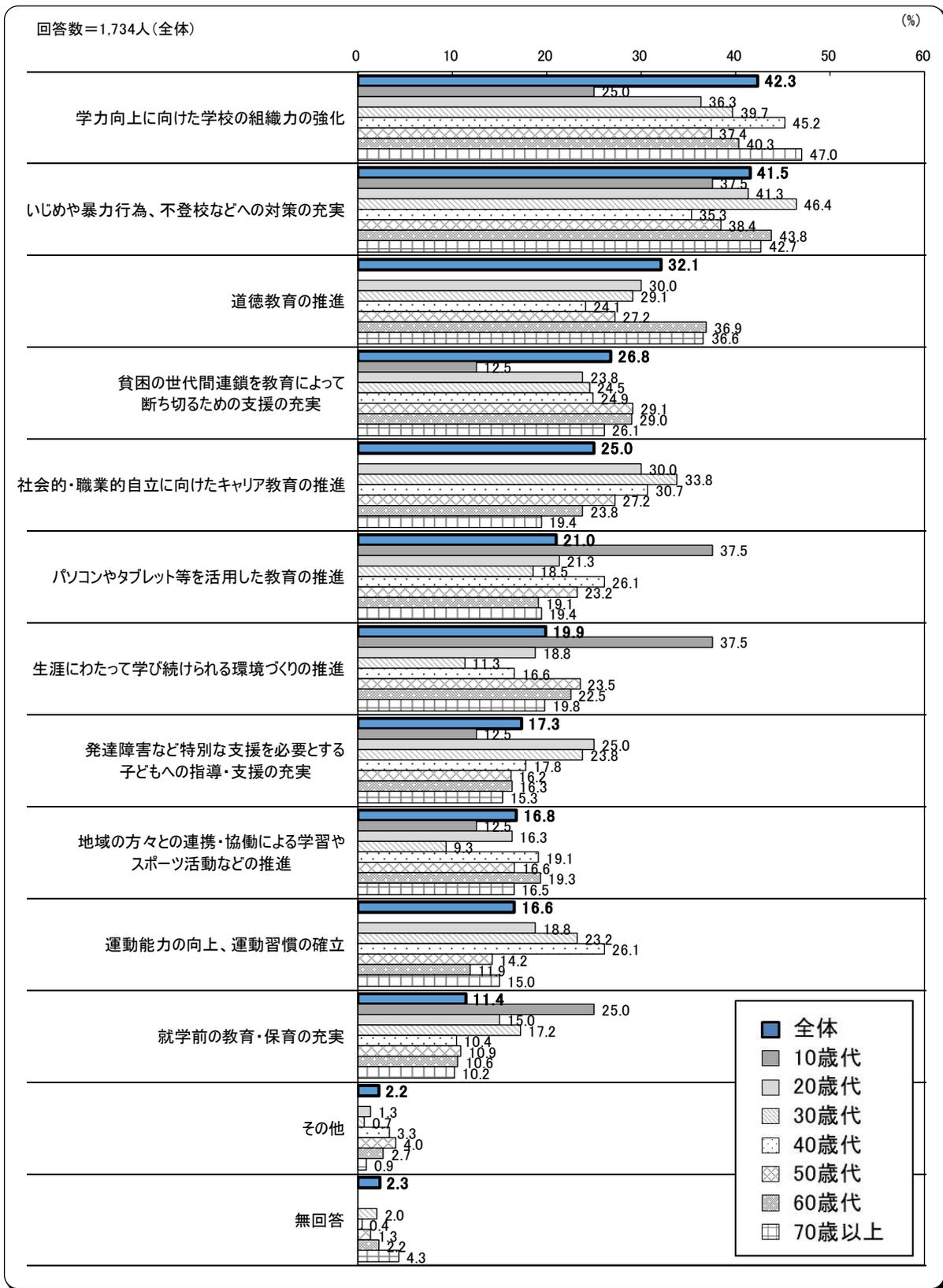
男性では「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が、女性では「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では同率で「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」と「パソコンやタブレット等を活用した教育の推進」と「生涯にわたって学び続けられる環境づくりの推進」が最も高く、20歳代、30歳代、50歳代、60歳代では「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が、40歳代、70歳以上では「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が最も高くなっている。

《年代別》



(4)「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について

問8 「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について、第4期南海トラフ地震対策行動計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

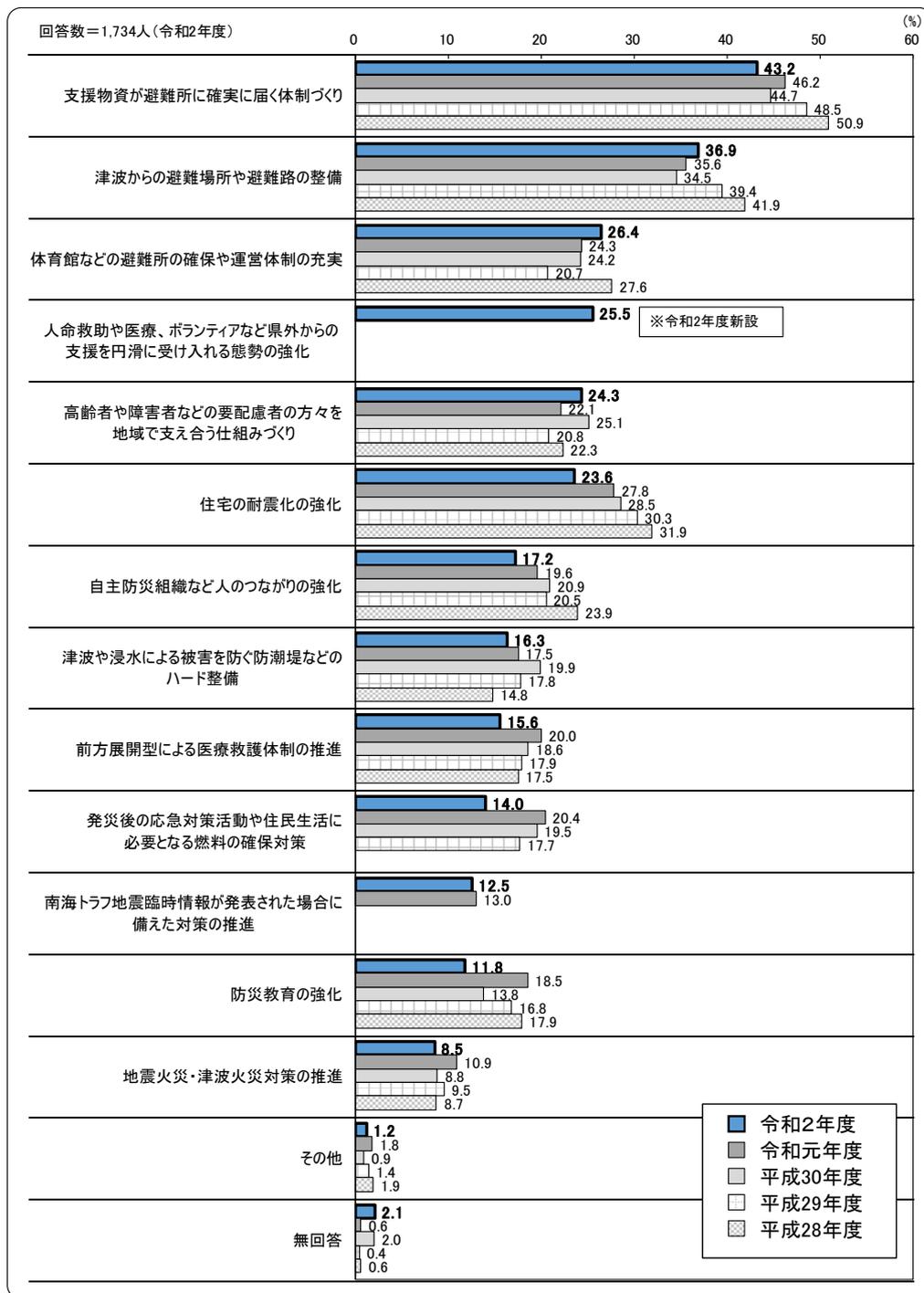
「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が43.2%と1位になっている。

次いで、「津波からの避難場所や避難路の整備」が36.9%、「体育館などの避難所の確保や運営体制の充実」が26.4%と続いている。

【過去の調査との比較】

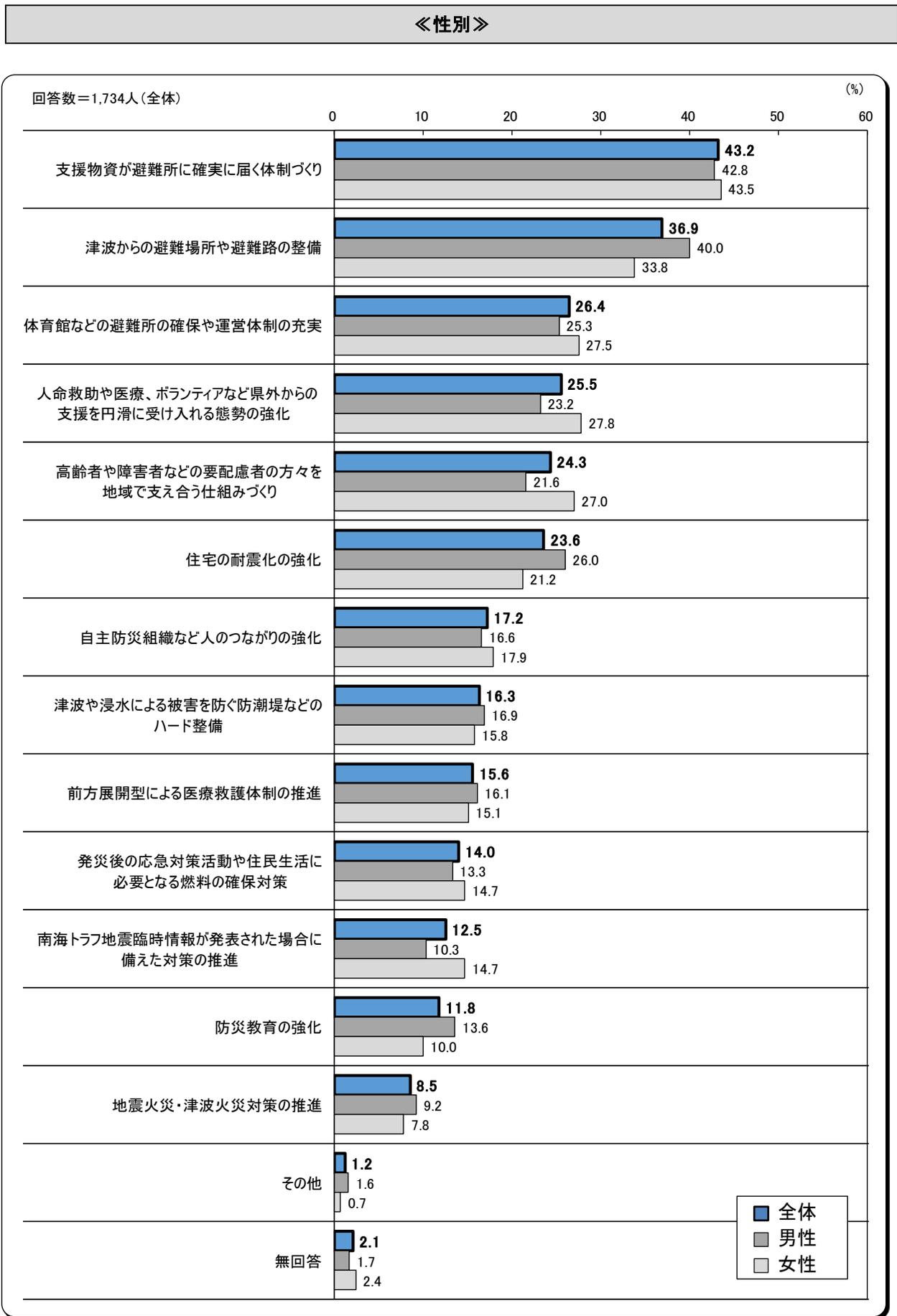
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、昨年度と同じく今年度も「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が1位になっている。

《経年比較》



【性別】

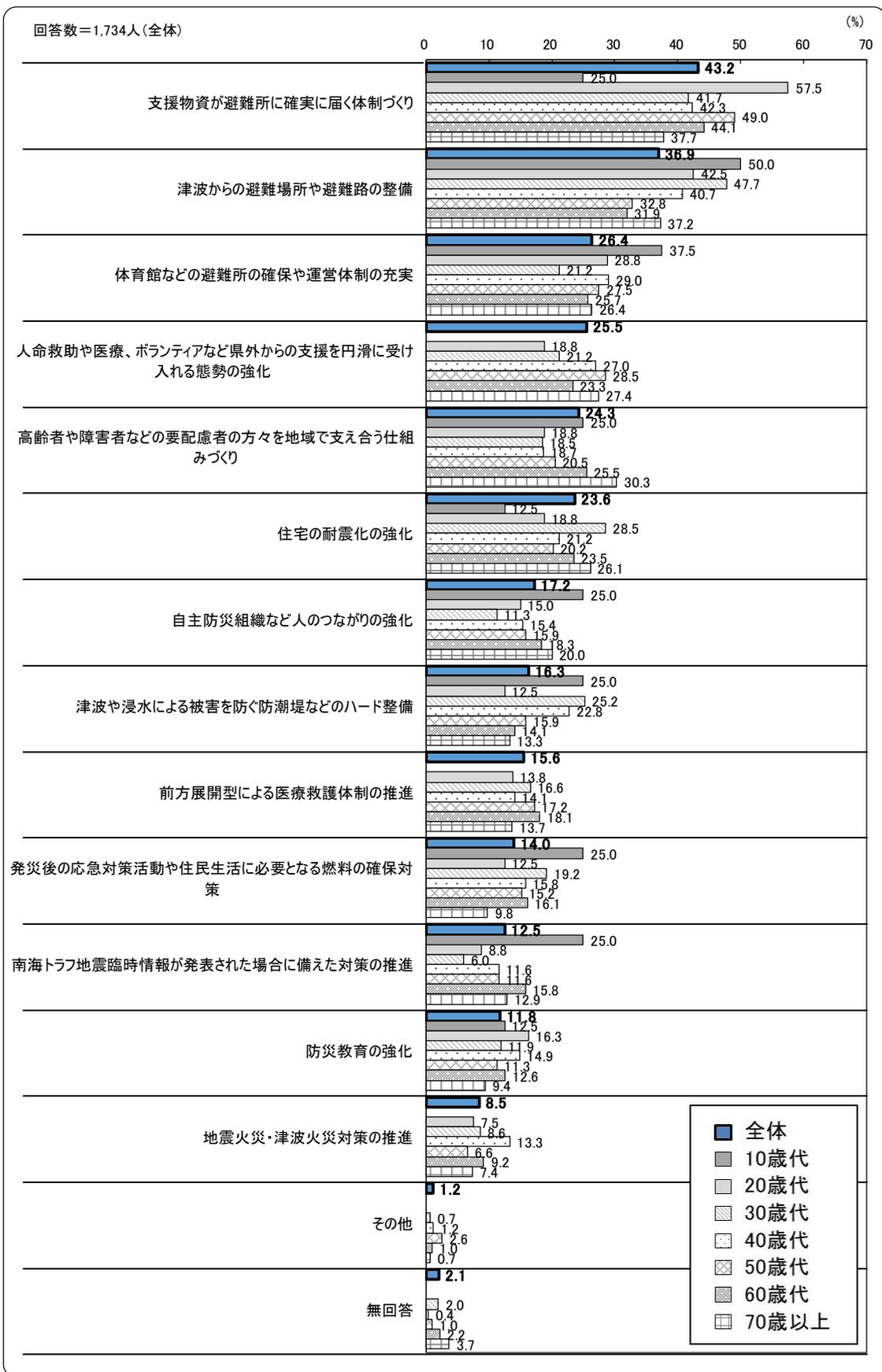
男女ともに「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、30歳代では「津波からの避難場所や避難路の整備」が最も高く、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が最も高くなっている。

《年代別》



(5)「インフラの充実と有効活用」について

問9 「インフラの充実と有効活用」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（2つまで○印）

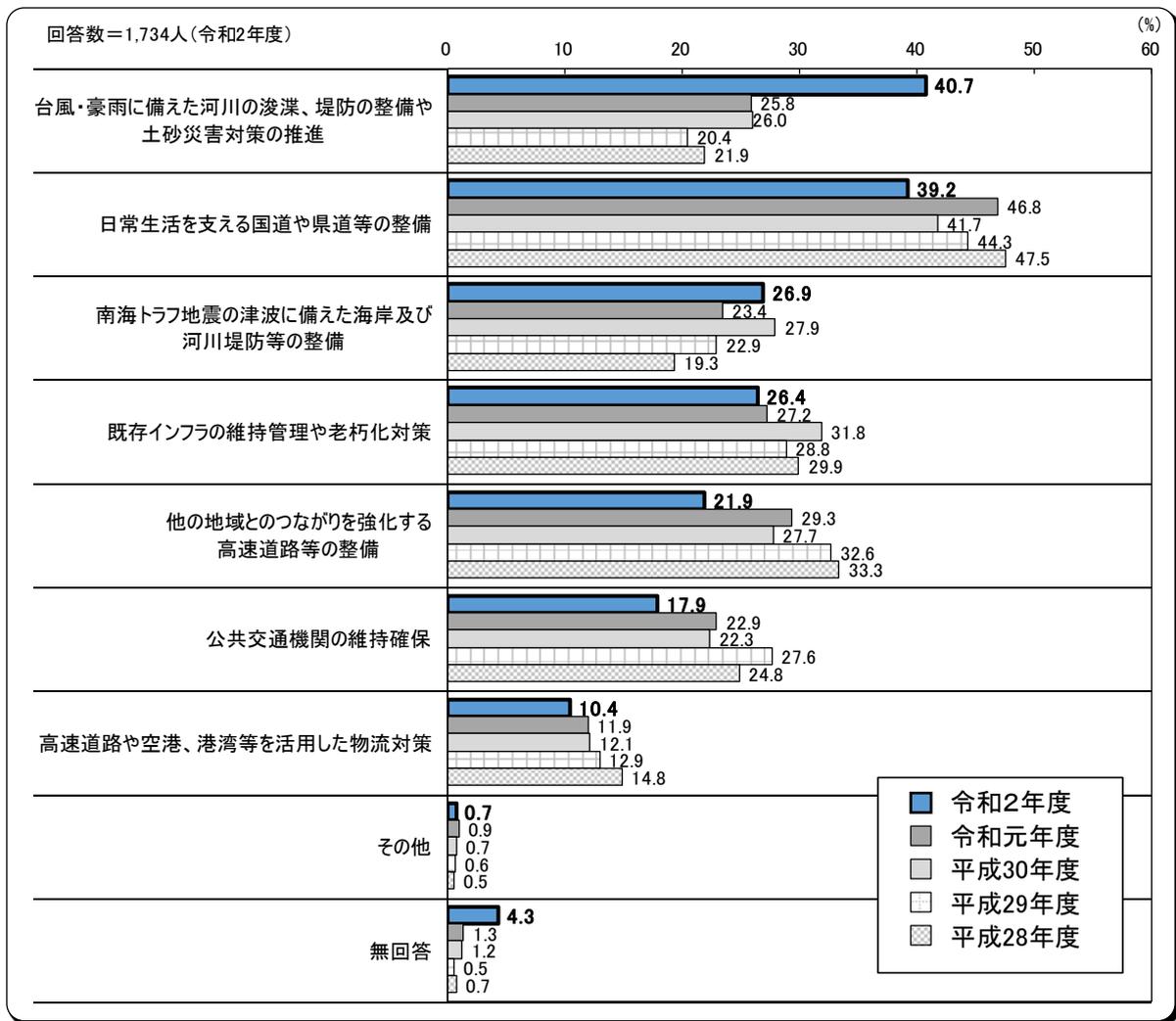
【総合】

「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が40.7%と1位になっている。次いで、「日常生活を支える国道や県道等の整備」が39.2%、「南海トラフ地震の津波に備えた海岸及び河川堤防等の整備」が26.9%と続いている。

【過去の調査との比較】

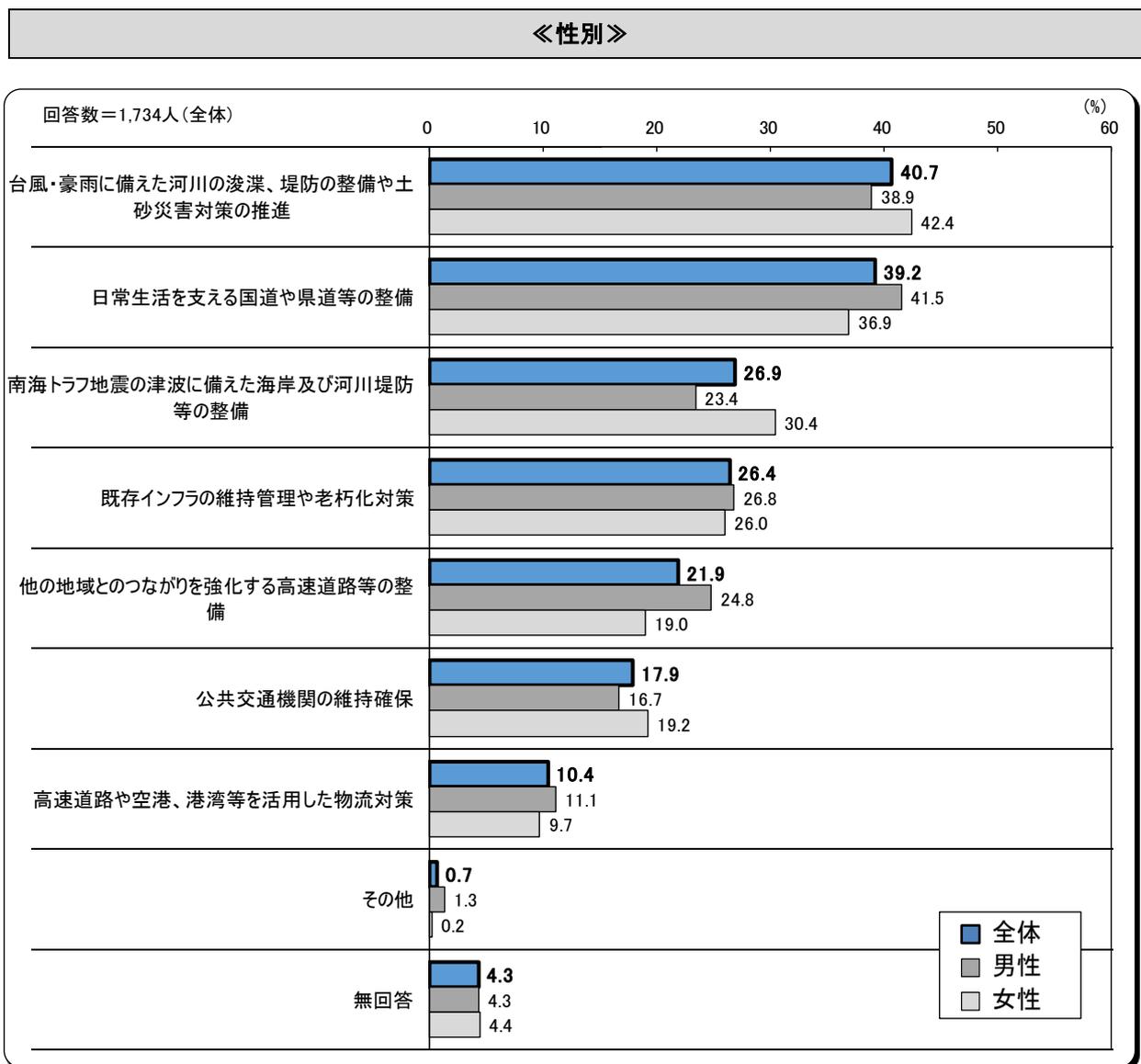
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度は「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が14.9ポイント増加し1位になっており、「南海トラフ地震の津波に備えた海岸及び河川堤防等の整備」が3.5ポイント増加し3位になっている。

《経年比較》



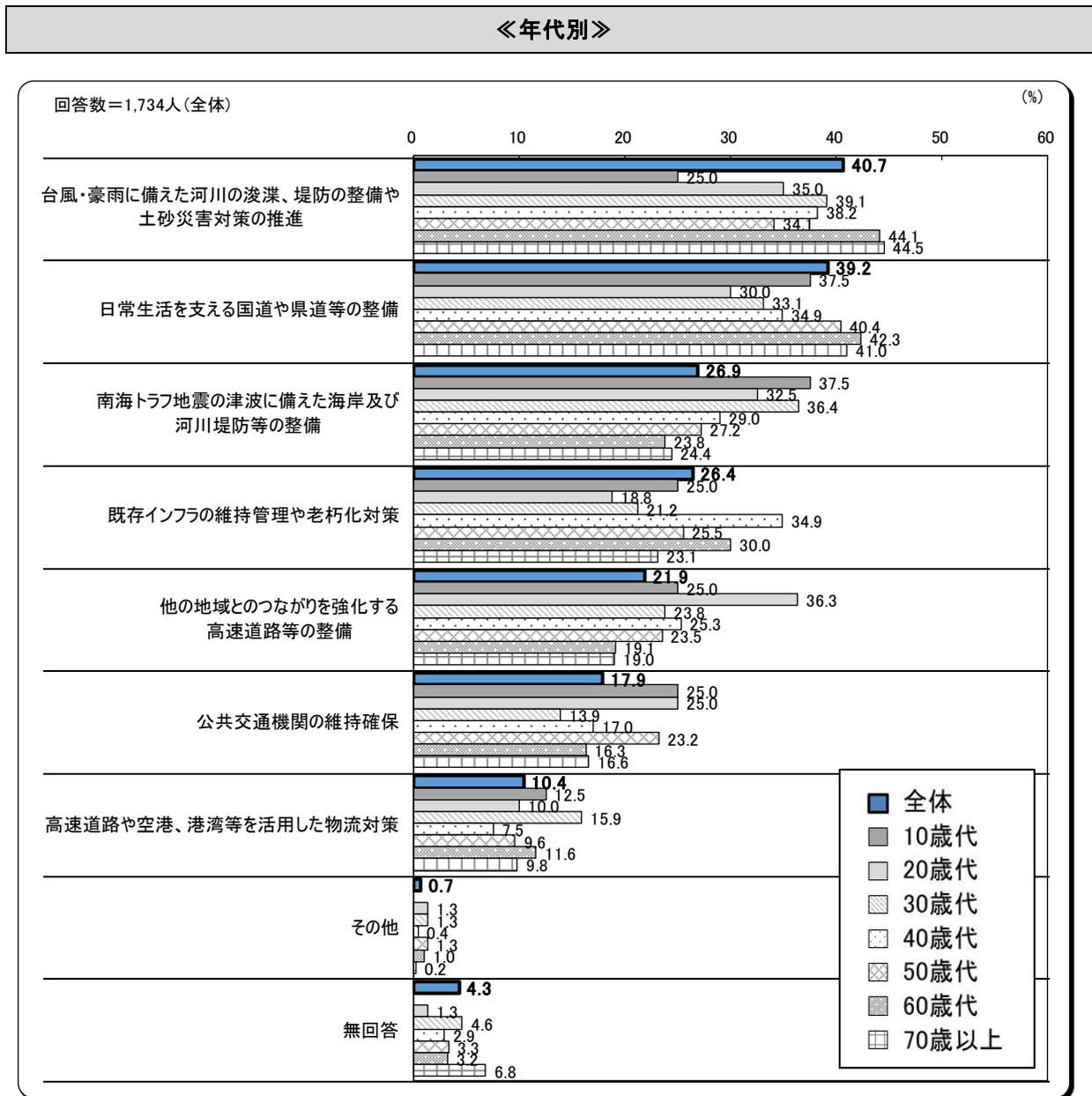
【性別】

男性では「日常を支える国道や県道等の整備」が、女性では「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代は同率で「日常生活を支える国道や県道等の整備」と「南海トラフ地震の津波に備えた海岸及び河川堤防等の整備」が最も高く、20歳代では「他の地域とのつながりを強化する高速道路等の整備」が、30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上では「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が、50歳代では「日常生活を支える国道や県道等の整備」が最も高くなっている。



(6)「中山間対策の充実・強化」について

問10 「中山間対策の充実・強化」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（2つまで〇印）

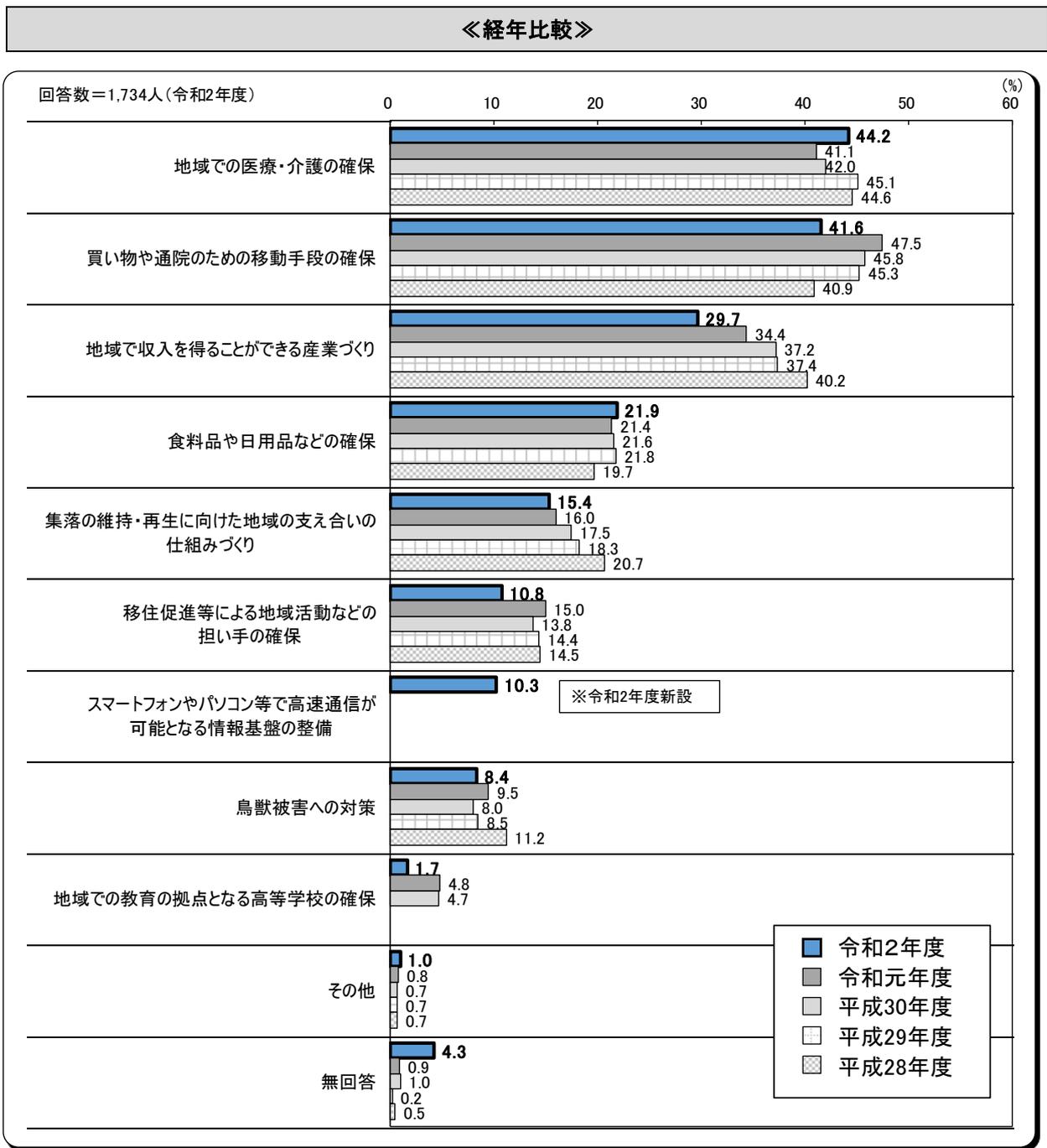
【総合】

「地域での医療・介護の確保」が44.2%と1位になっている。

次いで、「買い物や通院のための移動手段の確保」が41.6%、「地域で収入を得ることができる産業づくり」が29.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

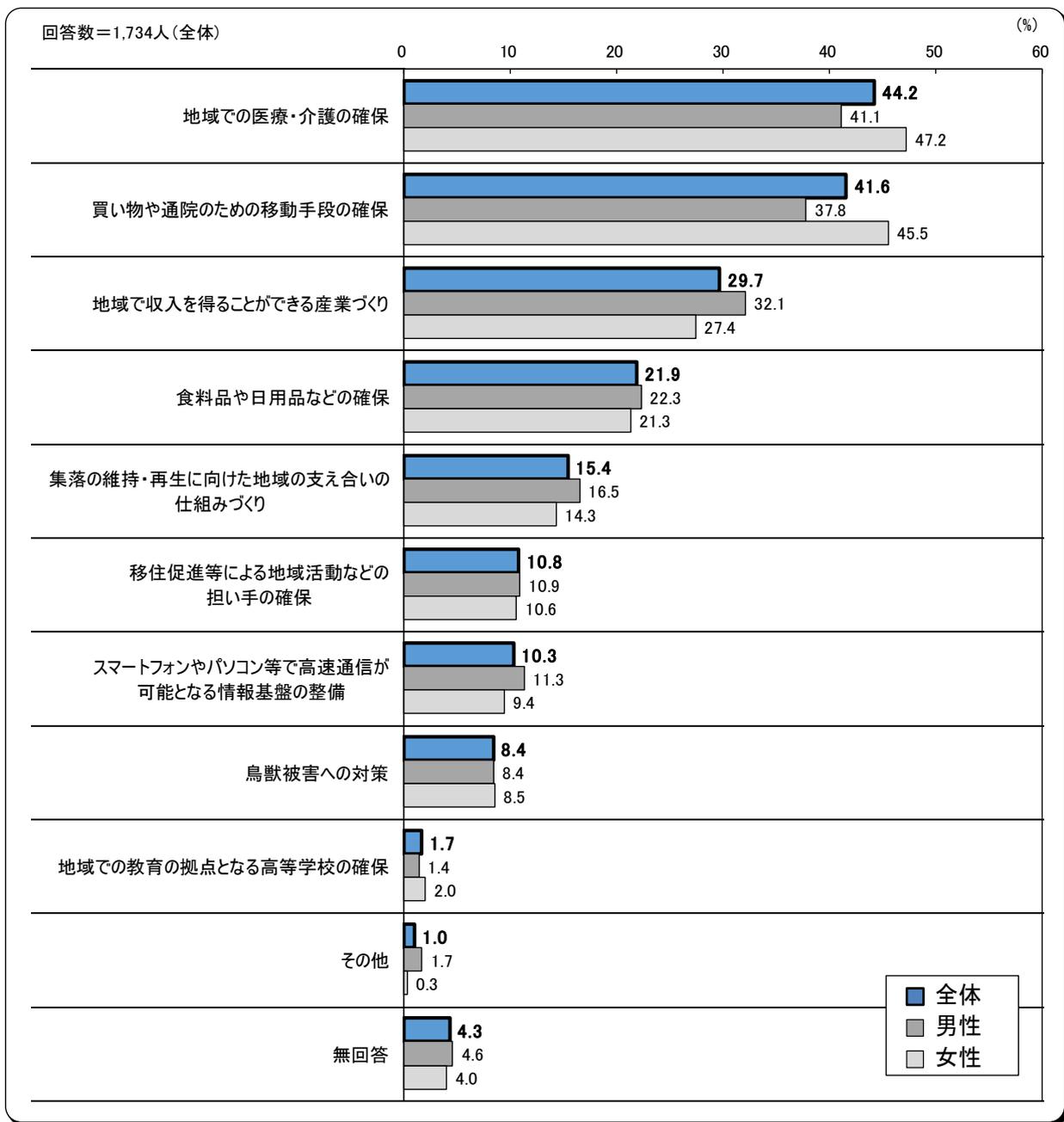
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度は「地域での医療・介護の確保」が1位になっており、以降の順位もほぼ同じ傾向となっている。



【性別】

男女ともに「地域での医療・介護の確保」が最も高く、次いで、「買い物や通院のための移動手段の確保」、
「地域で収入を得ることができる産業づくり」と続いている。

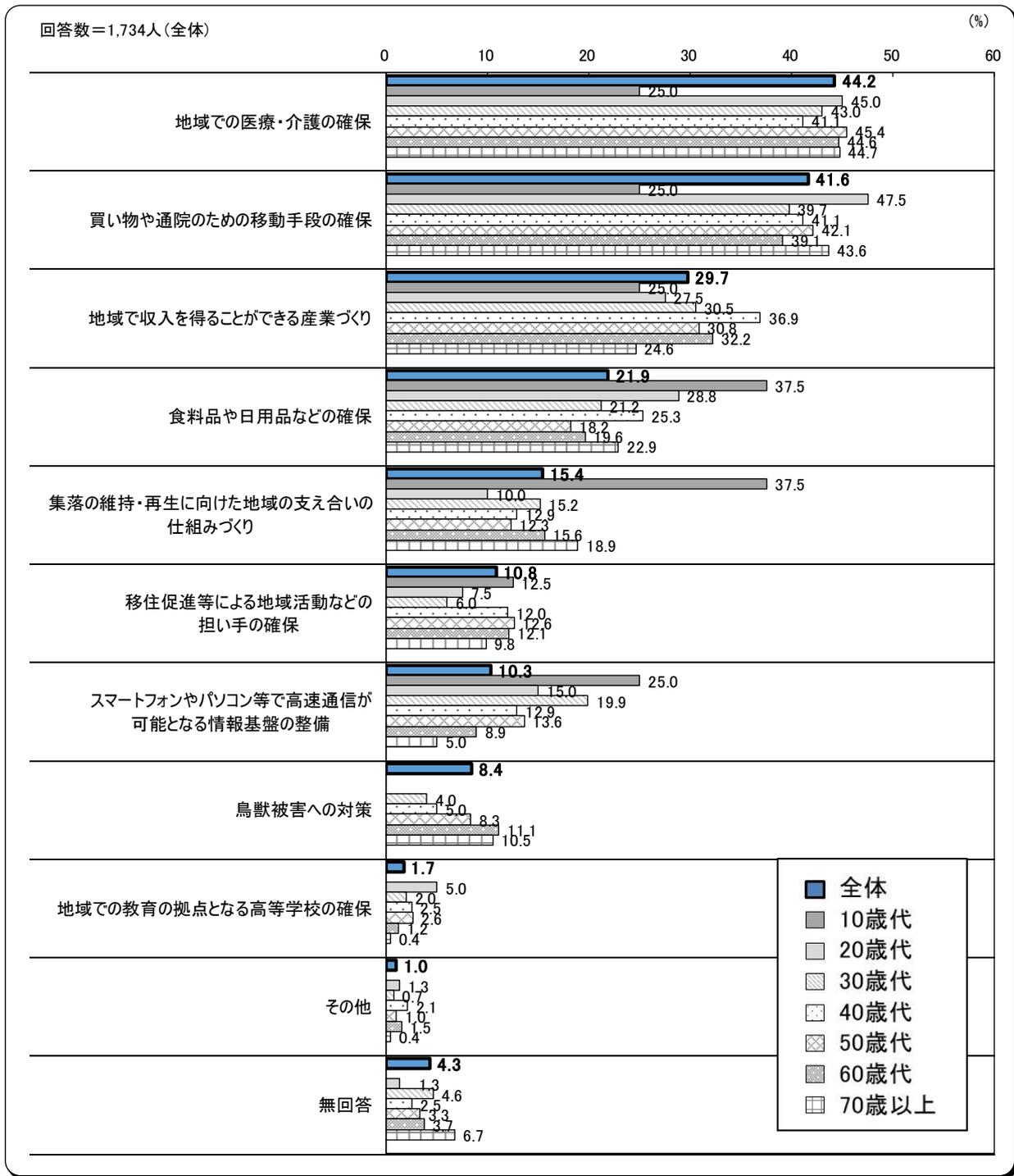
◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「食料品や日用品などの確保」と「集落の維持・再生に向けた地域の支え合いの仕組みづくり」が最も高く、20歳代では「買い物や通院のための移動手段の確保」が、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「地域での医療・介護の確保」が、40歳代では同率で「地域での医療・介護の確保」と「買い物や通院のための移動手段の確保」が最も高くなっている。

《年代別》



(7)「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について

問11 「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（2つまで〇印）

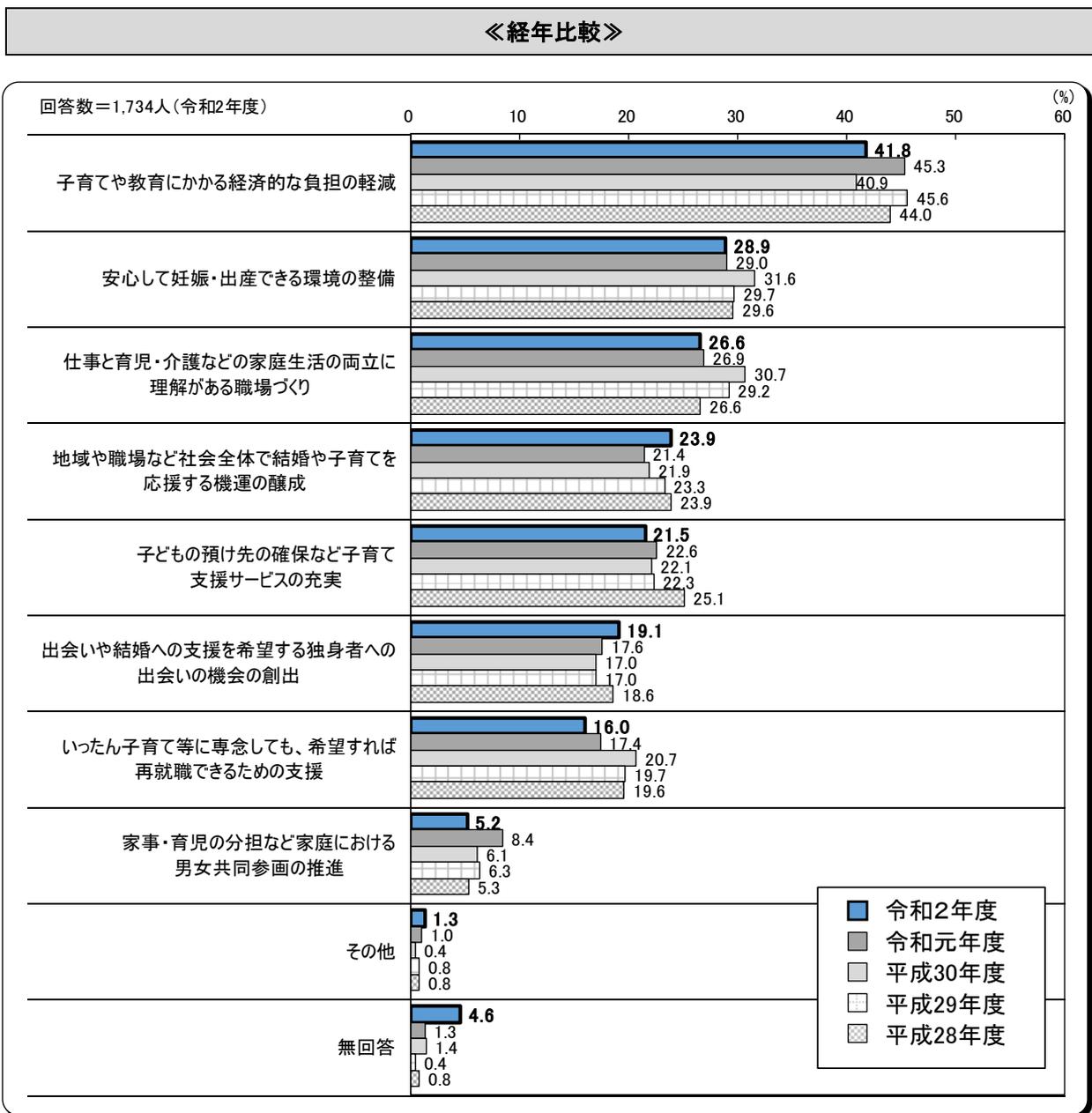
【総合】

「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が41.8%と1位になっている。

次いで、「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が28.9%、「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が26.6%と続いている。

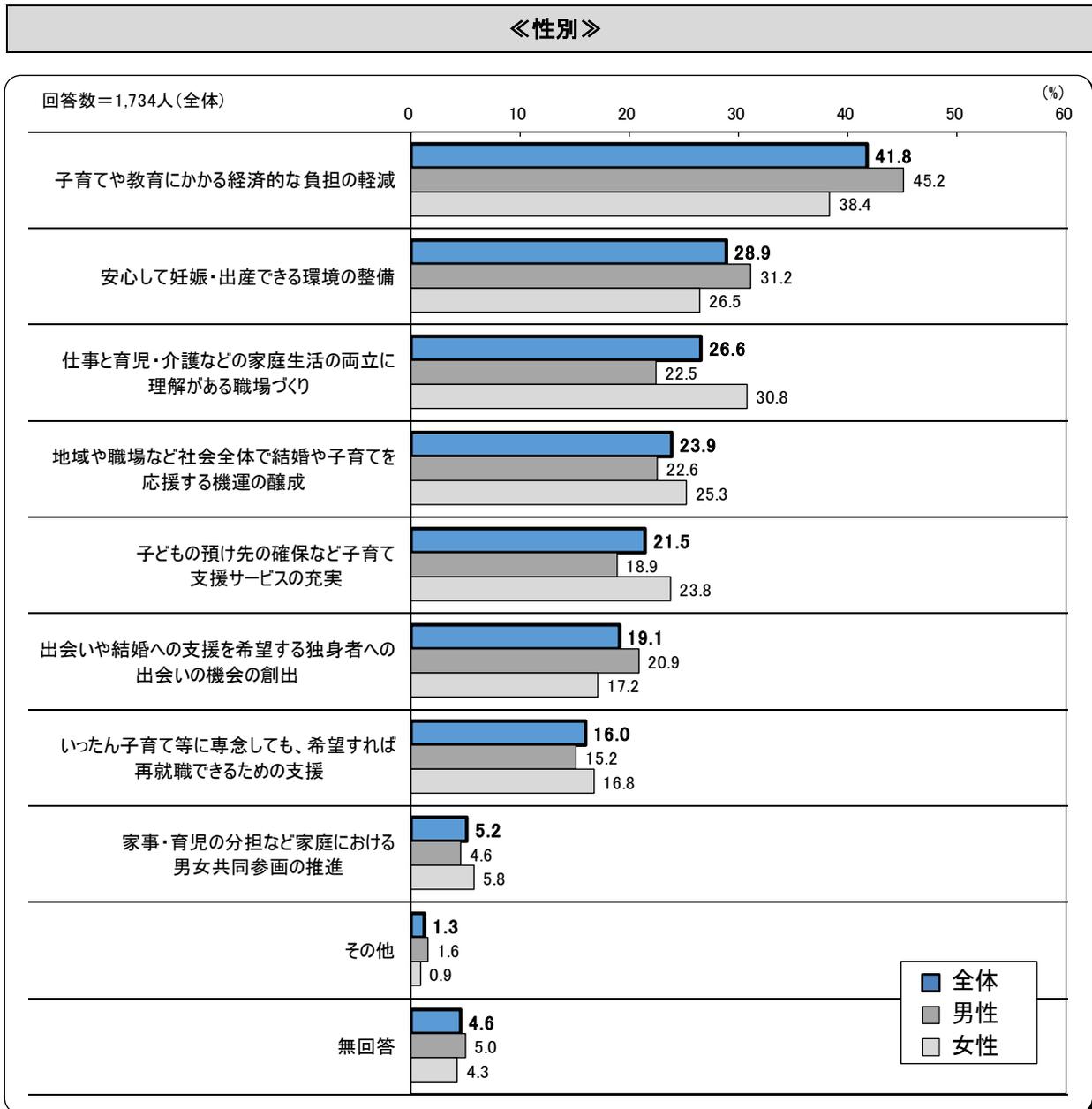
【過去の調査との比較】

今年度も、昨年度と同じく「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が1位になっており、以降の順位もほぼ同じ傾向になっている。



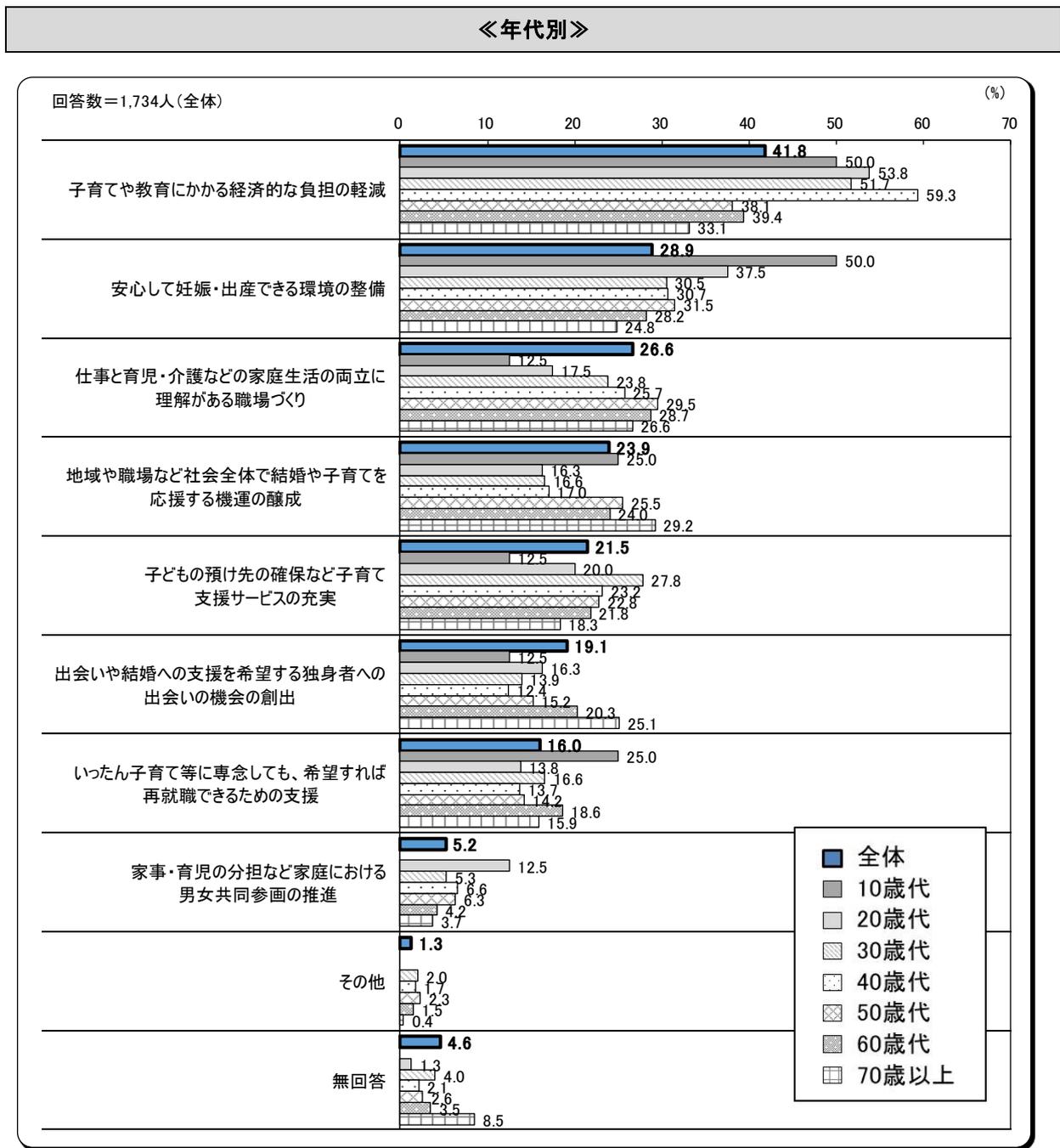
【性別】

男女ともに「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高くなっており、次いで、男性では「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が、女性では「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が続いている。



【年代別】

すべての年代で「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高く、10歳代ではこれと同率で「安心して妊娠・出産ができる環境の整備」が最も高くなっている。



(8)「文化芸術の振興」について

問12 文化芸術の振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】

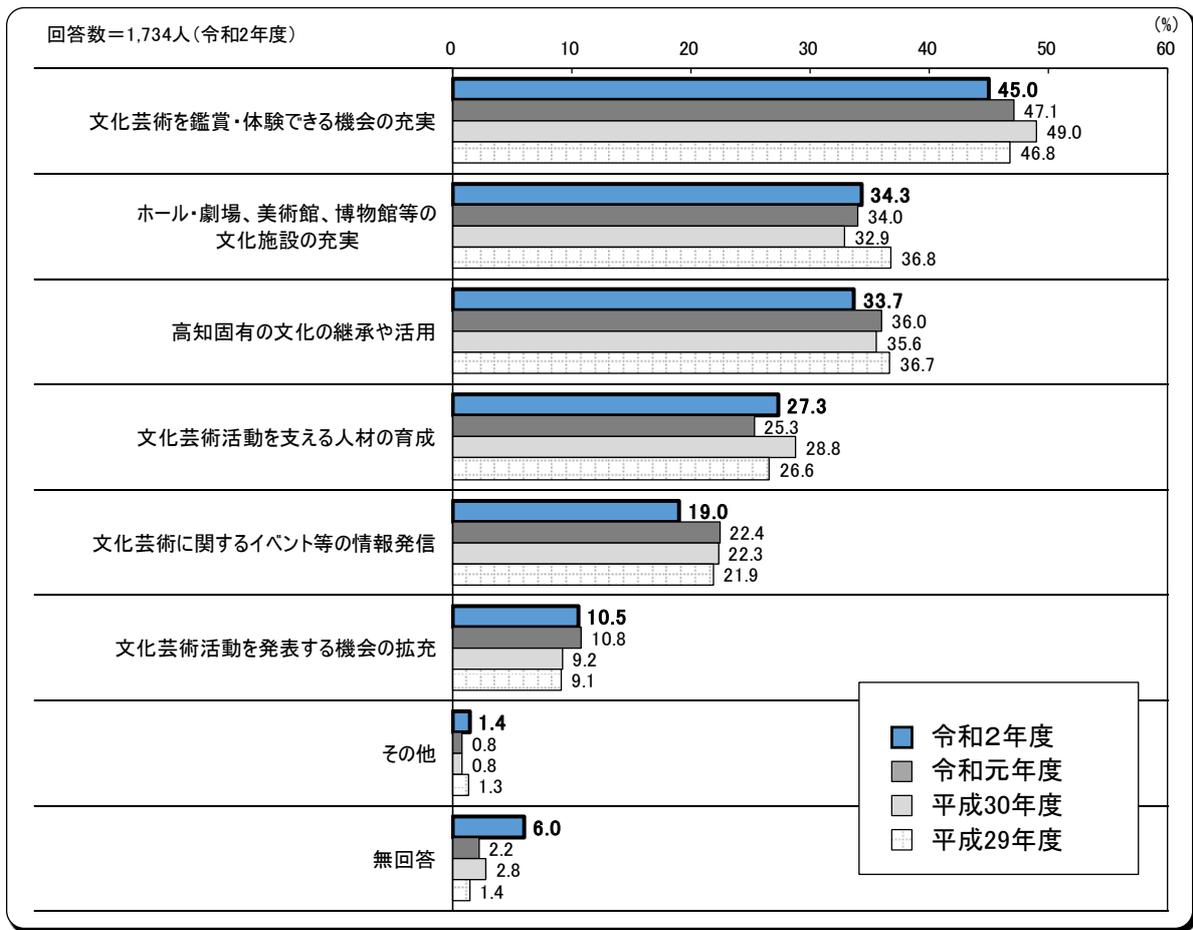
「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が45.0%と1位になっている。

次いで、「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が34.3%、「高知固有の文化の継承や活用」が33.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

今年度も、昨年度と同じく「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が1位になっている。

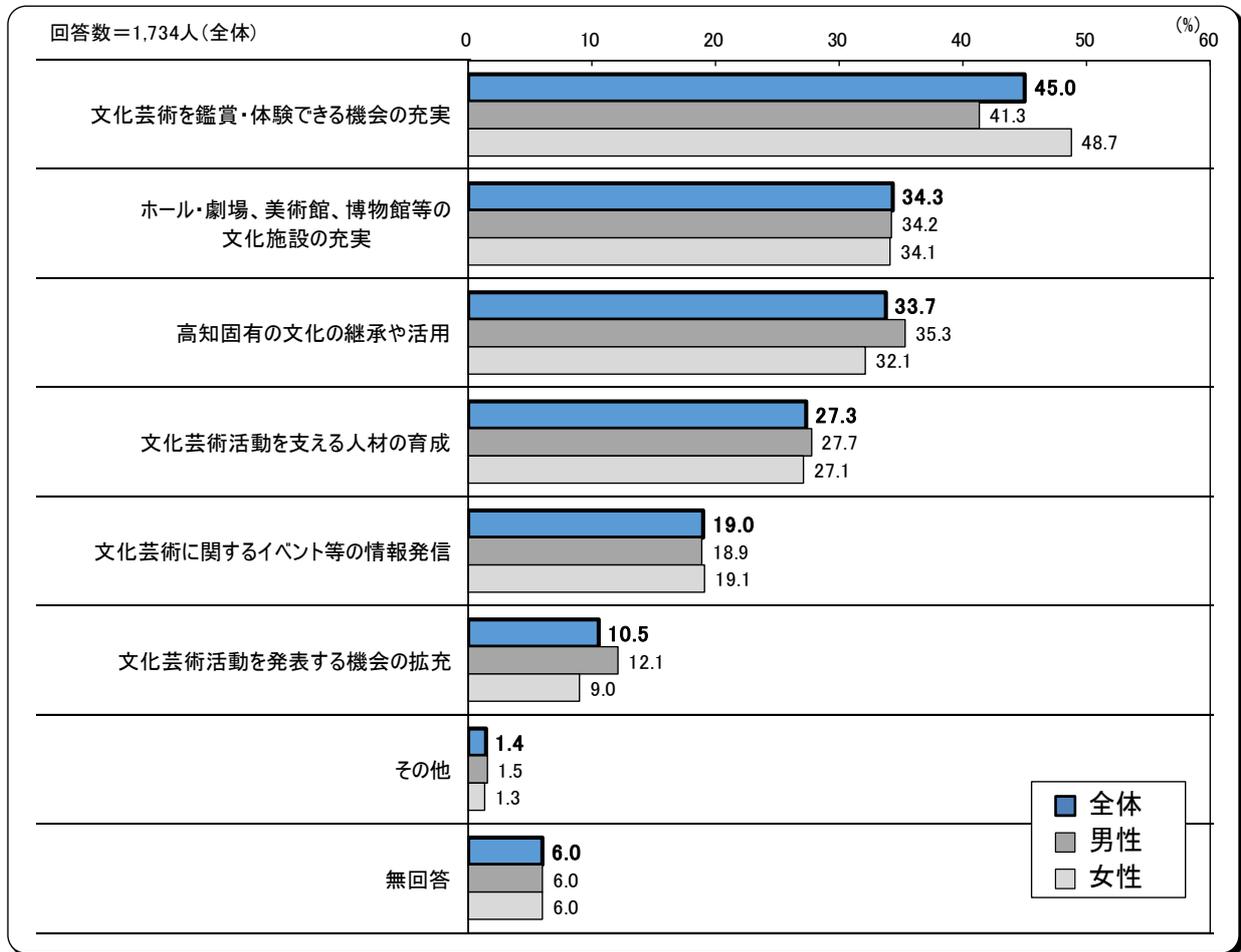
《経年比較》



【性別】

男女ともに「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高くなっており、次いで、男性では「高知固有の文化の継承や活用」が、女性では「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が続いている。

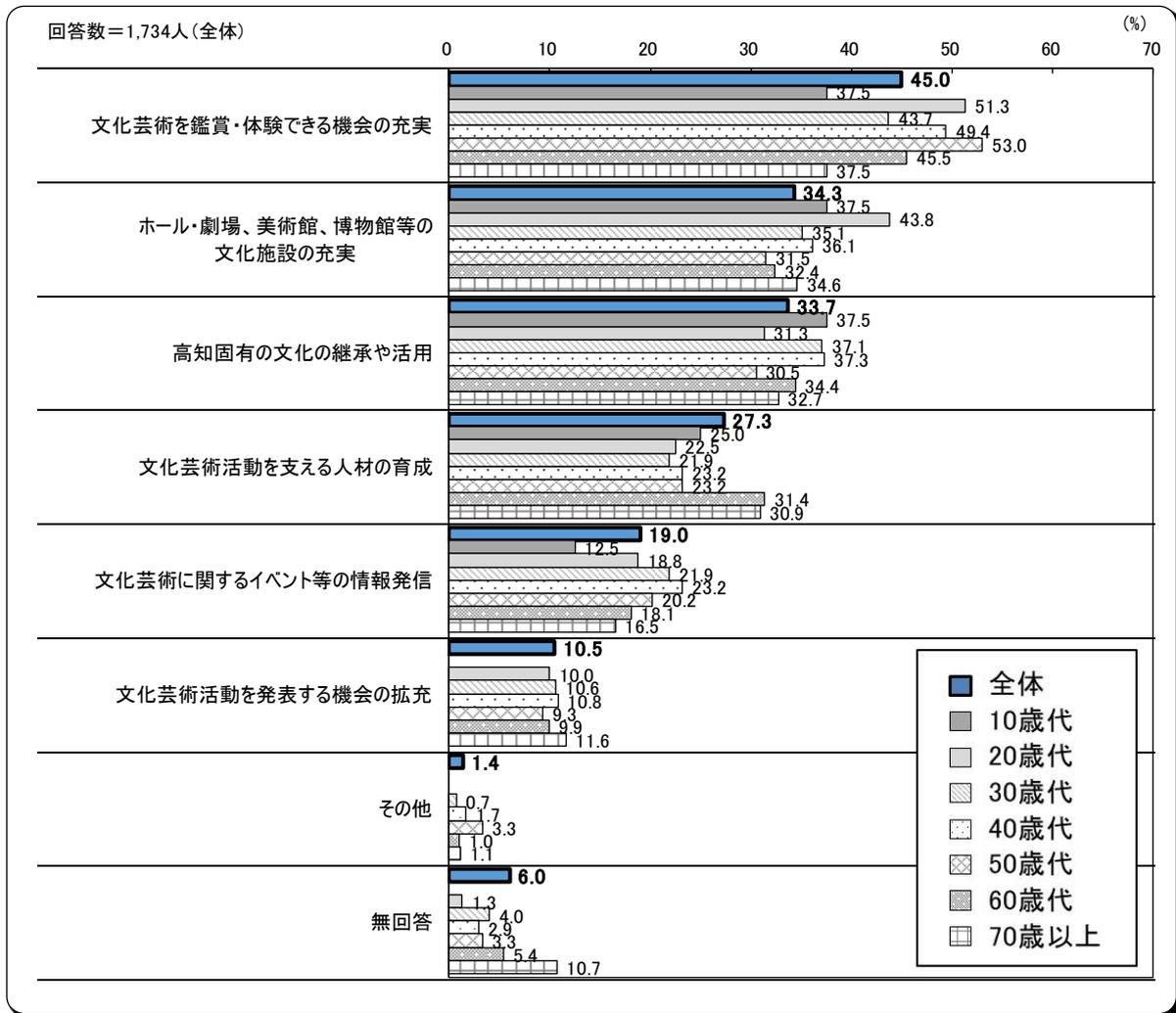
◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高く、10歳代ではこれと同率で「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」と「高知固有の文化の継承や活用」が最も高くなっている。

《年代別》



【問12×問44 のクロス分析】

「日ごろどのような文化芸術活動に取り組んだり、鑑賞等されていますか。」という質問に対し、「文化芸術の復興について、特に力を入れるべきものは何ですか。」について見ると、日ごろ取り組んでいる文化芸術活動の内容に関わらず、「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高くなっている。

◀問12×問44 のクロス分析▶

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		全体	文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実	ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実	高知固有の文化の継承や活用	文化芸術活動を支える人材の育成	文化芸術に関するイベント等の情報発信	文化芸術活動を発表する機会の拡充	その他	無回答
【表の見方】										
		上段=回答数(人)								
		下段=比率(%)								
全体		1,734	780	595	584	474	330	182	25	104
		100.0	45.0	34.3	33.7	27.3	19.0	10.5	1.4	6.0
日 ご ろ 文 化 取 組 み 活 動	音楽	414	56.0	40.1	31.6	28.7	19.3	9.4	1.2	2.4
	美術	304	56.3	39.1	30.9	30.3	17.1	10.2	2.3	2.6
	演劇	71	57.7	42.3	25.4	33.8	19.7	8.5	2.8	2.8
	舞踊	54	53.7	38.9	22.2	33.3	16.7	11.1	1.9	3.7
	文学	225	53.8	31.1	36.0	34.2	19.1	6.2	1.8	2.7
	メディア芸術	500	50.8	35.8	34.4	26.6	23.2	9.2	1.0	3.0
	生活文化	104	55.8	35.6	34.6	32.7	15.4	10.6	-	1.0
	伝統芸能	58	48.3	39.7	27.6	31.0	13.8	15.5	1.7	5.2
	歴史・文化財	232	55.6	35.3	35.3	31.0	19.8	9.1	2.6	1.7
	その他	12	41.7	25.0	25.0	41.7	8.3	25.0	8.3	8.3
	特にしていない	709	39.6	33.0	36.2	26.1	18.8	10.4	1.8	6.2

(9)「スポーツの振興」について

問13 スポーツの振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】

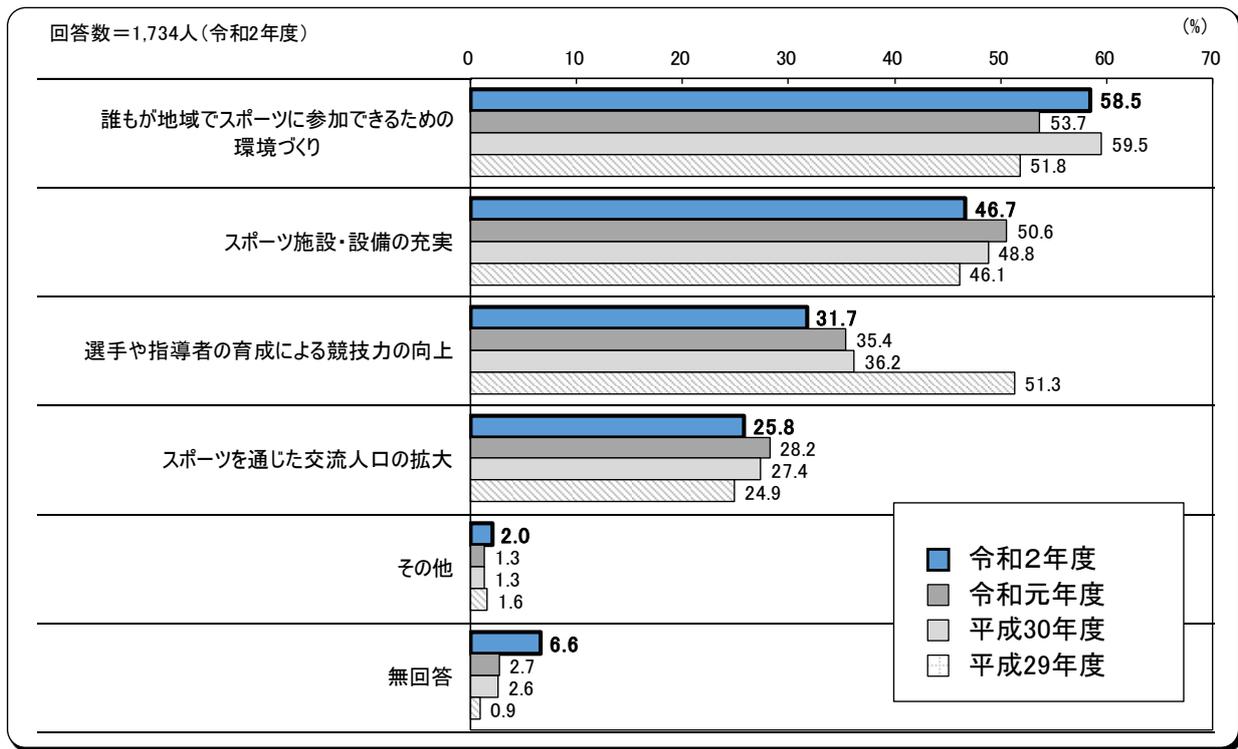
「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が58.5%と1位になっている。

次いで、「スポーツ施設・設備の充実」が46.7%、「選手や指導者の育成による競技力の向上」が31.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

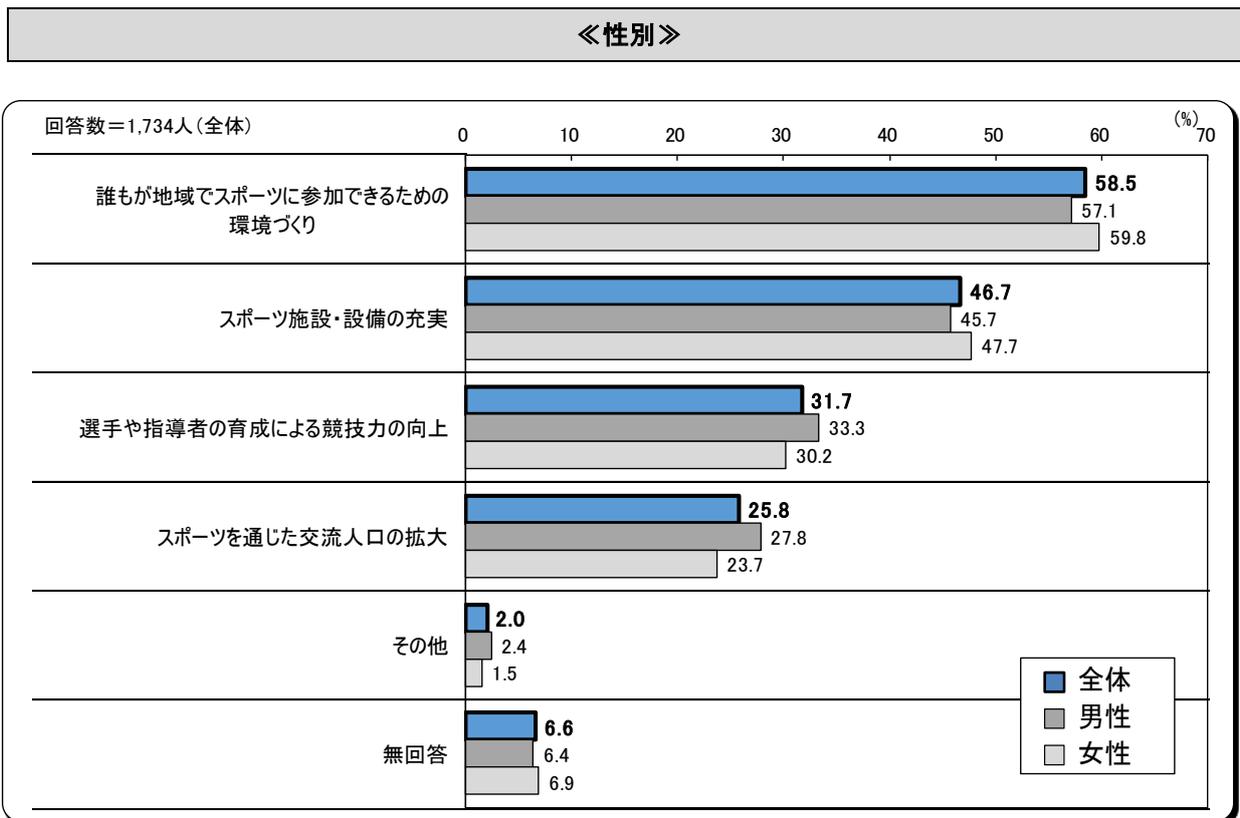
今年度も昨年度と同じく「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が1位になっており、以降の順位も同じ傾向になっている。

《経年比較》



【性別】

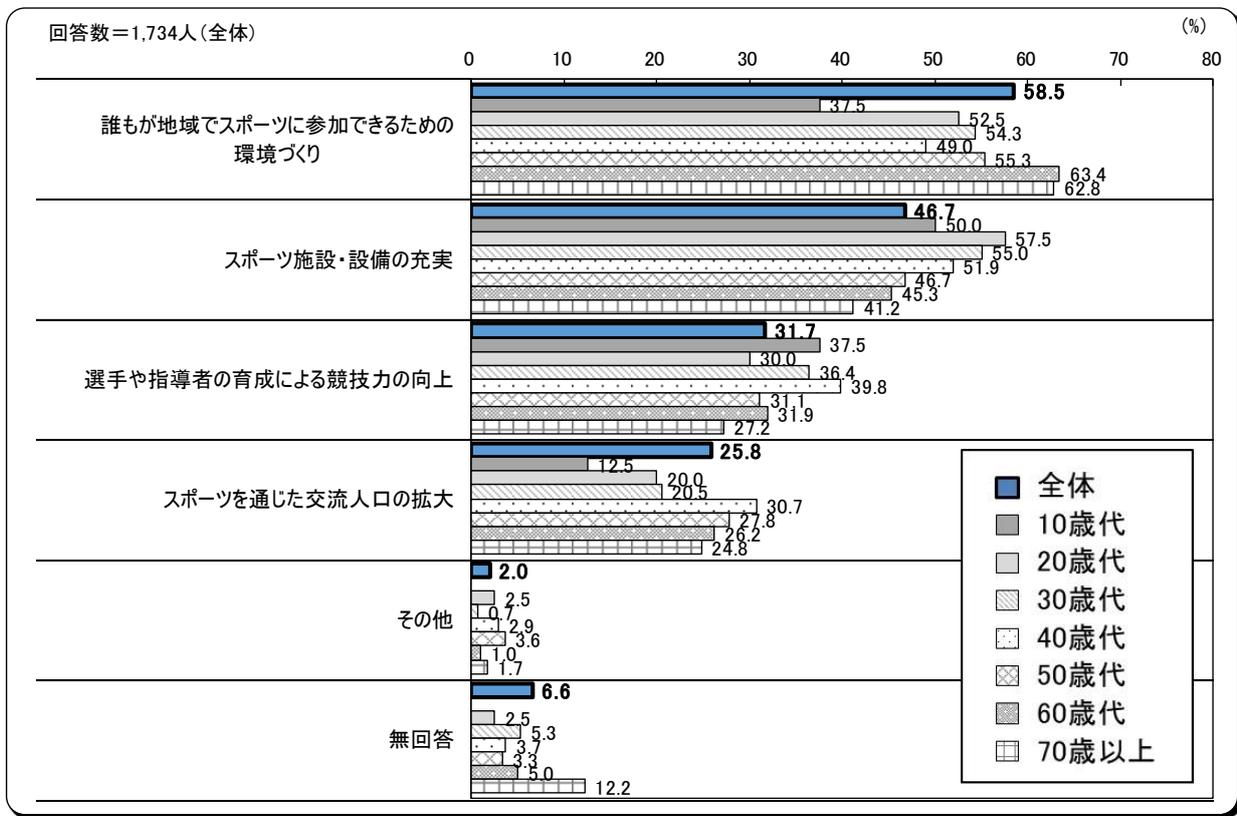
男女ともに「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が最も高く、次いで、「スポーツ施設・設備の充実」、「選手や指導者の育成による競技力の向上」と続いている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代では「スポーツ施設・設備の充実」が最も高く、50歳代、60歳代、70歳以上では「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が最も高くなっている。

《年代別》



(10)「5つの基本政策と3つの横断的にかかわる政策」について

問14 県が行っている8つの政策のうち、より一層力を入れて取り組むべきだと考えるものは何ですか。（2つまで○印）

【総合】

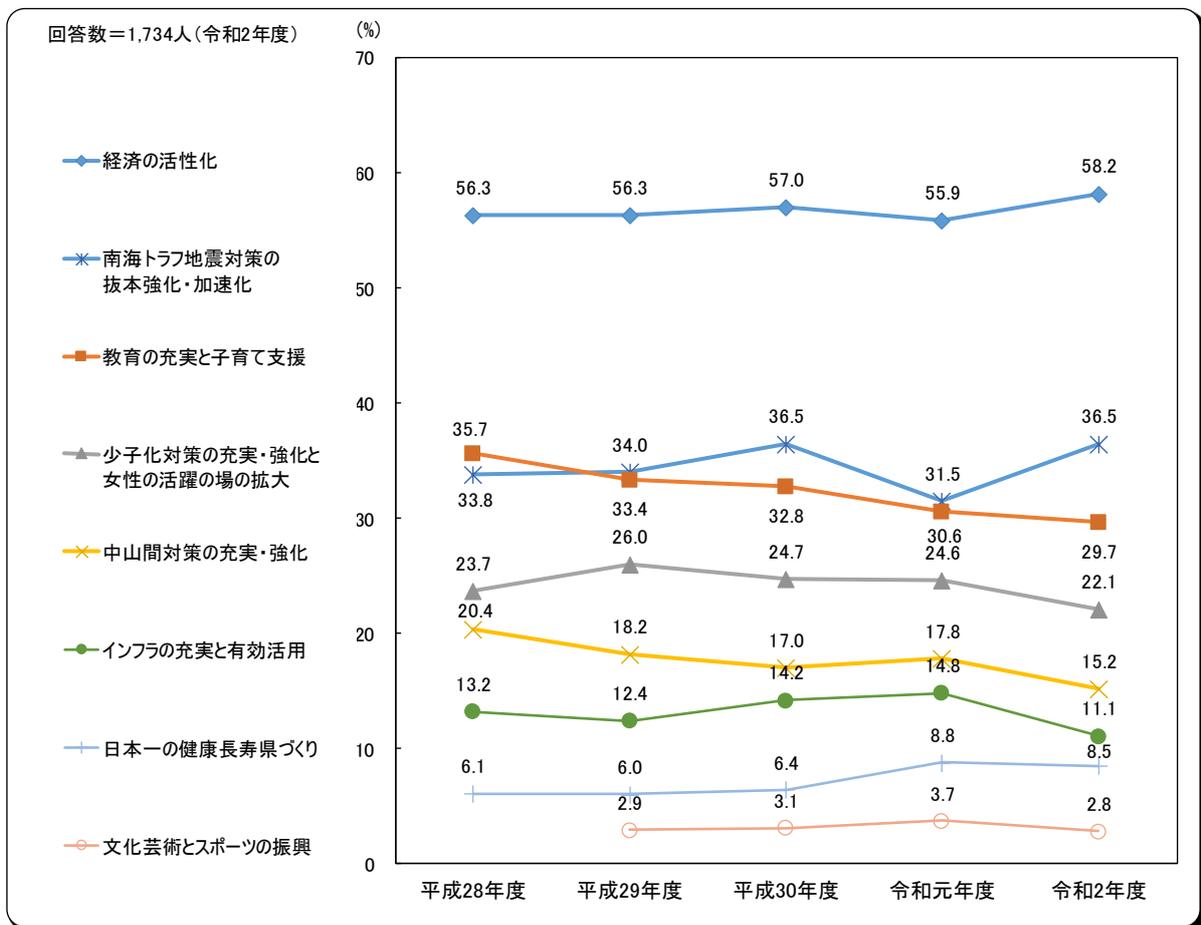
「経済の活性化」が58.2%と1位になっている。

次いで、「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」が36.5%、「教育の充実と子育て支援」が29.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

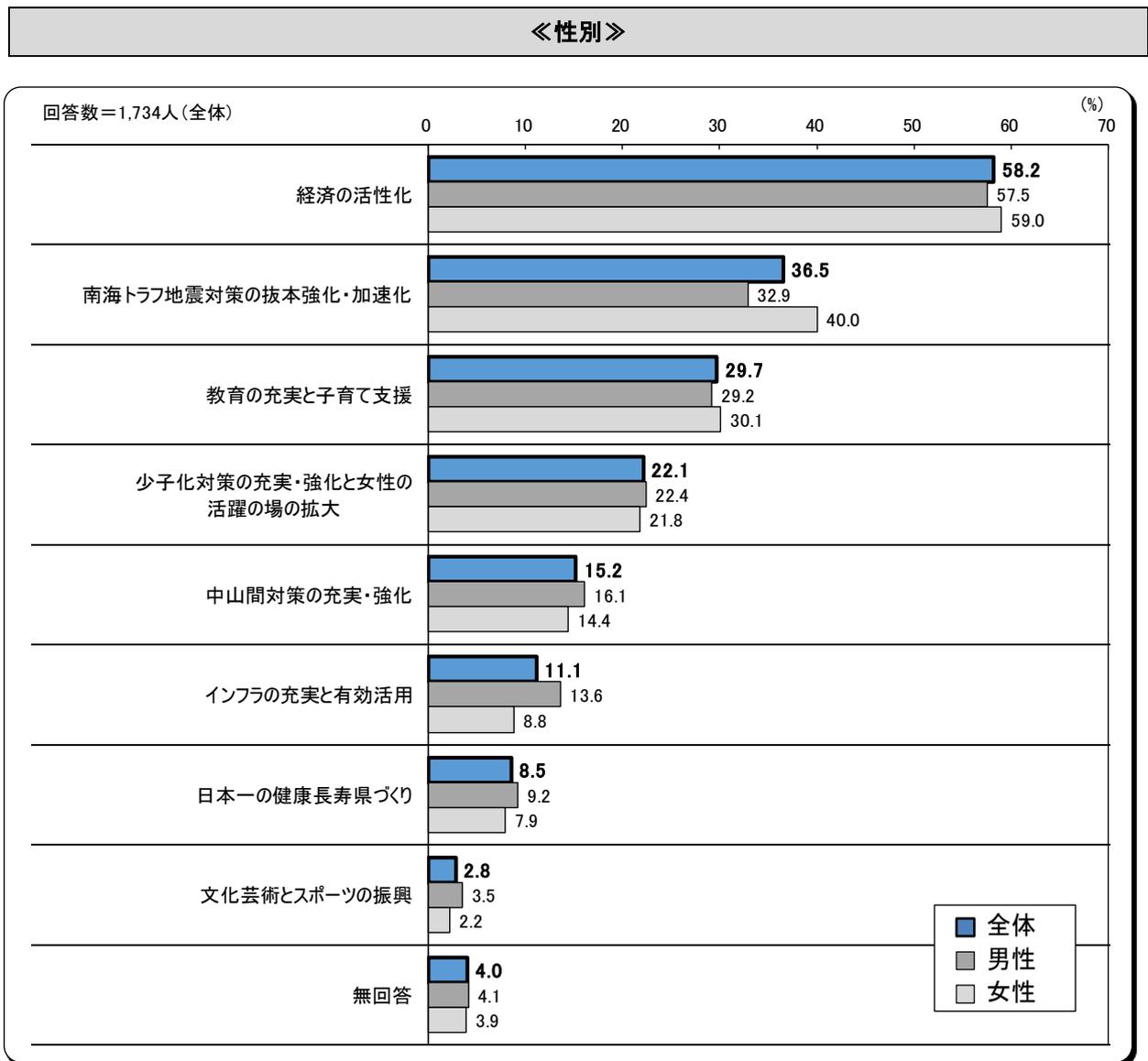
今年度も「経済の活性化」が1位になっている。

《経年比較》



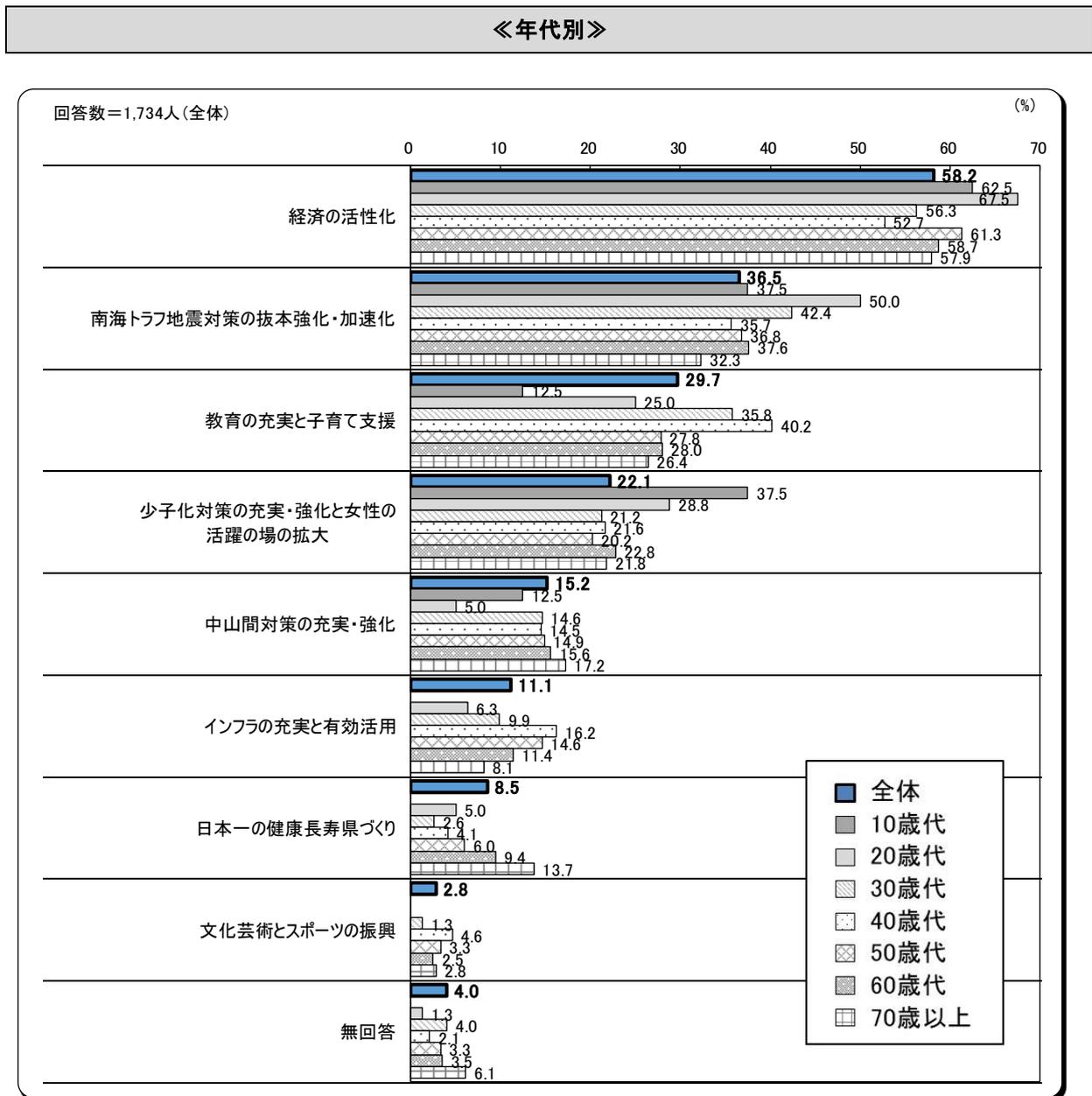
【性別】

男女ともに「経済の活性化」が最も高くなっており、次いで、「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」、「教育の充実と子育て支援」と続いている。



【年代別】

すべての年代において、「経済の活性化」が半数を超えて1位になっている。



3. 南海トラフ地震対策について

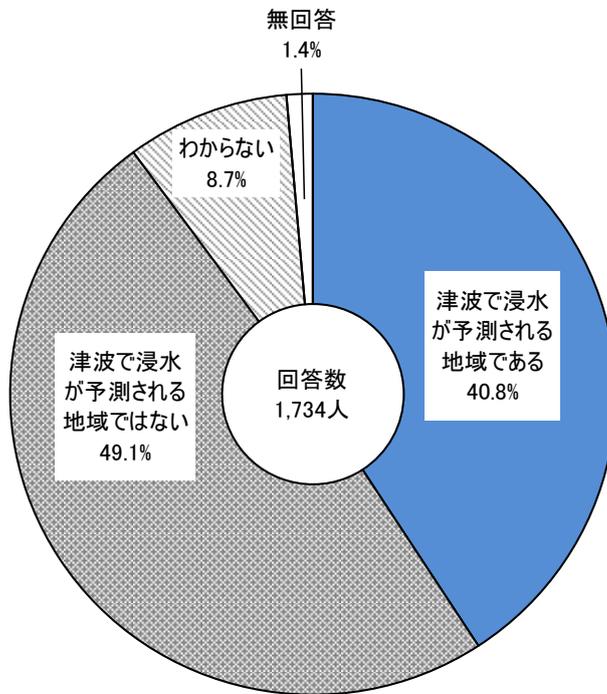
(1) 津波浸水予測地域

問 16 あなたのお宅は津波で浸水が予測される地域ですか。(1つだけ○印)

【総合】

「わからない」が8.7%となっており、より一層の周知の工夫が必要である。

《総合》



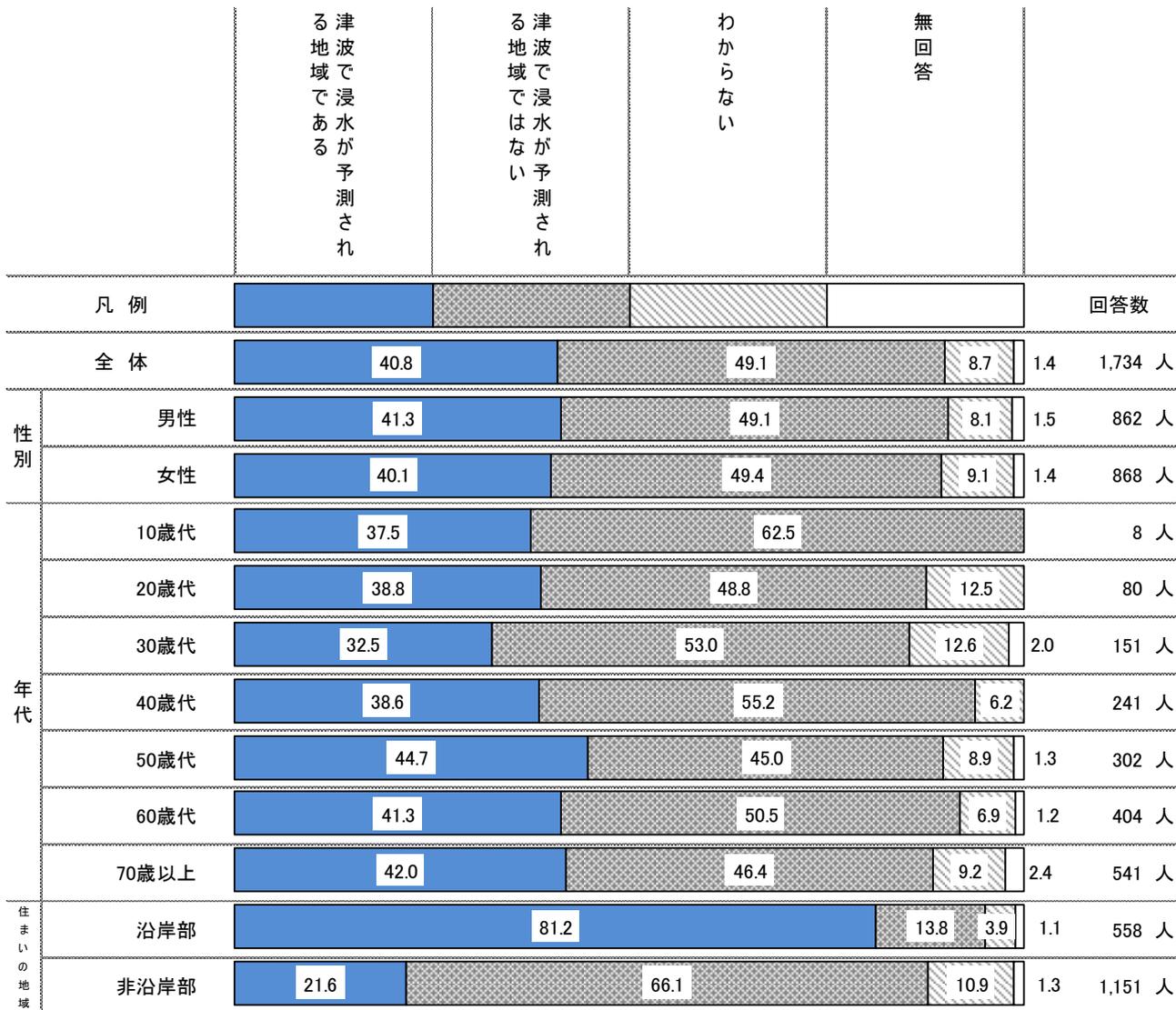
【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

20歳代、30歳代では「わからない」が他の年代と比べると高くなっている。

《性別・年代別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

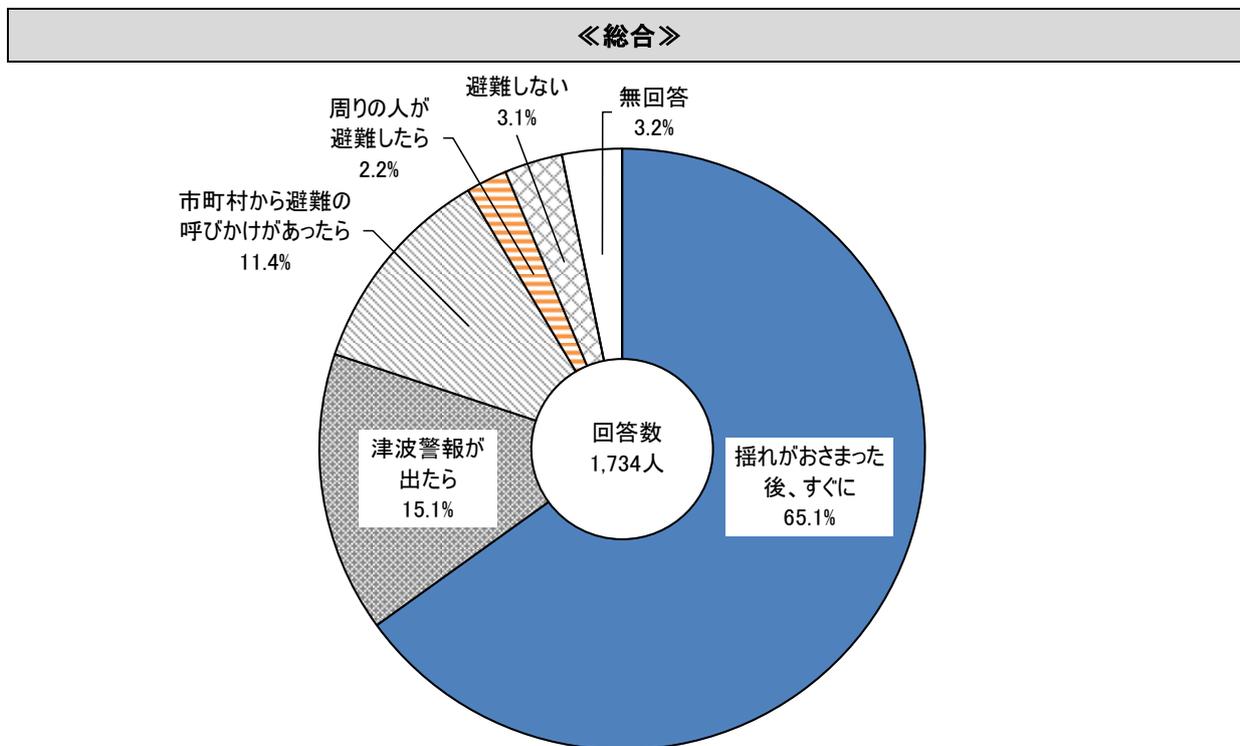
(2)大きな揺れが発生した際の避難のタイミング

問 17 あなたが津波の浸水が予測される地域にいるときに、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続いたとします。あなたはいつ避難しますか。(1つだけ○印)

【総合】

「揺れがおさまった後、すぐに」が65.1%と1位になっている。

次いで、「津波警報が出たら」が15.1%、「市町村からの避難の呼びかけがあったら」が11.4%と続いている。



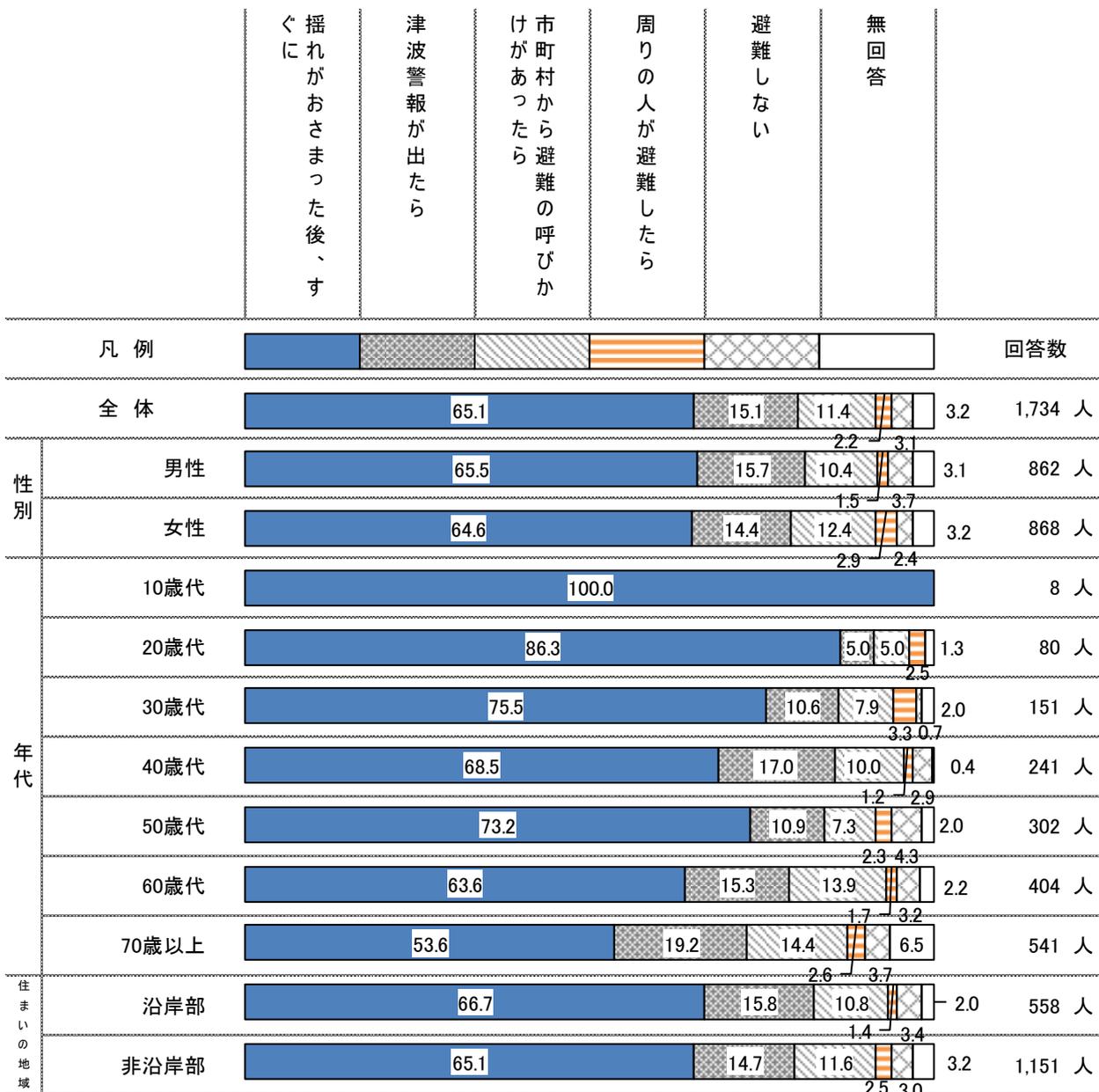
【性別】

男女ともに「揺れがおさまった後、すぐに」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「揺れがおさまった後、すぐに」が半数を超えて1位になっている。

《性別・年代別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

【問17×問16のクロス分析】

「あなたのお宅は津波で浸水が予想される地域ですか。」という質問に対し、「あなたはいつ避難しますか。」について見ると、「わからない」では「揺れがおさまった後、すぐに」が低く、「市町村から避難の呼びかけがあったら」、「周りの人が避難したら」、「避難しない」が高くなっている。

◀問17×問16のクロス分析▶

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		全体	揺れがおさまった後、すぐに	津波警報が出たら	市町村から避難の呼びかけがあったら	周りの人が避難したら	避難しない	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)								
全体		1,734 100.0	1,128 65.1	261 15.1	198 11.4	38 2.2	54 3.1	55 3.2
予津測波地浸水域	津波で浸水が予測される地域である	707	64.9	18.4	9.8	2.3	4.0	0.7
	津波で浸水が予測される地域ではない	852	68.7	12.3	12.0	1.6	2.3	3.1
	わからない	150	53.3	17.3	17.3	5.3	4.0	2.7

(3)家具や家電などの固定

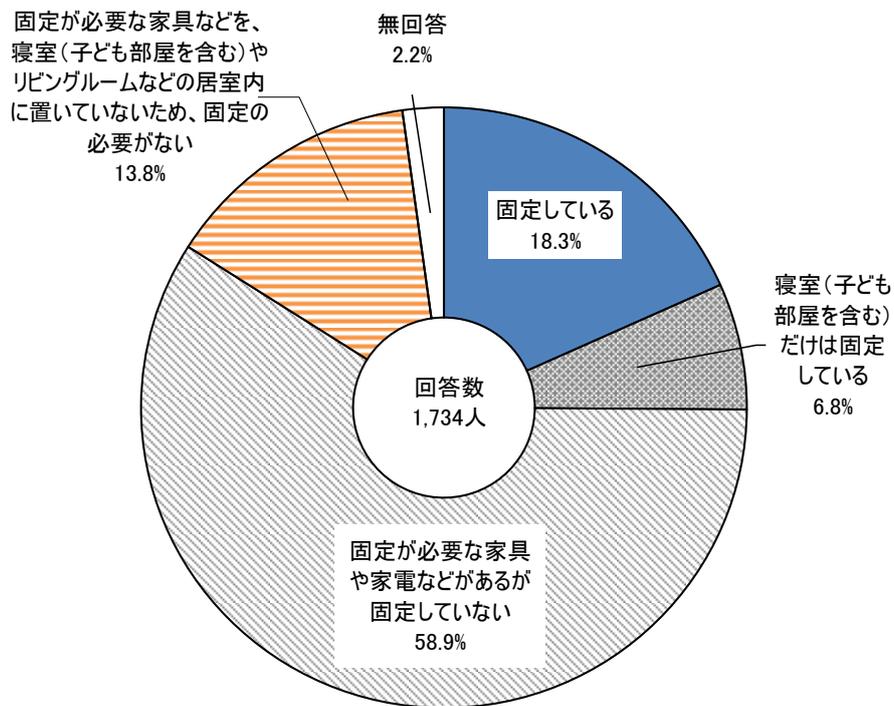
問 18 あなたのお宅では、固定が必要な家具や家電などを固定していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が58.9%と1位になっている。

次いで、「固定している」が18.3%、「固定が必要な家具などを、寝室（子ども部屋を含む）やリビングルームなどの居室内に置いていないため、固定の必要がない」が13.8%と続いている。

《総合》



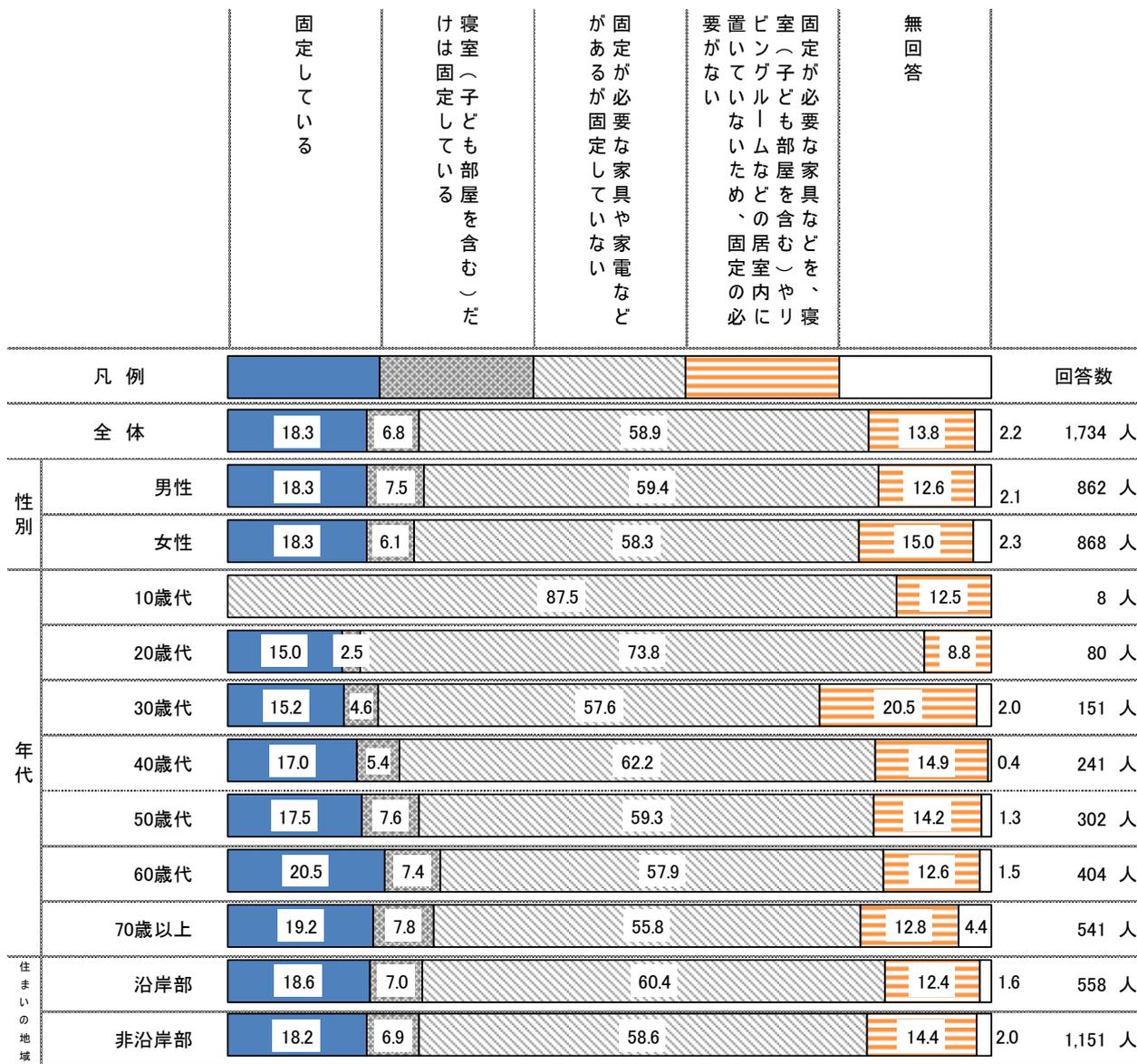
【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

すべての年代で「固定が必要な家具や家具などがあるが固定していない」が半数を超えて最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(4) 飲料水の備蓄

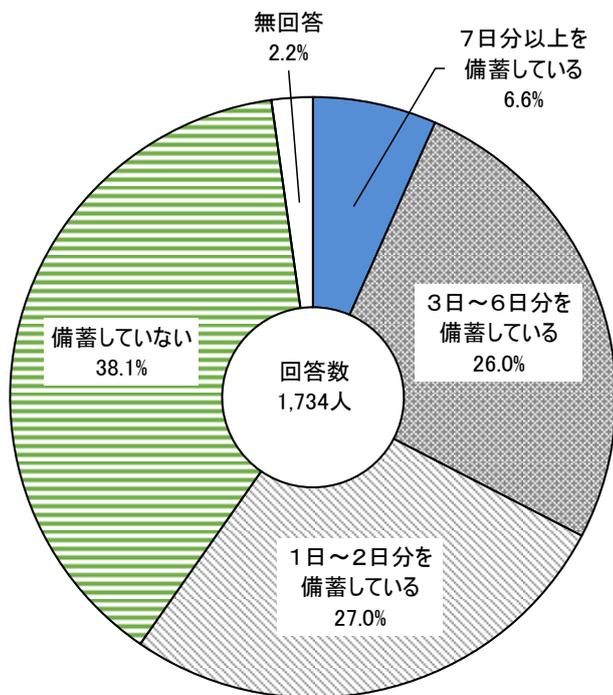
問 19 あなたのお宅では南海トラフ地震に備え、飲料水を備蓄していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「備蓄していない」が38.1%と1位になっている。

次いで、「1日～2日分を備蓄している」が27.0%、「3日～6日分を備蓄している」が26.0%と続いている。

《総合》



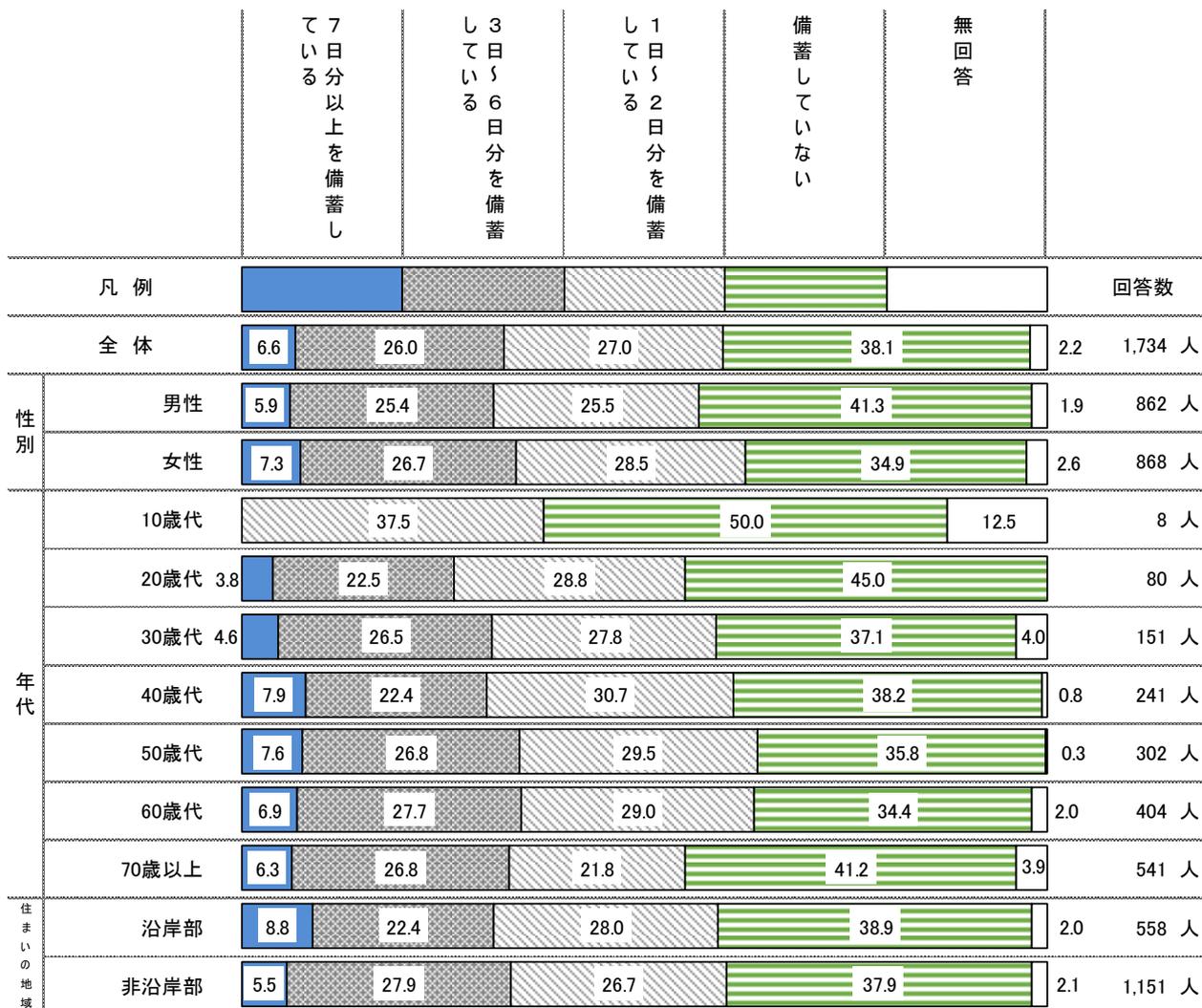
【性別】

男女ともに「備蓄していない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「備蓄していない」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住みの地域別》



グラフ単位：(%)

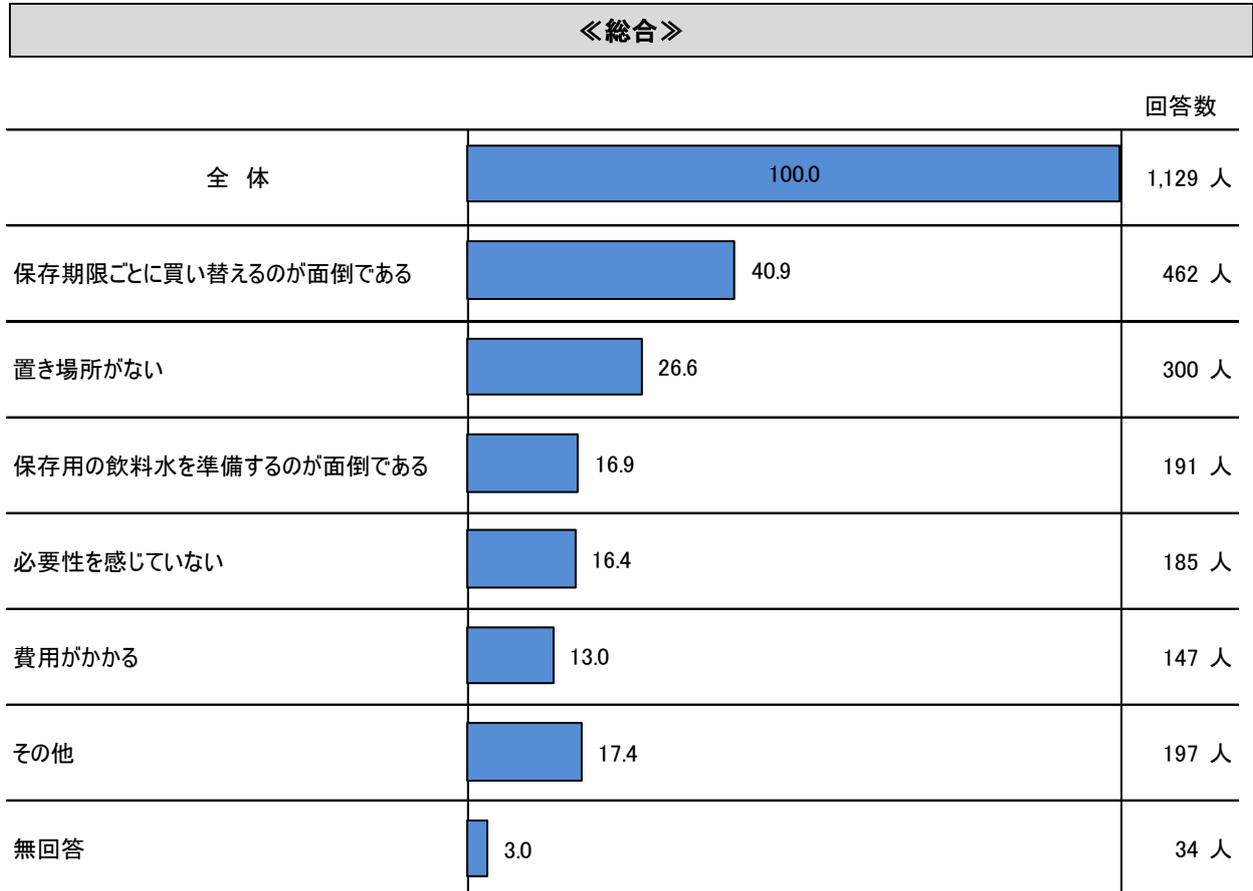
(5)水の備蓄をしていない理由

副問1(問 19 で「3」もしくは「4」を選んだ方のみお答えください。)3日以上の水の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「保存期間ごとに買い替えるのが面倒である」が40.9%と1位になっている。

次いで、「置き場所がない」が26.6%、「保存用の飲料水を準備するのが面倒である」が16.9%と続いている。

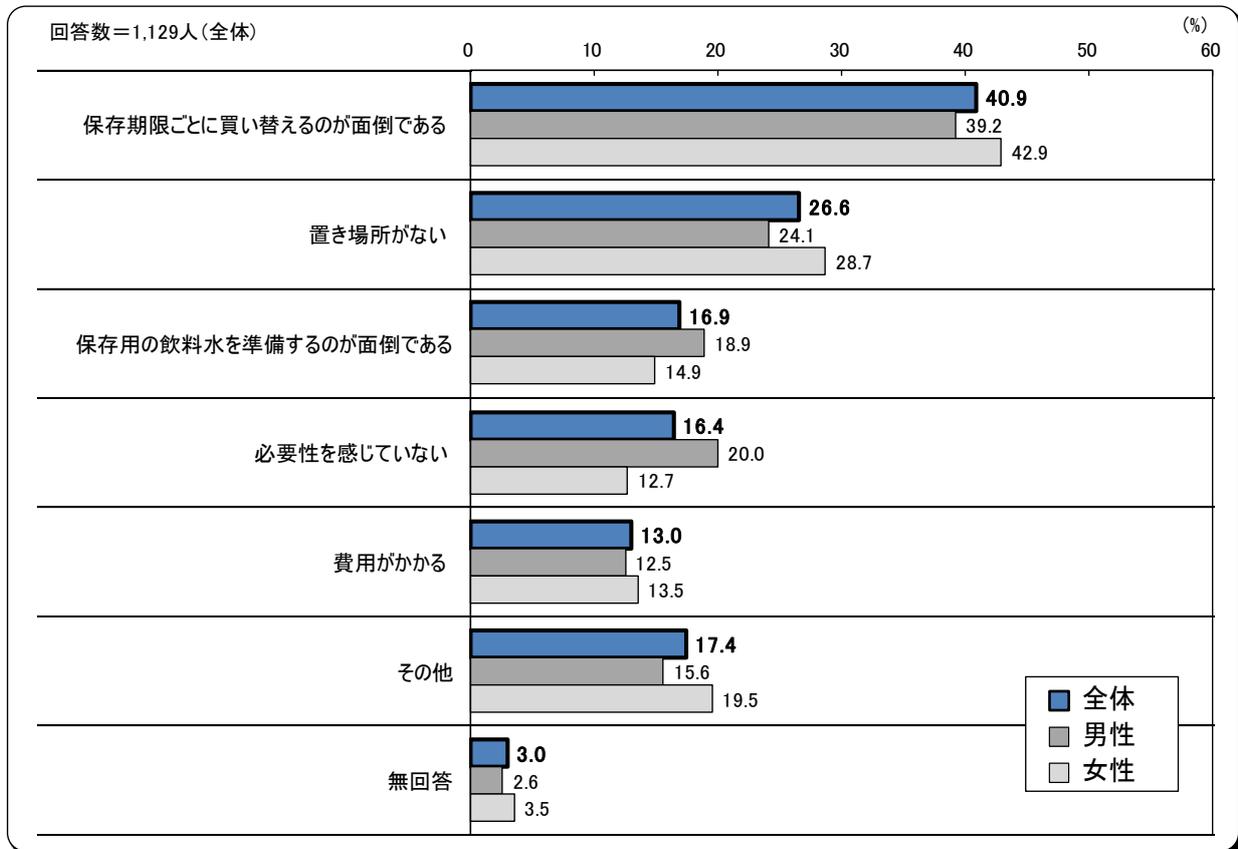


グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「保存期限ごとに買い替えるのが面倒である」が最も高くなっている。

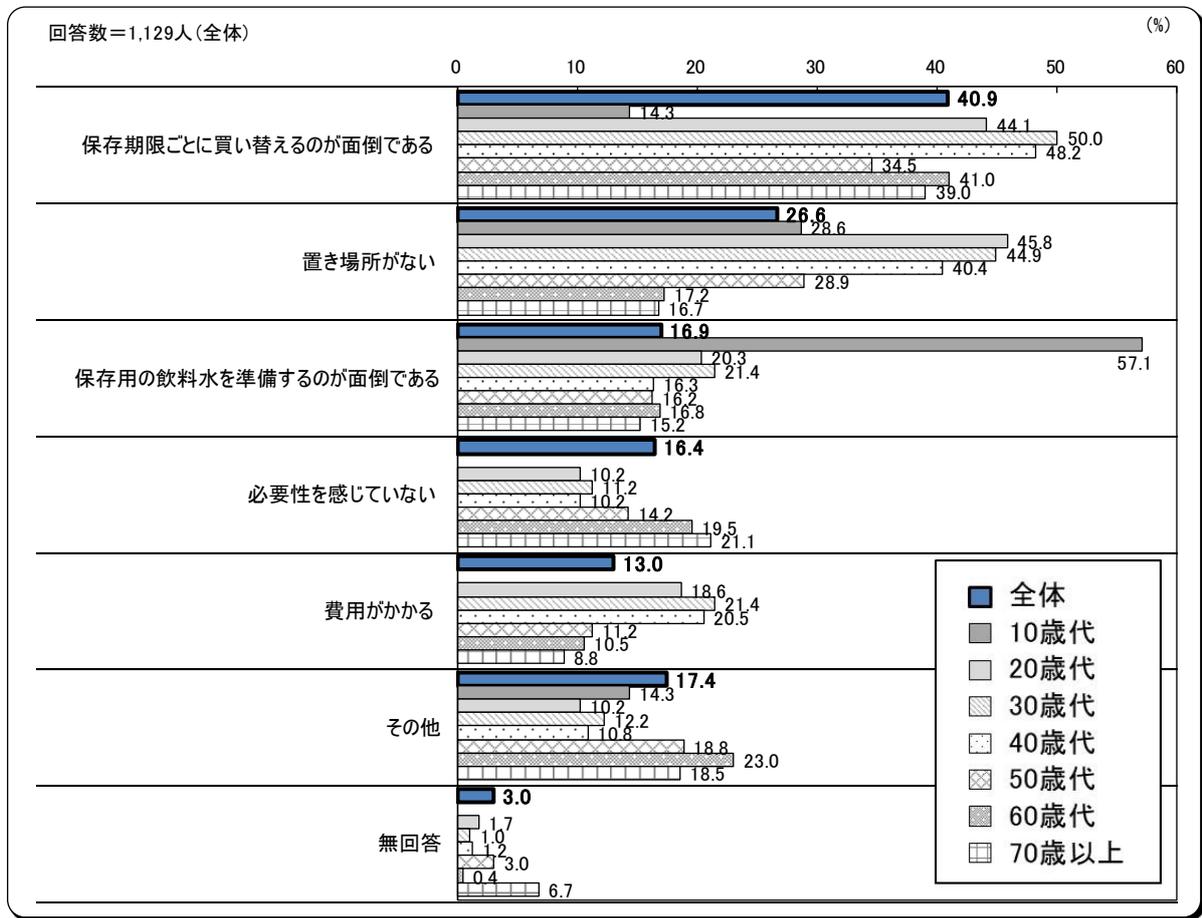
◀性別▶



【年代別】

10歳代では「保存用の飲料水を準備するのが面倒である」が最も高く、20歳代では「置き場所がない」が、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「保存期限ごとに買い替えるのが面倒である」が最も高くなっている。

《年代別》



【問 19-副問 1×問 16 のクロス分析】

「あなたのお宅は津波で浸水が予測される地域ですか。」という質問に対し、「3日分以上の水の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。」について見ると、津波で浸水が予測される地域であるかどうかに関わらず、「保存期限ごとに買い替えるのが面倒である」が最も高くなっている。

◀問 19-副問 1×問 16 のクロス分析▶

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
		全体	面倒である 保存期限ごとに 買い替えるのが	置き場所がない	面倒である 保存用の飲料水を 準備するのが	必要性を感じていない	費用がかかる	その他	無回答
【表の見方】									
上段=回答数(人)									
下段=比率(%)									
全体		1,129	462	300	191	185	147	197	34
		100.0	40.9	26.6	16.9	16.4	13.0	17.4	3.0
予津 測波 地浸 域水	津波で浸水が予測される地域である	467	43.3	27.2	18.4	13.9	13.5	15.0	3.0
	津波で浸水が予測される地域ではない	548	36.9	25.9	15.1	17.7	11.5	21.4	2.4
	わからない	103	53.4	27.2	21.4	19.4	18.4	8.7	5.8

(6)食料の備蓄

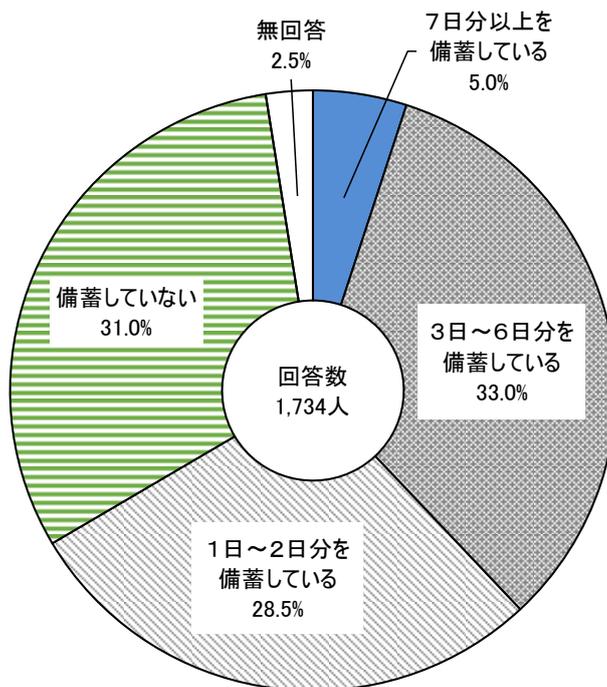
問 20 あなたのお宅では南海トラフ地震に備え、食料を備蓄していますか。備蓄には、日常に使用できる食品を少し多く買い置きすることも含みます。(1つだけ○印)

【総合】

「3日～6日分を備蓄している」が33.0%と1位になっている。

次いで、「備蓄していない」が31.0%、「1日～2日分を備蓄している」が28.5%と続いている。

《総合》



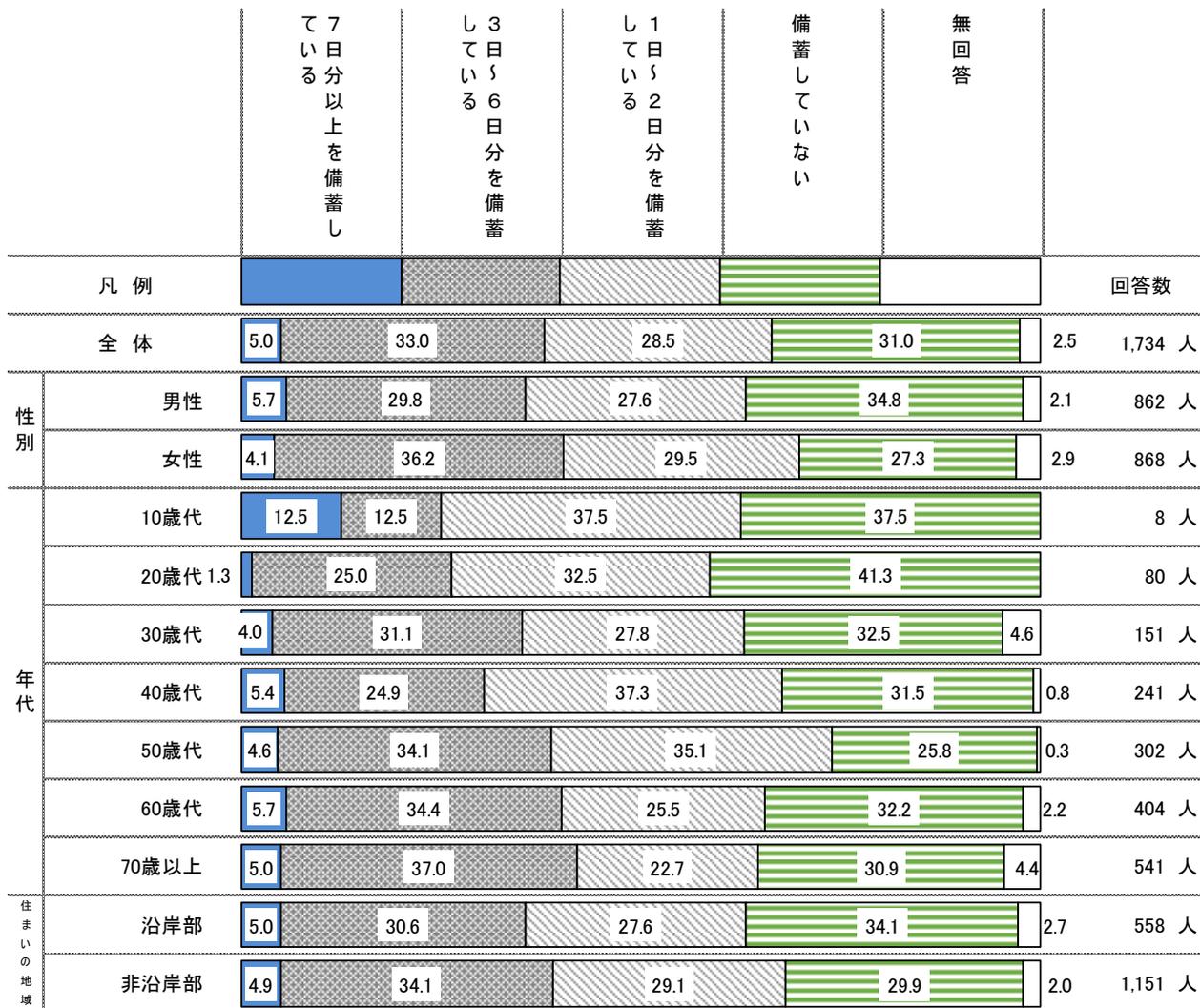
【性別】

男性では「備蓄していない」が、女性では「3日～6日分を備蓄している」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では、同率で「1日～2日分を備蓄している」と「備蓄していない」が最も高く、20歳代、30歳代では「備蓄していない」が、40歳代、50歳代では「1日～2日分を備蓄している」が、60歳代、70歳以上では「3日～6日分を備蓄している」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住みの地域別》



グラフ単位：(%)

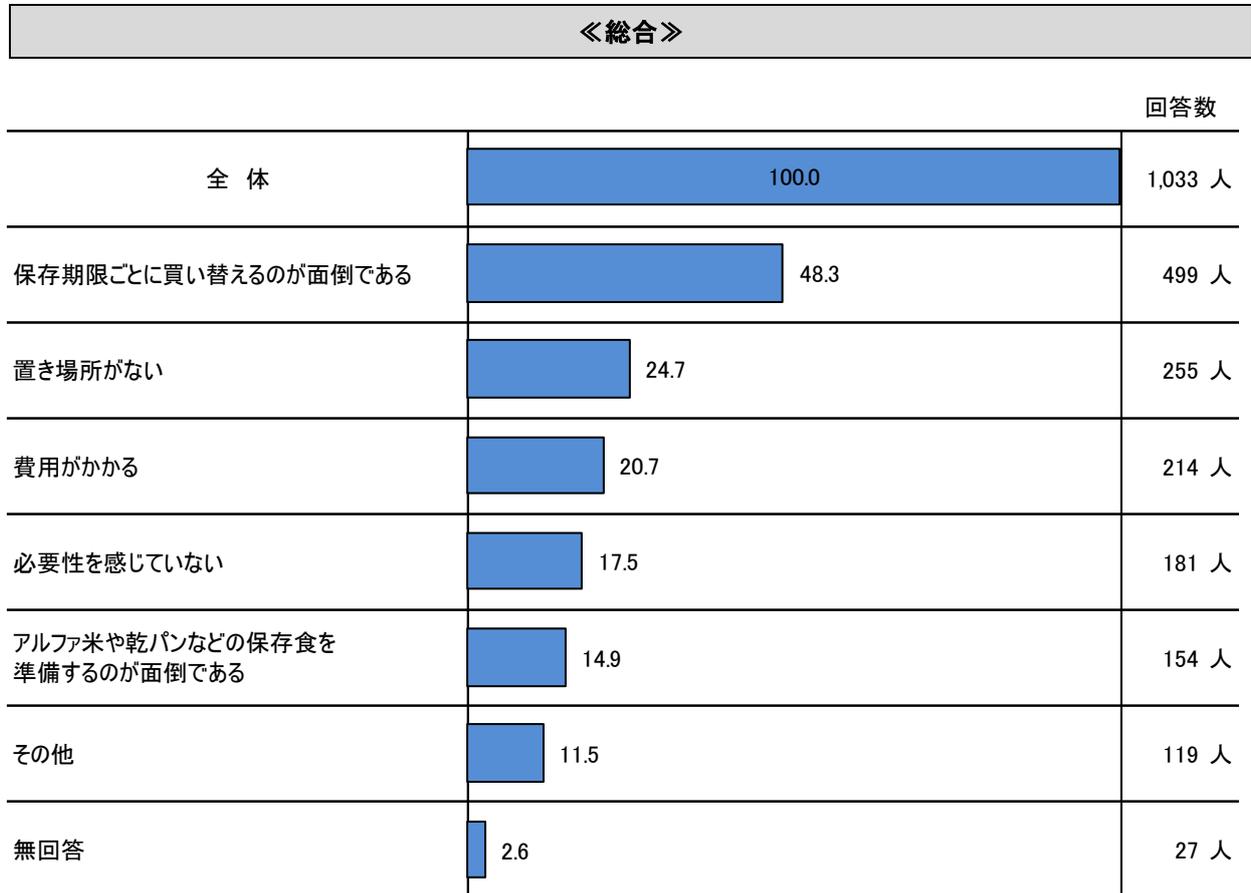
(7)食料の備蓄をしていない理由

副問1(問20で「3」もしくは「4」を選んだ方のみお答えください。)3日以上以上の食料の備蓄をしていないのどのような理由からですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「保存期限ごとに買い替えるのが面倒である」が48.3%と1位になっている。

次いで、「置き場所がない」が24.7%、「費用がかかる」が20.7%と続いている。

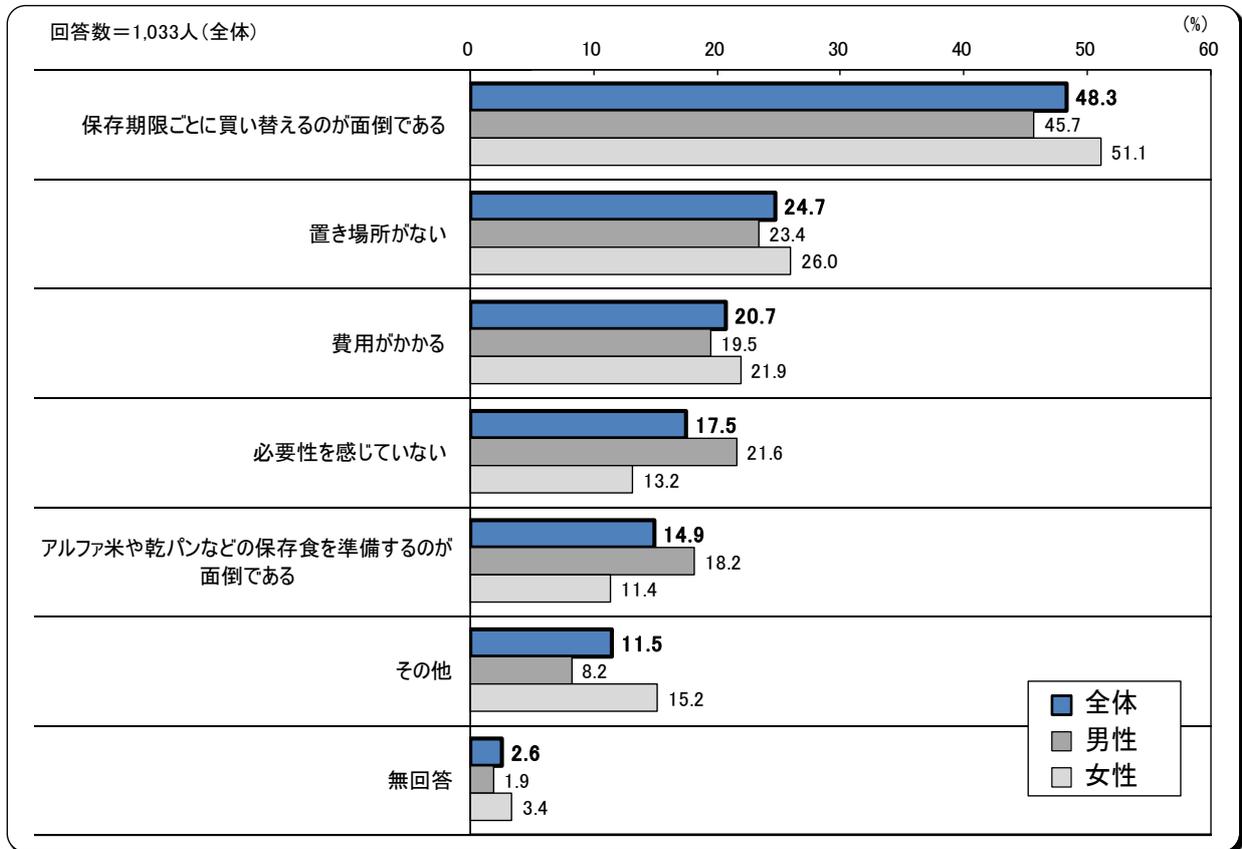


グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「保存期限ごとに買い替えるのが面倒である」が最も高くなっている。

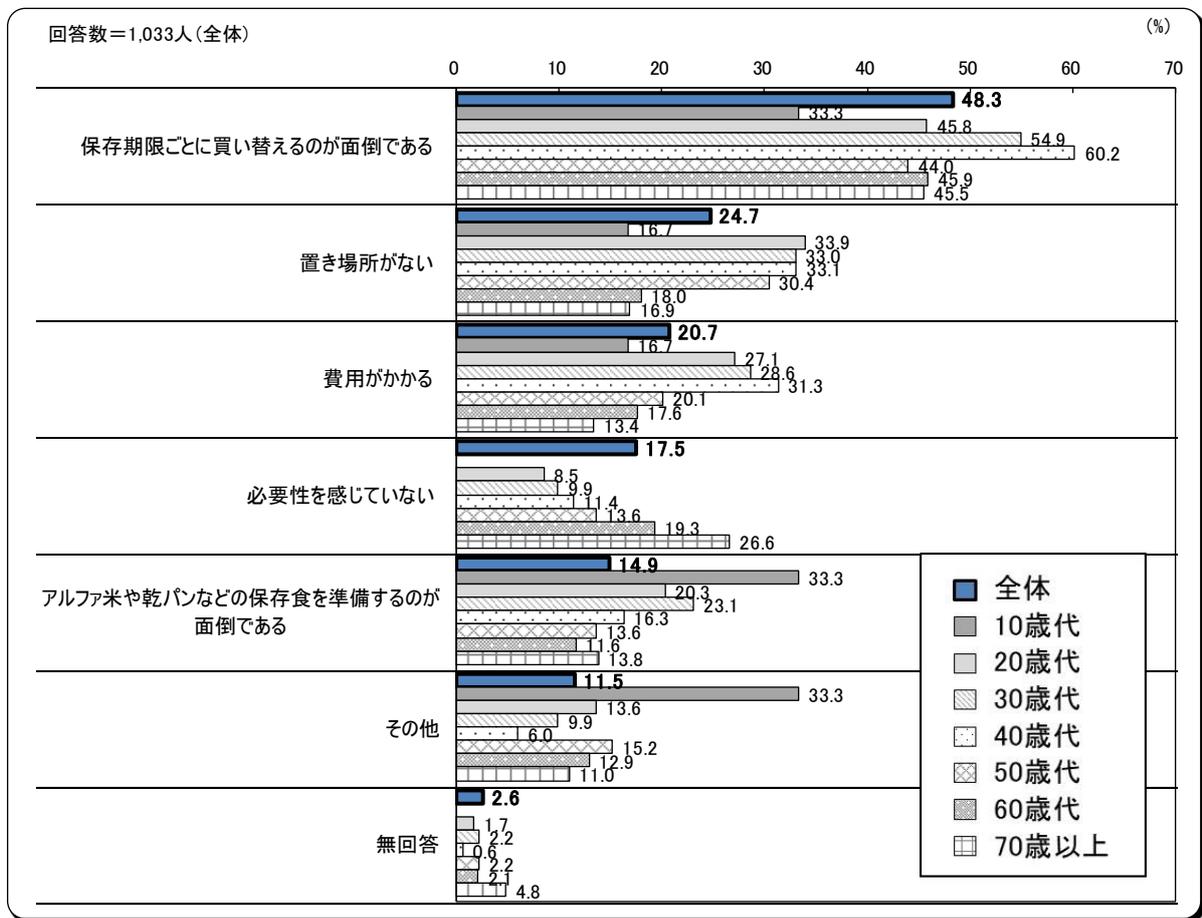
◀性別▶



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「保存期限ごとに買い替えるのが面倒である」が最も高く、10歳代ではこれと同率で「アルファ米や乾パンなどの保存食を準備するのが面倒である」が最も高くなっている。

《年代別》



【問 20—副問 1 × 問 16 のクロス分析】

「あなたのお宅は津波で浸水が予測される地域ですか。」という質問に対し、「3日分以上の食料の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。」について見ると、津波で浸水が予測される地域であるかどうかに関わらず、「保存期限ごとに買い替えるのが面倒である」が最も高くなっている。

《問 20—副問 1 × 問 16 のクロス分析》

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
		倒保 存期 限ご とに 買い 替える のが 面	置 き 場 所 が ない	費 用 が か か る	必 要 性 を 感 じ て い ない	を 準 備 す る の が 面 倒 で あ る	ア ル フ ア 米 や 乾 パ ン な ど の 保 存 食	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)									
全体		1,033 100.0	499 48.3	255 24.7	214 20.7	181 17.5	154 14.9	119 11.5	27 2.6
予津 測波 地浸 域水	津波で浸水が予測される地域である	436	46.1	26.4	20.9	14.7	15.8	11.5	4.4
	津波で浸水が予測される地域ではない	484	49.2	22.7	18.8	19.2	13.2	12.4	1.0
	わからない	105	56.2	26.7	28.6	21.0	19.0	8.6	1.0

(8)給油するタイミング

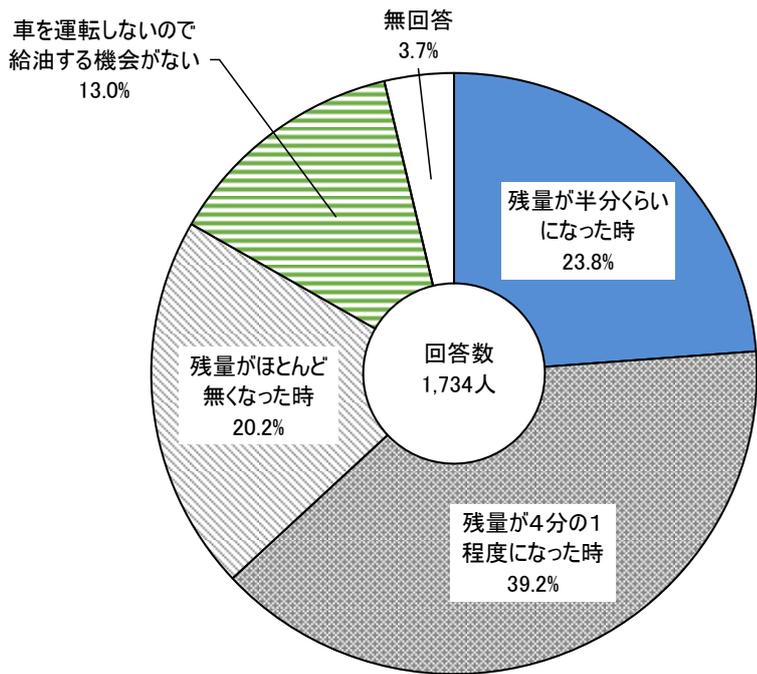
問 21 普段、車に給油するためにガソリンスタンドに行くのは、燃料タンクの残量がどれくらいになった時ですか。
(1つだけ○印)

【総合】

「残量が4分の1程度になった時」が39.2%と1位になっている。

次いで、「残量が半分くらいになった時」が23.8%、「残量がほとんど無くなった時」が20.2%と続いている。

《総合》



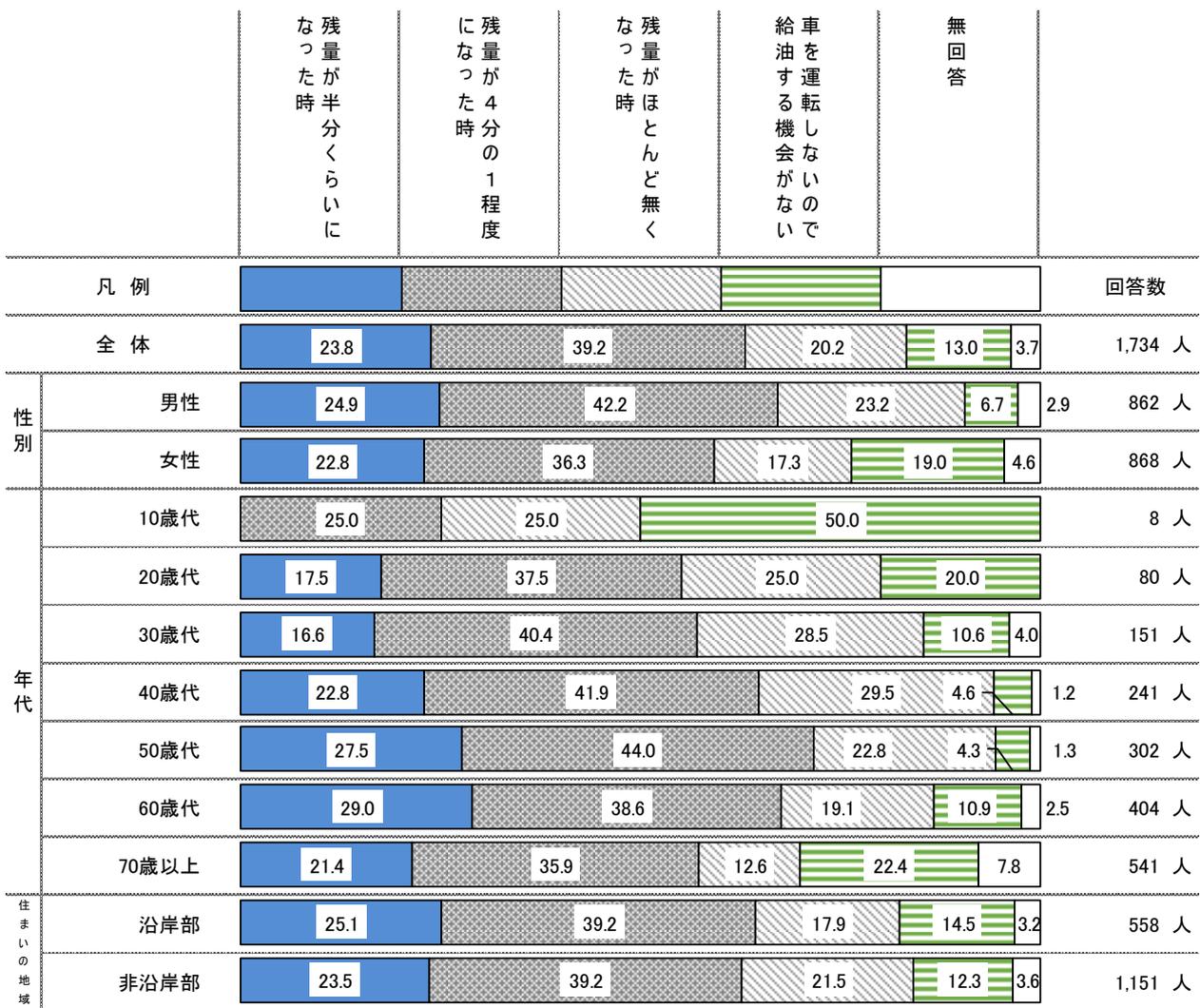
【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「残量が4分の1程度になった時」が最も高く、10歳代では「車を運転しないので給油する機会がない」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(9)給油の量

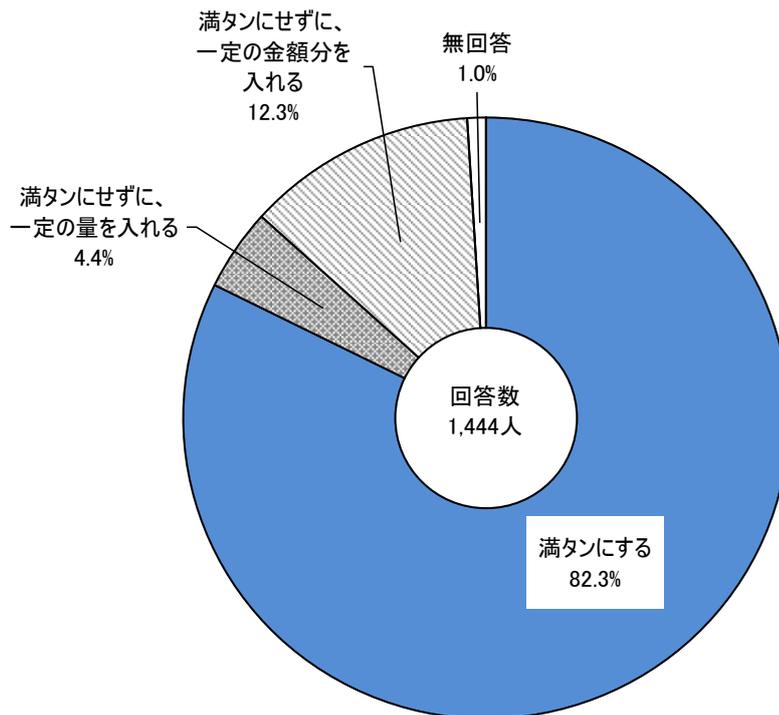
副問1(問 21 で「1～3」のいずれかを選んだ方のみお答えください。)普段、ガソリンスタンドで車に給油する時は、どれくらいの量を入れますか。(1つだけ○印)

【総合】

「満タンにする」が82.3%と1位になっている。

次いで、「満タンにせずに、一定の金額分を入れる」が12.3%、「満タンにせずに、一定の量を入れる」が4.4%と続いている。

《総合》



【性別】

男女ともに「満タンにする」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では「満タンにせず、一定の金額分を入れる」が最も高く、その他の年代では「満タンにする」が半数を超えて最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(10) 感震ブレーカーの設置

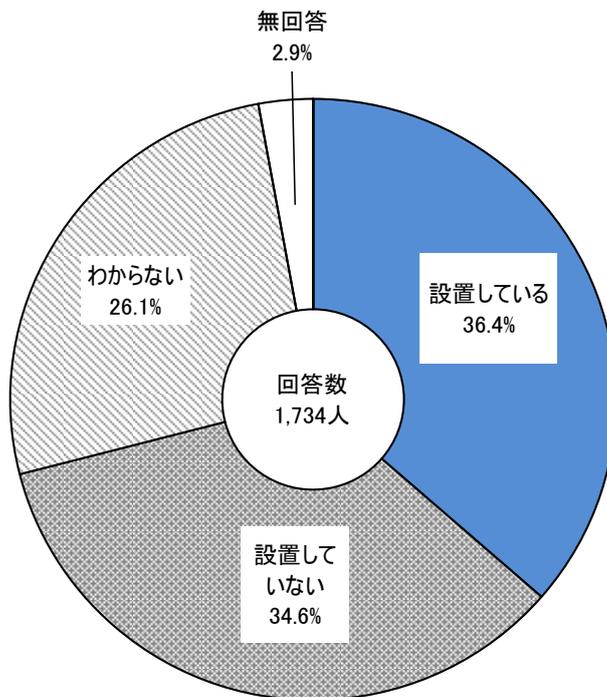
問 22 ご自宅に感震ブレーカー(地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める装置)を設置していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「設置している」が36.4%と1位になっている。

次いで、「設置していない」が34.6%、「わからない」が26.1%と続いている。

《総合》



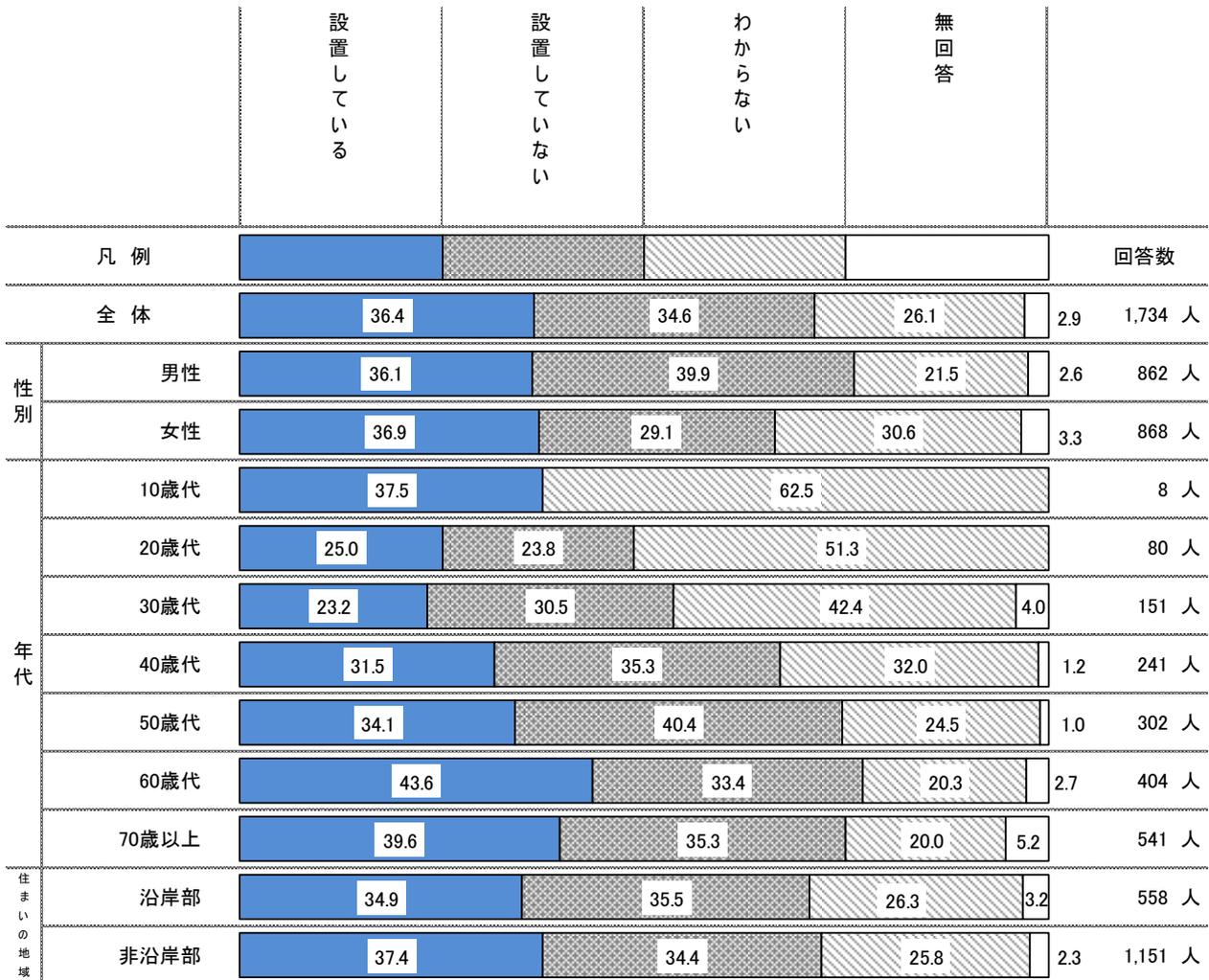
【性別】

男性では「設置していない」が、女性では「設置している」が最も高くなっている。

【年齢別】

10歳代、20歳代、30歳代では「わからない」が最も高く、40歳代、50歳代では「設置していない」が、60歳代、70歳以上では「設置している」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

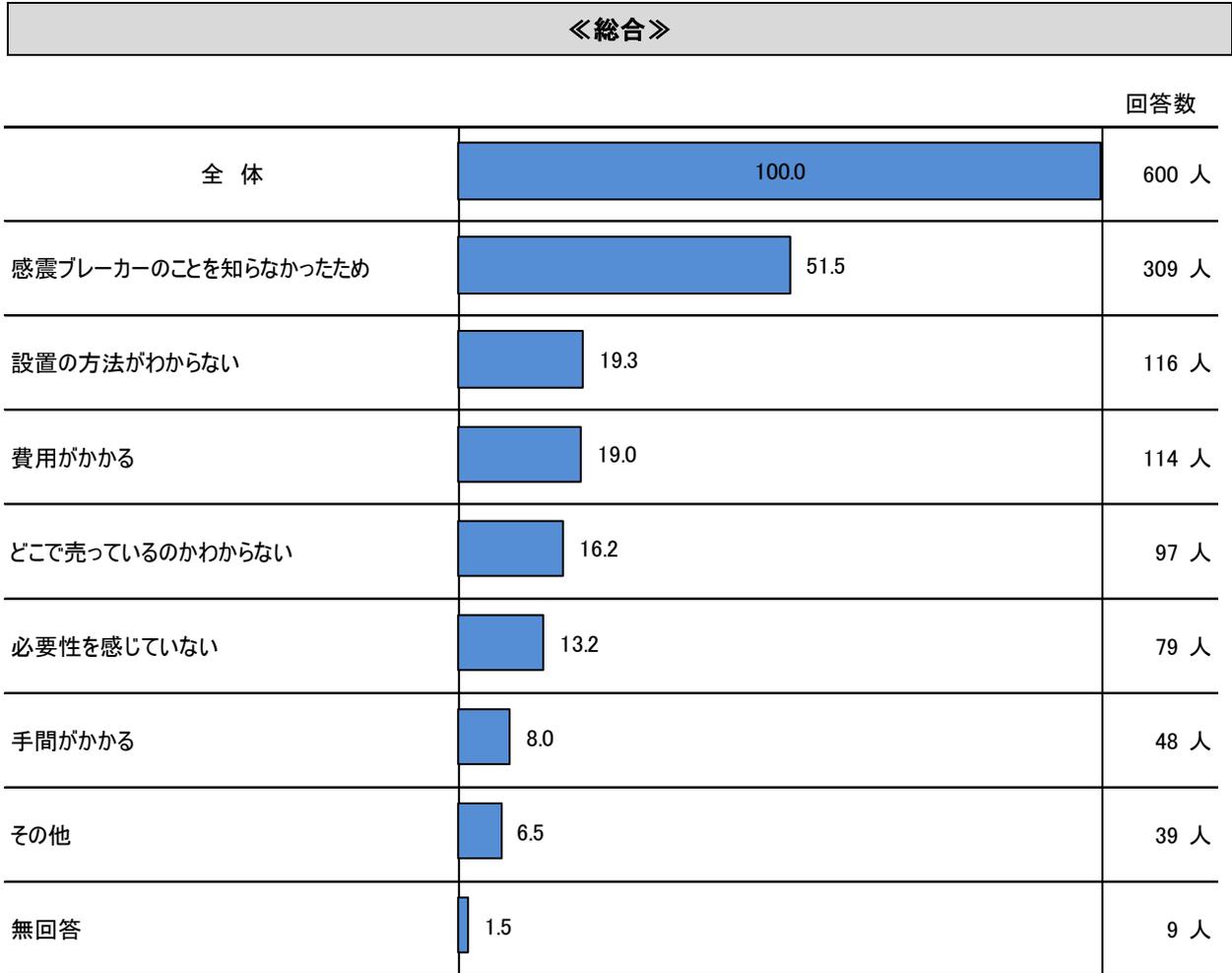
(11) 感震ブレーカーを設置していない理由

副問1(問22で「2」を選んだ方のみお答えください。)感震ブレーカーを設置していないのは、どのような理由からですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「感震ブレーカーのことを知らなかったため」が51.5%と1位になっている。

次いで、「設置の方法がわからない」が19.3%、「費用がかかる」が19.0%と続いている。

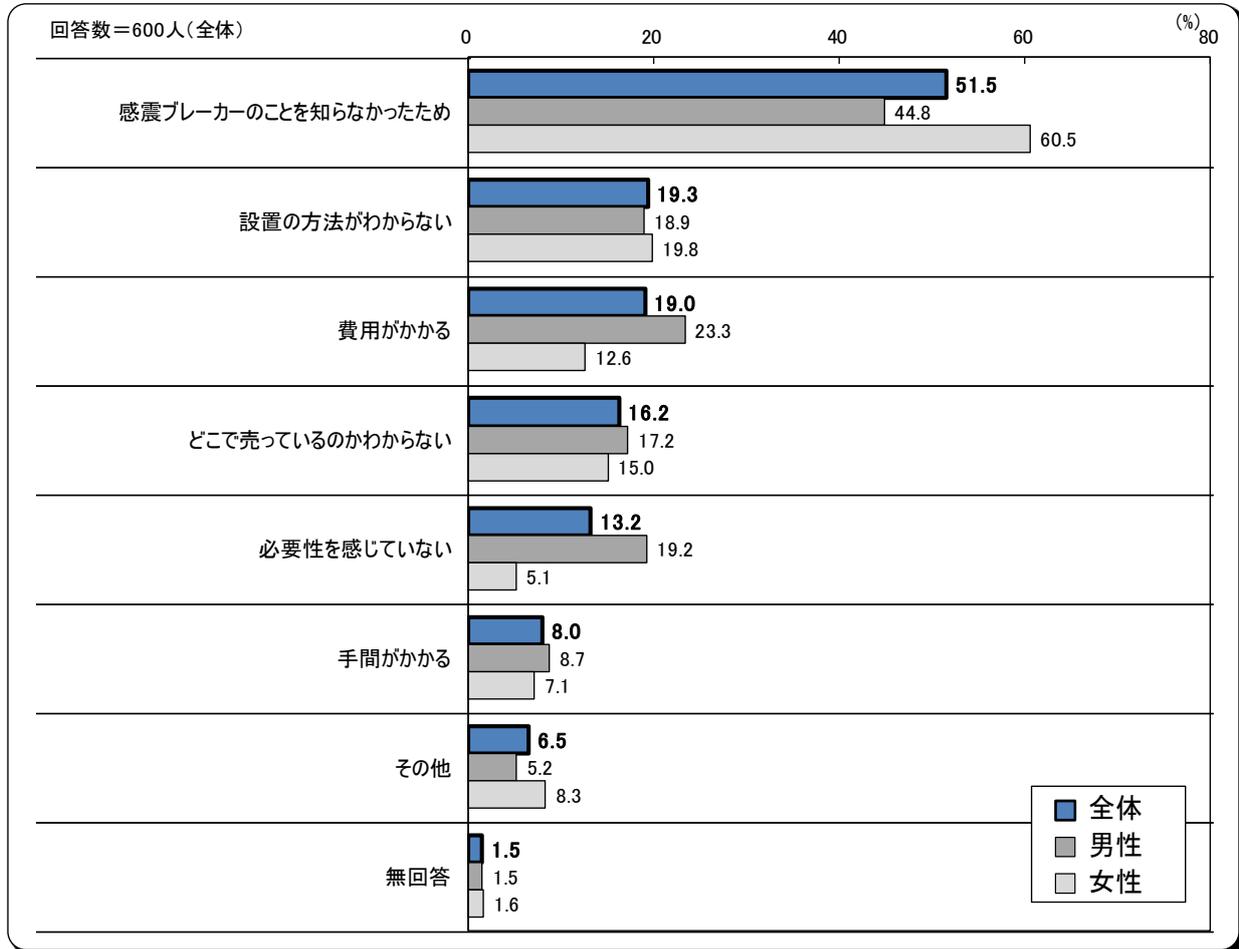


グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「感震ブレーカーのことを知らなかったため」が最も高く、次いで、男性では「費用がかかる」が、女性では「設置の方法がわからない」が続いている。

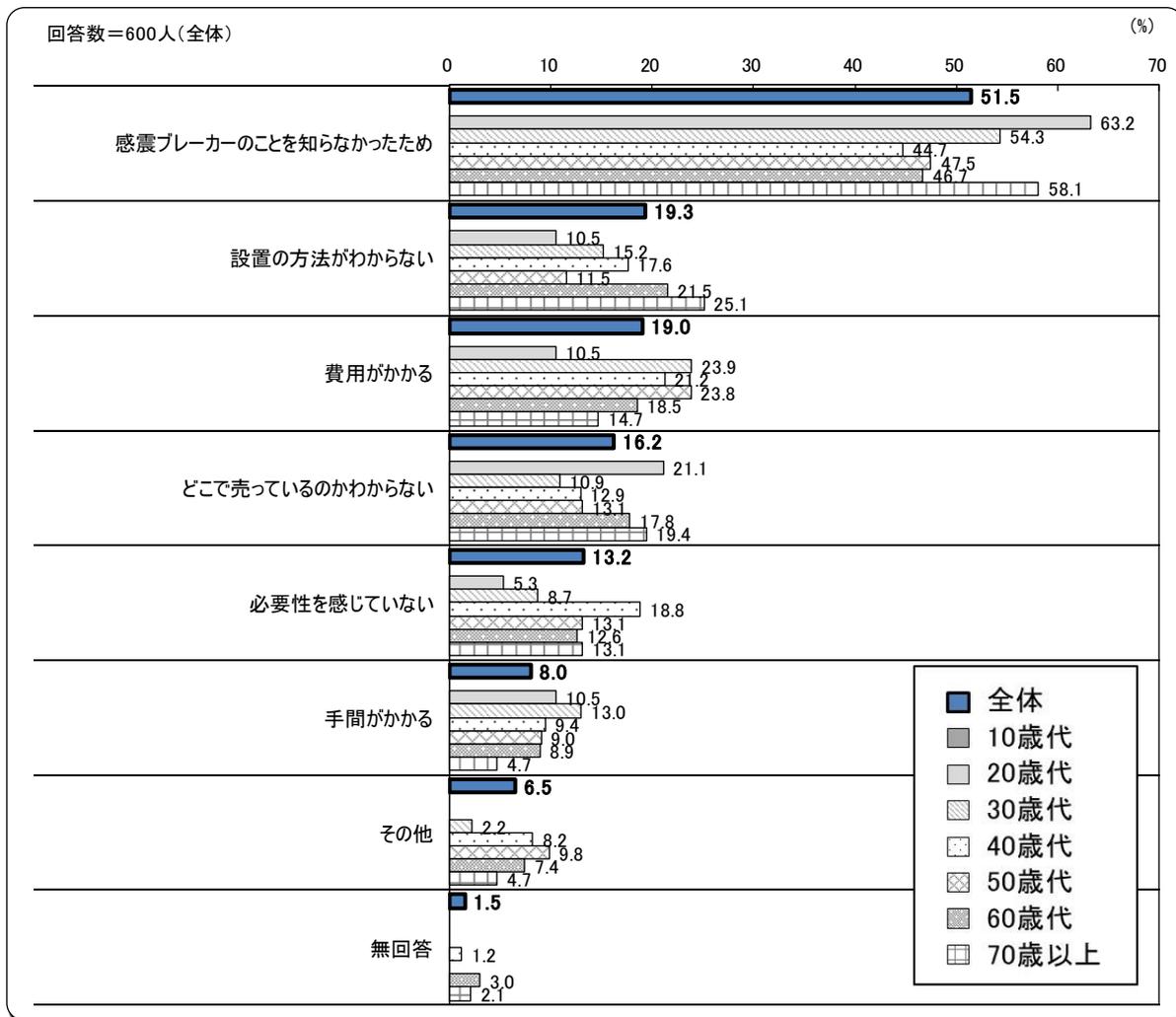
◀性別▶



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「感震ブレイカーのことを知らなかったため」が最も高くなっている。

《年代別》



(12)防災訓練の参加

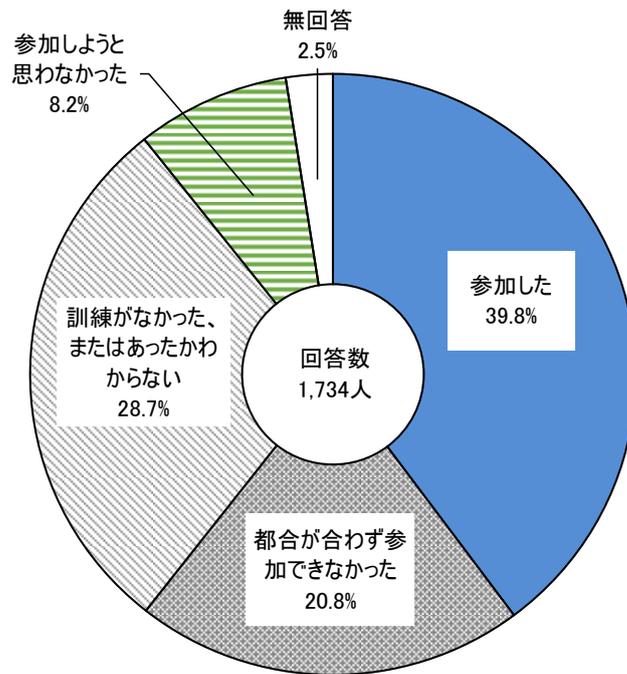
問 23 過去1年間に地域や職場の地震に関する防災訓練に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「参加した」が39.8%と1位になっている。

次いで、「訓練がなかった、またはあったかわからない」が28.7%、「都合が合わず参加できなかった」が20.8%と続いている。

《総合》



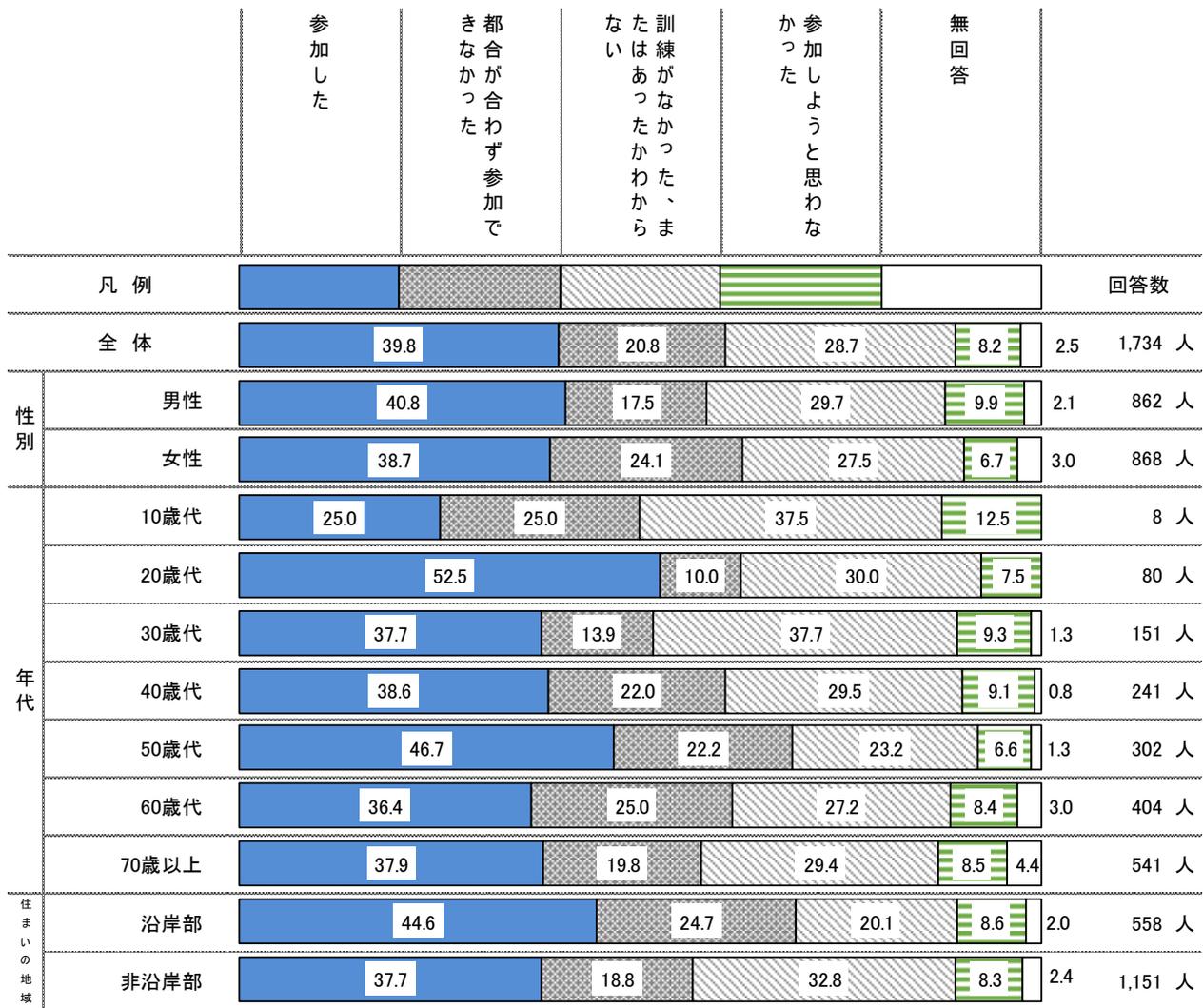
【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代では「訓練がなかった、またはあったかわからない」が最も高く、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「参加した」が、30歳代では同率で「参加した」と「訓練がなかった、またはあったかわからない」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住みの地域別》



グラフ単位：(%)

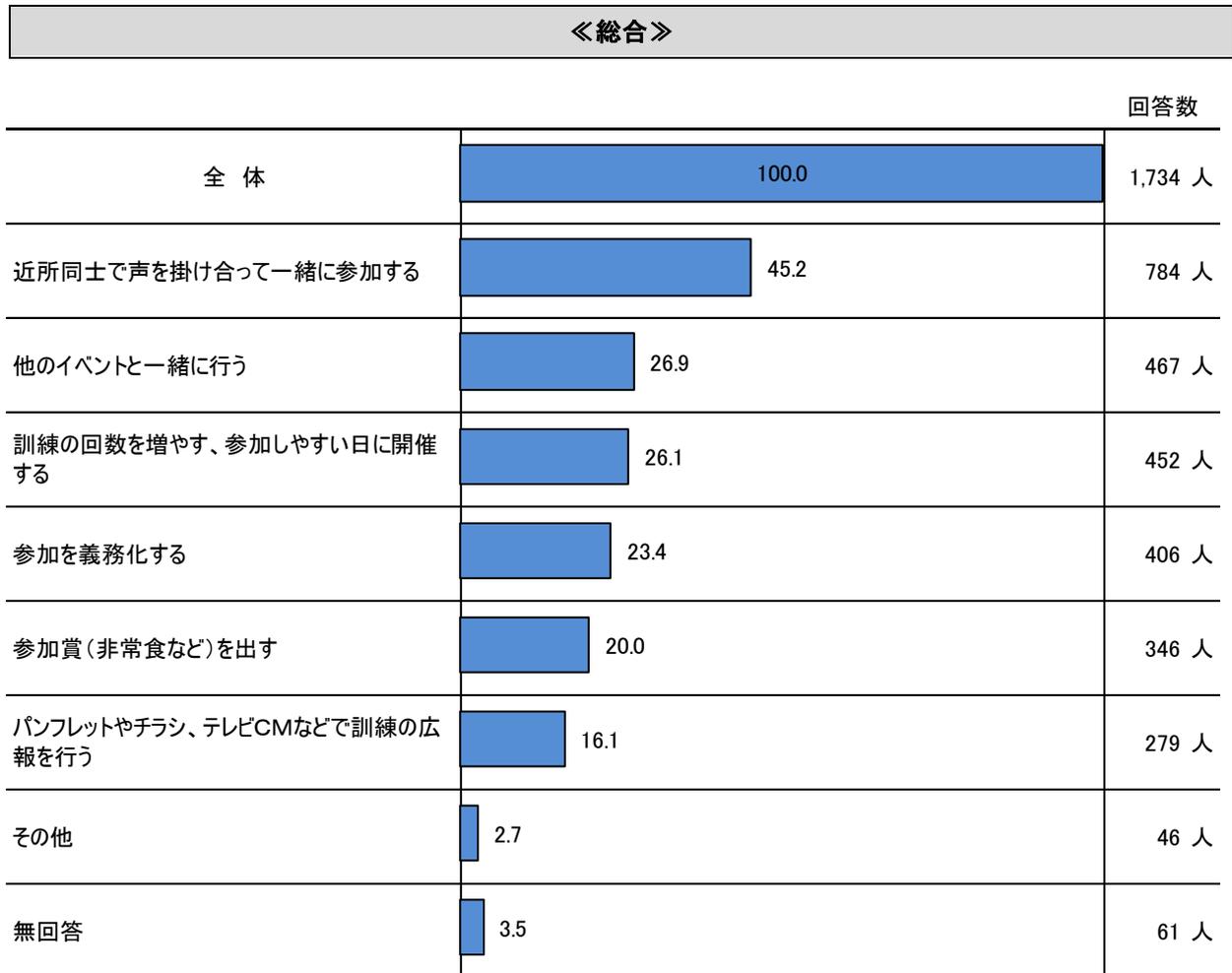
(13)防災訓練への参加数を増やすための方策

問 24 地域や職場の地震に関する防災訓練に、どうすれば参加する人が増えると思いますか。(2つまで○印)

【総合】

「近所同士で声を掛け合って一緒に参加する」が45.2%と1位になっている。

次いで、「他のイベントと一緒にやる」が26.9%、「訓練の回数を増やす、参加しやすい日に開催する」が26.1%と続いている。

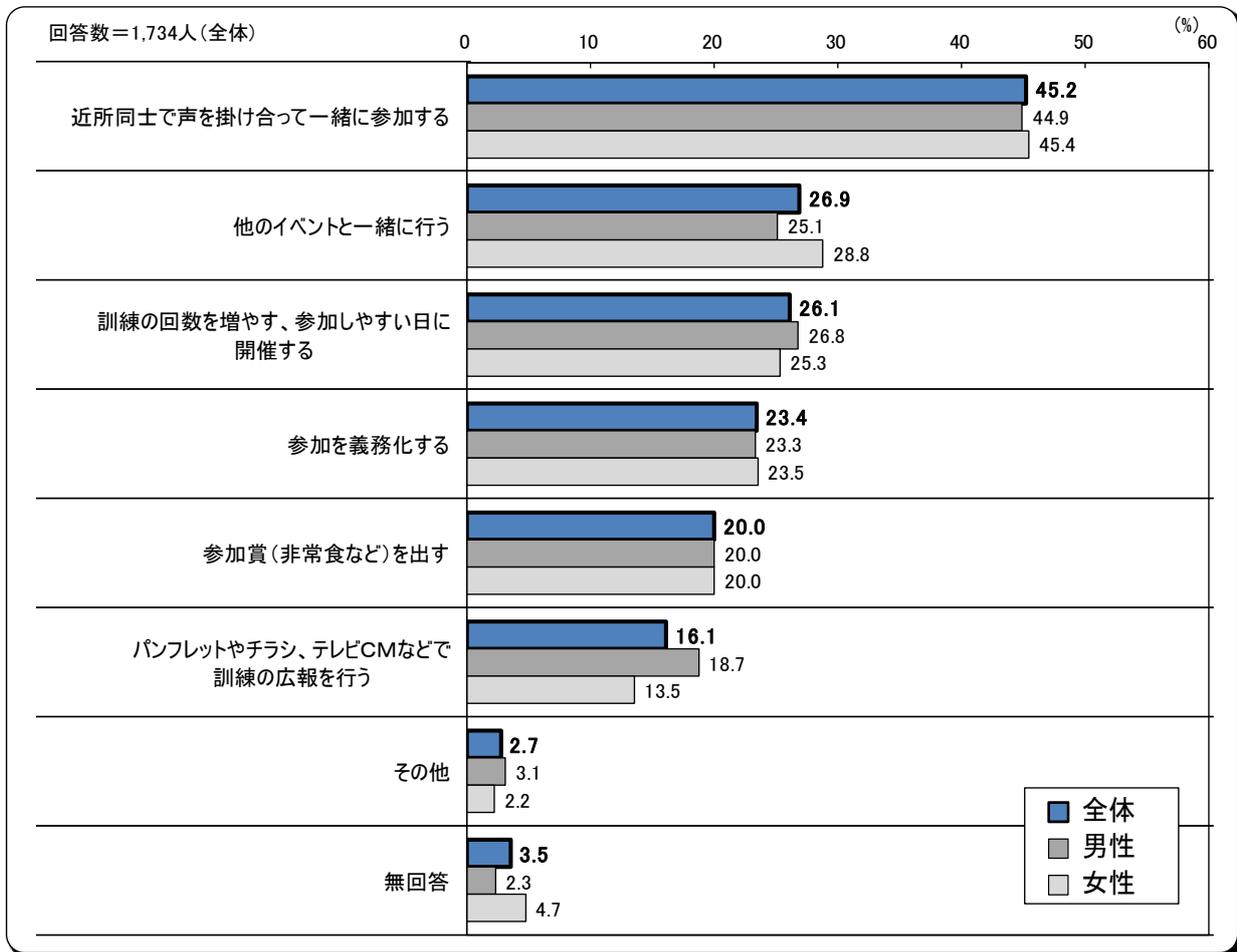


グラフ単位：(%)

【性別】

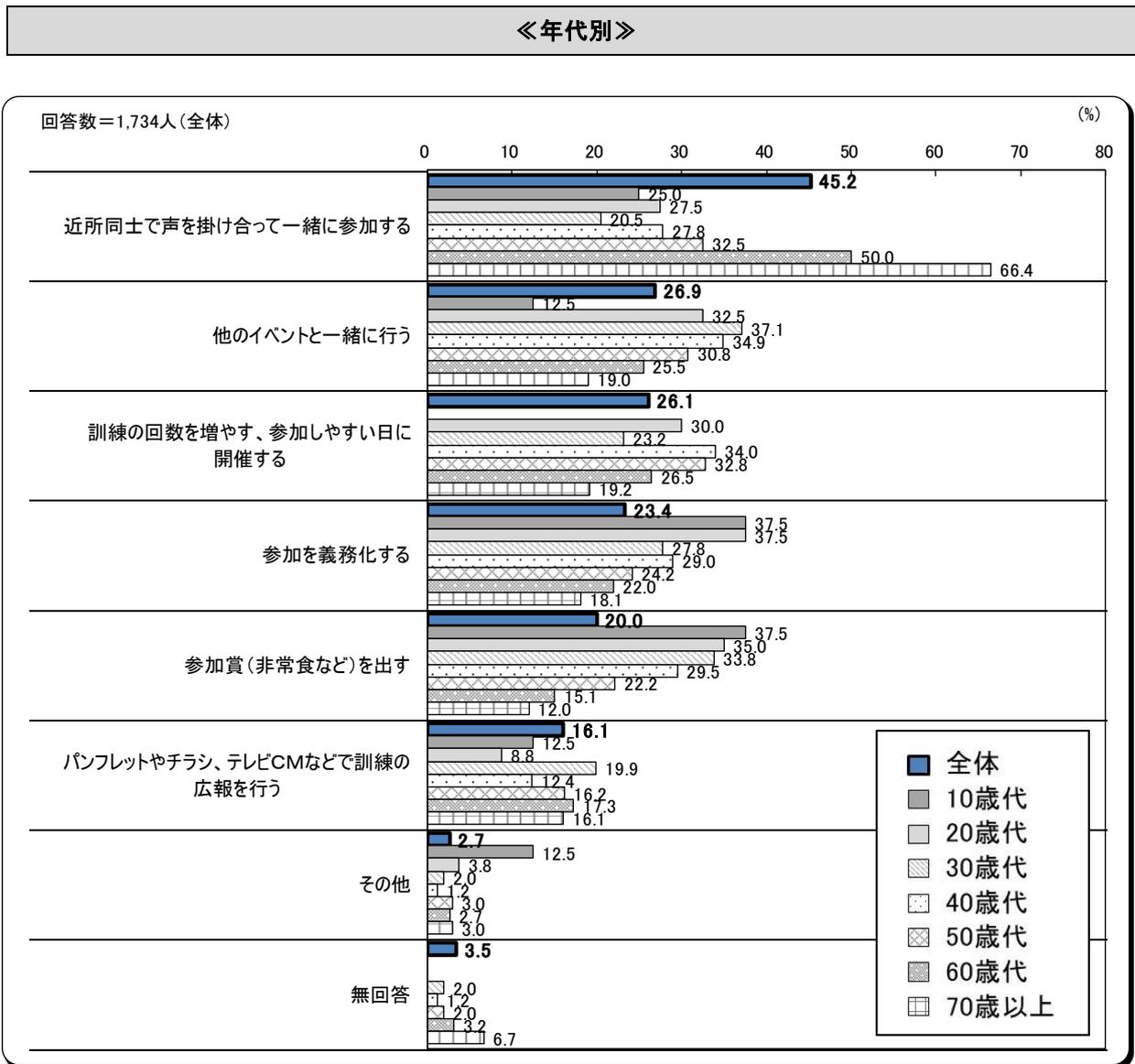
男女ともに「近所同士で声を掛け合って一緒に参加する」が最も高く、次いで、男性では「訓練の回数を増やす、参加しやすい日に開催する」を増やす、参加しやすい日に開催する」が、女性では「他のイベントと一緒にに行く」が続いている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「参加を義務化する」と「参加賞（非常食など）を出す」が最も高く、20歳代では「参加を義務化する」が、30歳代、40歳代では「他のイベントと一緒に進む」が、50歳代では「訓練の回数を増やす、参加しやすい日に開催する」が、60歳代、70歳以上では「近所同士で声を掛け合って一緒に参加する」が最も高くなっている。



(14)南海トラフ地震臨時情報の認知度

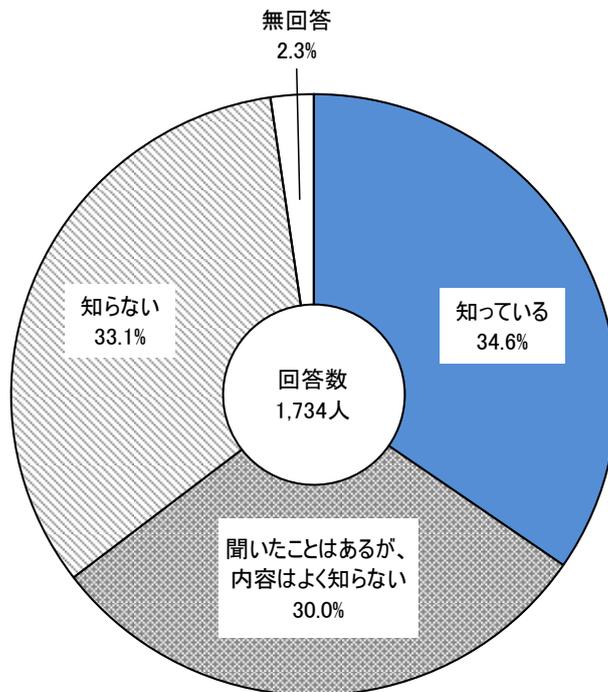
問 25 「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることについて、ご存じでしたか。(1つだけ○印)

【総合】

「知っている」が34.6%と1位になっている。

次いで、「知らない」が33.1%、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が30.0%と続いている。

《総合》



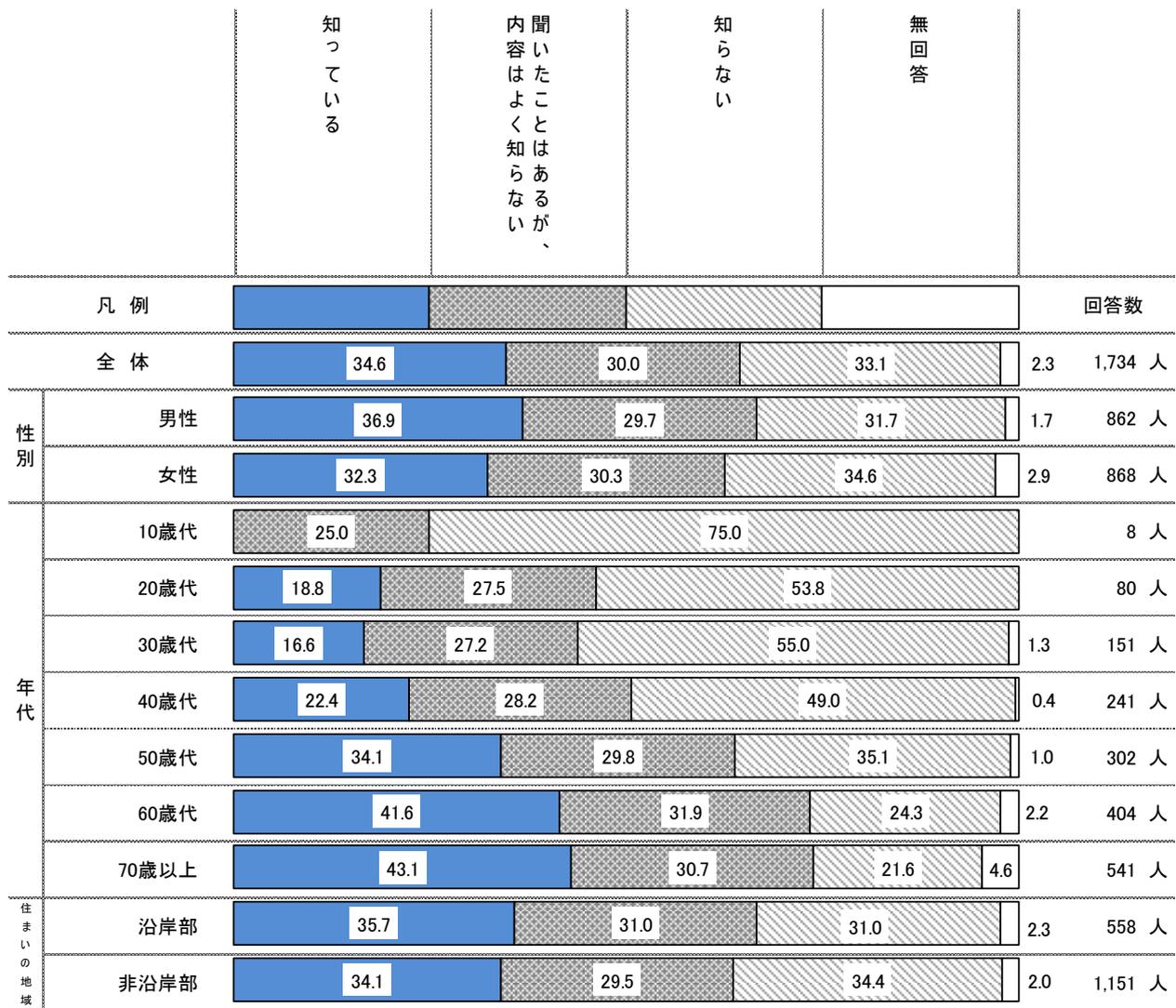
【性別】

男性では「知っている」が最も高く、次いで、「知らない」が続き、女性では「知らない」が最も高く、次いで、「知っている」が続いている。

【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「知らない」が最も高く、60歳代、70歳代では「知っている」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(15) 地域の消防団への入団

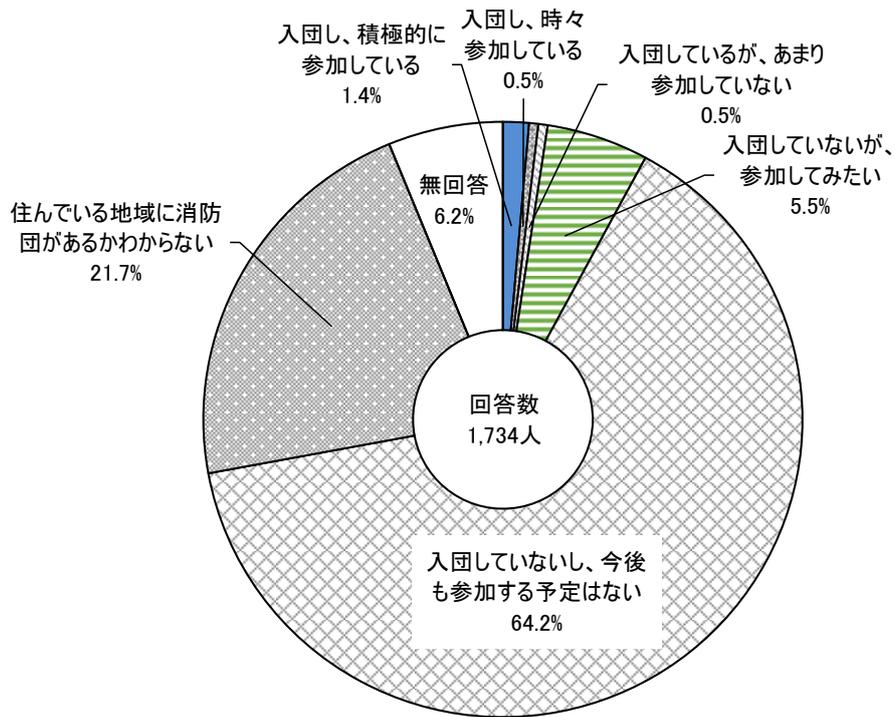
問 26 お住まいの地域の消防団に入団していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「入団していないし、今後も参加する予定はない」が64.2%と1位になっている。

次いで、「住んでいる地域に消防団があるかわからない」が21.7%、「入団していないが、参加してみたい」が5.5%と続いている。

《総合》



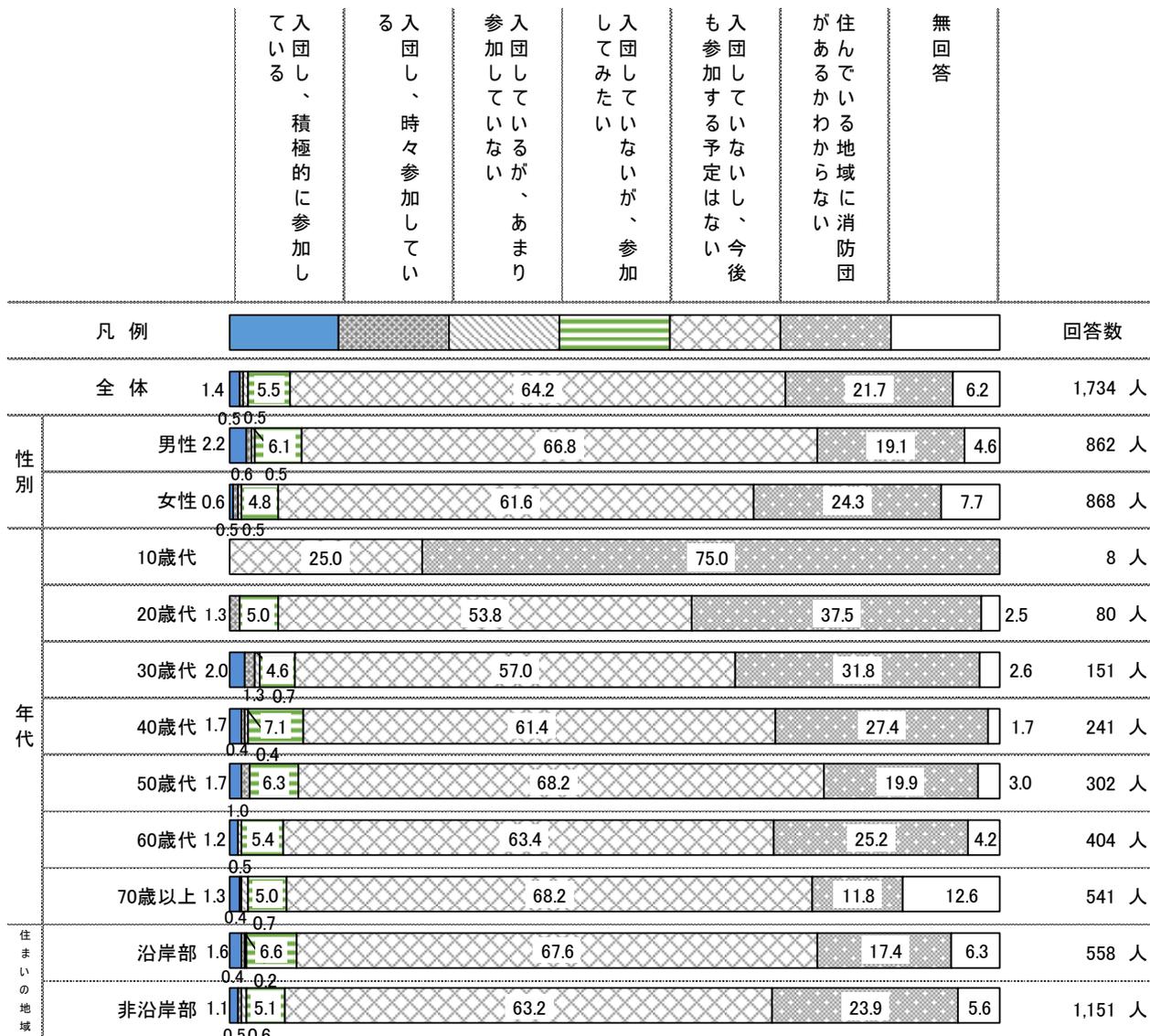
【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「入団していないし、今後も参加する予定はない」が最も高く、10歳代では「住んでいる地域に消防団があるかわからない」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(16)消防団へ入団した理由

副問1(問26で「1~3」のいずれかを選んだ方のみお答えください。)消防団に入団している方にお聞きます。
 どのような理由で入団されましたか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから」が51.2%と1位になっている。

次いで、「友人、知人に誘われたから」が46.3%、「人脈を広げられるから」が14.6%と続いている。

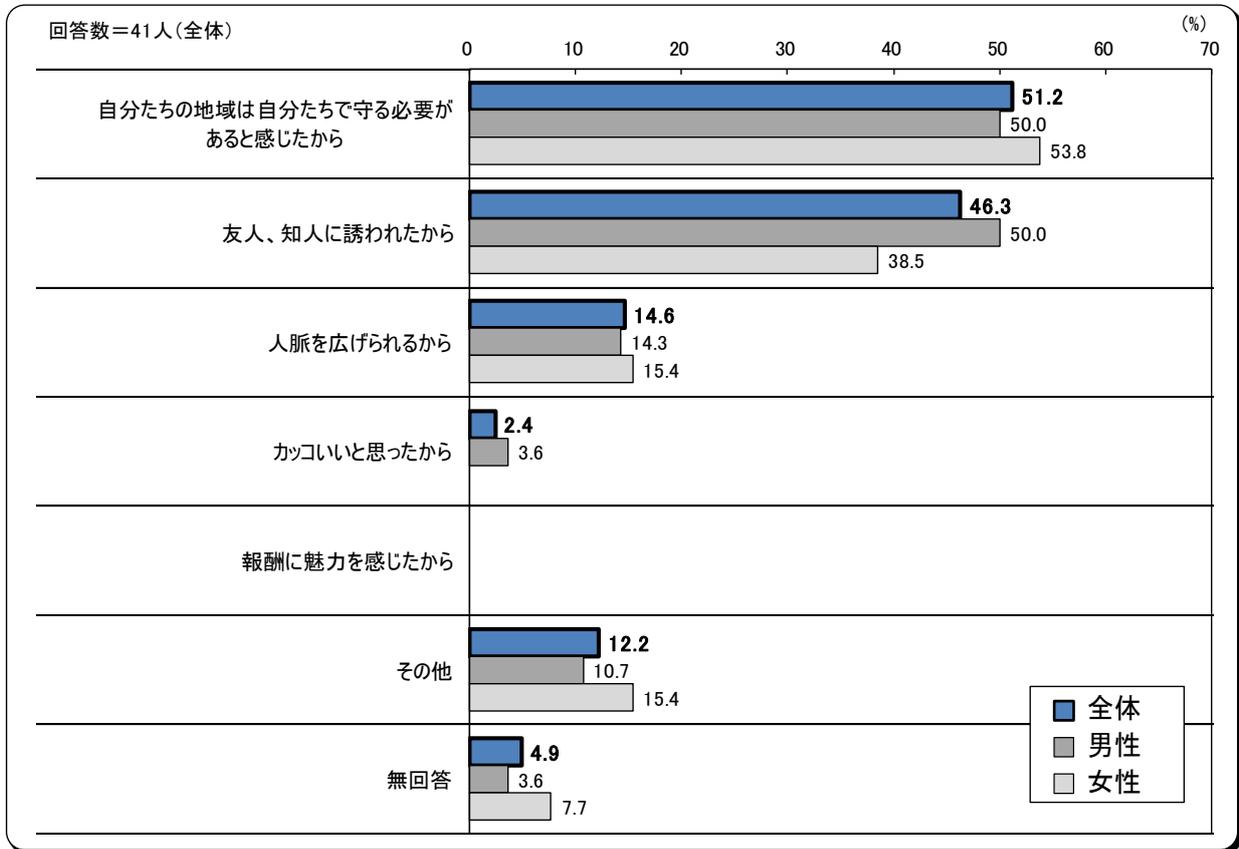
《総合》		
		回答数
全 体	100.0	41 人
自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから	51.2	21 人
友人、知人に誘われたから	46.3	19 人
人脈を広げられるから	14.6	6 人
カッコいいと思ったから	2.4	1 人
報酬に魅力を感じたから		0 人
その他	12.2	5 人
無回答	4.9	2 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男性では同率で「自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから」と「友人、知人に誘われたから」が最も高く、次いで、「人脈を広げられるから」が、女性では「自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから」が最も高く、次いで、「友人、知人に誘われたから」が続いている。

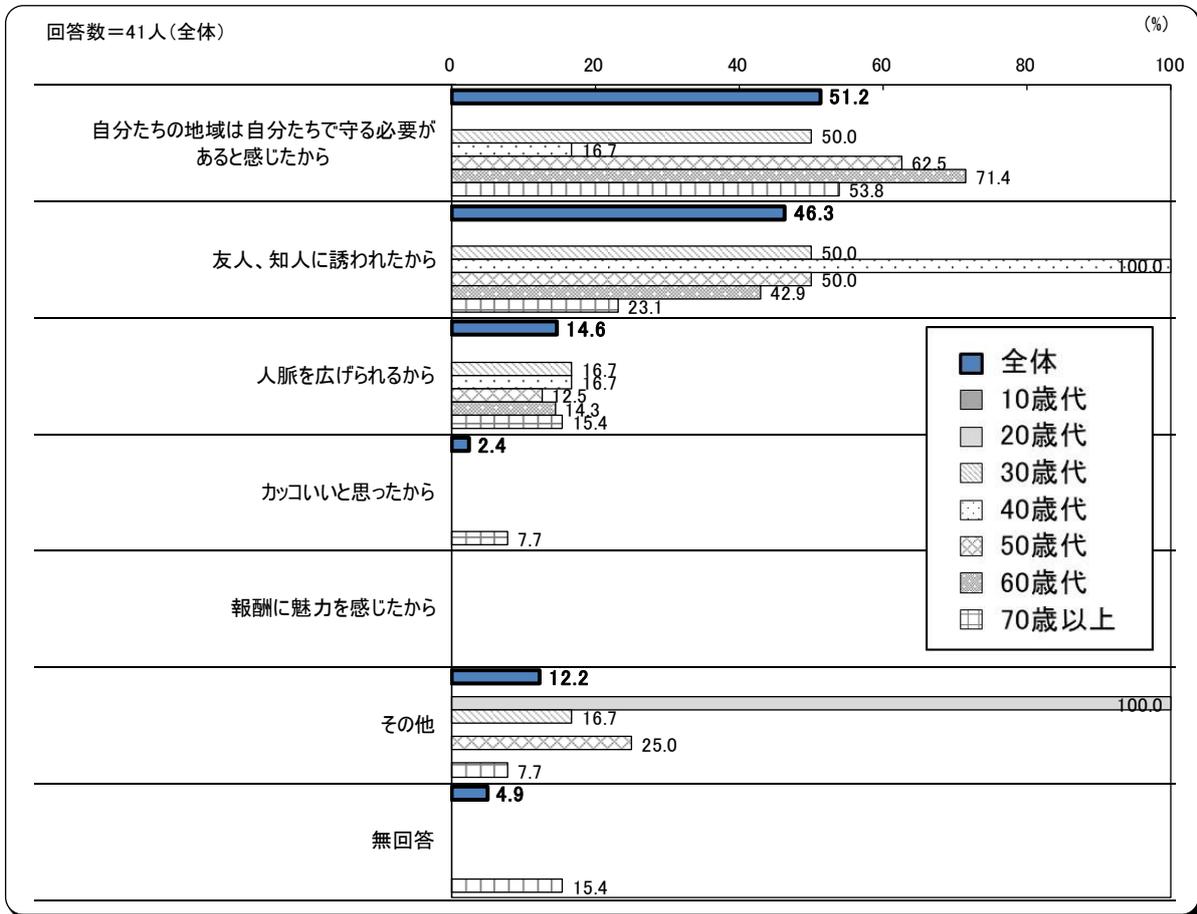
◀性別▶



【年代別】

30歳代では同率で「自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから」と「友人、知人に誘われたから」が最も高く、40歳代では「友人、知人に誘われたから」が、50歳代、60歳代、70歳以上では「自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから」が最も高くなっている。

《年代別》



(17)消防団に対するイメージ

問 27 消防団に対し、どのようなイメージを持っていますか。(3つまで○印)

【総合】

「地域に密着した防災活動をしてきている」が61.5%と1位になっている。

次いで、「若い人が不足している」が38.6%、「地域を守る意識の高い人が参加している」が35.2%と続いている。

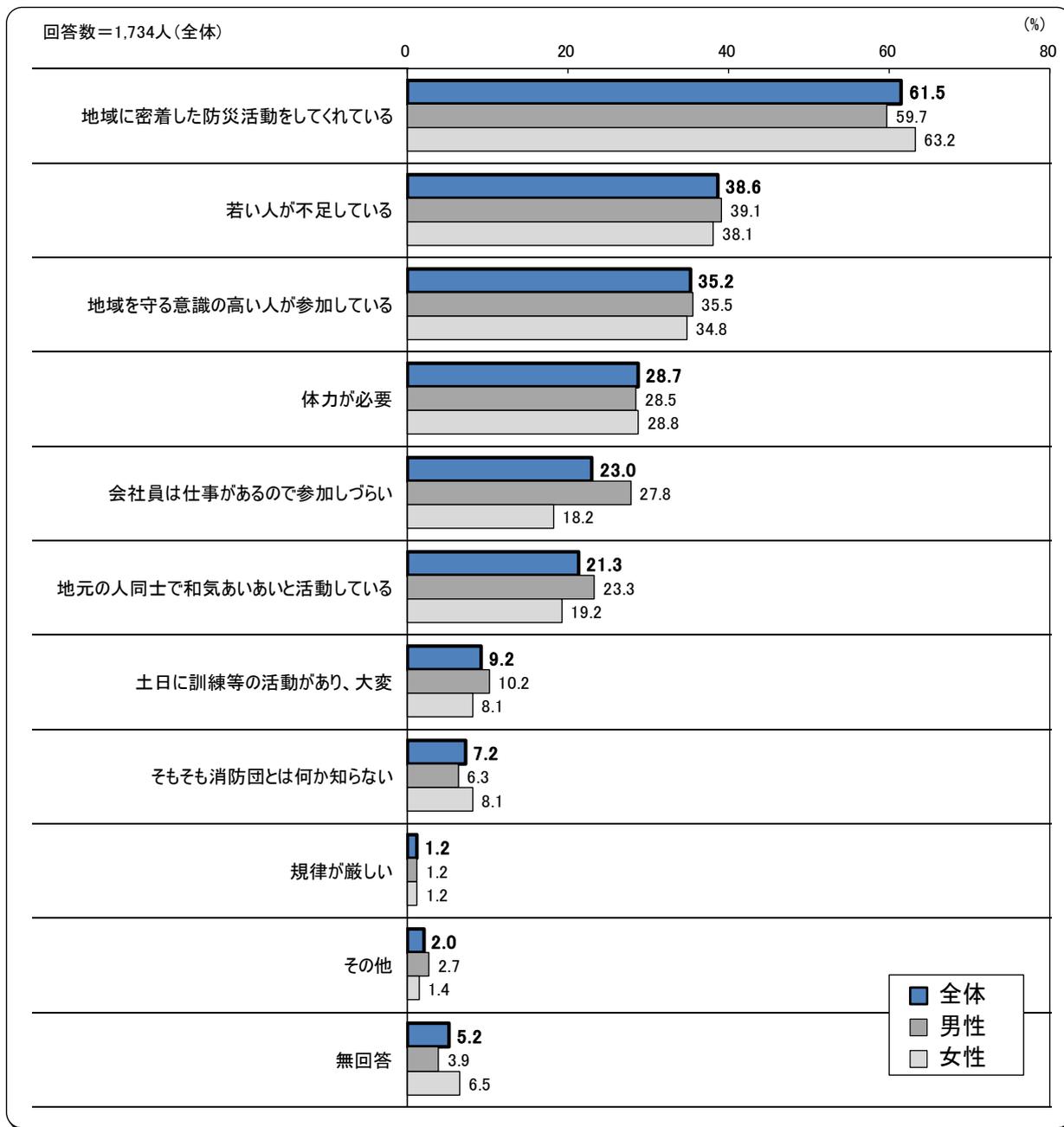
《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,734 人
地域に密着した防災活動をしてきている	61.5	1,067 人
若い人が不足している	38.6	669 人
地域を守る意識の高い人が参加している	35.2	611 人
体力が必要	28.7	498 人
会社員は仕事があるので参加しづらい	23.0	398 人
地元の人同士で和気あいあいと活動している	21.3	369 人
土日に訓練等の活動があり、大変	9.2	159 人
そもそも消防団とは何か知らない	7.2	124 人
規律が厳しい	1.2	21 人
その他	2.0	35 人
無回答	5.2	90 人

グラフ単位：(%)

【性別】

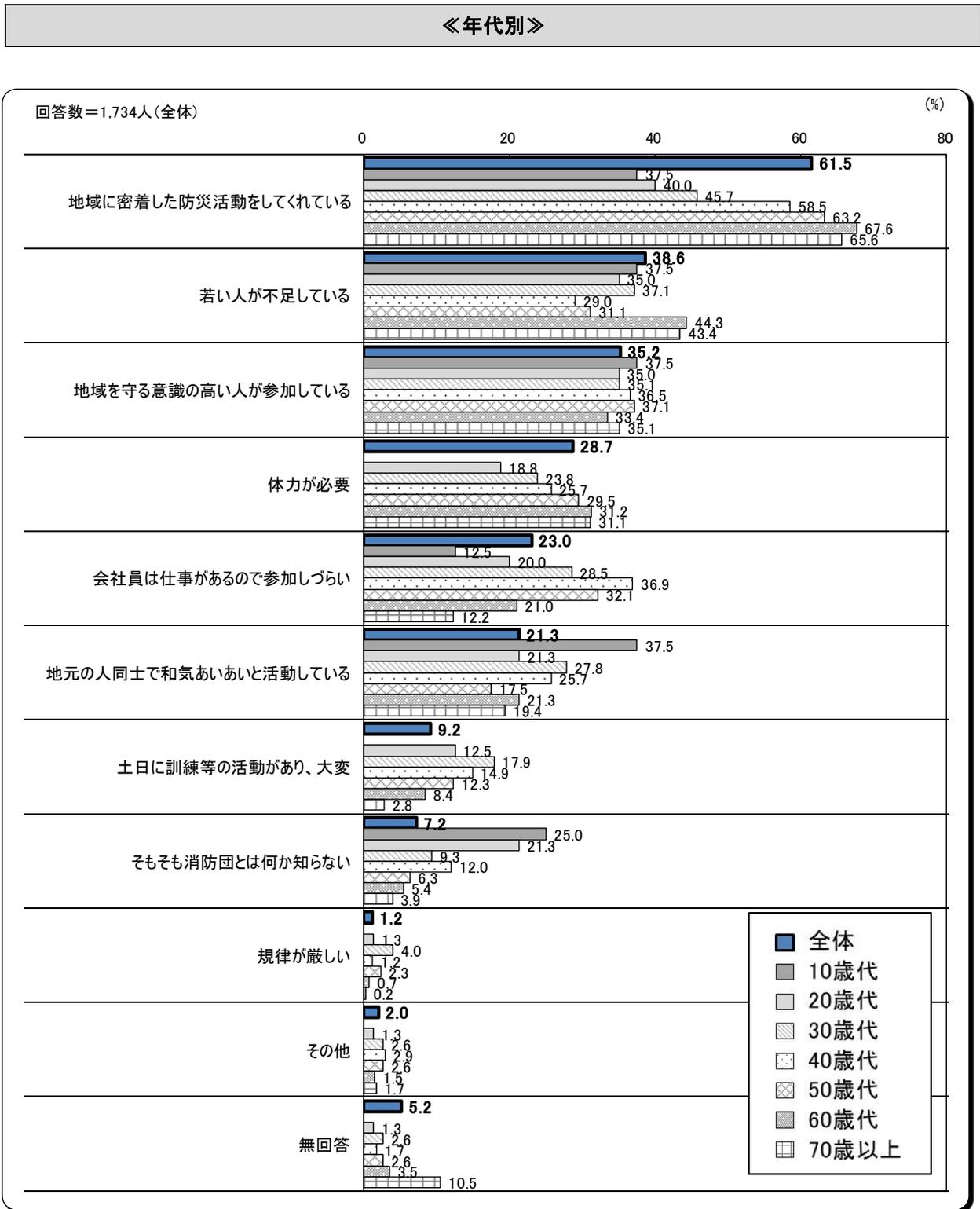
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「地域に密着した防災活動をしてきている」が最も高く、10歳代ではこれと同率で「若い人が不足している」と「地域を守る意識の高い人が参加している」と「地元の人同士で和気あいあいと活動している」が最も高くなっている。



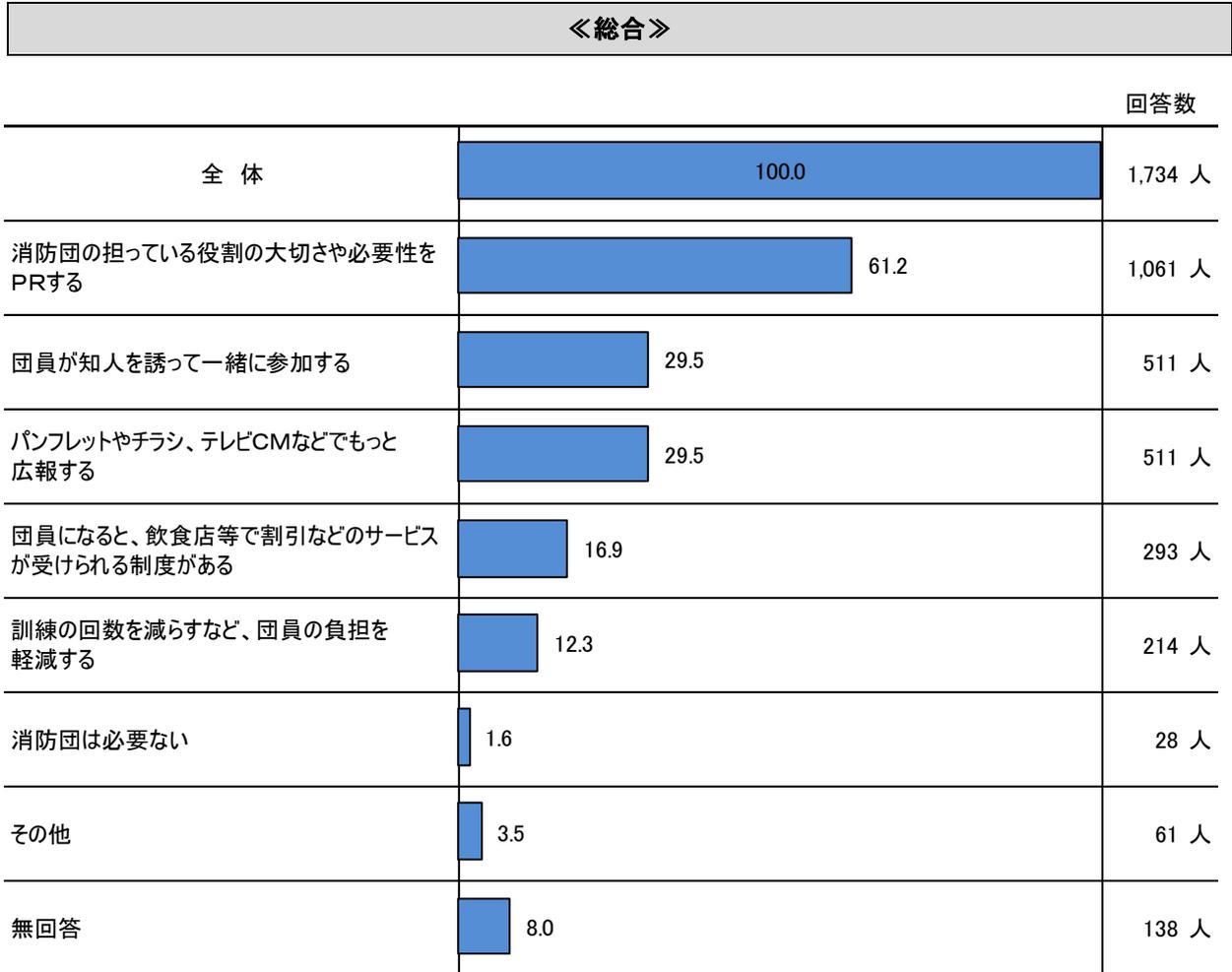
(18)消防団に興味を持ってもらえる方策

問 28 どうすれば消防団に興味を持ってもらえると思いますか。(2つまで○印)

【総合】

「消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする」が61.2%と1位になっている。

次いで、「団員が知人を誘って一緒に参加する」、「パンフレットやチラシ、テレビCMなどでもっと広報する」が29.5%と続いている。

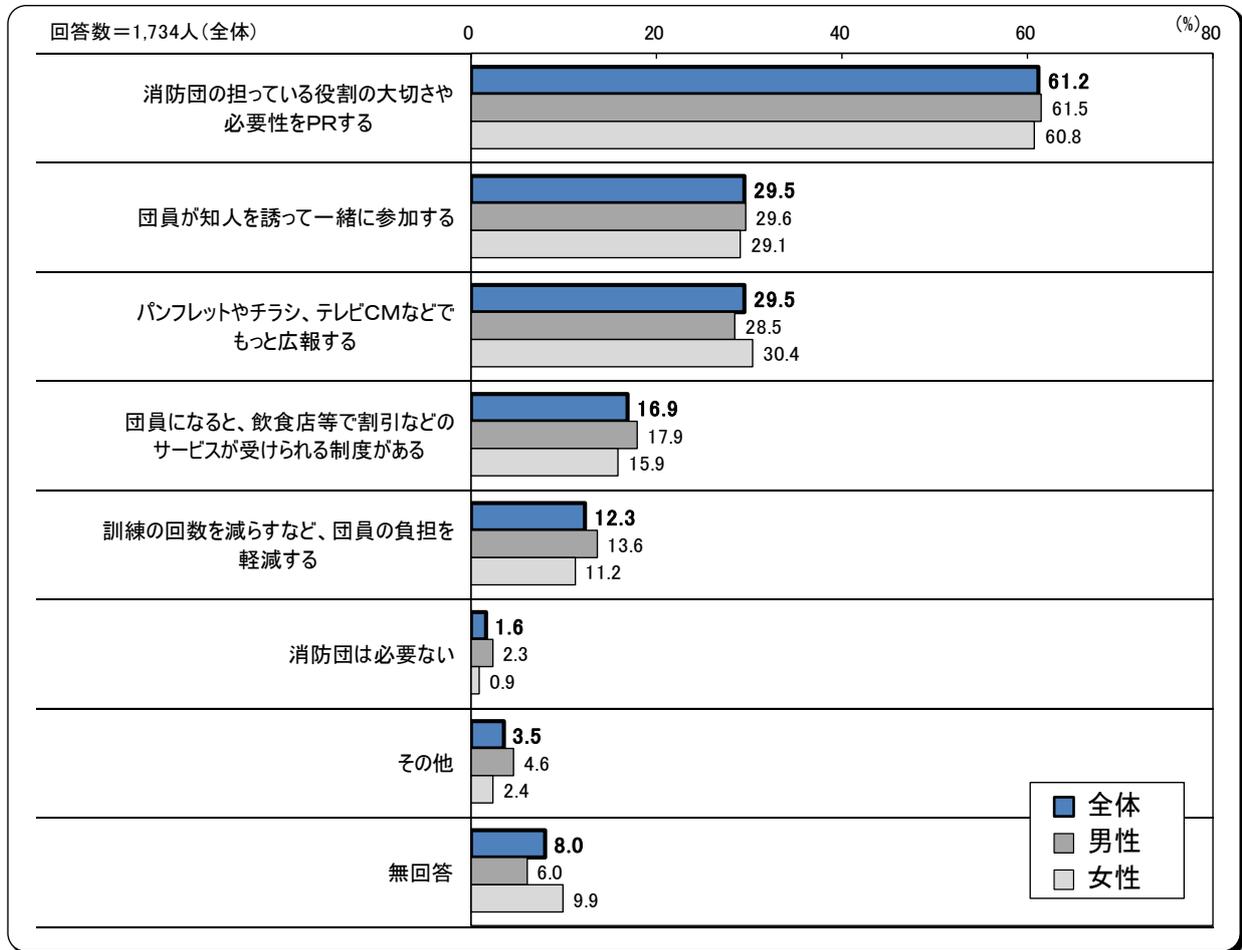


グラフ単位：(%)

【性別】

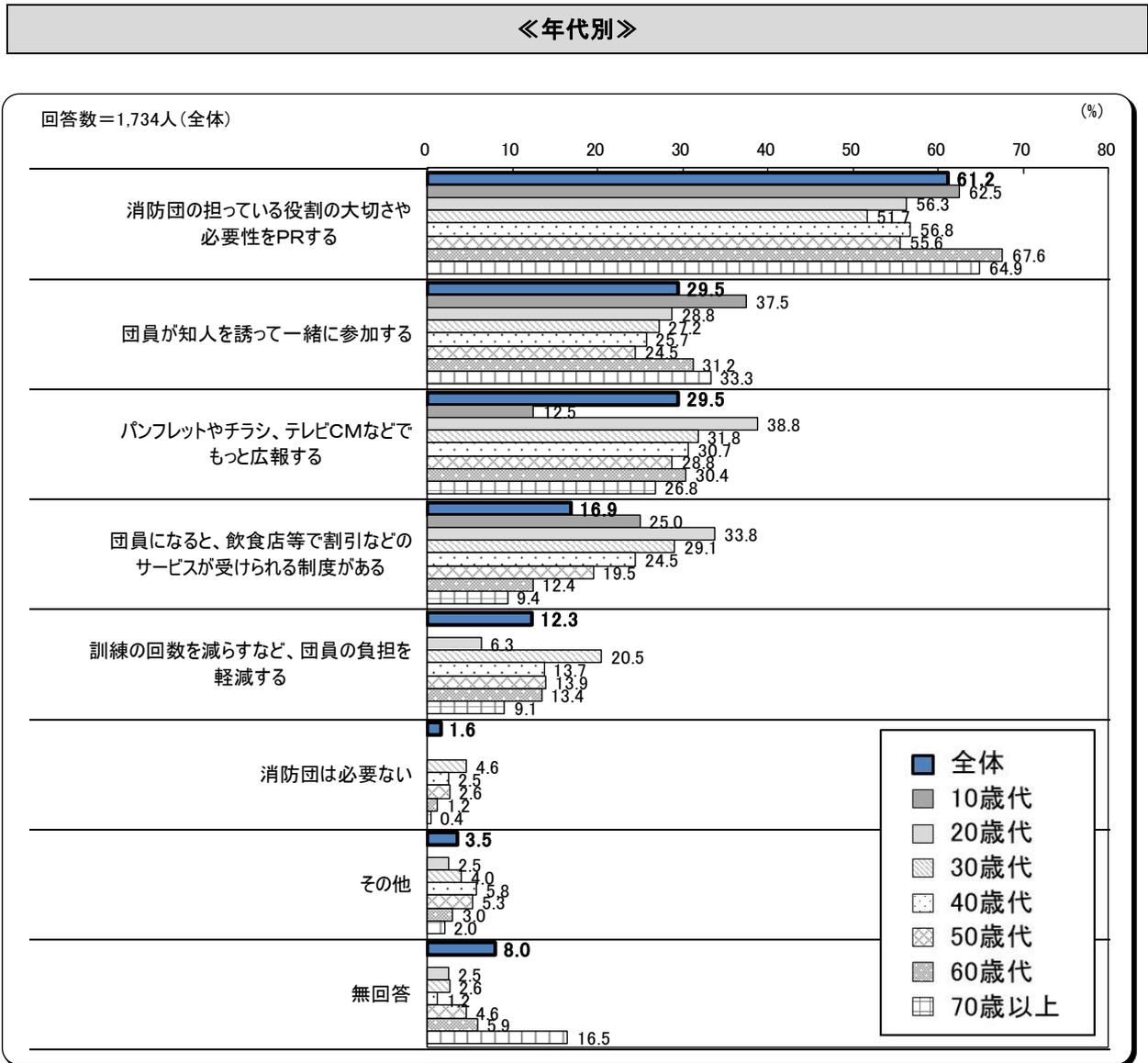
男女ともに「消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする」が最も高く、次いで、男性では「団員が知人を誘って一緒に参加する」が、女性では「パンフレットやチラシ、テレビCMなどでもっと広報する」が続いている。

◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする」が半数を超えて最も高くなっている。



(19)住まいの建築年と構造

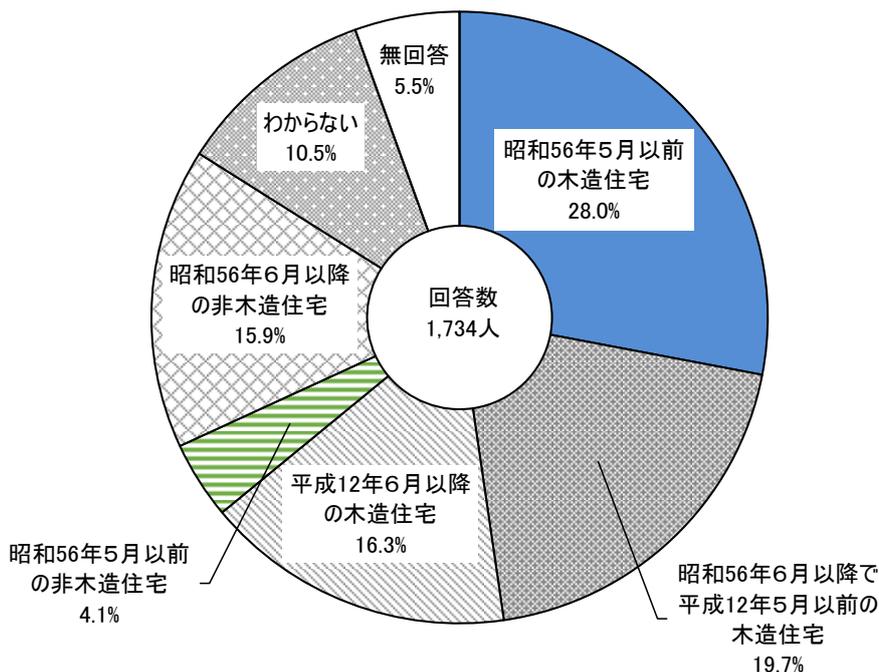
問 29 あなたのお住まい(持家、借家に関わらず)の建築年と構造をお答えください。増改築されている場合は、主な部分の建築年としてください。(1つだけ○印)

【総合】

「昭和56年5月以前の木造住宅」が28.0%と1位になっている。

次いで、「昭和56年6月以降で平成12年5月以前の木造住宅」が19.7%、「平成12年6月以降の木造住宅」が16.3%と続いている。

《総合》



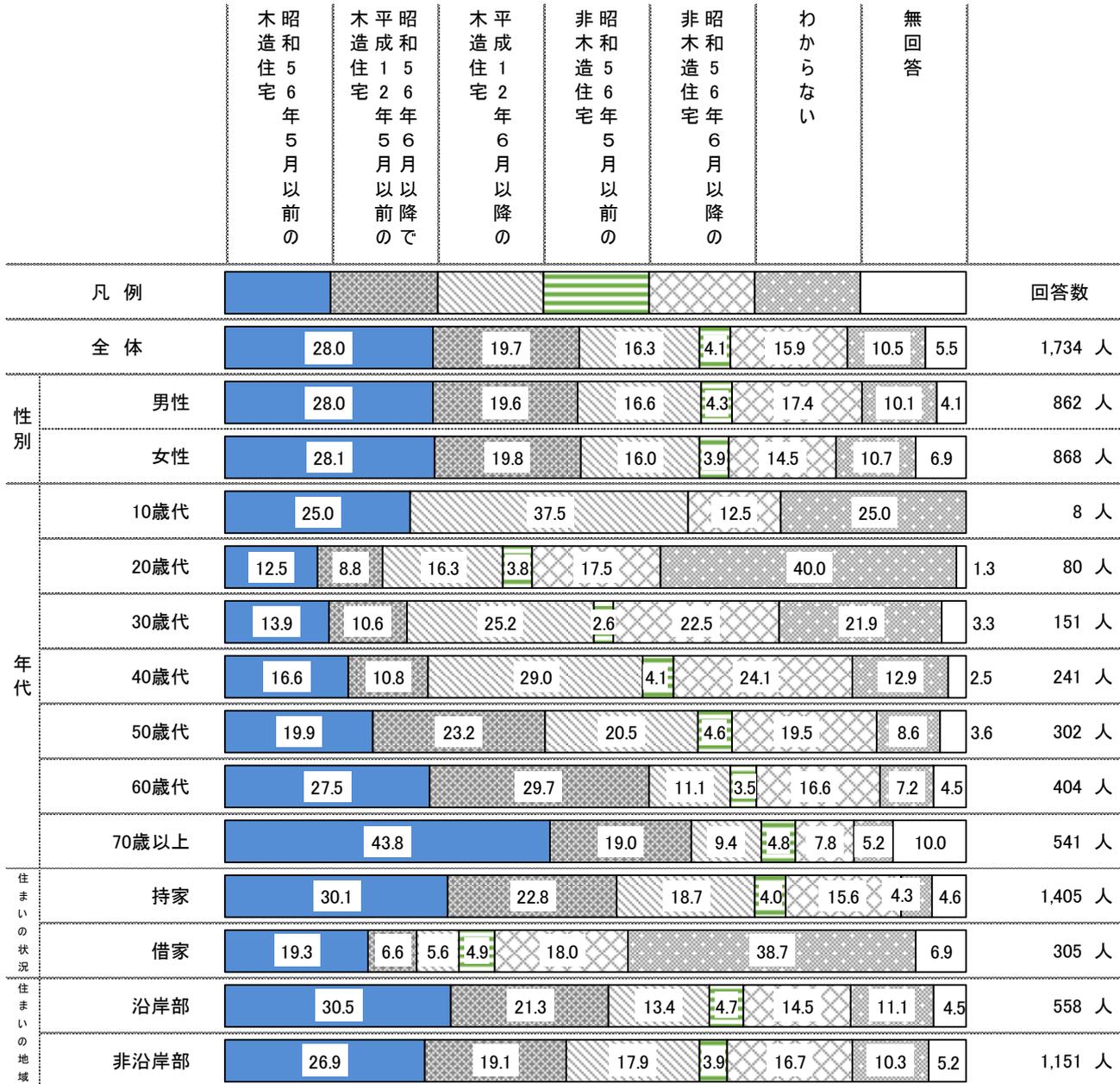
【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代、30歳代、40歳代では「平成12年6月以降の木造住宅」が最も高く、20歳代では「わからない」が、50歳代、60歳代では「昭和56年6月以降で平成12年5月以前の木造住宅」が、70歳以上では「昭和56年5月以前の木造住宅」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの状況別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(20) 専門家による耐震診断の受診

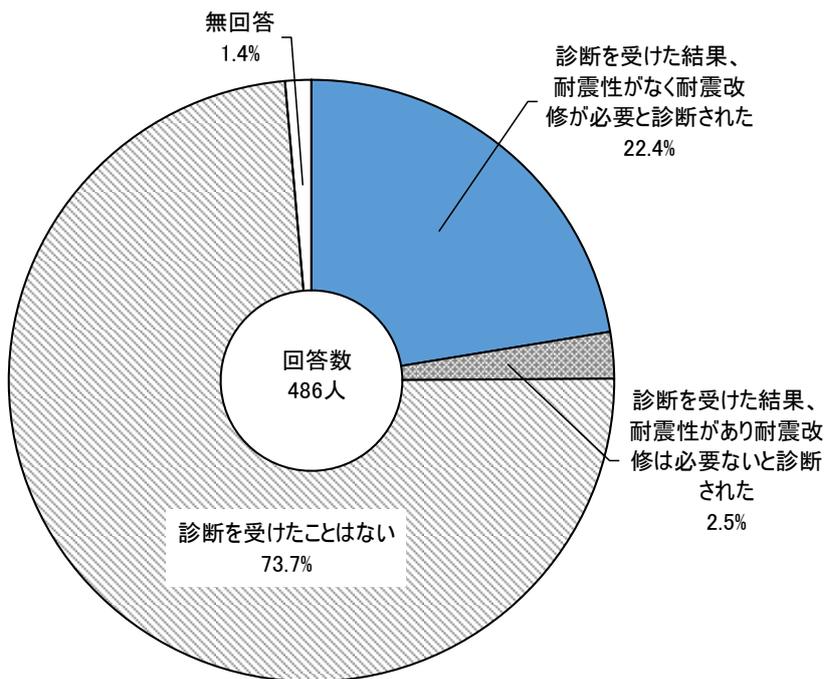
副問1(問 29 で「1」を選んだ方のみお答えください。)専門家による耐震診断(地震の揺れに対する建物の強さの診断)を受けたことがありますか、また、その結果はどうでしたか。(1つだけ○印)

【総合】

「診断を受けたことはない」が73.7%と1位になっている。

次いで、「診断を受けた結果、耐震性がなく耐震改修が必要と診断された」が22.4%、「診断を受けた結果、耐震性があり耐震改修は必要ないと診断された」が2.5%と続いている。

《総合》



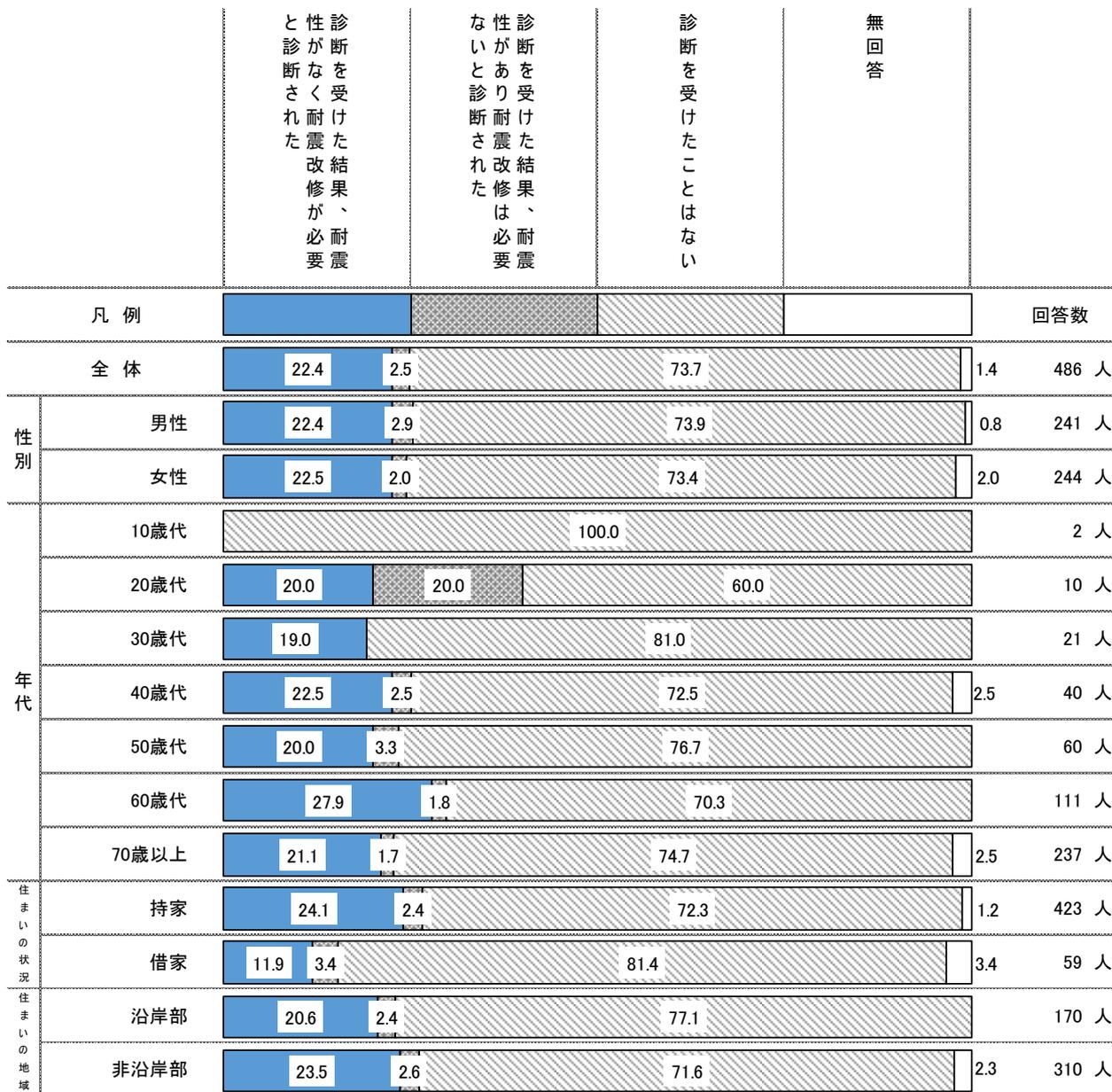
【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

すべての年代で「診断を受けたことはない」が半数を超えて最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの状況別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(21)耐震改修工事の実施

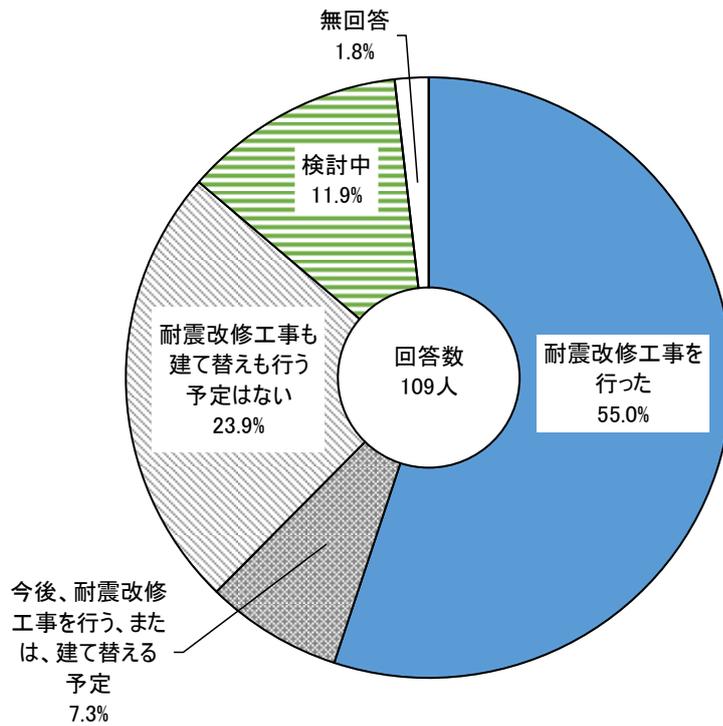
副問2(副問1で「1」を選んだ方のみお答えください。)耐震改修工事を行いましたか。また、建て替えなどを予定していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「耐震改修工事を行った」が55.0%と1位になっている。

次いで、「耐震改修工事も建て替えも行う予定はない」が23.9%、「検討中」が11.9%と続いている。

《総合》



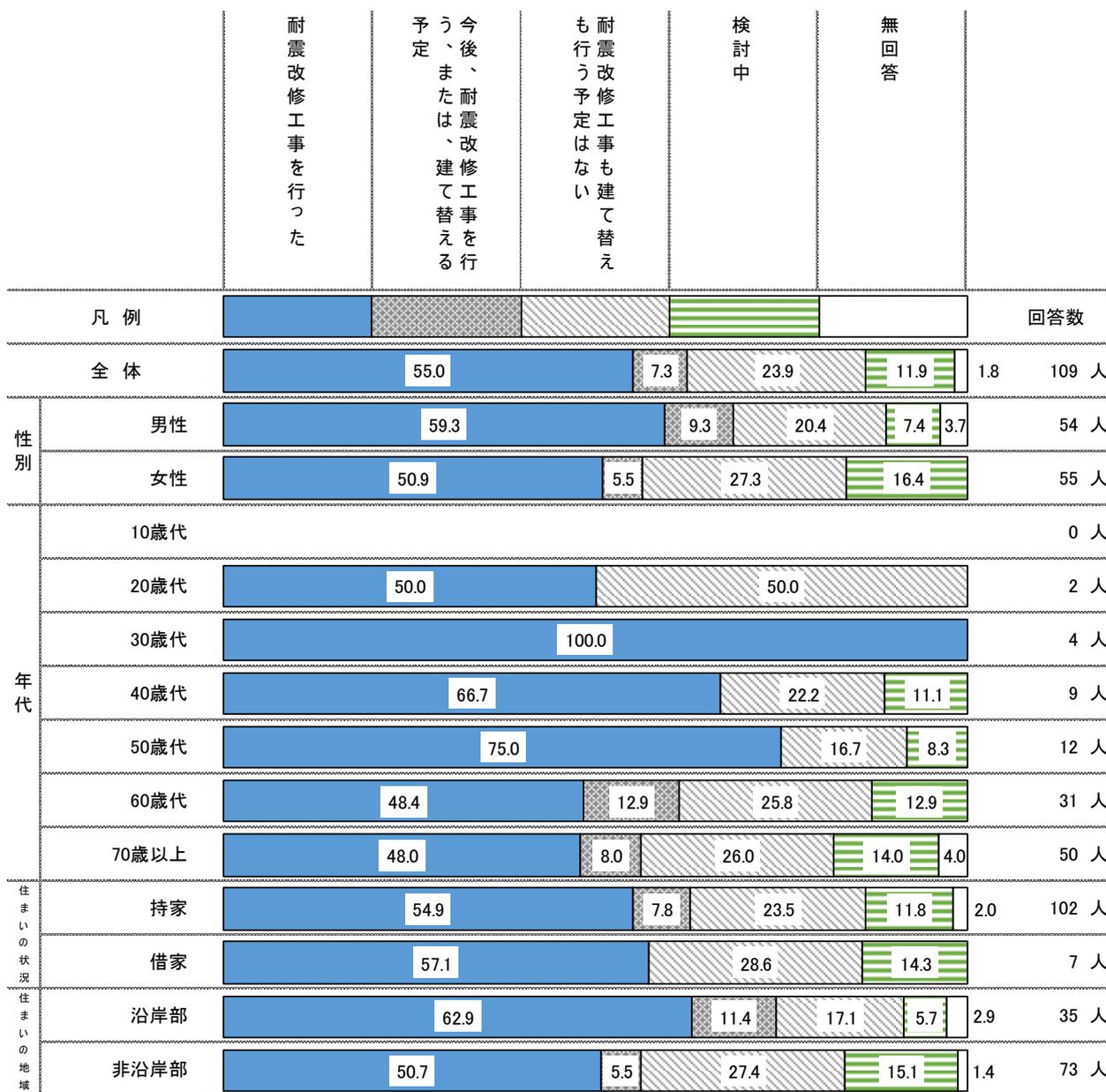
【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「耐震改修工事を行った」が最も高く、20歳代では同率で「耐震改修工事も建て替えも行う予定はない」と「耐震改修工事を行った」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの状況別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

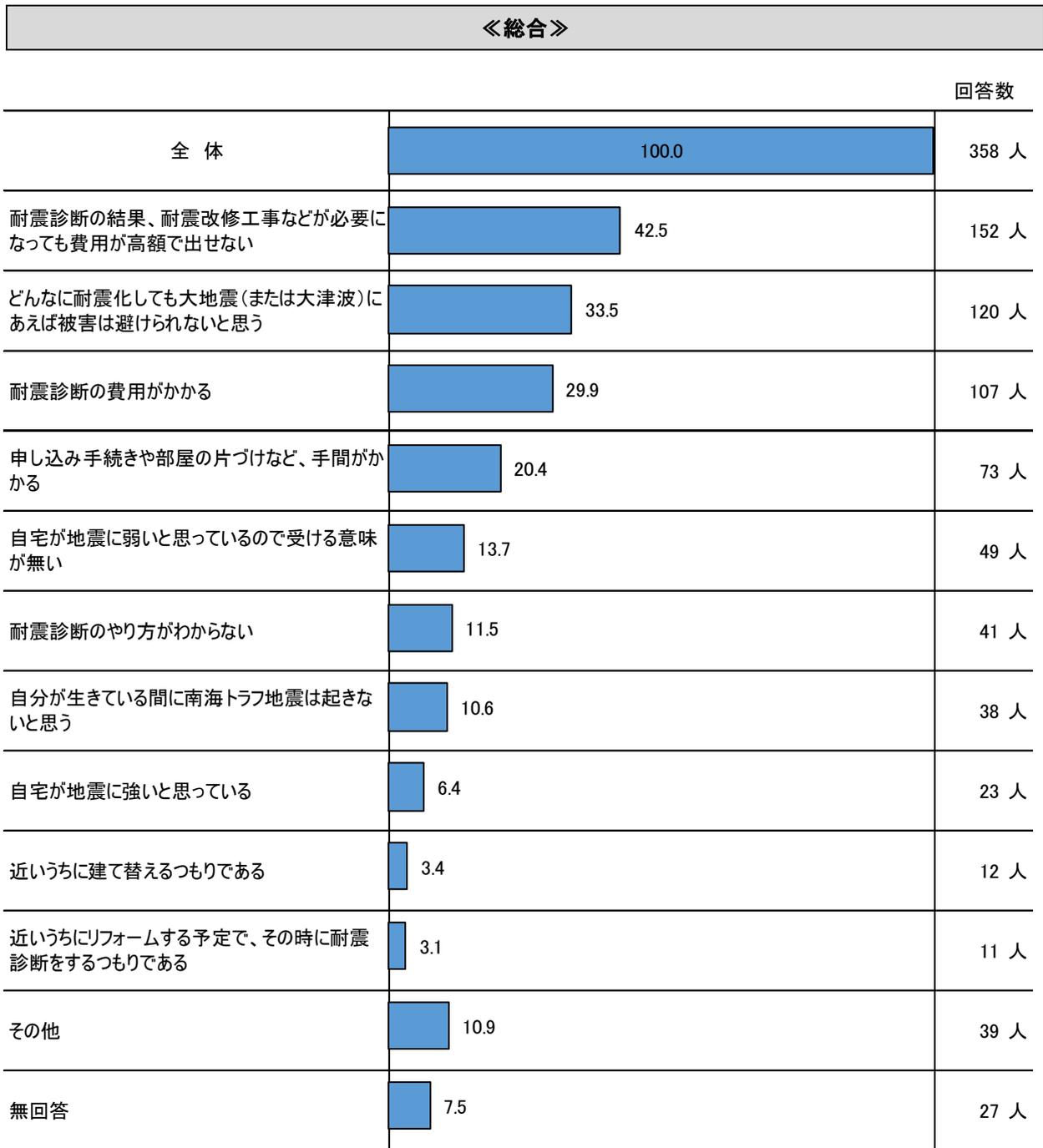
(22)耐震診断を実施していない理由

副問3(副問1で「3」を選んだ方のみお答えください。)耐震診断を受けていないのは、どのような理由からですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない」が42.5%と1位になっている。

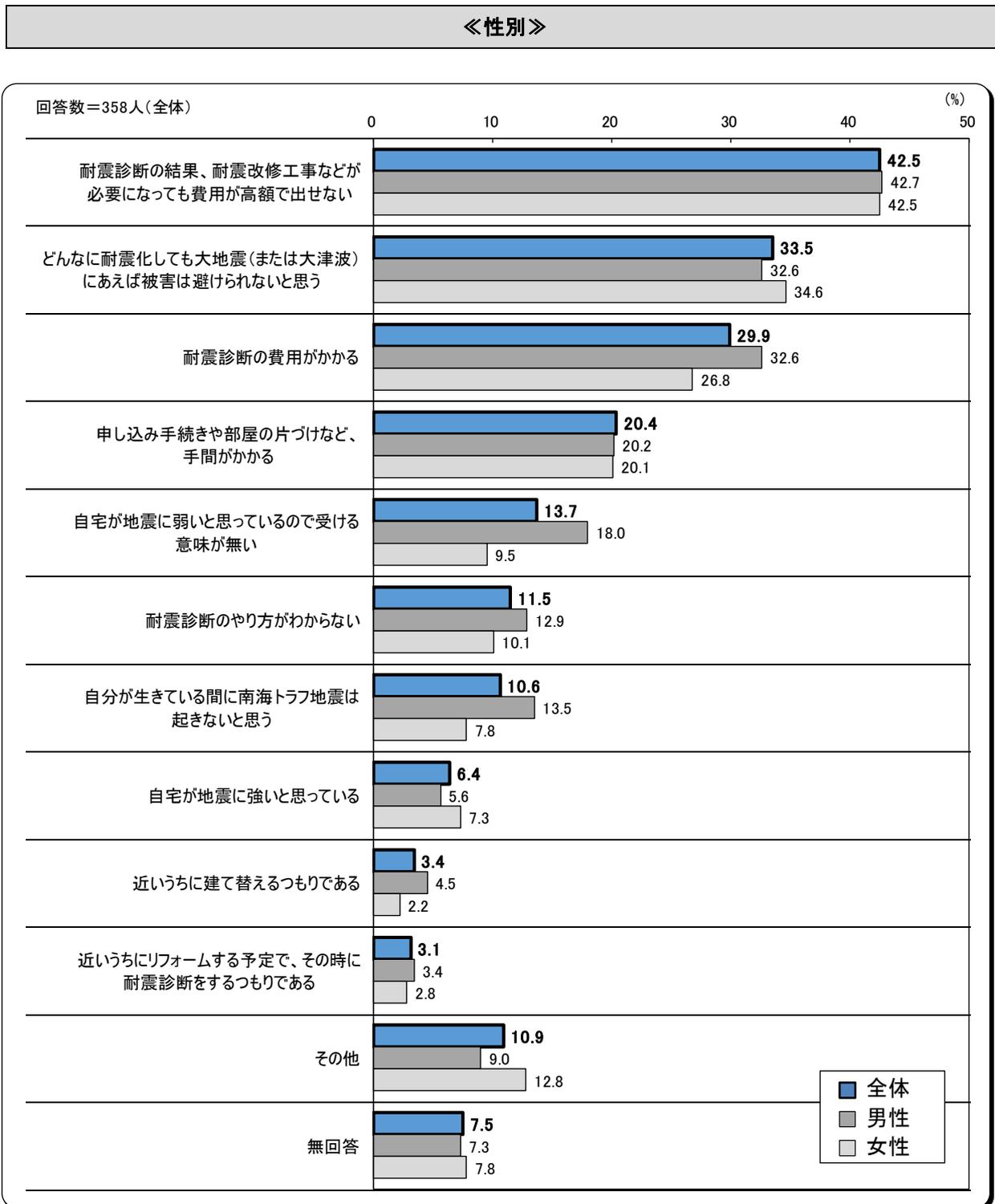
次いで、「どんなに耐震化しても大地震(または大津波)にあえば被害は避けられないと思う」が33.5%、「耐震診断の費用がかかる」が29.9%と続いている。



グラフ単位：(%)

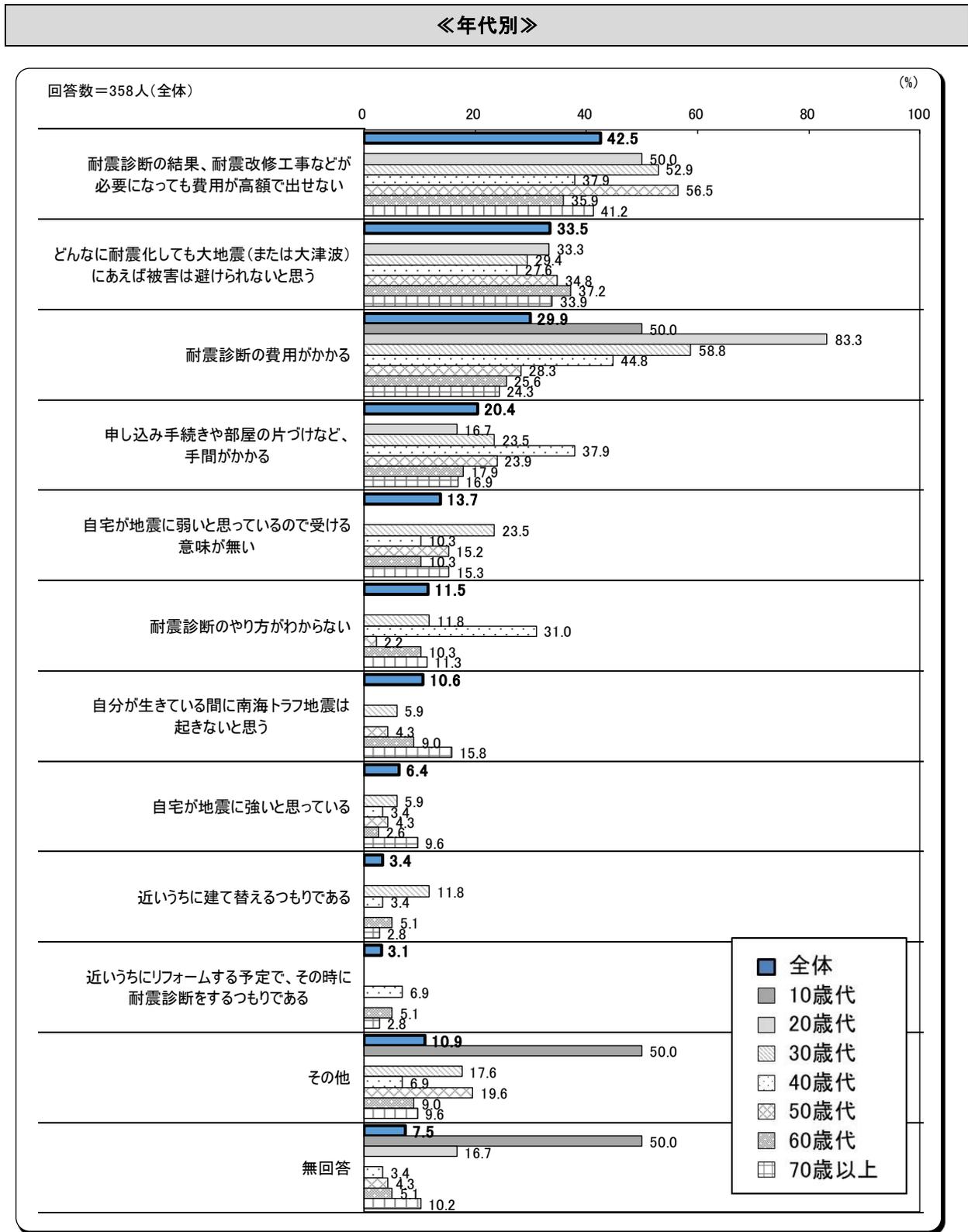
【性別】

男女ともに「耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない」が最も高く、次いで、男性では同率で「どんなに耐震化しても大地震（または大津波）にあえば被害は避けられないと思う」と「耐震診断の費用がかかる」が、女性では「どんなに耐震化しても大地震（または大津波）にあえば被害は避けられないと思う」が続いている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代では「耐震診断の費用がかかる」が最も高く、50歳代、70歳以上では「耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない」が、60歳代では「どんなに耐震化しても大地震（または大津波）にあえば被害は避けられないと思う」が最も高くなっている。



(23)耐震改修工事をしていない理由

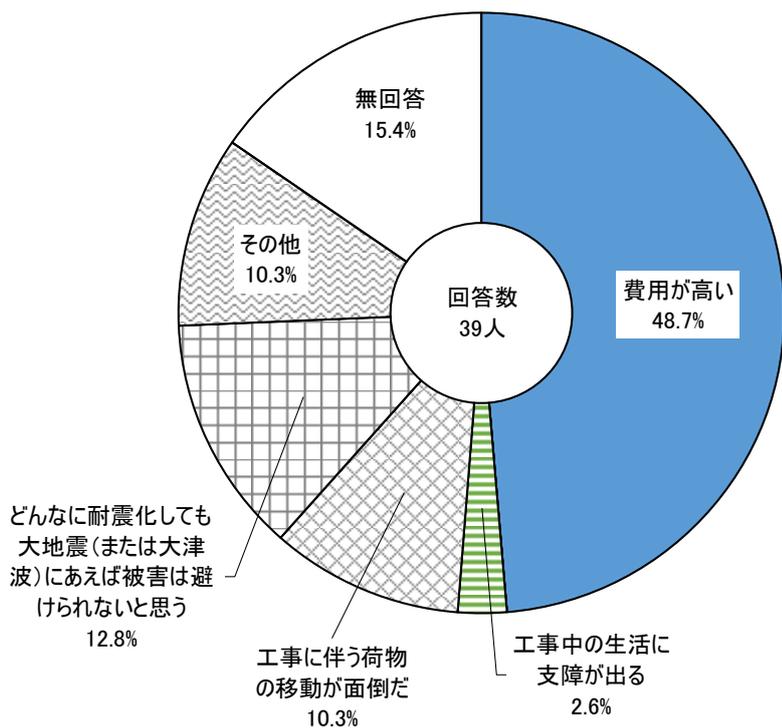
副問4(副問2で「3」もしくは「4」を選んだ方のみお答えください。)耐震改修工事などをしていないのは、どのような理由からですか。(1つだけ○印)

【総合】

「費用が高い」が48.7%と1位になっている。

次いで、「どんなに耐震化しても大地震(または大津波)にあえば被害は避けられないと思う」が12.8%、「工事に伴う荷物の移動が面倒だ」が10.3%と続いている。

《総合》



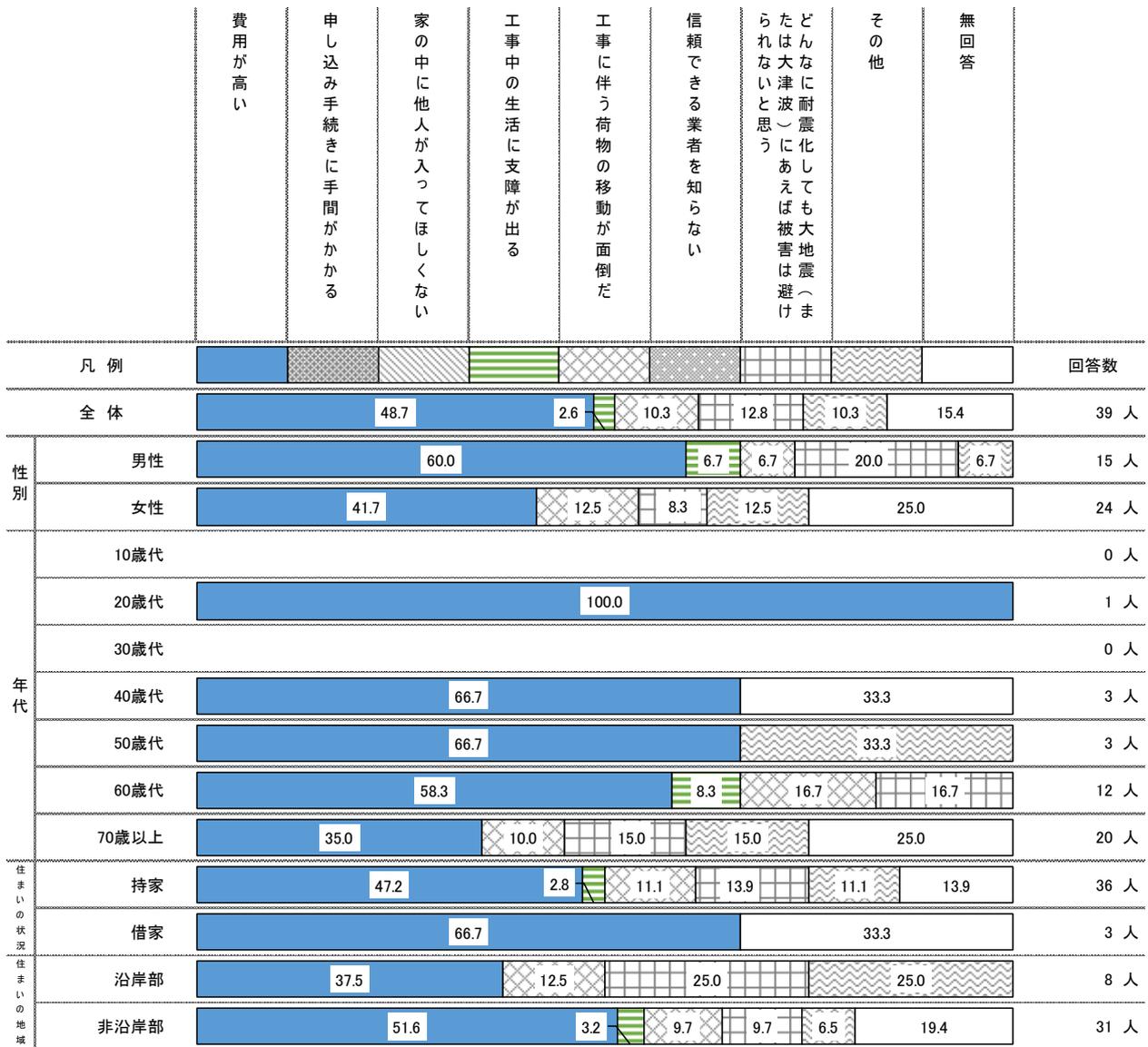
【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

20歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「費用が高い」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの状況別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

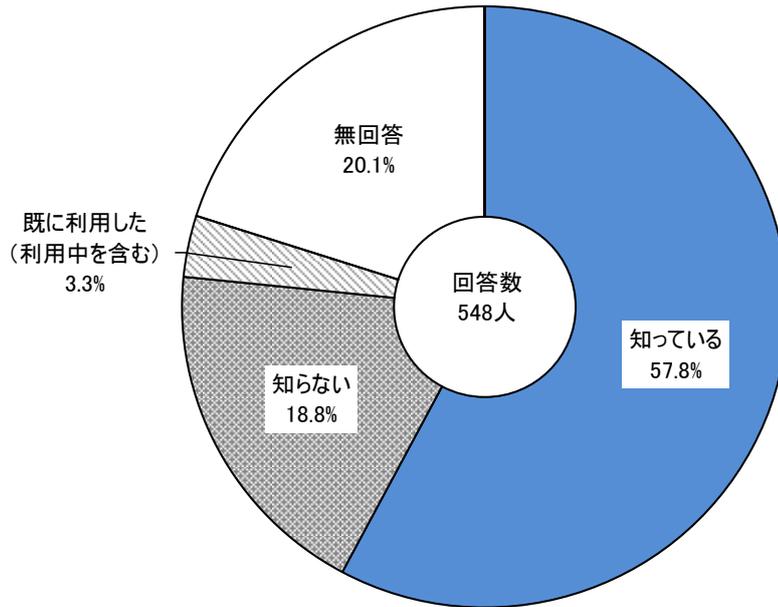
(24)耐震改修工事等の補助制度の認知度

副問5(各問から副問5へ誘導された方のみお答えください。)県や市町村が昭和56年5月31日以前に建築された住宅の耐震診断や耐震設計、耐震改修工事にかかった費用の一部を補助していますが、ご存じですか。(1つだけ○印)

【総合】

「知っている」と「既に利用した(利用中を含む)」を合わせると61.1%が制度を知っている。次いで、「知らない」が18.8%、「既に利用した(利用中を含む)」が3.3%と続いている。

《総合》



【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「知っている」が最も高く、10歳代では「知らない」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの状況別・住まいの地域別》

		知っている	知らない	（既に利用したを含む）	無回答	回答数
凡例						
全体		57.8	18.8	3.3	20.1	548人
性別	男性	56.2	19.0	4.4	20.4	274人
	女性	59.7	18.3	2.2	19.8	273人
年代	10歳代		100.0			2人
	20歳代	38.5	30.8	7.7	23.1	13人
	30歳代	48.0	24.0	8.0	20.0	25人
	40歳代	55.1	24.5	2.0	18.4	49人
	50歳代	66.2	17.6	1.4	14.9	74人
	60歳代	63.2	12.0	4.8	20.0	125人
	70歳以上	56.5	18.8	2.7	22.0	255人
住まいの状況	持家	60.8	18.2	3.6	17.4	472人
	借家	36.1	23.6	1.4	38.9	72人
住まいの地域	沿岸部	56.4	20.5	2.1	21.0	195人
	非沿岸部	58.2	18.2	4.0	19.6	347人

グラフ単位：(%)

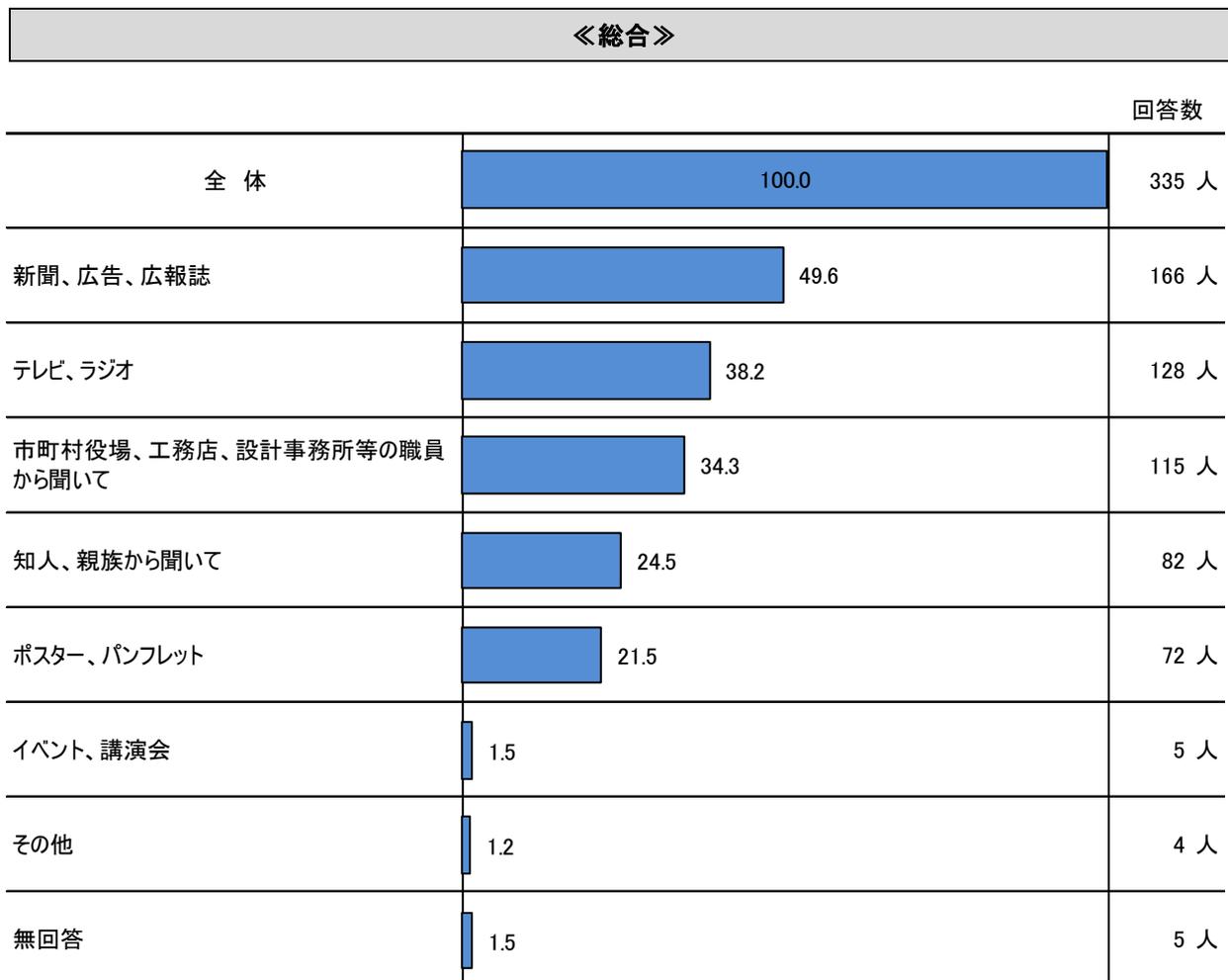
(25)耐震改修工事等の補助制度を知ったきっかけ

副問6(副問5で「1」もしくは「3」を選んだ方のみお答えください。)どのようにしてこの補助制度を知りましたか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「新聞、広告、広報誌」が49.6%と1位になっている。

次いで、「テレビ、ラジオ」が38.2%、「市町村役場、工務店、設計事務所等の職員から聞いて」が34.3%と続いている。

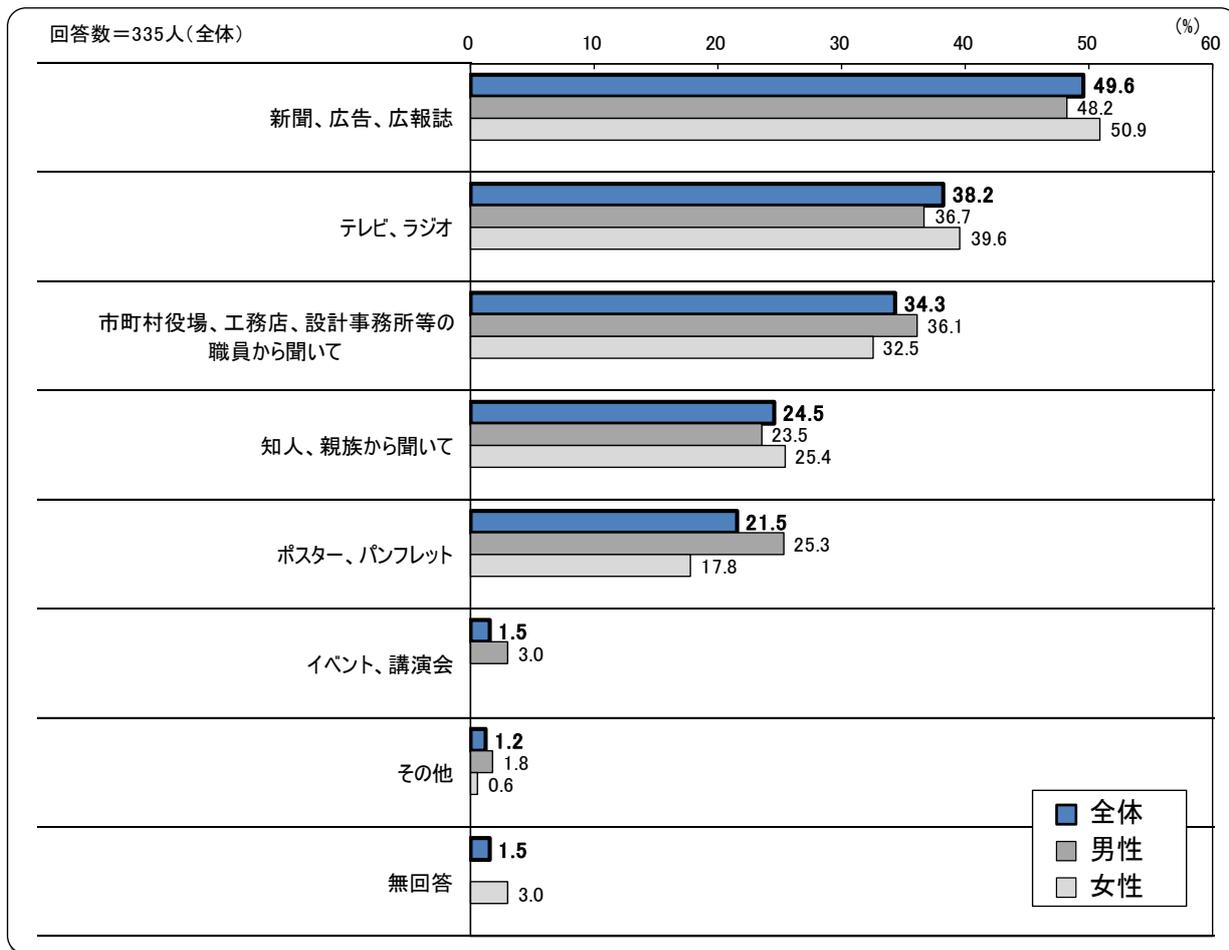


グラフ単位：(%)

【性別】

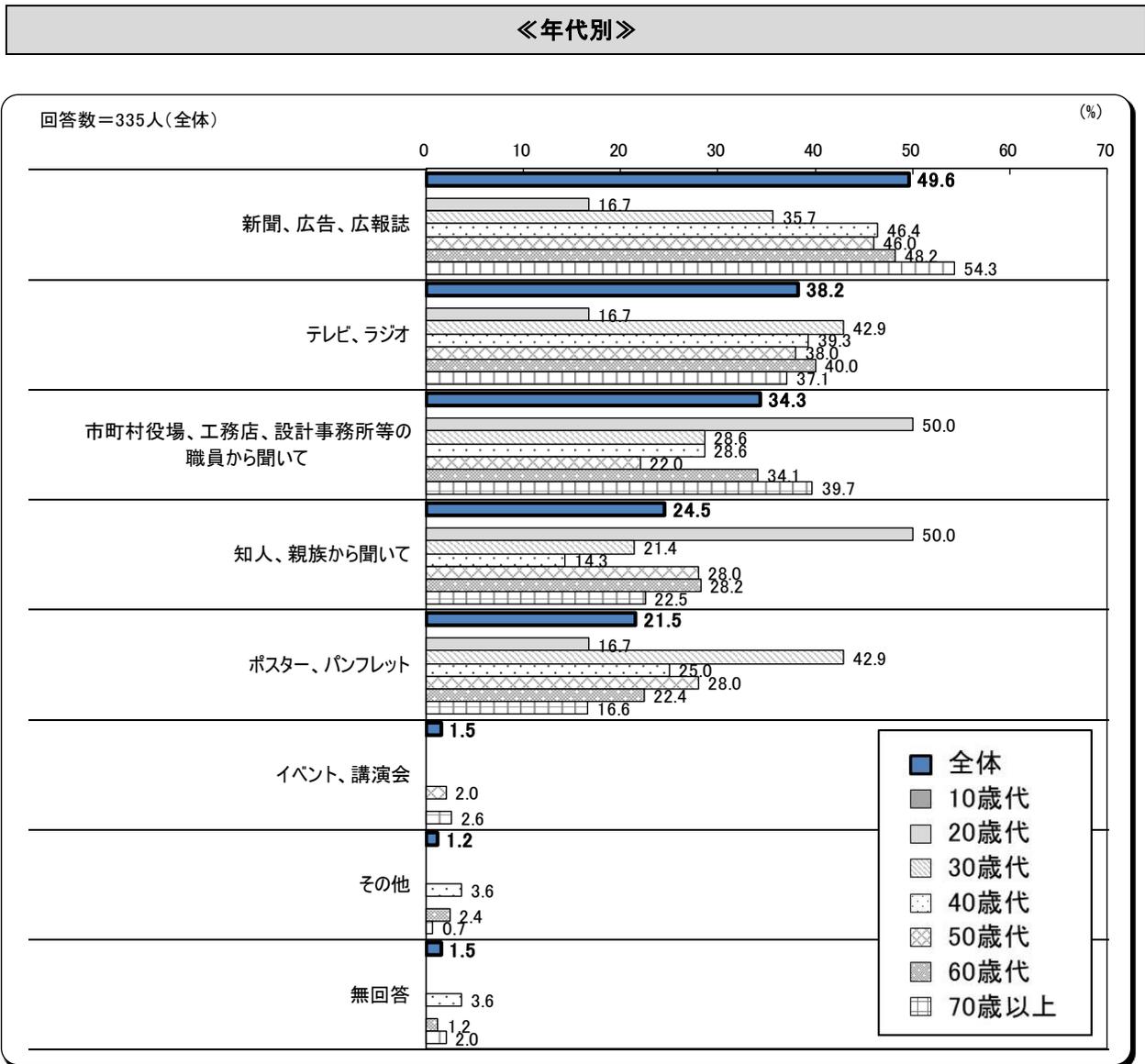
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

◀性別▶



【年代別】

20歳代では同率で「市町村役場、工務店、設計事務所等の職員から聞いて」と「知人、親族から聞いて」が、30歳代では同率で「テレビ、ラジオ」、「ポスター、パンフレット」が、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「新聞、広告、広報誌」が最も高くなっている。



(26)耐震改修工事等にかかる費用の負担限度額

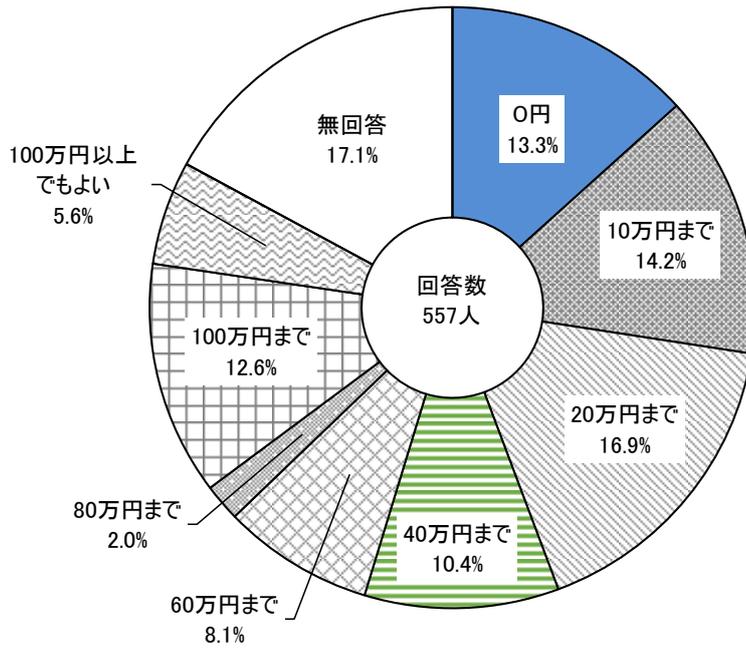
問30 耐震改修工事と耐震改修設計について、自己負担が合わせてどのくらいの金額までなら工事をしてもらいたいと思いますか。(1つだけ○印)

【総合】

「20万円まで」が16.9%と1位になっている。

次いで、「10万円まで」が14.2%、「0円」が13.3%と続いている。

《総合》



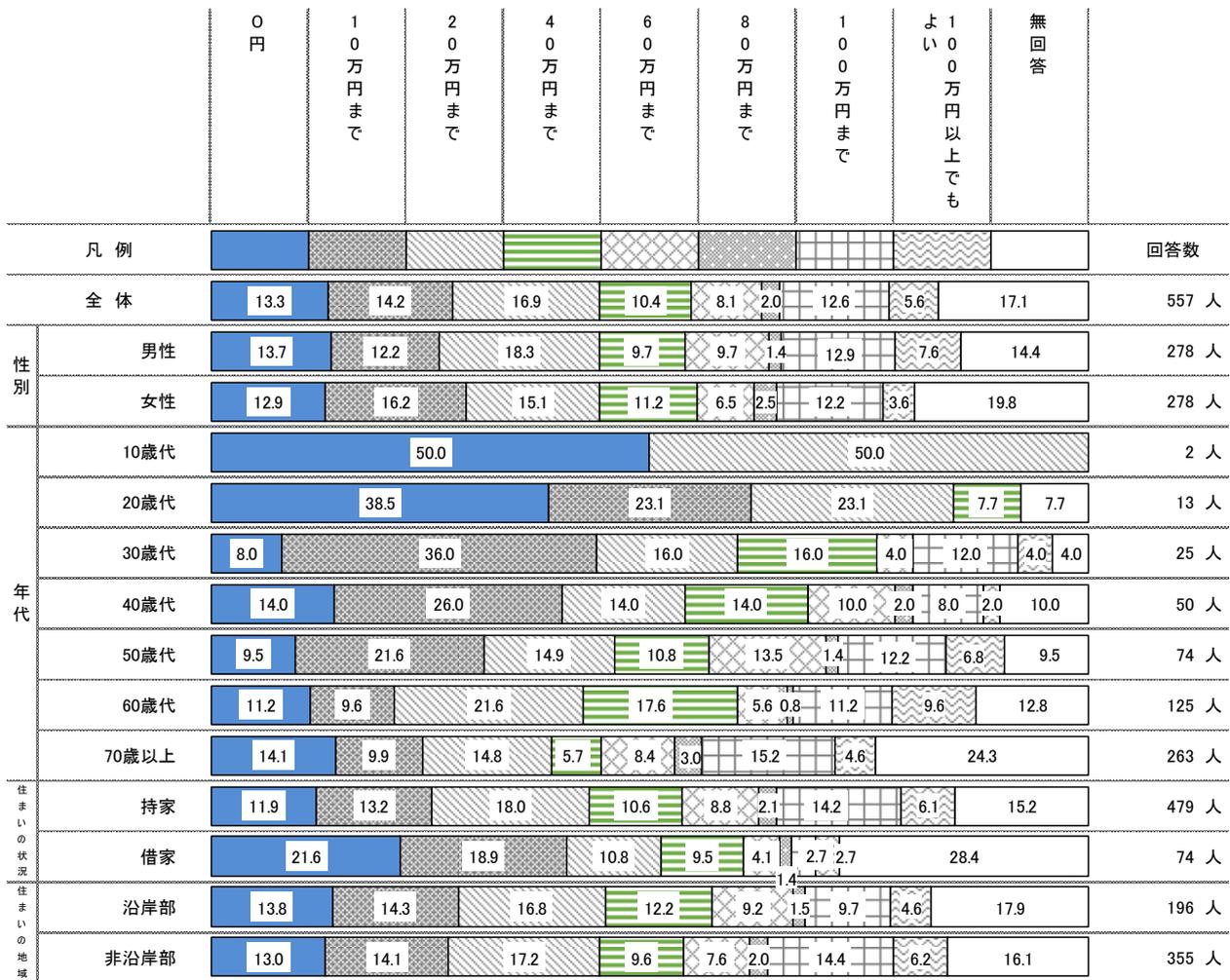
【性別】

男性では「20万円まで」が最も高く、次いで、「0円」、「100万円まで」が続き、女性では「10万円まで」が最も高く、次いで、「20万円まで」、「0円」と続いている。

【年代別】

10歳代では同率で「0円」と「20万円まで」が最も高く、20歳代では「0円」が、30歳代、40歳代、50歳代では「10万円まで」が、60歳代では「20万円まで」が、70歳以上では「100万円まで」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの状況別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(27) 自宅の塀の改修工事にかかる費用の負担限度額

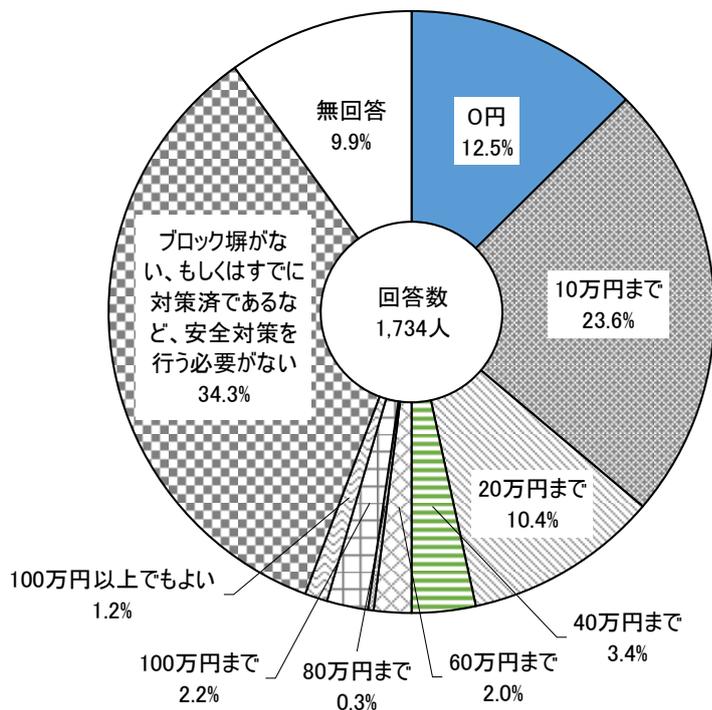
問 31 県や市町村では、危険なコンクリートブロック塀の改修工事など、安全対策にかかる費用の一部を補助していますが、自宅の塀について、自己負担がどのくらいの金額なら安全対策をしてもよいと思いますか。
(1つだけ○印)

【総合】

「ブロック塀がない、もしくはすでに対策済であるなど、安全対策を行う必要がない」が34.3%と1位になっている。

次いで、「10万円まで」が23.6%、「0円」が12.5%と続いている。

《総合》



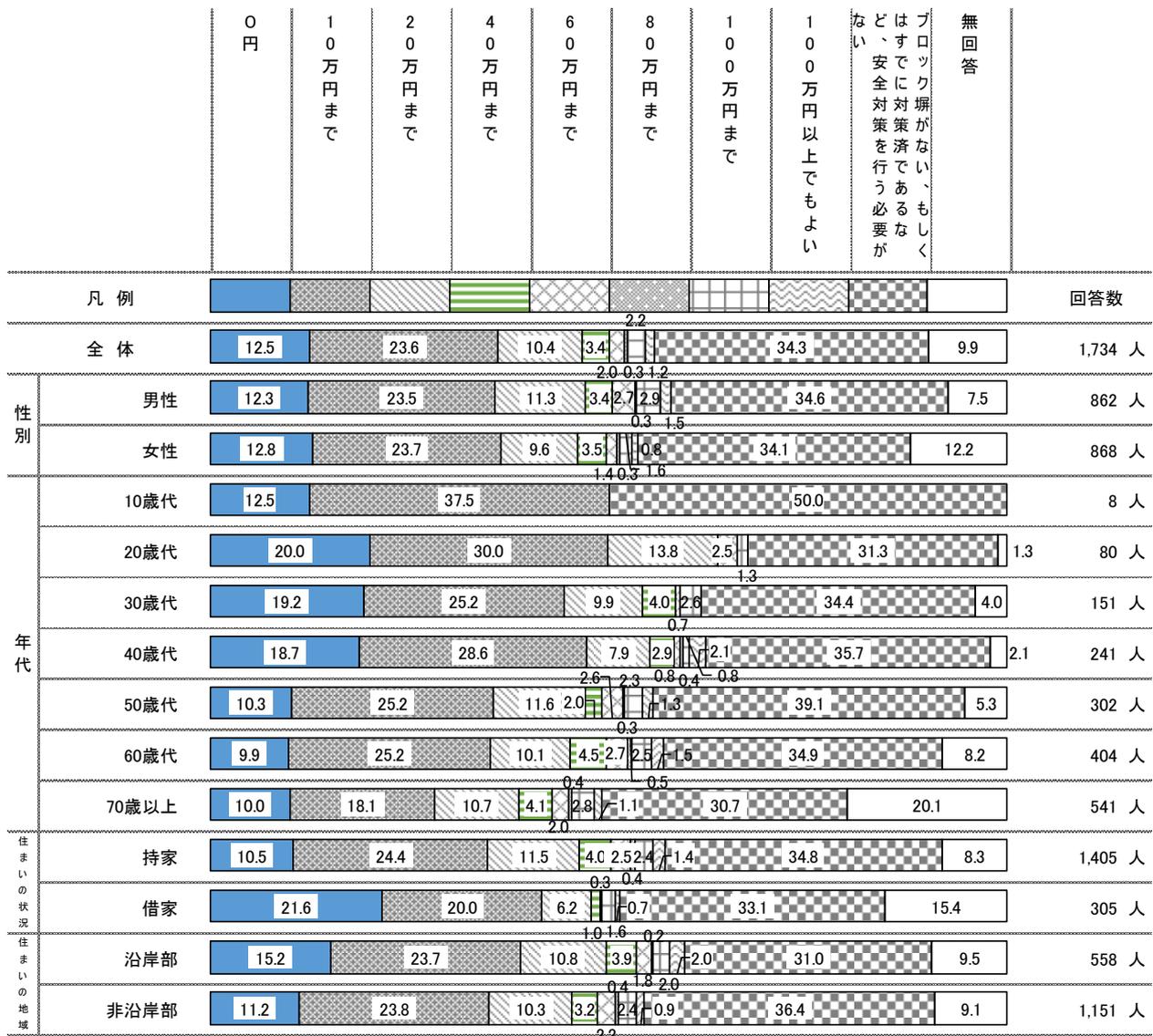
【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

すべての年代で「ブロック塀がない、もしくはすでに対策済であるなど、安全対策を行う必要がない」が最も高くなっている。

《性別・年代別・住まいの状況別・住まいの地域別》



グラフ単位：(%)

(28) 県が市町村等と協力して特に力を入れるべき施策

問 32 今後、県が市町村等と協力して行う施策として、特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」が 37.0%と 1 位になっている。

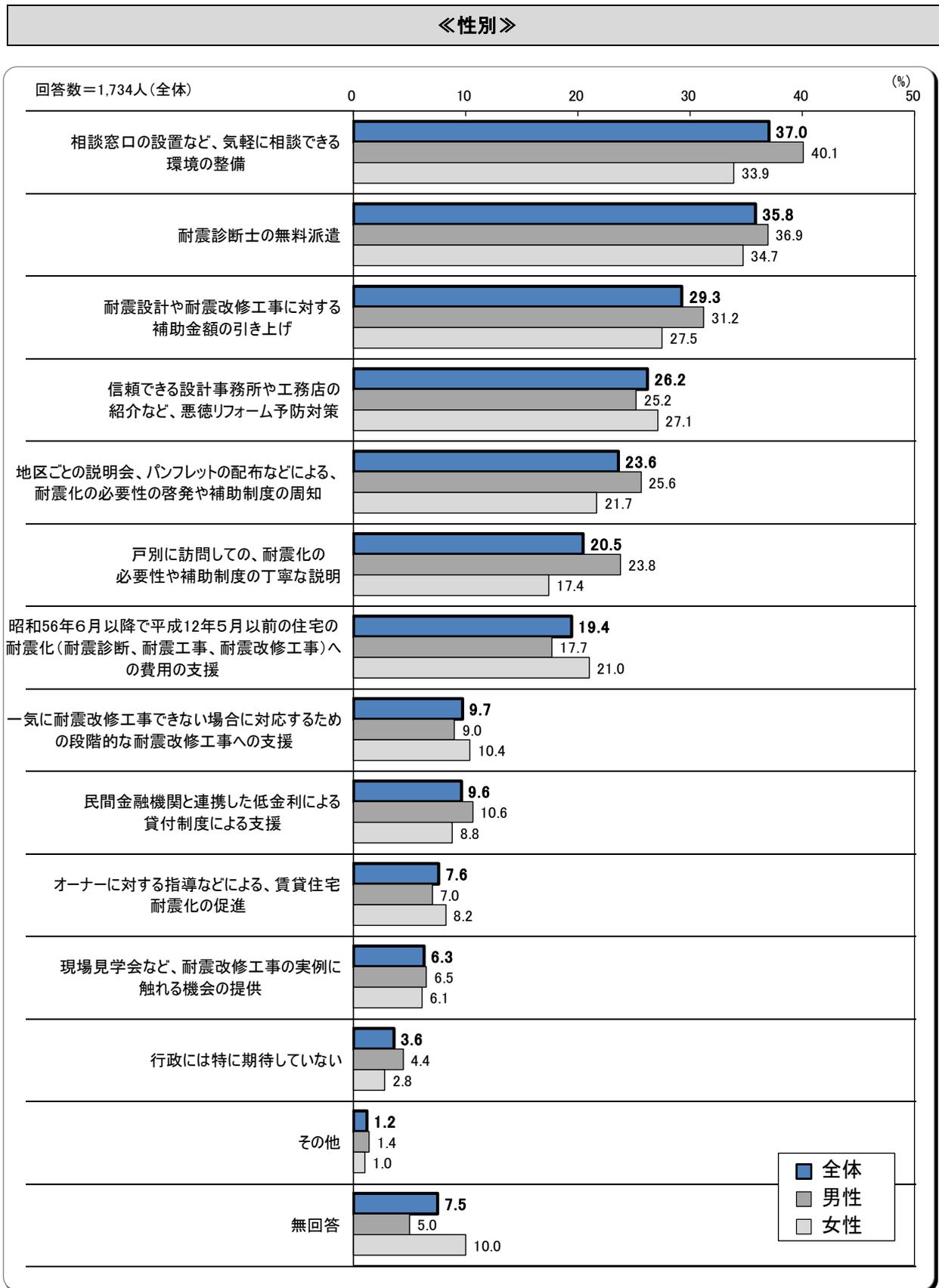
次いで、「耐震診断士の無料派遣」が 35.8%、「耐震設計や耐震改修工事に対する補助金額の引き上げ」が 29.3%と続いている。

《総合》		回答数
全 体	100.0	1,734 人
相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備	37.0	642 人
耐震診断士の無料派遣	35.8	620 人
耐震設計や耐震改修工事に対する補助金額の引き上げ	29.3	508 人
信頼できる設計事務所や工務店の紹介など、悪徳リフォーム予防対策	26.2	454 人
地区ごとの説明会、パンフレットの配布などによる、耐震化の必要性の啓発や補助制度の周知	23.6	410 人
戸別に訪問しての、耐震化の必要性や補助制度の丁寧な説明	20.5	356 人
昭和56年6月以降で平成12年5月以前の住宅の耐震化(耐震診断、耐震工事、耐震改修工事)への費用の支援	19.4	336 人
一気に耐震改修工事できない場合に対応するための段階的な耐震改修工事への支援	9.7	169 人
民間金融機関と連携した低金利による貸付制度による支援	9.6	167 人
オーナーに対する指導などによる、賃貸住宅の耐震化の促進	7.6	131 人
現場見学会など、耐震改修工事の実例に触れる機会の提供	6.3	110 人
行政には特に期待していない	3.6	63 人
その他	1.2	21 人
無回答	7.5	130 人

グラフ単位：(%)

【性別】

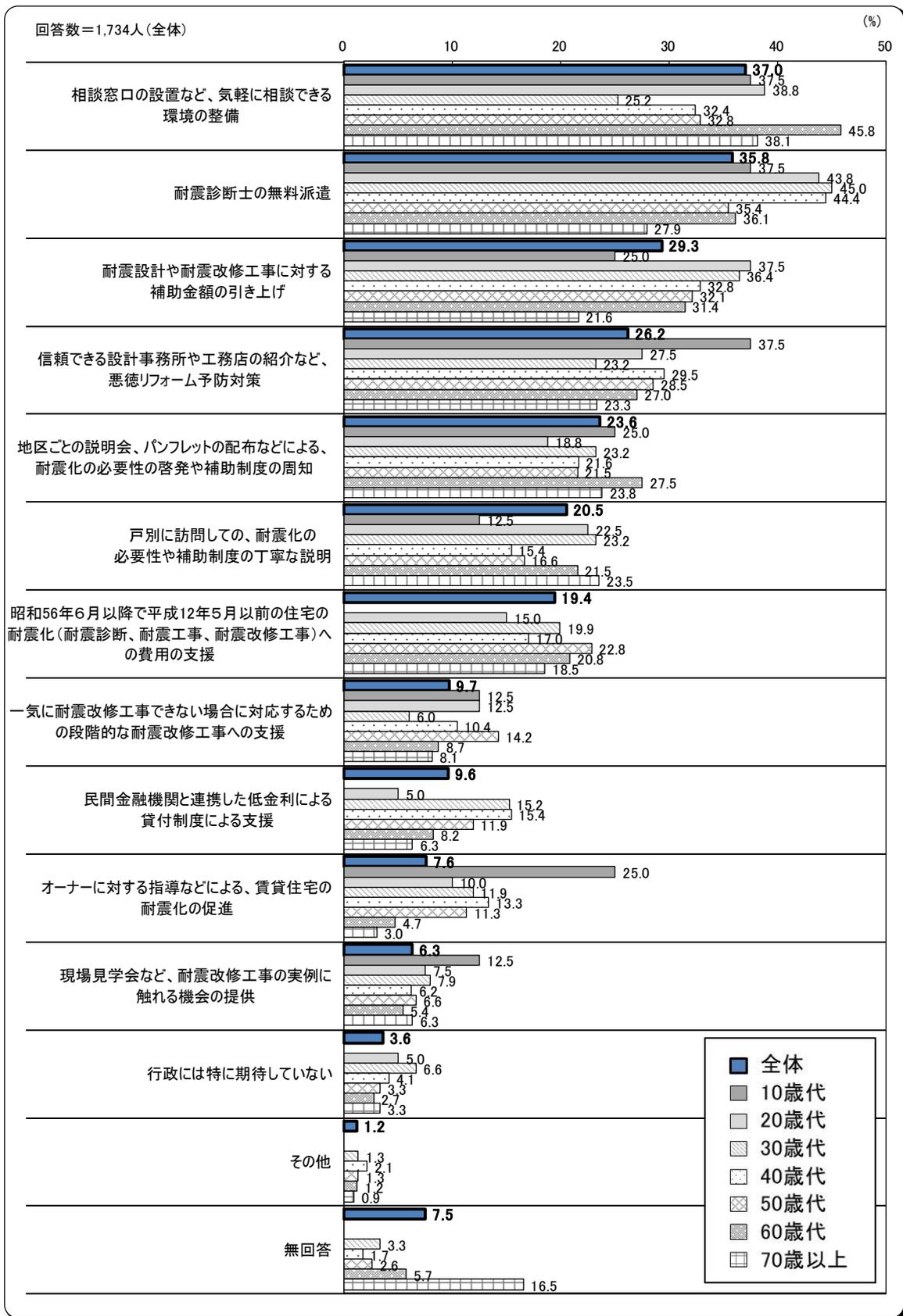
男性では「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」が最も高く、次いで、「耐震診断士の無料派遣」、女性では「耐震診断士の無料派遣」が最も高く、「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」、「耐震設計や耐震改修工事に対する補助金額の引き上げ」と続いている。



【年代別】

10歳代では同率で「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」と「耐震診断士の無料派遣」と「信頼できる設計事務所や工務店の紹介など、悪徳リフォーム予防対策」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「耐震診断士の無料派遣」が、60歳代、70歳以上では「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」が最も高くなっている。

《年代別》



4. 県民の健康づくりについて

(1) 緑黄色野菜を使った料理の食事頻度

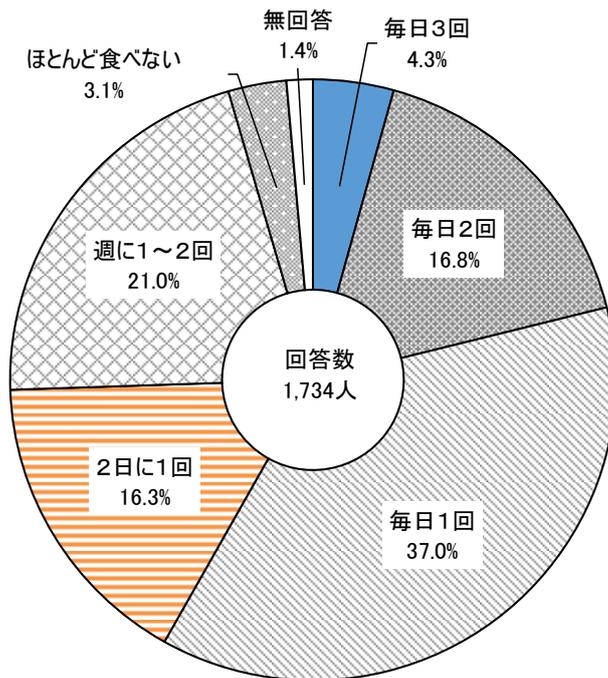
問 33 緑黄色野菜(人参、ほうれん草、ピーマン、トマト、かぼちゃ、ブロッコリー、にら、おくらなど)を使った料理をどのくらい食べますか。(1つだけ○印)

【総合】

「毎日1回」が37.0%と1位になっている。

次いで、「週に1～2回」が21.0%、「毎日2回」が16.8%と続いている。

《総合》



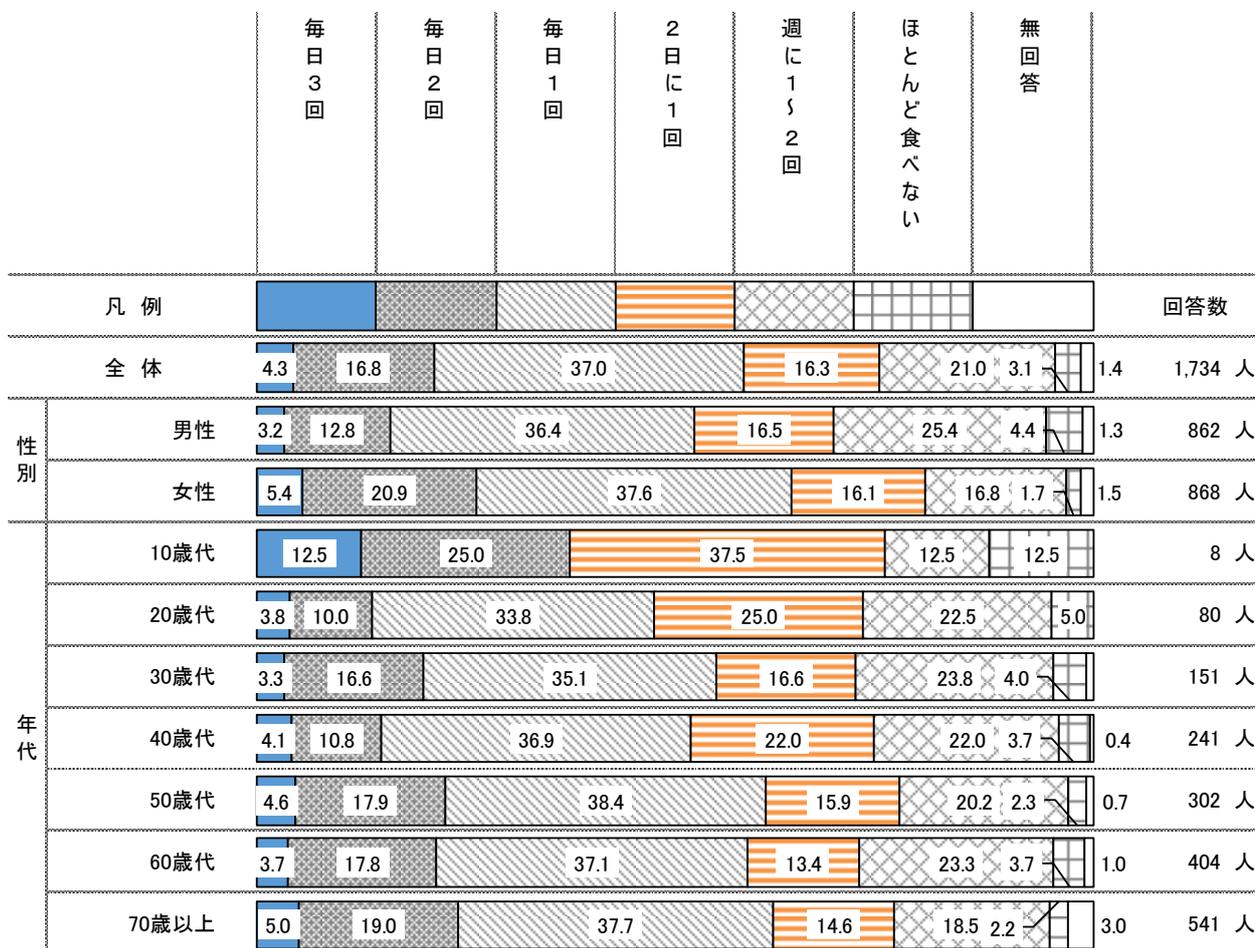
【性別】

男女ともに「毎日1回」が最も高く、次いで、男性は「週に1～2回」、「2日に1回」が続き、女性では「毎日2回」、「週に1～2回」と続いている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「毎日1回」が最も高く、10歳代は「2日に1回」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位：(%)

(2)その他の野菜を使った料理の食事頻度

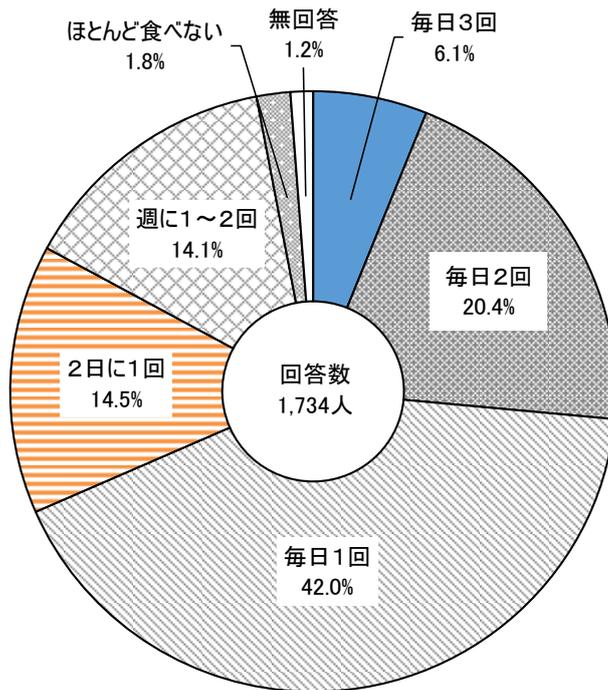
問 34 その他の野菜(野菜類のうち緑黄色野菜以外(なす、きゅうり、レタス、キャベツ、白菜、もやし、ごぼう、大根、たまねぎなど))を使った料理をどのくらい食べますか。(1つだけ○印)

【総合】

「毎日1回」が42.0%と1位になっている。

次いで、「毎日2回」が20.4%、「2日に1回」が14.5%と続いている。

《総合》

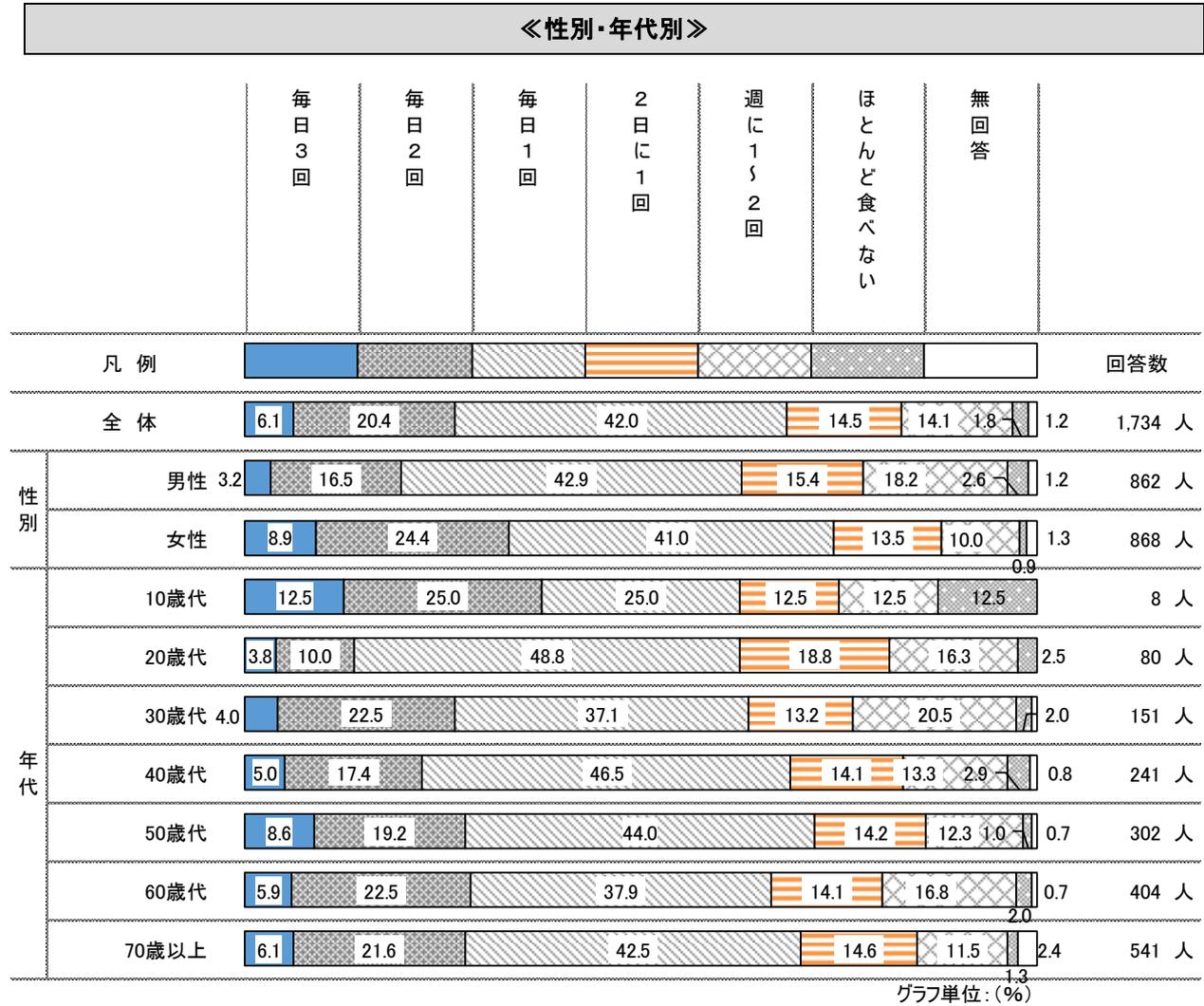


【性別】

男女ともに「毎日1回」が最も高く、男性では「週に1～2回」、「毎日2回」、女性では「毎日2回」、「2日に1回」と続いている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「毎日1回」が最も高く、10歳代ではこれと同率で「毎日2回」が最も高くなっている。



(3)30分以上の運動を週2日以上、1年以上実施しているか

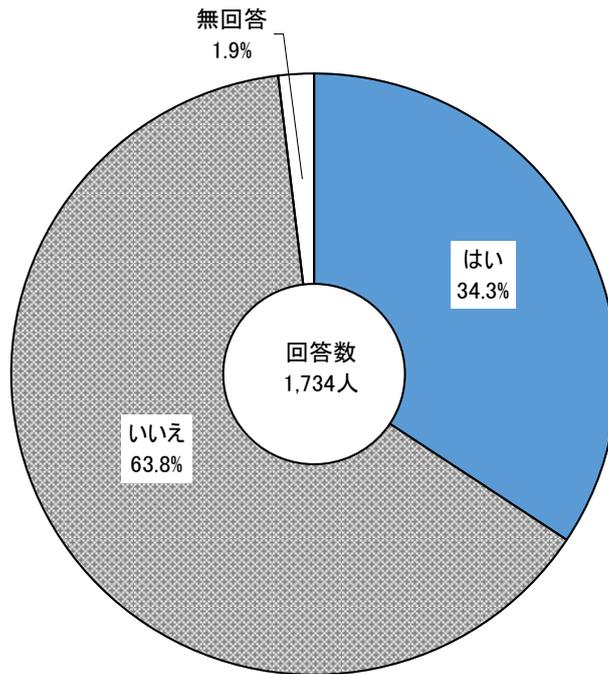
問 35 1回 30 分以上の軽く汗をかく(少し息の切れる)運動を週2日以上、1年以上実施していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「はい」が34.3%、「いいえ」が63.8%となっている。

次いで、「はい」が34.3%と続いている。

《総合》

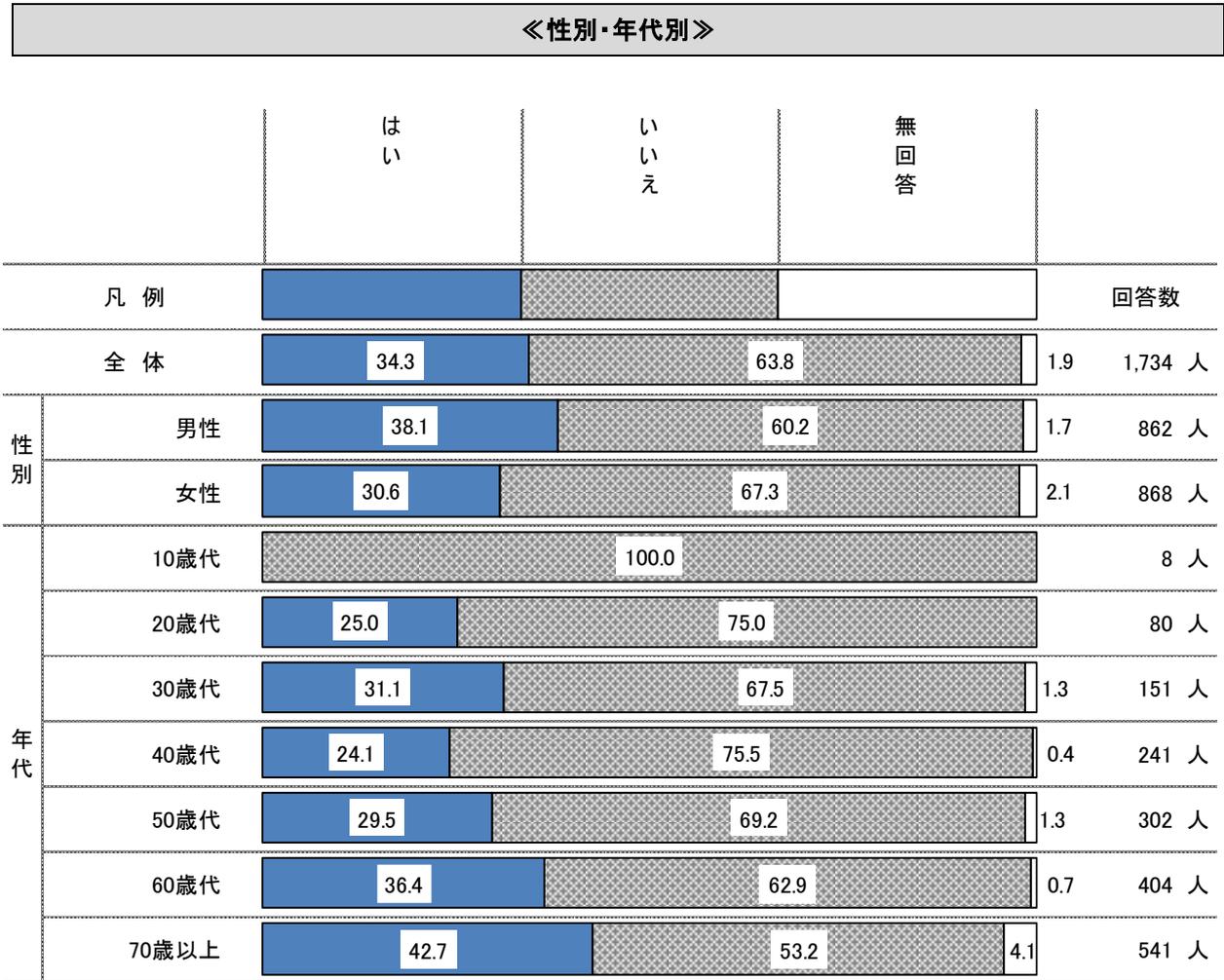


【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

すべての年代で「いいえ」が半数を超えて高くなっている。



グラフ単位: (%)

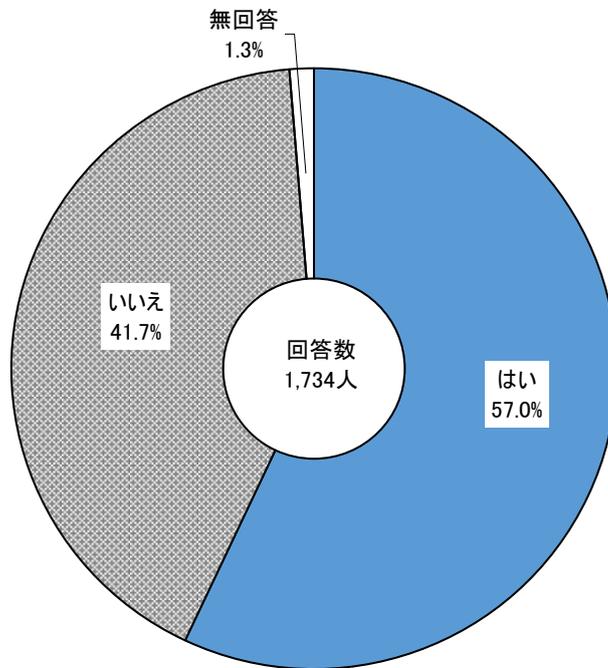
(4) 歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施しているか

問 36 日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「はい」が57.0%、「いいえ」が41.7%となっている。

《総合》

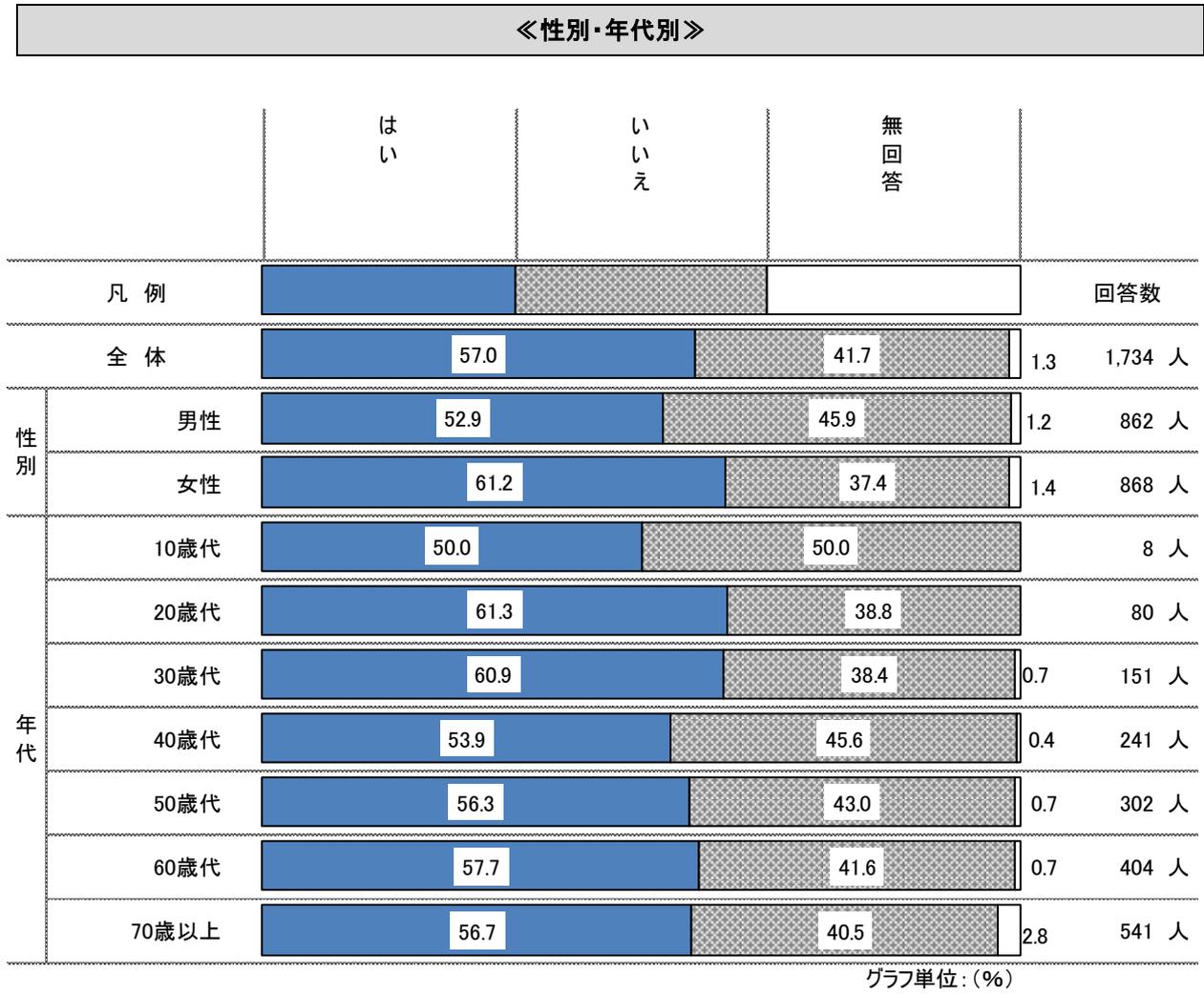


【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「はい」が半数を超えて高く、10歳代では「はい」と「いいえ」が同率となっている。



(5)お酒を飲む頻度

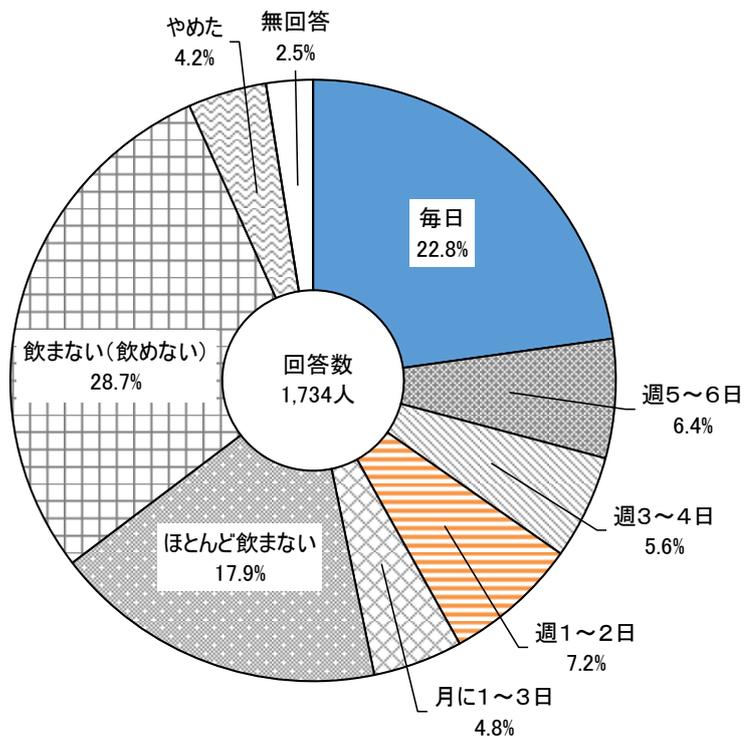
問 37 週に何日位お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲みますか。(1つだけ○印)

【総合】

「飲まない(飲めない)」が28.7%と1位になっている。

次いで、「毎日」が22.8%、「ほとんど飲まない」が17.9%と続いている。

《総合》

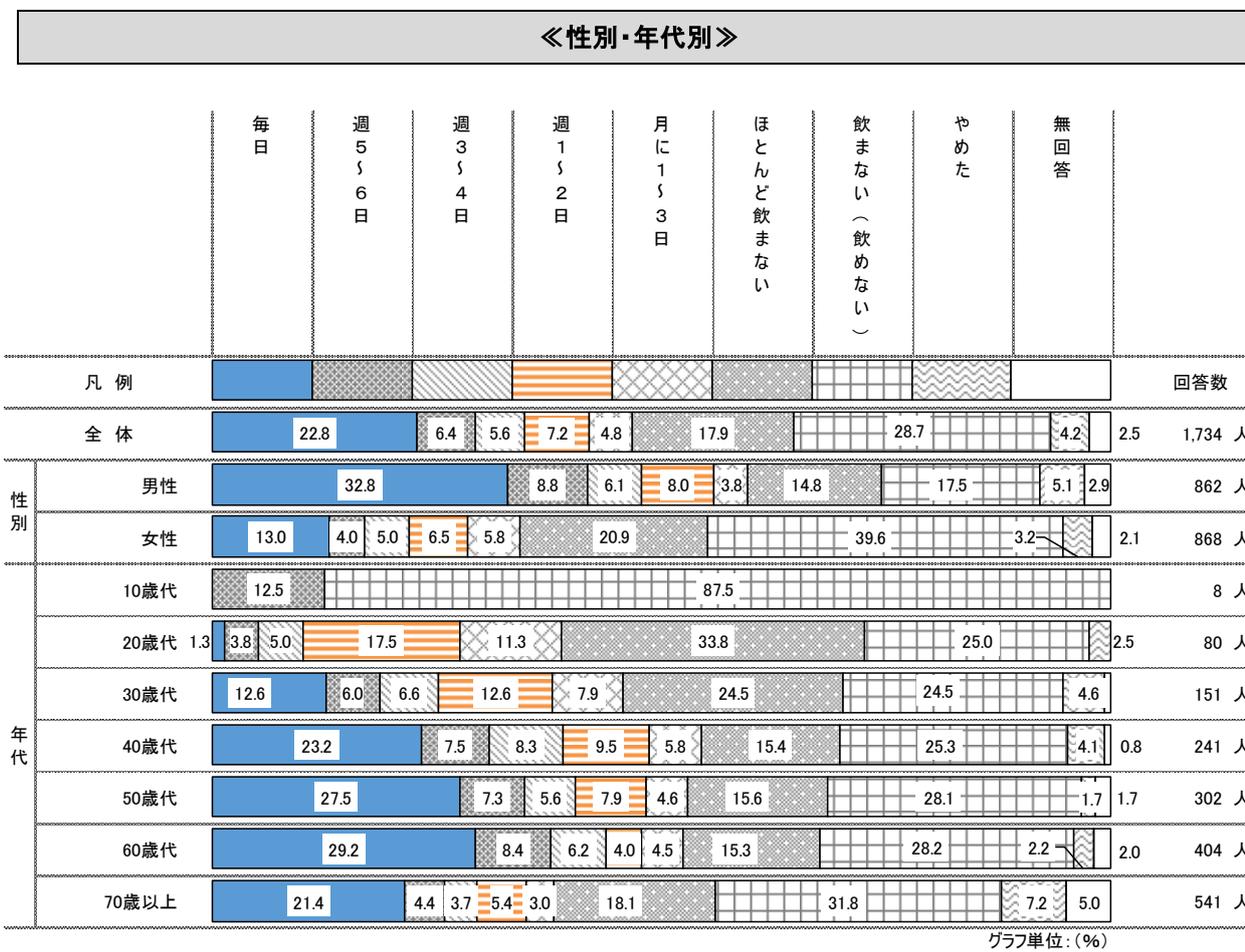


【性別】

男性では「毎日」が最も高く、次いで、「飲まない（飲めない）」、「ほとんど飲まない」が続き、女性では「飲まない（飲めない）」が最も高く、次いで、「ほとんど飲まない」、「毎日」が続いている。

【年代別】

10歳代、40歳代、50歳代、70歳以上では「飲まない（飲めない）」が最も高く、20歳代では「ほとんど飲まない」が、30歳代では同率で「飲まない（飲めない）」と「ほとんど飲まない」が、60歳代では「毎日」が最も高くなっている。



(6) 1日あたりにお酒を飲む量

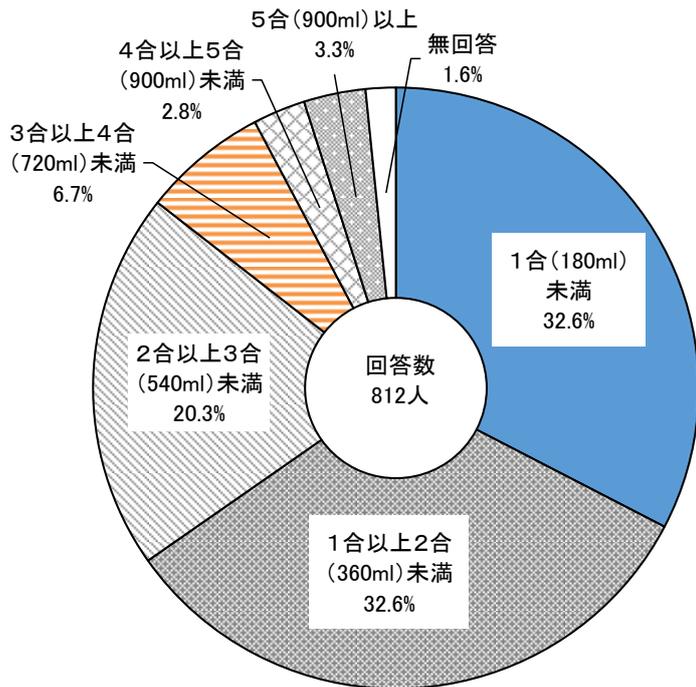
副問1(問37で「1~5」のいずれかを選んだ方のみお答えください。)お酒を飲む日は1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。清酒に換算し、あてはまるものを選んでください。(1つだけ○印)

【総合】

「1合(180ml)未満」と「1合以上2合(360ml)未満」が32.6%と1位になっている。

次いで、「2合以上3合(540ml)未満」が20.3%、「3合以上4合(720ml)未満」が6.7%と続いている。

《総合》



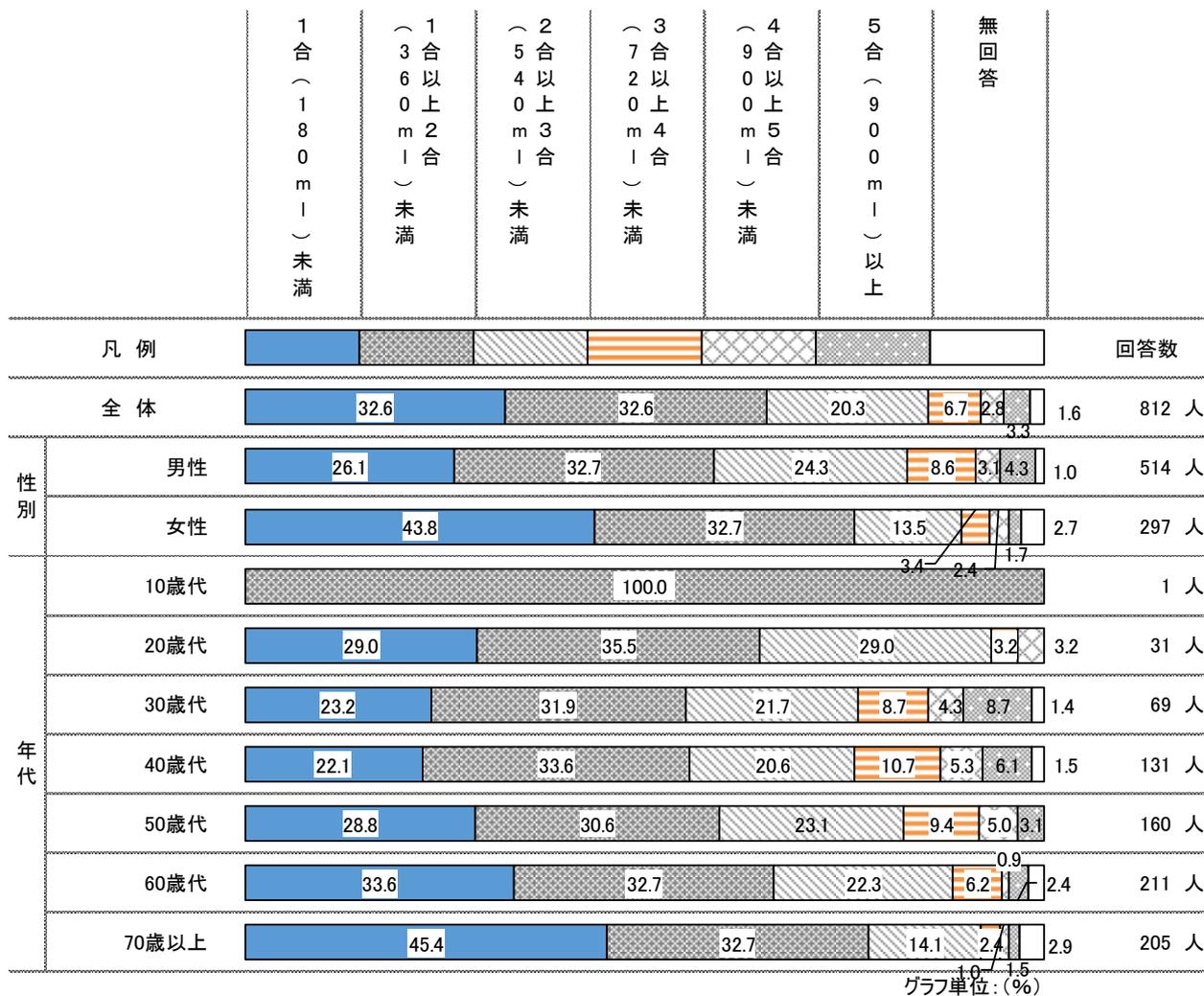
【性別】

男性では「1合以上2合(360ml)未満」が最も高く、次いで、「1合(180ml)未満」、「2合以上3合(540ml)未満」と続き、女性では「1合(180ml)未満」が最も高く、次いで、「1合以上2合(360ml)未満」、「2合以上3合(540ml)未満」と続いている。

【年代別】

60歳代、70歳以上を除くすべての年代で「1合以上2合(360ml)未満」が、60歳代、70歳以上では「1合(180ml)未満」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



(7)たばこを吸うか

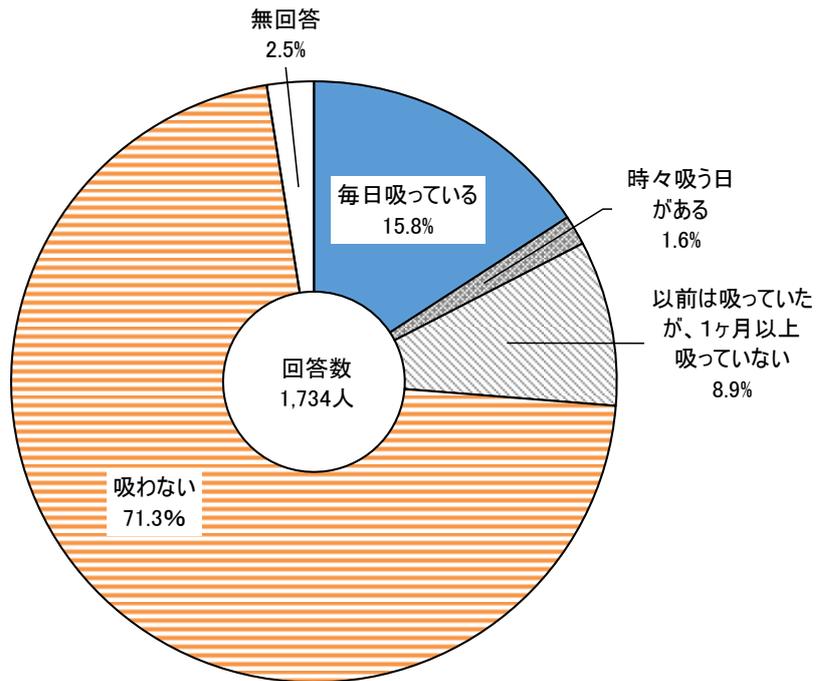
問 38 たばこを吸いますか。

【総合】

「吸わない」が71.3%と1位になっている。

次いで、「毎日吸っている」が15.8%、「以前は吸っていたが、1ヶ月以上吸っていない」が8.9%と続いている。

《総合》

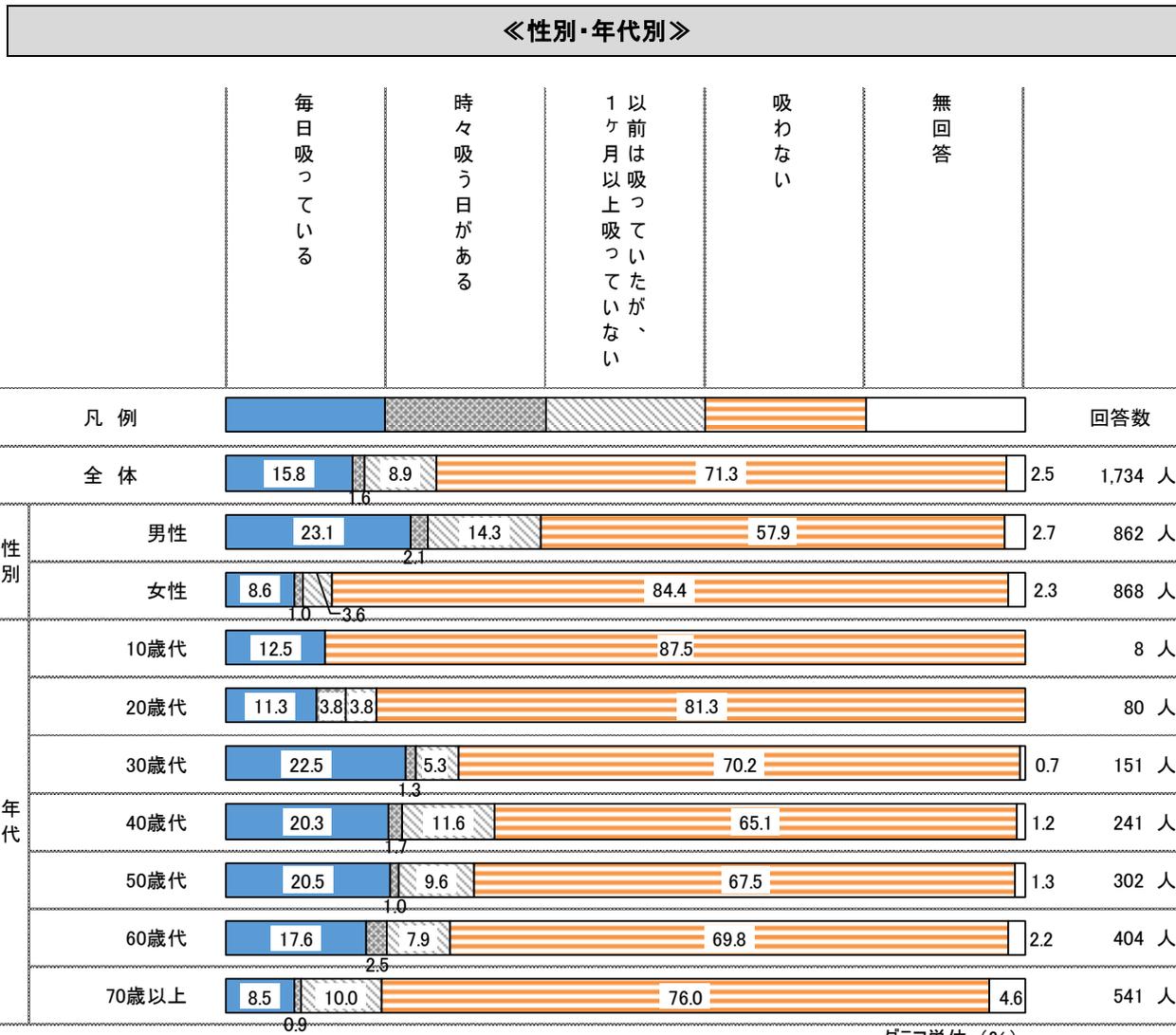


【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

すべての年代で「吸わない」が半数を超えて最も高くなっている。



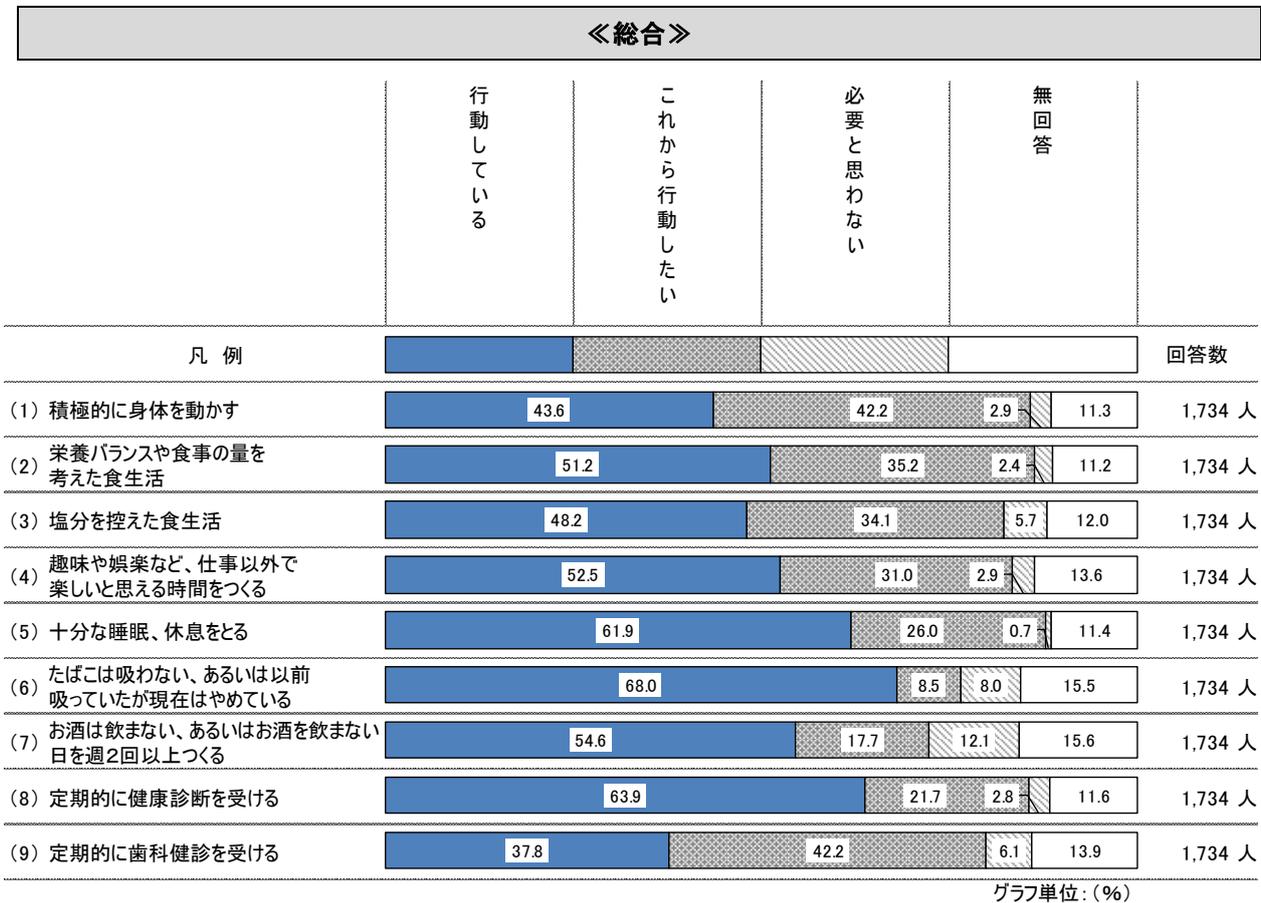
(8)健康づくりのための行動

問 39 健康づくりのために行動していること、またこれから行動したいと思うことは何ですか。(1～9の各項目について、それぞれあてはまるもの1つに○印)

【総合】

『行動している』と回答した人の割合が高いものとしては、「たばこは吸わない、あるいは以前吸っていたが現在はやめている」が68.0%と1位になっている。

次いで、「定期的に健康診断を受ける」が63.9%、「十分な睡眠、休息をとる」が61.9%と続いている。



<1. 積極的に身体を動かす>

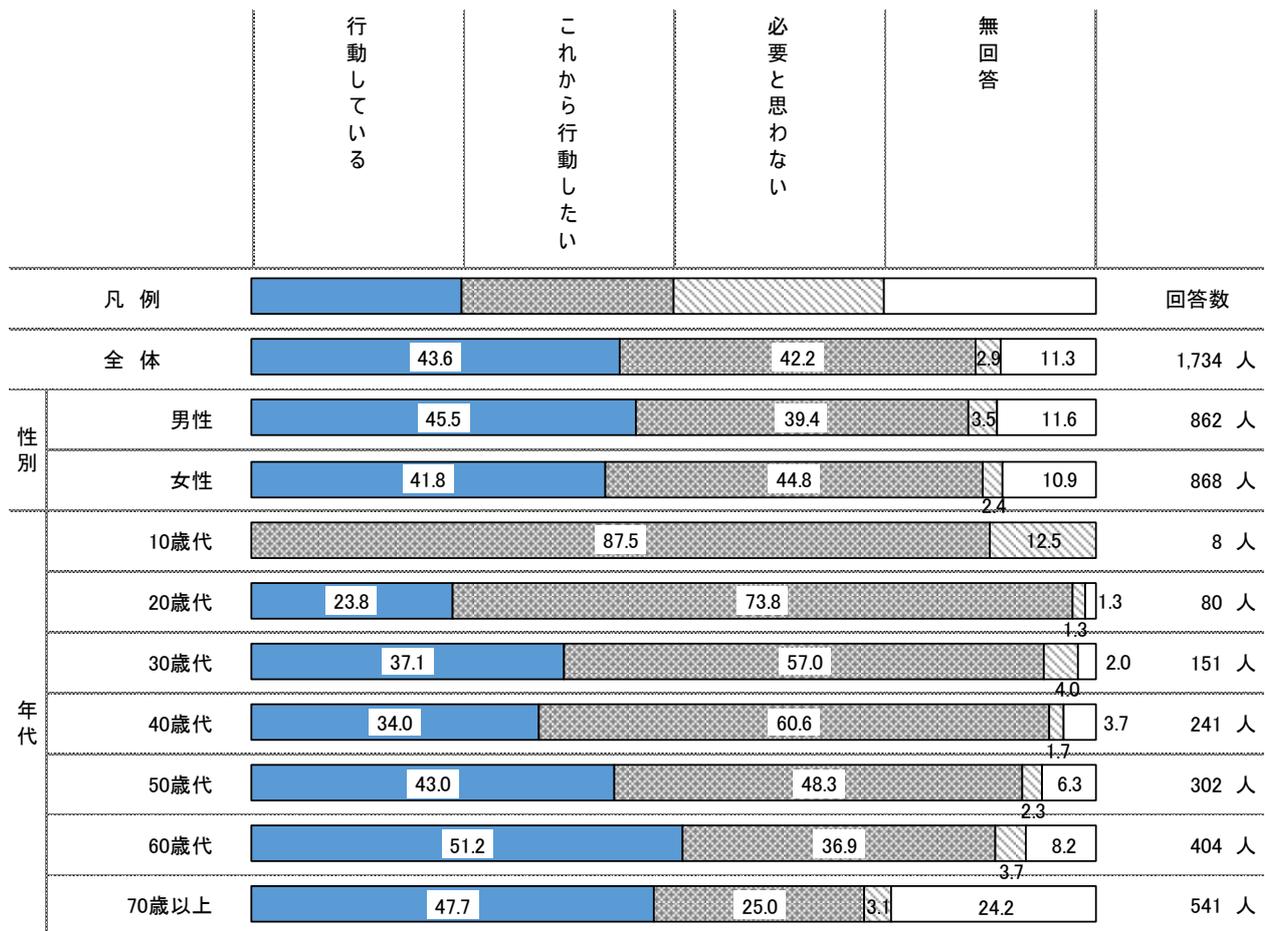
【性別】

男性では「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続き、女性では「これから行動したい」が最も高く、次いで、「行動している」が続いている。

【年代別】

60歳代、70歳以上を除くすべての年代で「これから行動したい」が最も高く、60歳代、70歳以上では「行動している」が最も高くなっている。

≪性別・年代別≫



グラフ単位：(%)

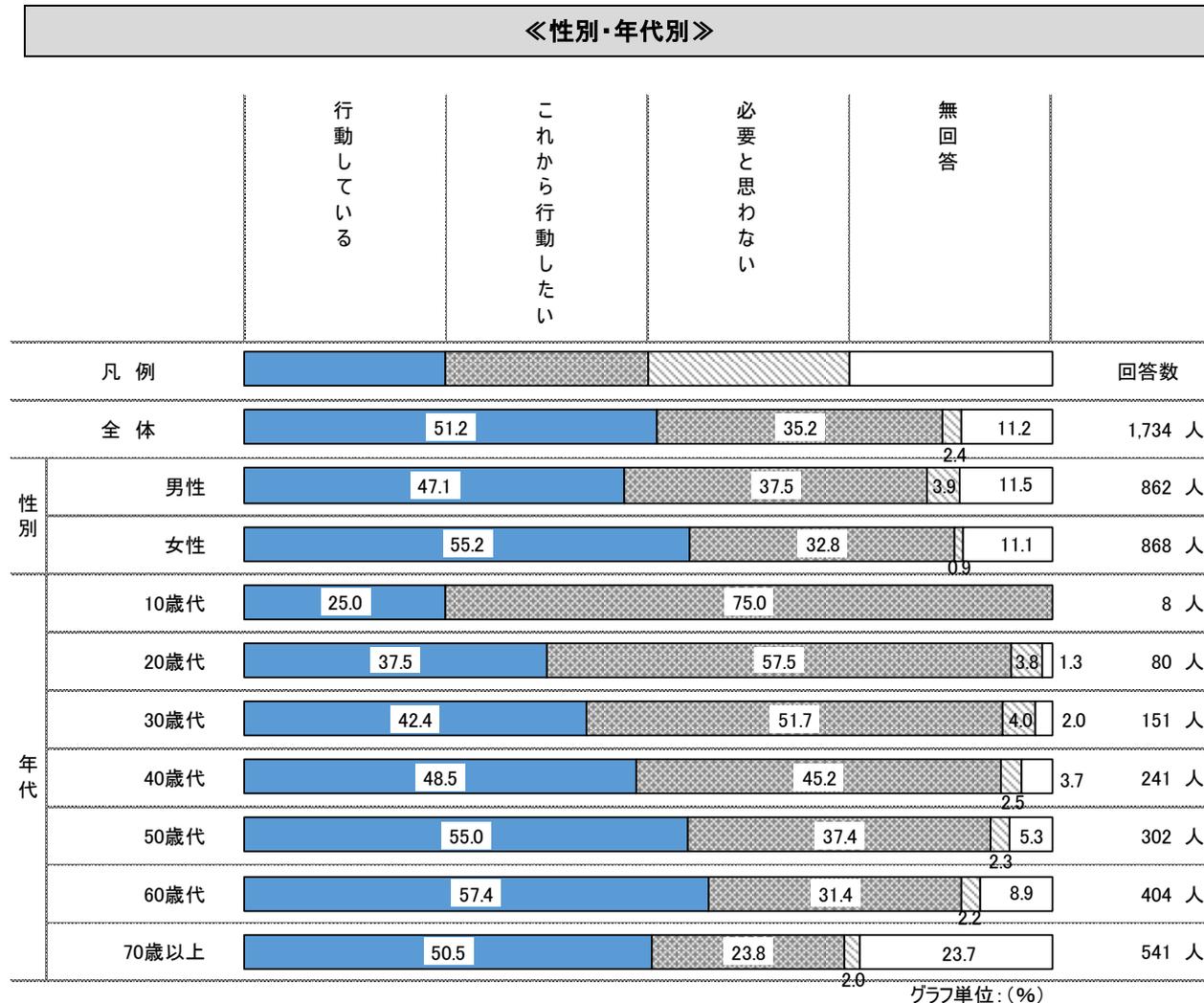
<2. 栄養バランスや食事の量を考えた食生活>

【性別】

男女ともに「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続いている。

【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代を除くすべての年代で「行動している」が最も高く、10歳代、20歳代、30歳代では「これから行動したい」が最も高くなっている。



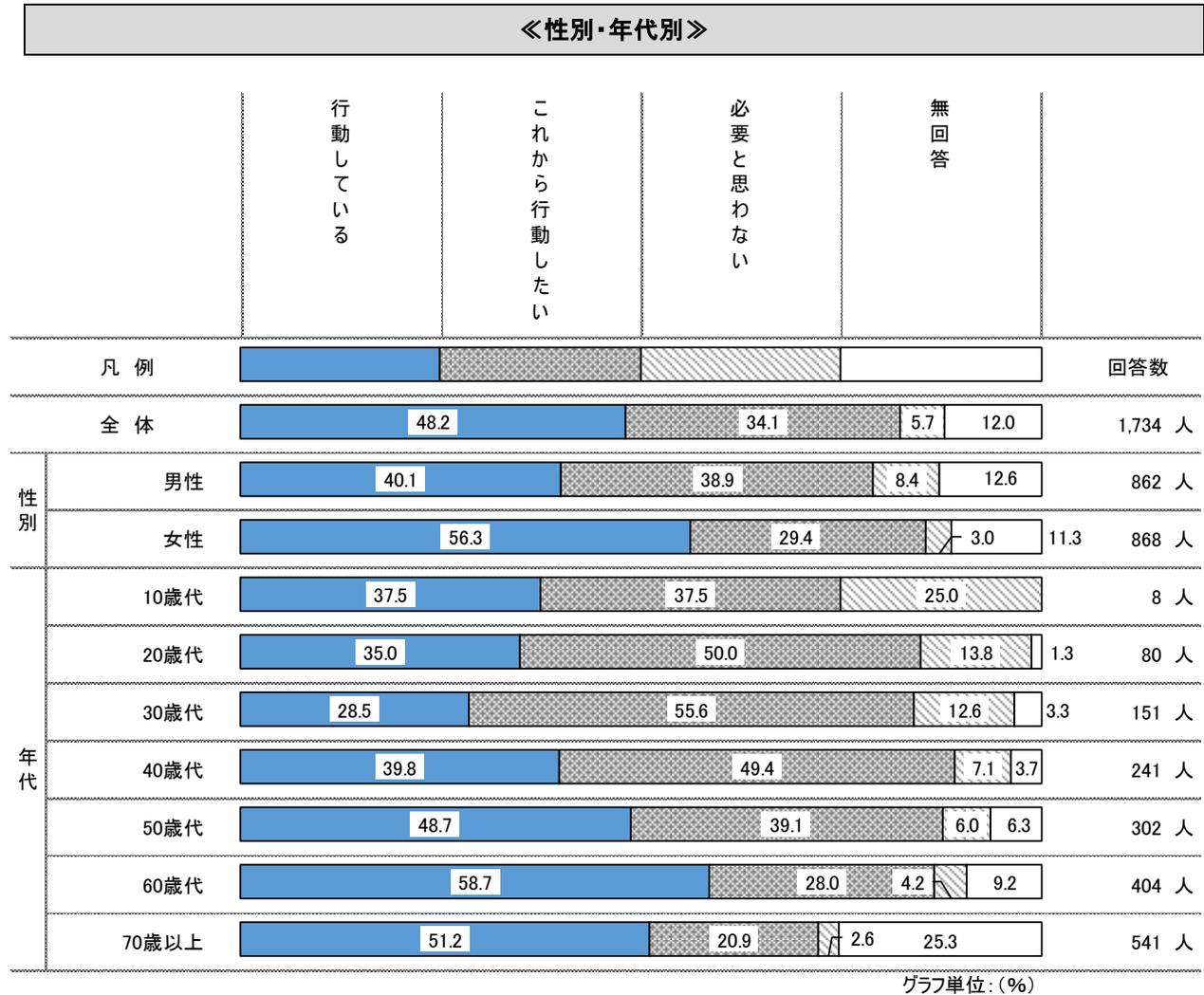
<3. 塩分を控えた食生活>

【性別】

男女ともに「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続いている。

【年代別】

10歳代では同率で「行動している」と「これから行動したい」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代では「これから行動したい」が、50歳代、60歳代、70歳以上では「行動している」が最も高くなっている。



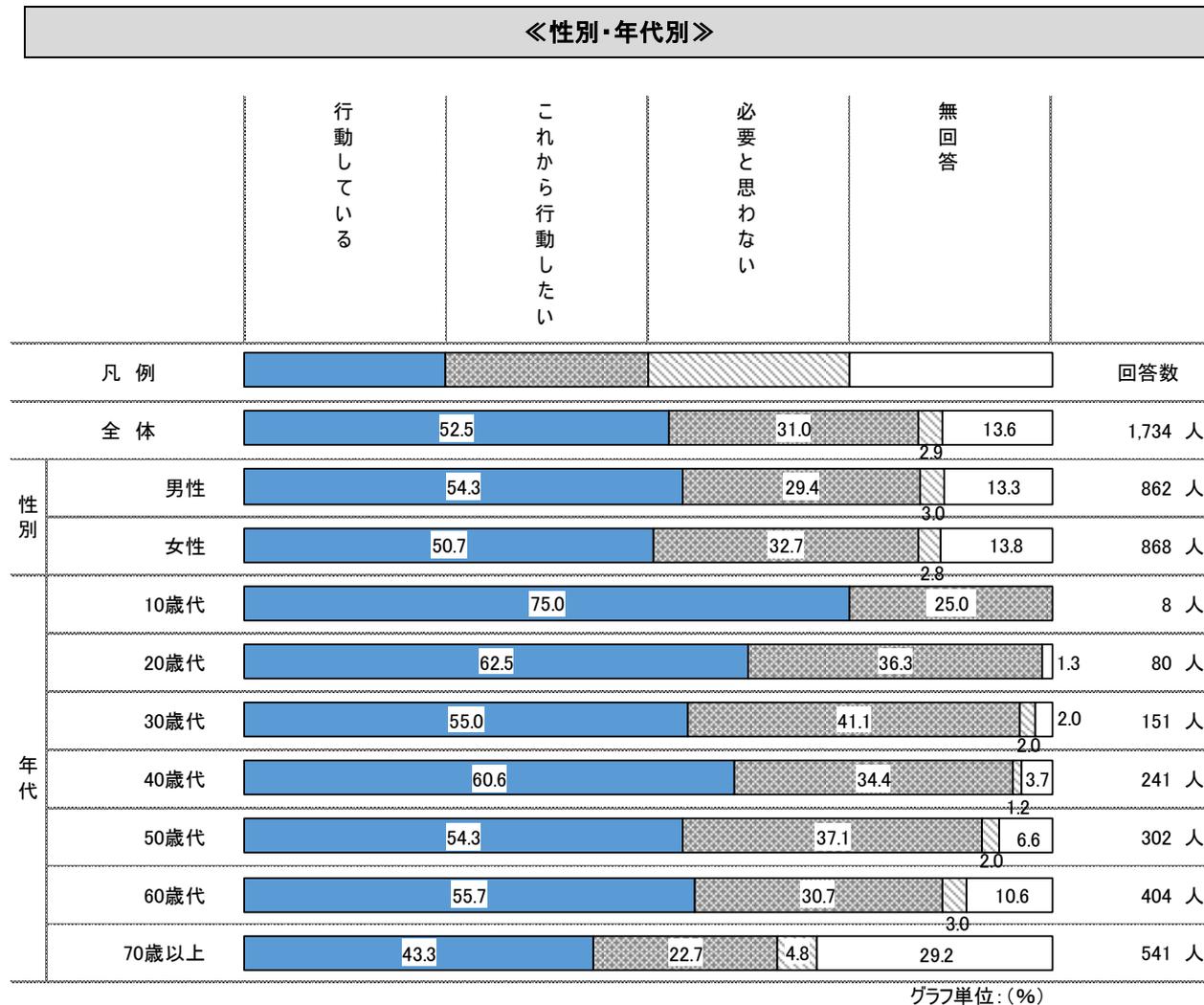
<4. 趣味や娯楽など、仕事以外で楽しいと思える時間をつくる>

【性別】

男女ともに「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続いている。

【年代別】

すべての年代で「行動している」が最も高くなっている。



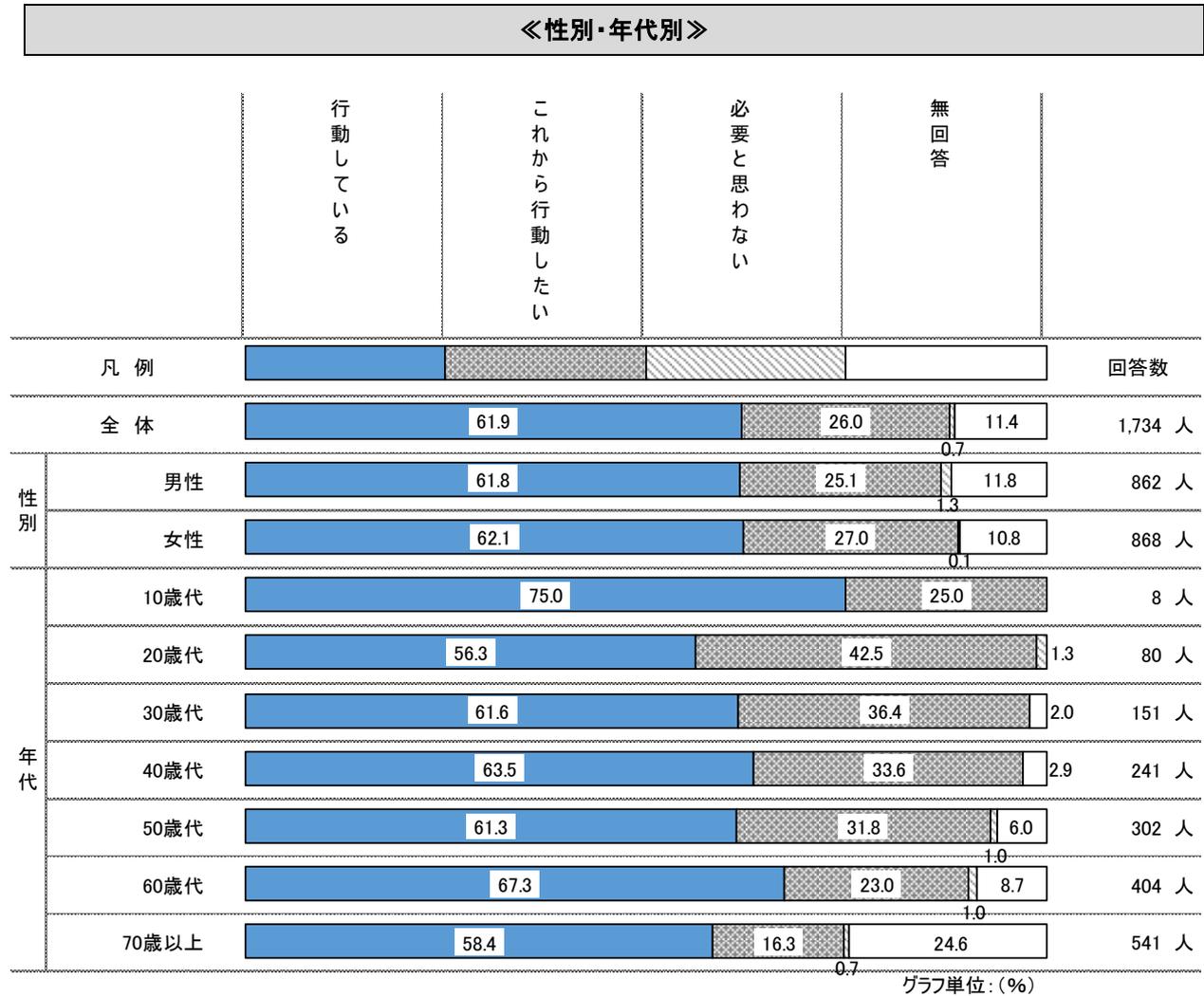
<5. 十分な睡眠、休息をとる>

【性別】

男女ともに「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続いている。

【年代別】

すべての年代で「行動している」が半数を超えて最も高くなっている。



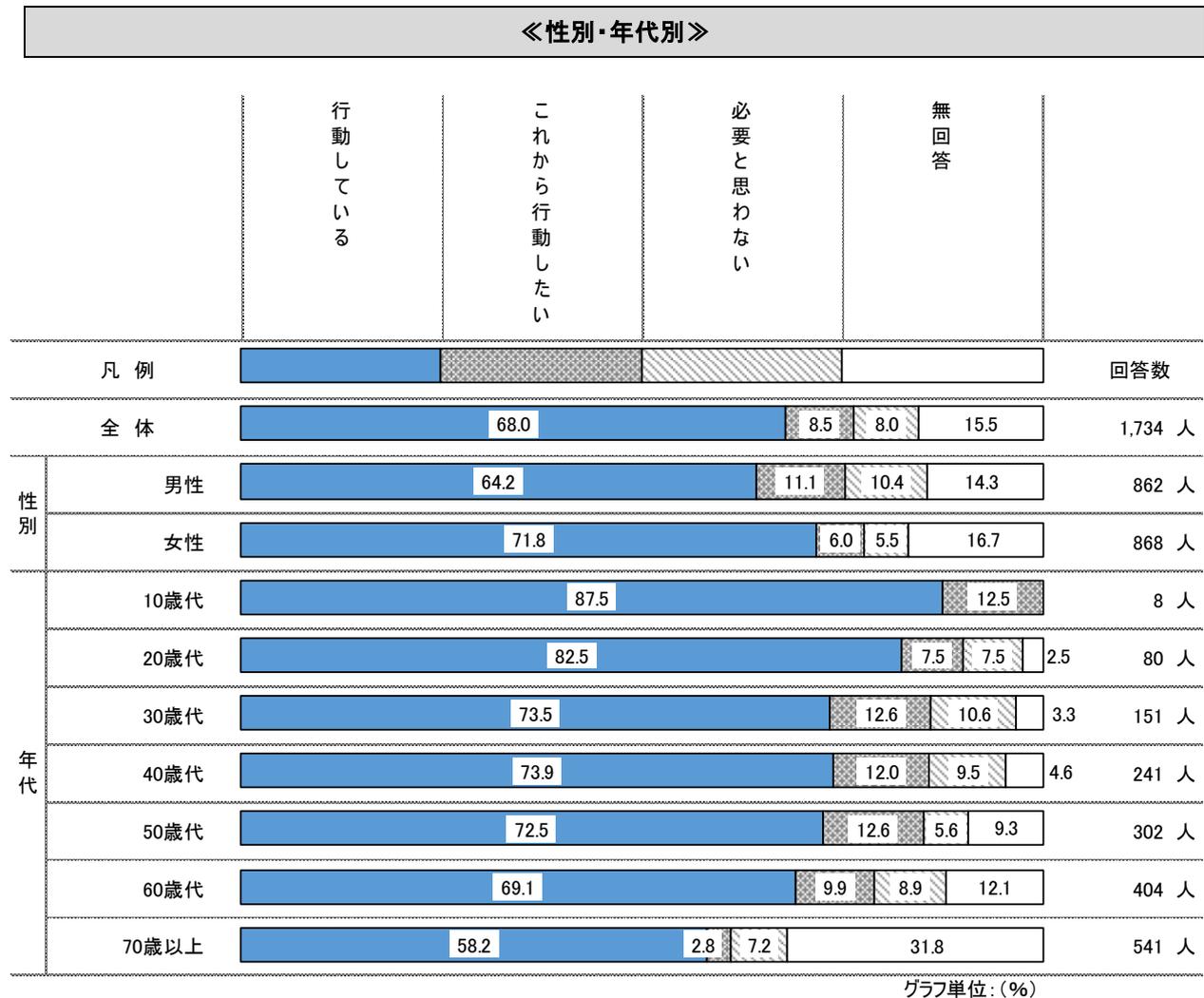
<6. たばこは吸わない、あるいは以前吸っていたが現在はやめている>

【性別】

男女ともに「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続いている。

【年代別】

すべての年代で「行動している」が半数を超えて最も高くなっている。



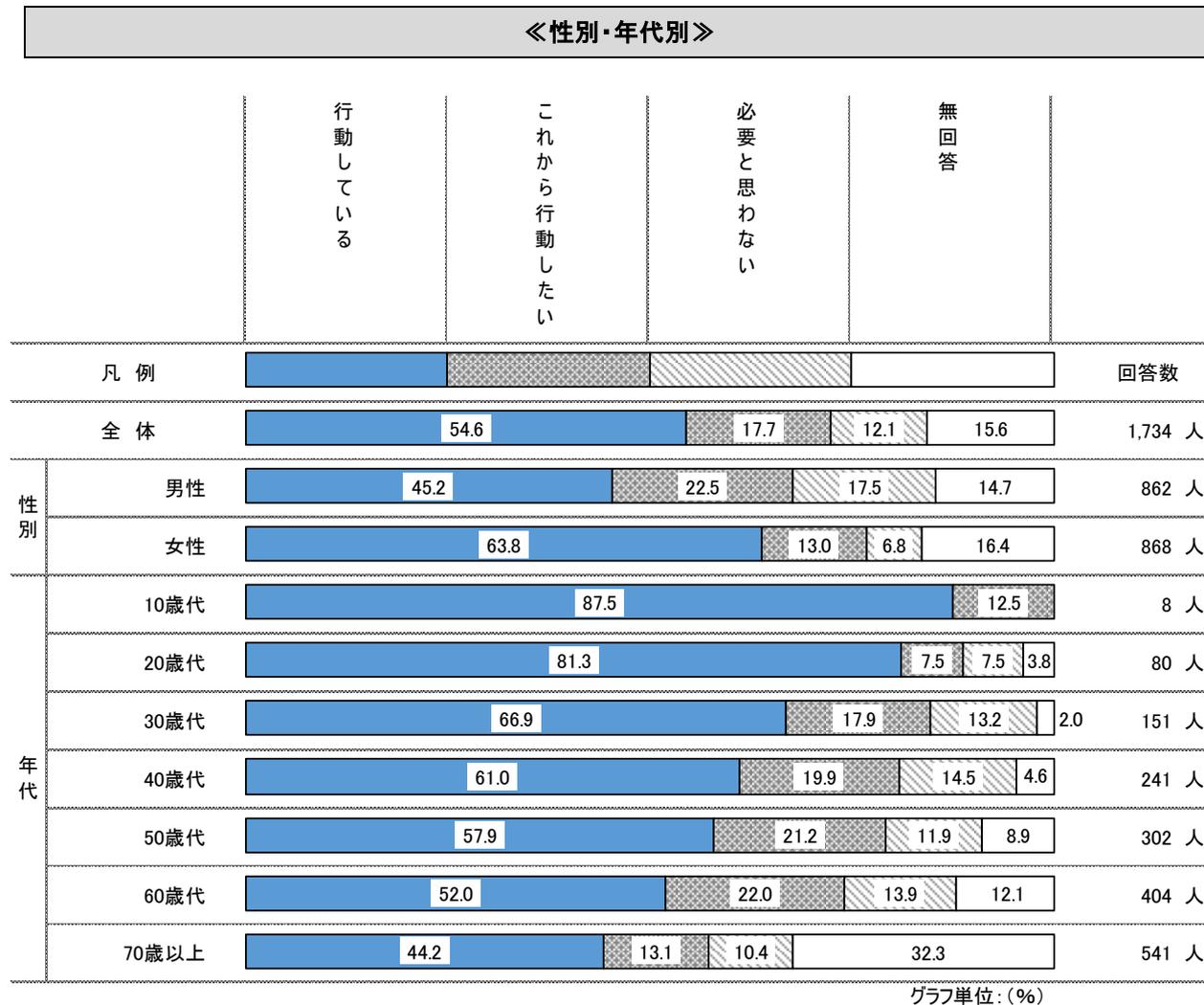
<7. お酒は飲まない、あるいはお酒を飲まない日を週2回以上つくる>

【性別】

男女ともに「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続いている。

【年代別】

すべての年代で「行動している」が最も高くなっている。



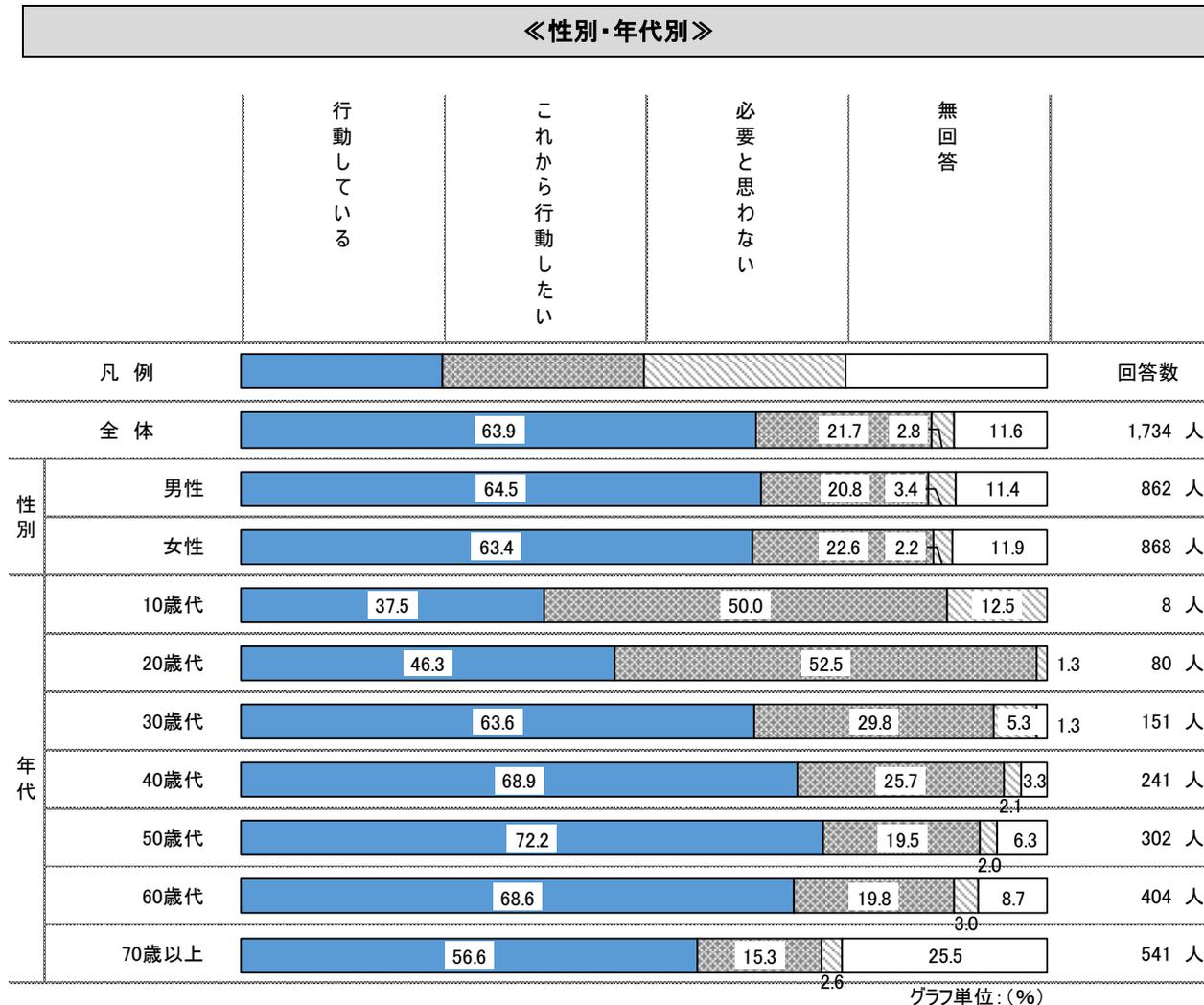
< 8. 定期的に健康診断を受ける >

【性別】

男女ともに「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続いている。

【年代別】

10歳代、20歳代を除くすべての年代で「行動している」が最も高く、10歳代、20歳代では「これから行動したい」が最も高くなっている。



<9. 定期的に歯科健診を受ける>

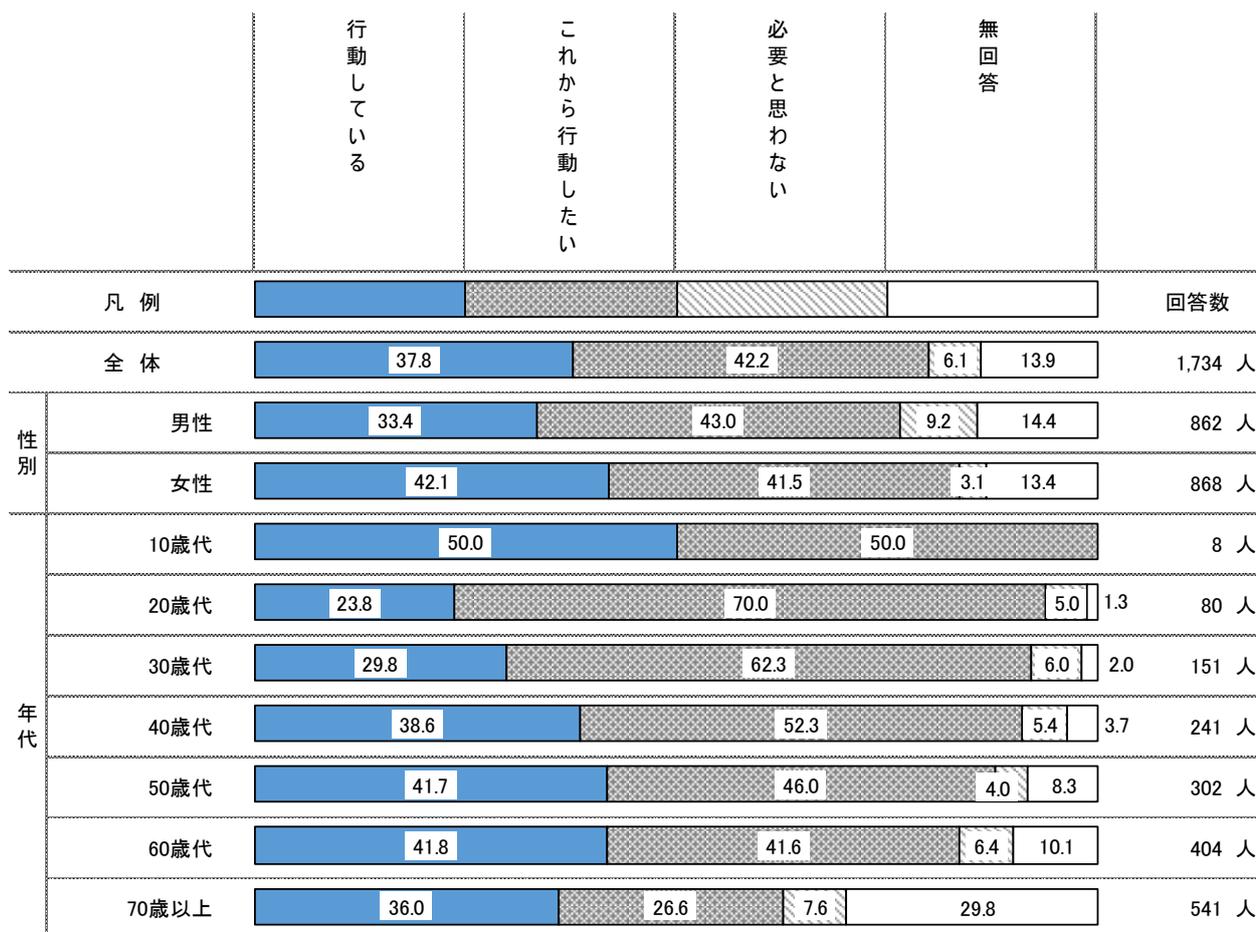
【性別】

男性では「これから行動したい」が最も高く、次いで、「行動している」が続く、女性では「行動している」が最も高く、次いで、「これから行動したい」が続いている。

【年代別】

10歳代では同率で「行動している」と「これから行動したい」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「これから行動したい」が、60歳代、70歳以上では「行動している」が最も高くなっている。

≪性別・年代別≫



グラフ単位：(%)

5. がん検診について

(1) がんについて知っていること

問 40 あなたが、がんについて知っていることをお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が76.9%と1位になっている。

次いで、「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防ができる最大の原因である」が71.4%、「がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法（化学療法含）がある」が69.8%と続いている。

《総合》

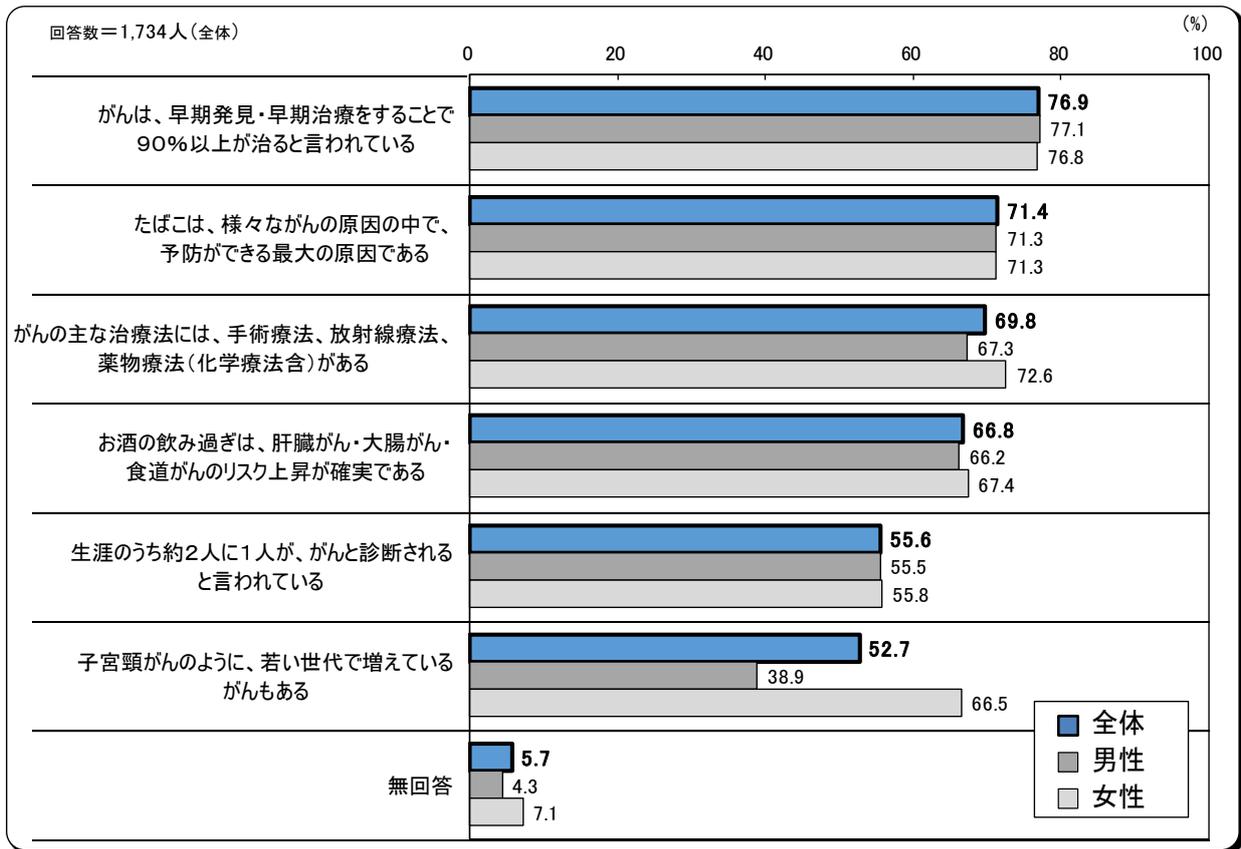
		回答数
全 体	100.0	1,734 人
がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている	76.9	1,334 人
たばこは、様々ながんの原因の中で、予防ができる最大の原因である	71.4	1,238 人
がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法(化学療法含)がある	69.8	1,211 人
お酒の飲み過ぎは、肝臓がん・大腸がん・食道がんのリスク上昇が確実である	66.8	1,158 人
生涯のうち約2人に1人が、がんと診断されると言われている	55.6	964 人
子宮頸がんのように、若い世代で増えているがんもある	52.7	914 人
無回答	5.7	99 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が最も高く、次いで、男性では「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防ができる最大の原因である」、「がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法（化学療法含）がある」が続き、女性では「がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法（化学療法含）がある」、「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防ができる最大の原因である」と続いている。

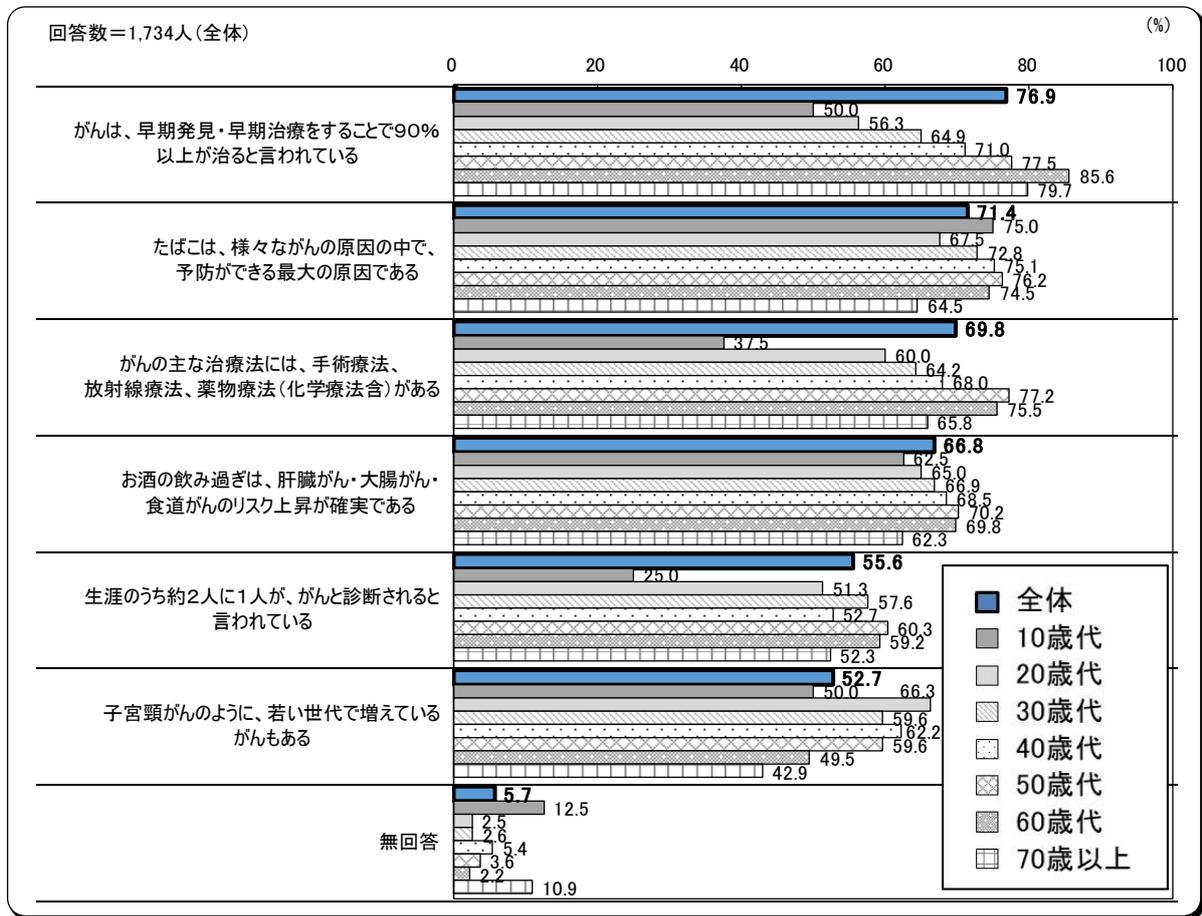
◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代では「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防ができる最大の原因である」が最も高く、50歳代、60歳代、70歳以上では「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が最も高くなっている。

《年代別》



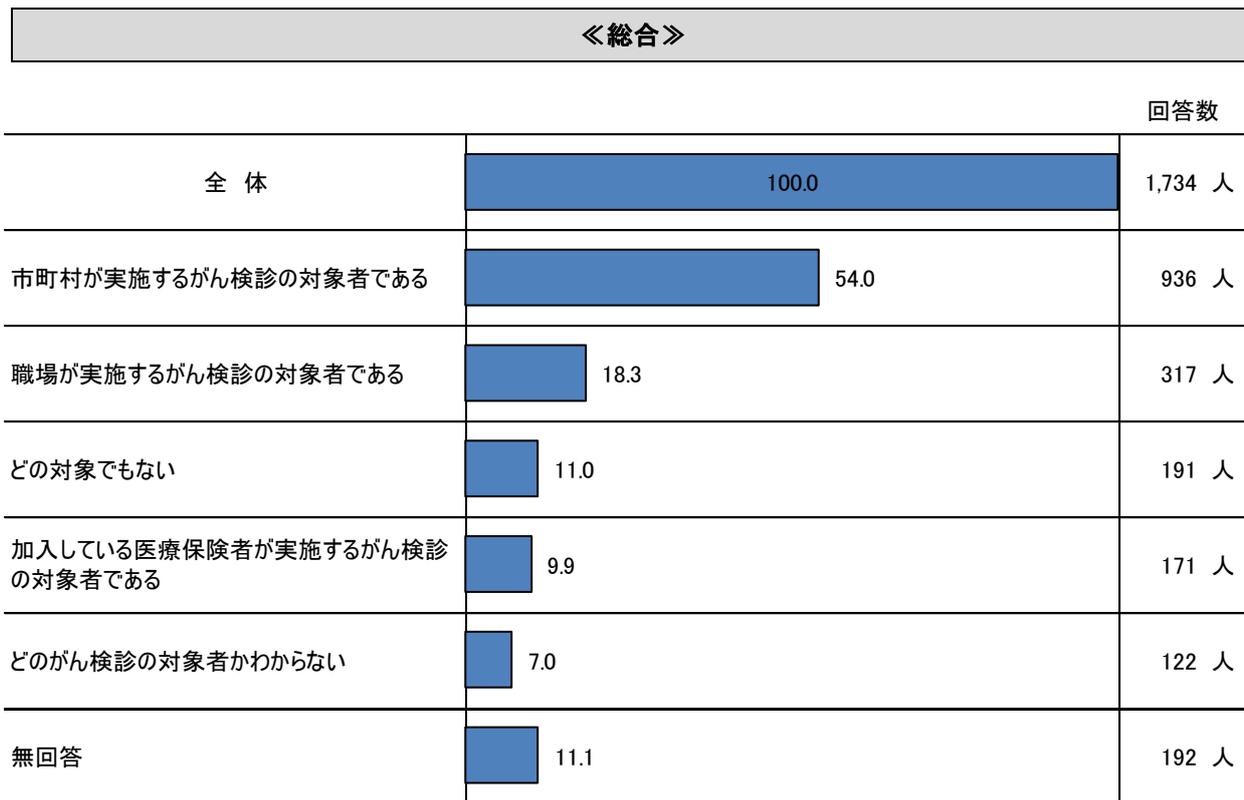
(2)対象となるがん検診

問 41 子宮頸がん検診は 20 歳以上の女性、乳がん検診は 40 歳以上の女性、肺がん・胃がん・大腸がん検診は 40 歳以上の全ての住民の方を対象に市町村が実施しなければならないこととなっています。また、職場健診や加入している医療保険者でがん検診が実施されている場合もあります。あなたは、次の「1～5」のうち、どれに該当しますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「市町村が実施するがん検診の対象者である」が 54.0%と 1 位になっている。

次いで、「職場が実施するがん検診の対象者である」が 18.3%、「どの対象でもない」が 11.0%と続いている。

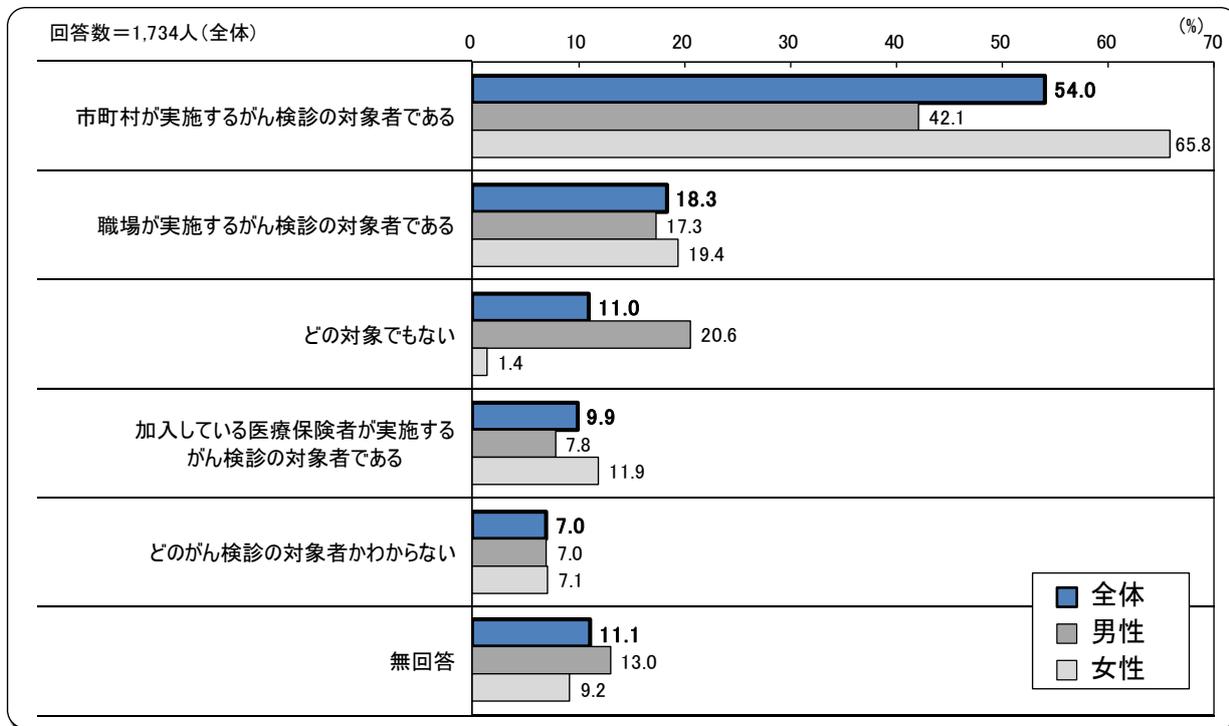


グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「市町村が実施するがん検診の対象者である」が最も高く、男性では「どの対象でもない」、
「職場が実施するがん検診の対象者である」、女性では「職場が実施するがん検診の対象者である」、「加入
している医療保険者が実施するがん検診の対象者である」と続いている。

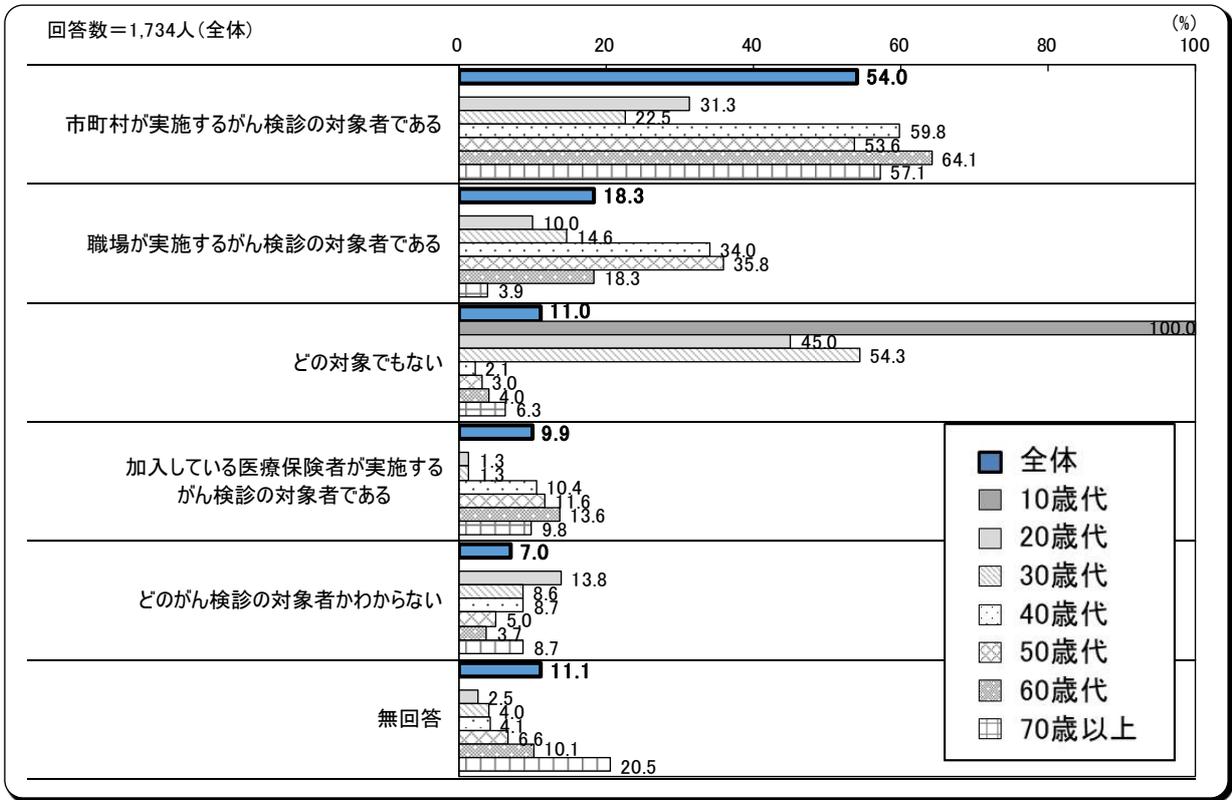
◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代では「どの対象でもない」が最も高く、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「市町村が実施するがん検診の対象者である」が最も高くなっている。

《年代別》



(3)がん検診に関する情報の周知

問 42 あなたは、がん検診に関する情報をどの媒体を活用して周知すればいいと思いますか。(2つまで○印)

【総合】

「テレビ」が60.0%と1位になっている。

次いで、「広報紙（県・市町村）」が46.7%、「新聞」が25.1%と続いている。

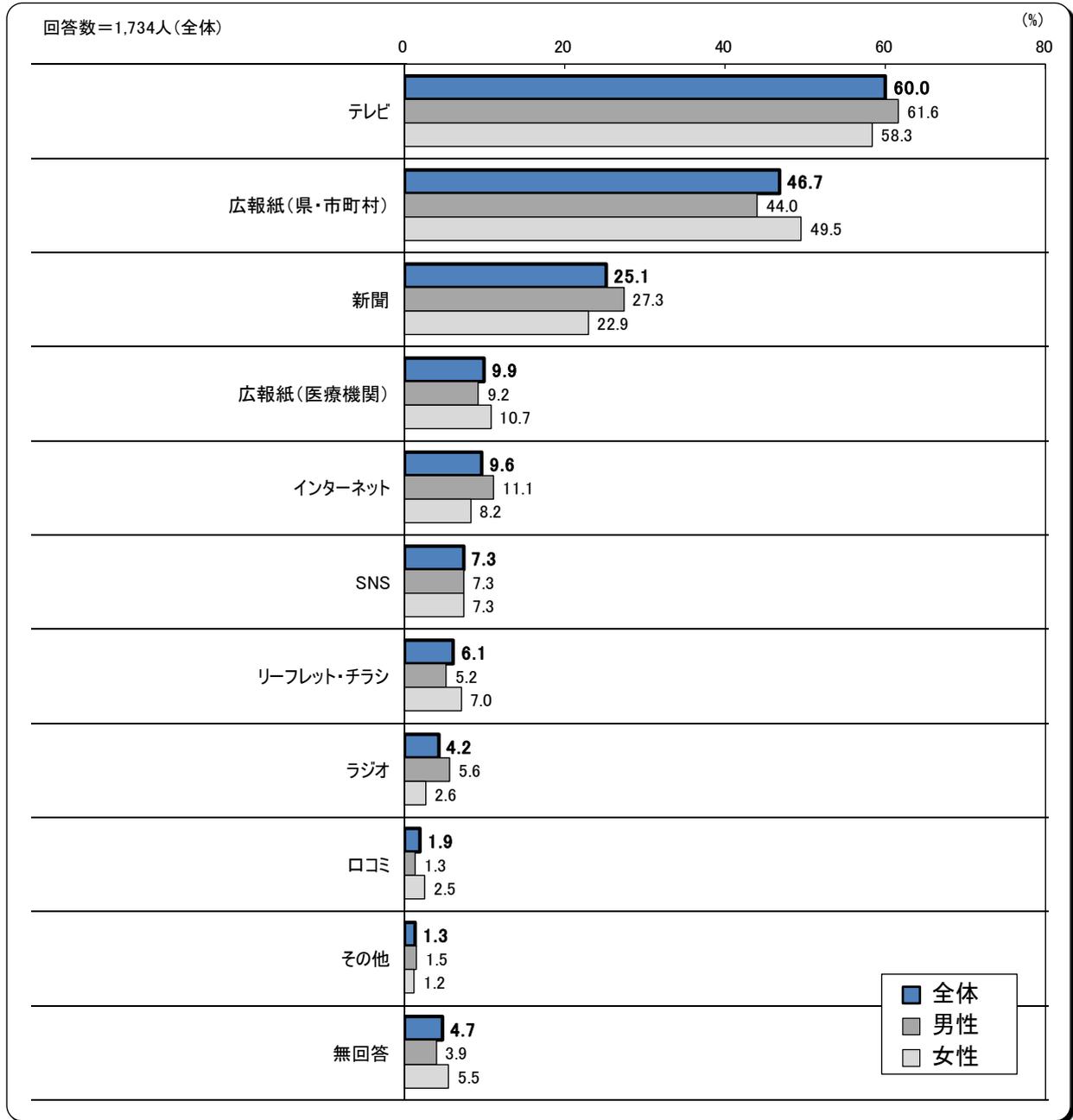
《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,734 人
テレビ	60.0	1,041 人
広報紙(県・市町村)	46.7	810 人
新聞	25.1	435 人
広報紙(医療機関)	9.9	172 人
インターネット	9.6	167 人
SNS	7.3	126 人
リーフレット・チラシ	6.1	106 人
ラジオ	4.2	73 人
ロコミ	1.9	33 人
その他	1.3	23 人
無回答	4.7	82 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

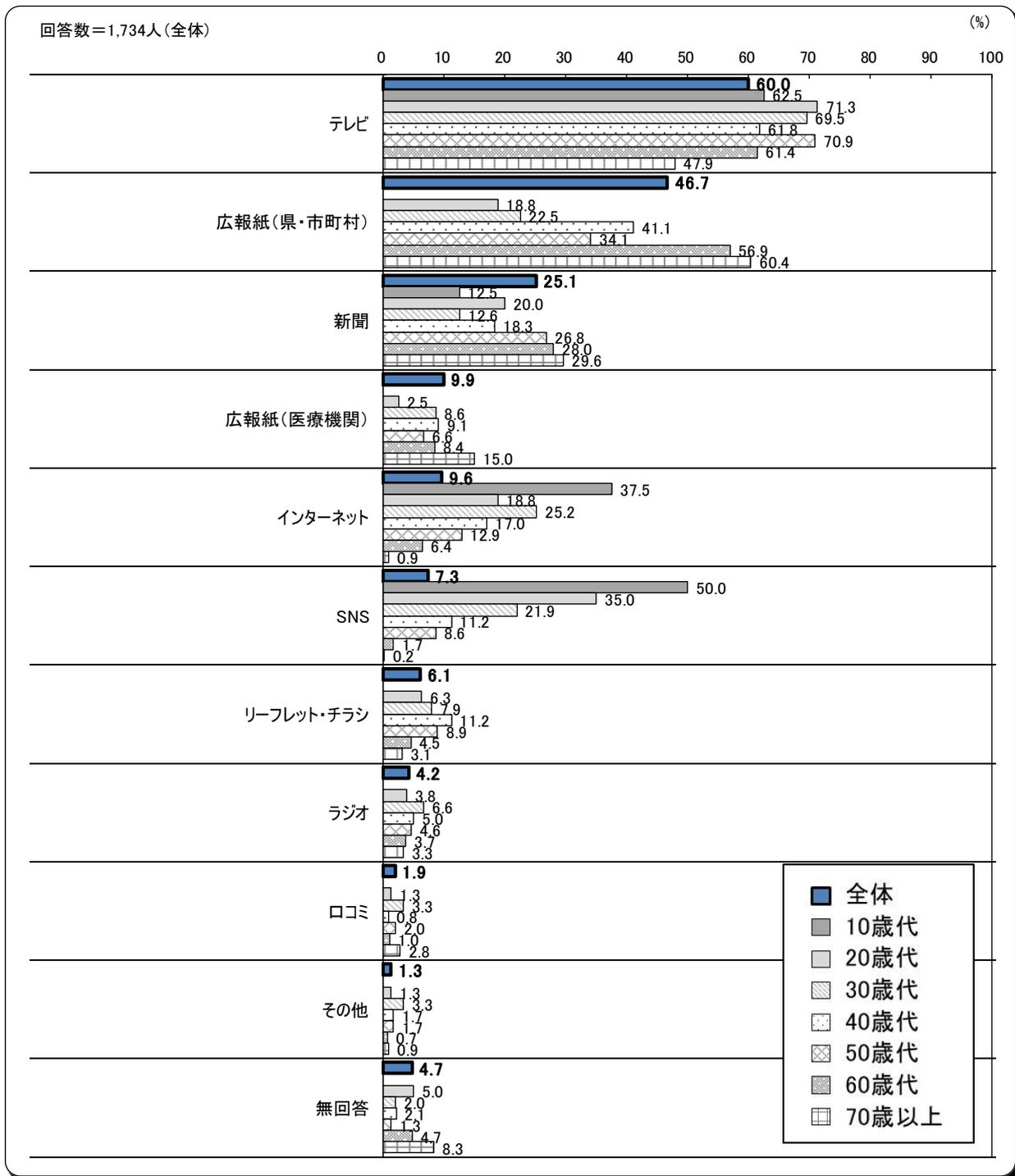
◀性別▶



【年代別】

70歳以上を除くすべての年代で「テレビ」が最も高く、70歳以上では「広報紙（県・市町村）」が最も高くなっている。

《年代別》



(4) 過去1年間に受診したがん検診の種類

問 43 あなたが、過去1年間(子宮頸がん及び乳がん検診は過去2年間に受診したがん検診の種類をお答えください。(健康診断や人間ドックで受診したのものも含みます。)(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「肺がん検診(胸部エックス線検査・CT検査)」が38.2%と1位になっている。

次いで、「いずれも受けていない」が35.4%、「胃がん検診(胃部エックス線検査・胃内視鏡検査)」が34.9%と続いている。

《総合》

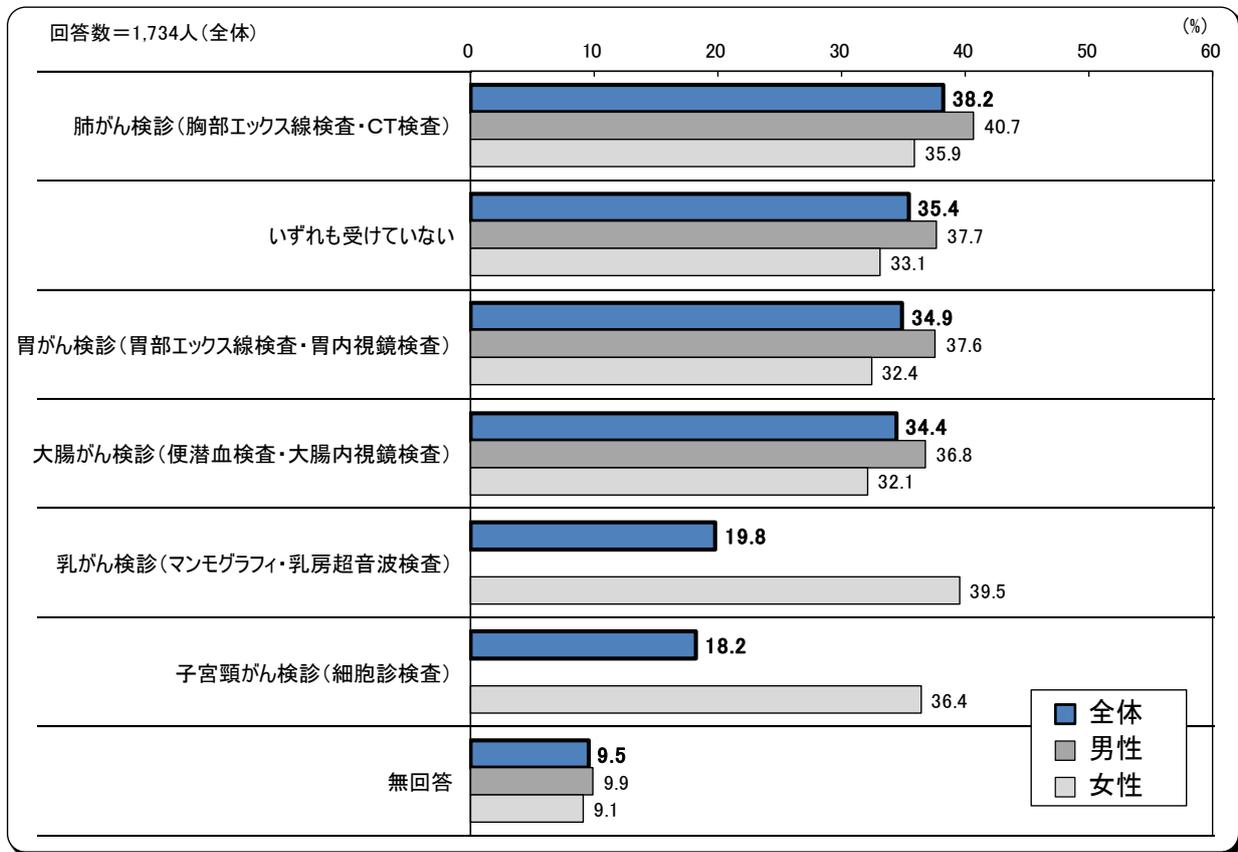
		回答数
全体	100.0	1,734 人
肺がん検診(胸部エックス線検査・CT検査)	38.2	663 人
いずれも受けていない	35.4	614 人
胃がん検診(胃部エックス線検査・胃内視鏡検査)	34.9	606 人
大腸がん検診(便潜血検査・大腸内視鏡検査)	34.4	597 人
乳がん検診(マンモグラフィ・乳房超音波検査)	19.8	343 人
子宮頸がん検診(細胞診検査)	18.2	316 人
無回答	9.5	165 人

グラフ単位: (%)

【性別】

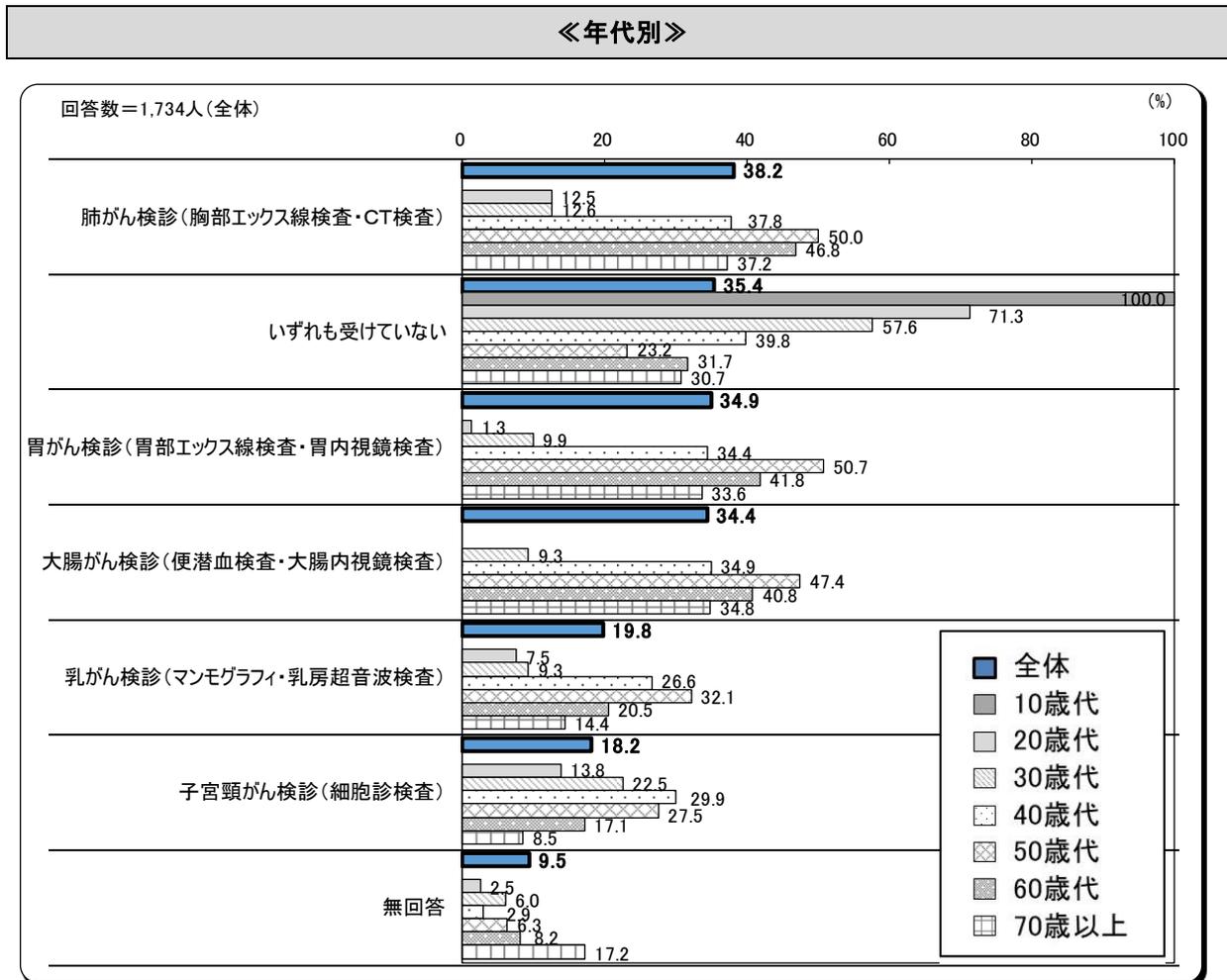
男性では「肺がん検診（胸部エックス線検査・CT検査）」が、女性では「乳がん検診（マンモグラフィ・乳房超音波検査）」が最も高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代では「いずれも受けていない」が最も高く、50歳代では「胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）」が、60歳代、70歳以上では「肺がん検診（胸部エックス線検査・CT検査）」が最も高くなっている。



(5)がん検診を受けていない理由

副問1(問 43 で「1」を選んだ方と、女性の方で「5」「6」のいずれか一方又は両方ともを選ばなかった方のみお答えください。)がん検診を受けていない理由をお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「必要な時は医療機関を受診するから」が27.2%と1位になっている。

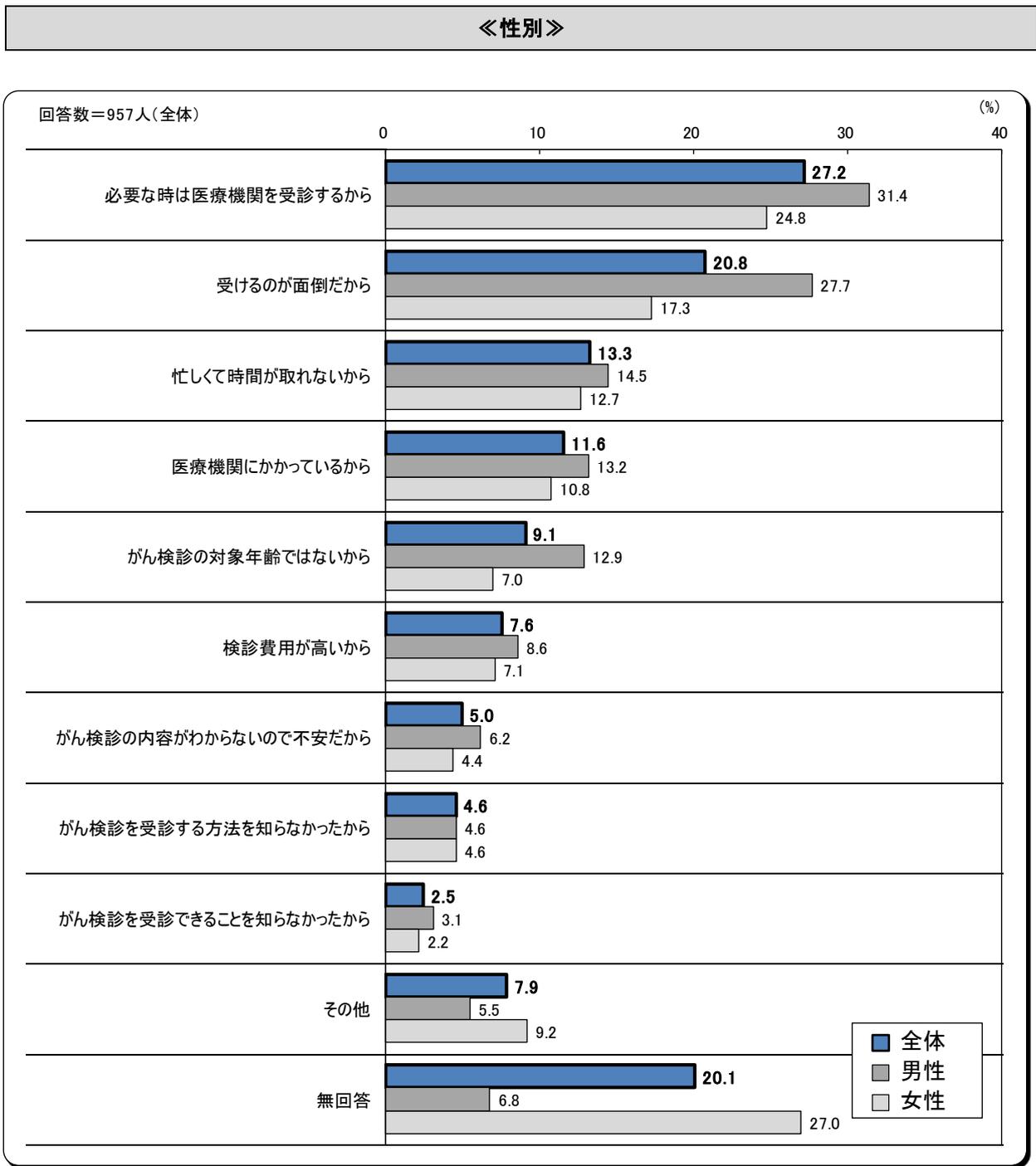
次いで、「受けるのが面倒だから」が20.8%、「忙しくて時間が取れないから」が13.3%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	957 人
必要な時は医療機関を受診するから	27.2	260 人
受けるのが面倒だから	20.8	199 人
忙しくて時間が取れないから	13.3	127 人
医療機関にかかっているから	11.6	111 人
がん検診の対象年齢ではないから	9.1	87 人
検診費用が高いから	7.6	73 人
がん検診の内容がわからないので不安だから	5.0	48 人
がん検診を受診する方法を知らなかったから	4.6	44 人
がん検診を受診できることを知らなかったから	2.5	24 人
その他	7.9	76 人
無回答	20.1	192 人

グラフ単位：(%)

【性別】

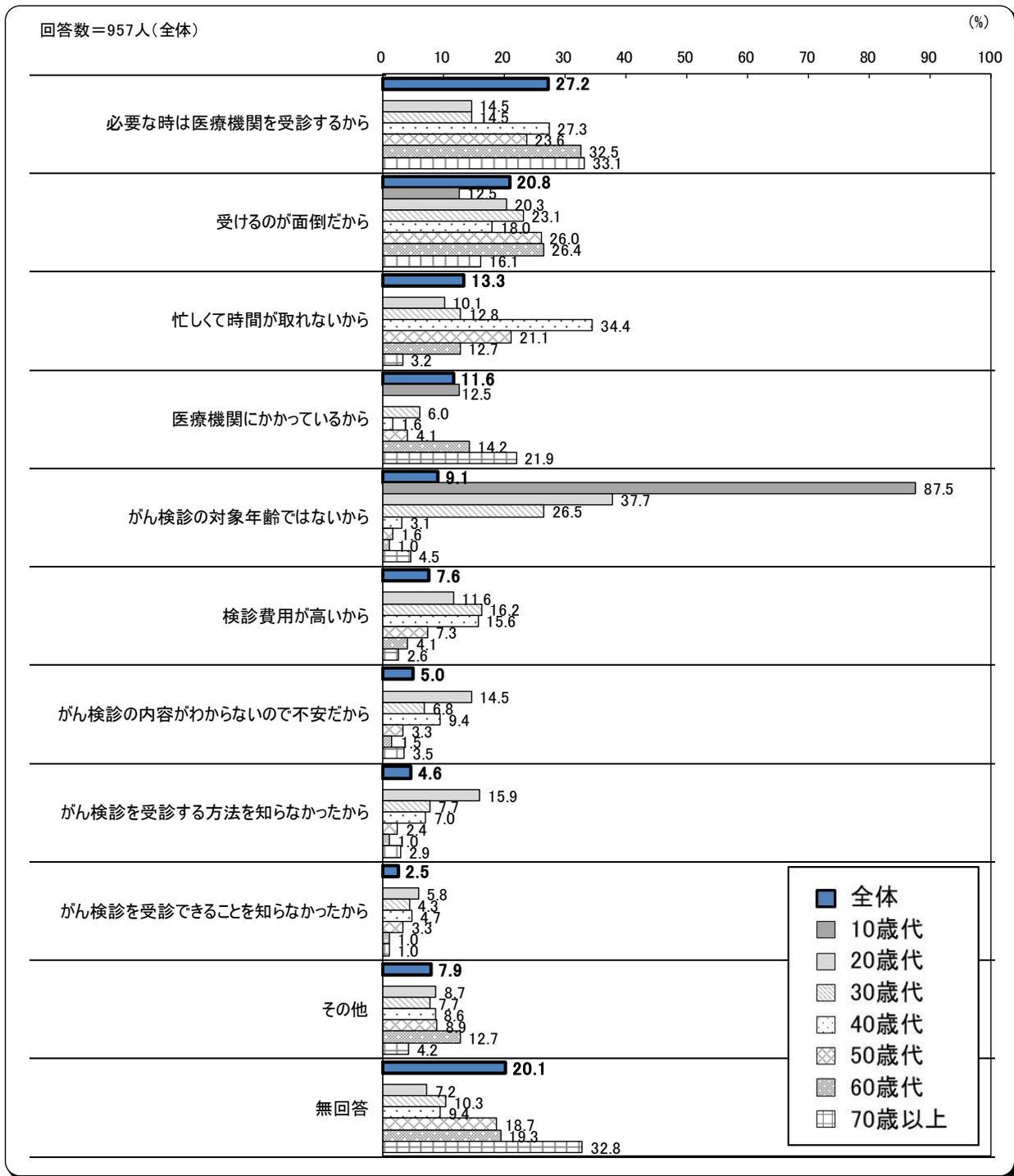
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代では「がん検診の対象年齢ではないから」が最も高く、40歳代では「忙しくて時間が取れないから」が、50歳代では「受けるのが面倒だから」が、60歳代、70歳以上では「必要な時は医療機関を受診するから」が最も高くなっている。

《年代別》



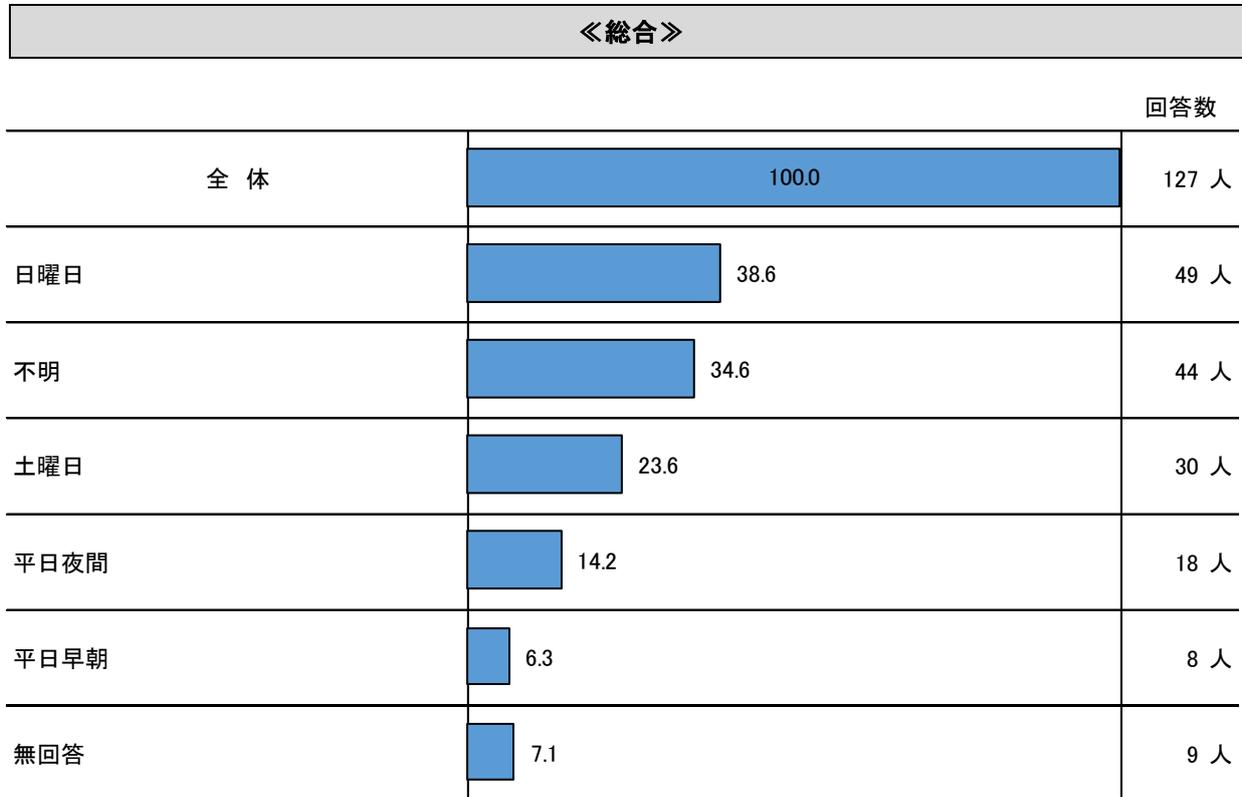
(6) 受診可能日

副問1-1(副問1で「1」を選んだ方のみお答えください。)いつなら受診可能ですか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「日曜日」が38.6%と1位になっている。

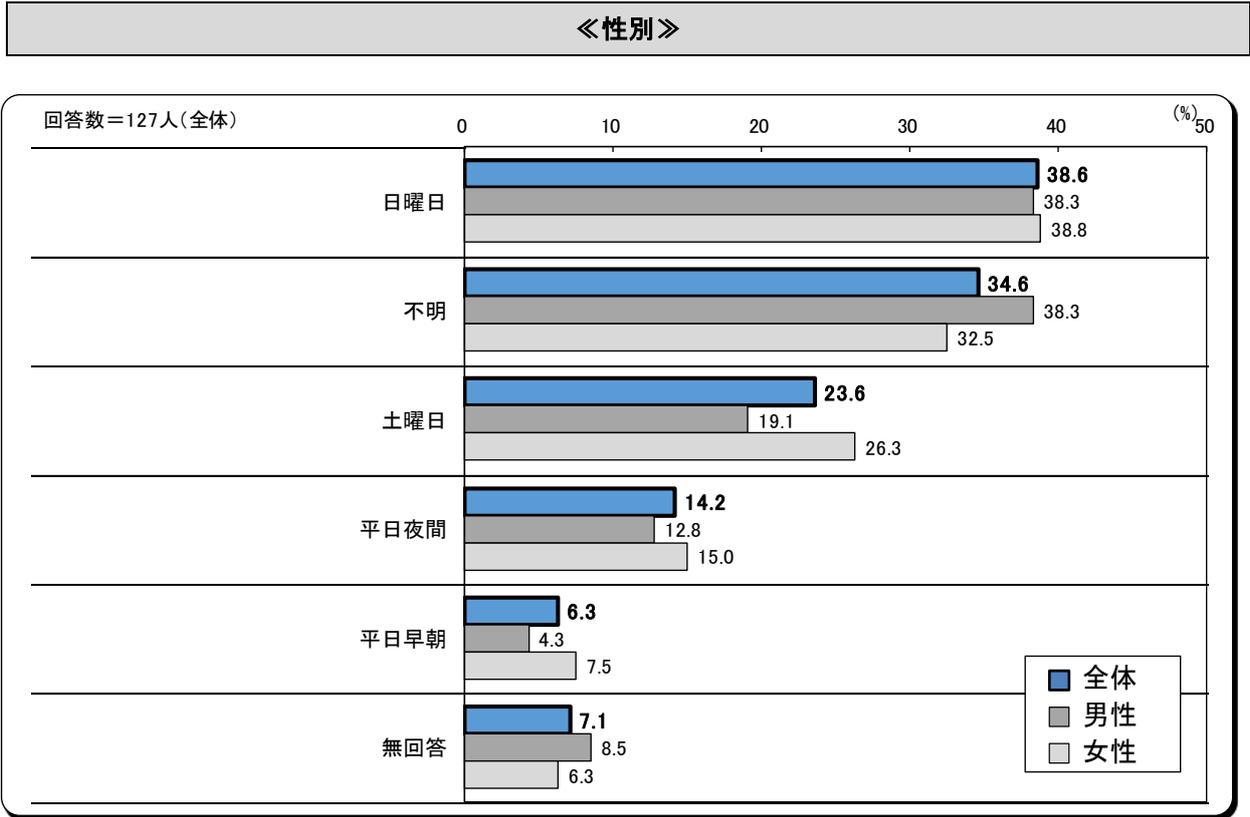
次いで、「不明」が34.6%、「土曜日」が23.6%と続いている。



グラフ単位：(%)

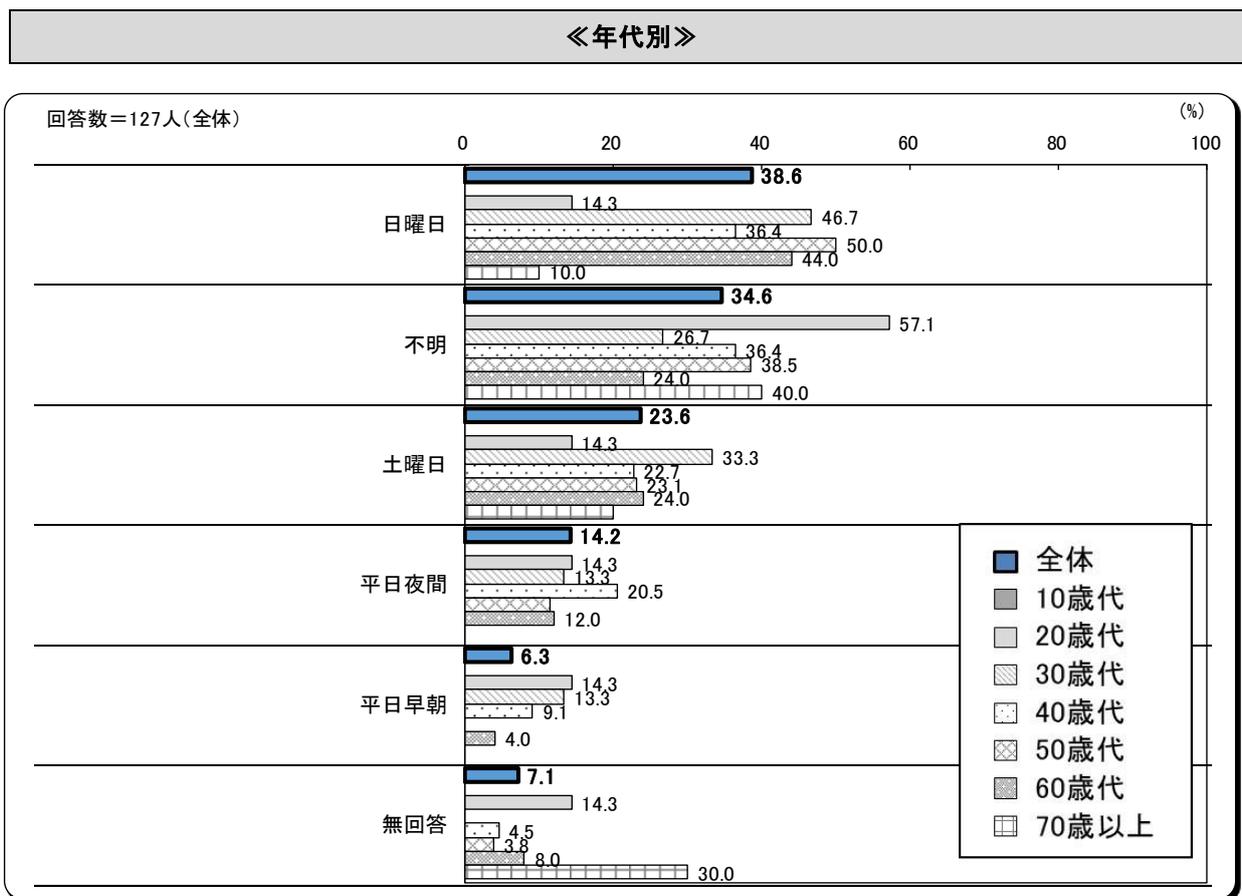
【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向になっている。



【年代別】

20歳代、70歳以上では「不明」が、30歳代、50歳代、60歳代では「日曜日」が、40歳代では同率で「日曜日」と「不明」が最も高くなっている。



(7)がん検診を受けた理由

副問2(問43で「2～6」いずれかひとつ以上選んだ方のみお答えください。)がん検診を受けた理由をお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「がん予防、早期発見・早期治療につなげたいから」が57.8%と1位になっている。

次いで、「がん検診の対象年齢だから」が32.8%、「職場の健診に含まれていたから」が32.3%と続いている。

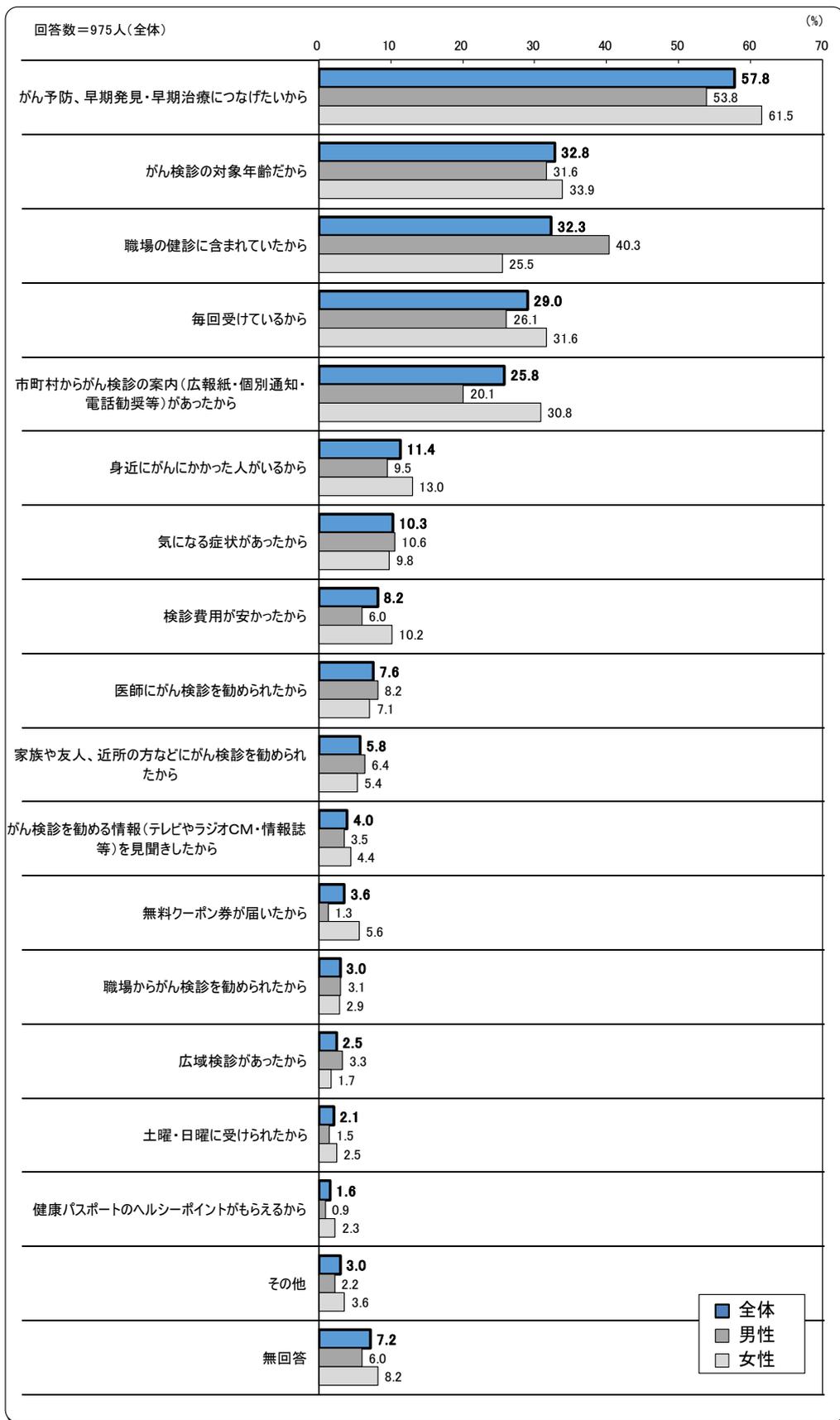
《総合》		
		回答数
全体	100.0	975人
がん予防、早期発見・早期治療につなげたいから	57.8	564人
がん検診の対象年齢だから	32.8	320人
職場の健診に含まれていたから	32.3	315人
毎回受けているから	29.0	283人
市町村からがん検診の案内(広報紙・個別通知・電話勧奨等)があったから	25.8	252人
身近にがんにかかった人がいるから	11.4	111人
気になる症状があったから	10.3	100人
検診費用が安かったから	8.2	80人
医師にがん検診を勧められたから	7.6	74人
家族や友人、近所の方などにがん検診を勧められたから	5.8	57人
がん検診を勧める情報(テレビやラジオCM・情報誌等)を見聞きしたから	4.0	39人
無料クーポン券が届いたから	3.6	35人
職場からがん検診を勧められたから	3.0	29人
広域検診があったから	2.5	24人
土曜・日曜に受けられたから	2.1	20人
健康パスポートのヘルシーポイントがもらえるから	1.6	16人
その他	3.0	29人
無回答	7.2	70人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「がん予防、早期発見・早期治療につなげたいから」が最も高く、次いで、男性では「職場の健診に含まれていたから」、「がん検診の対象年齢だから」が、女性では「がん検診の対象年齢だから」、「毎回受けているから」と続いている。

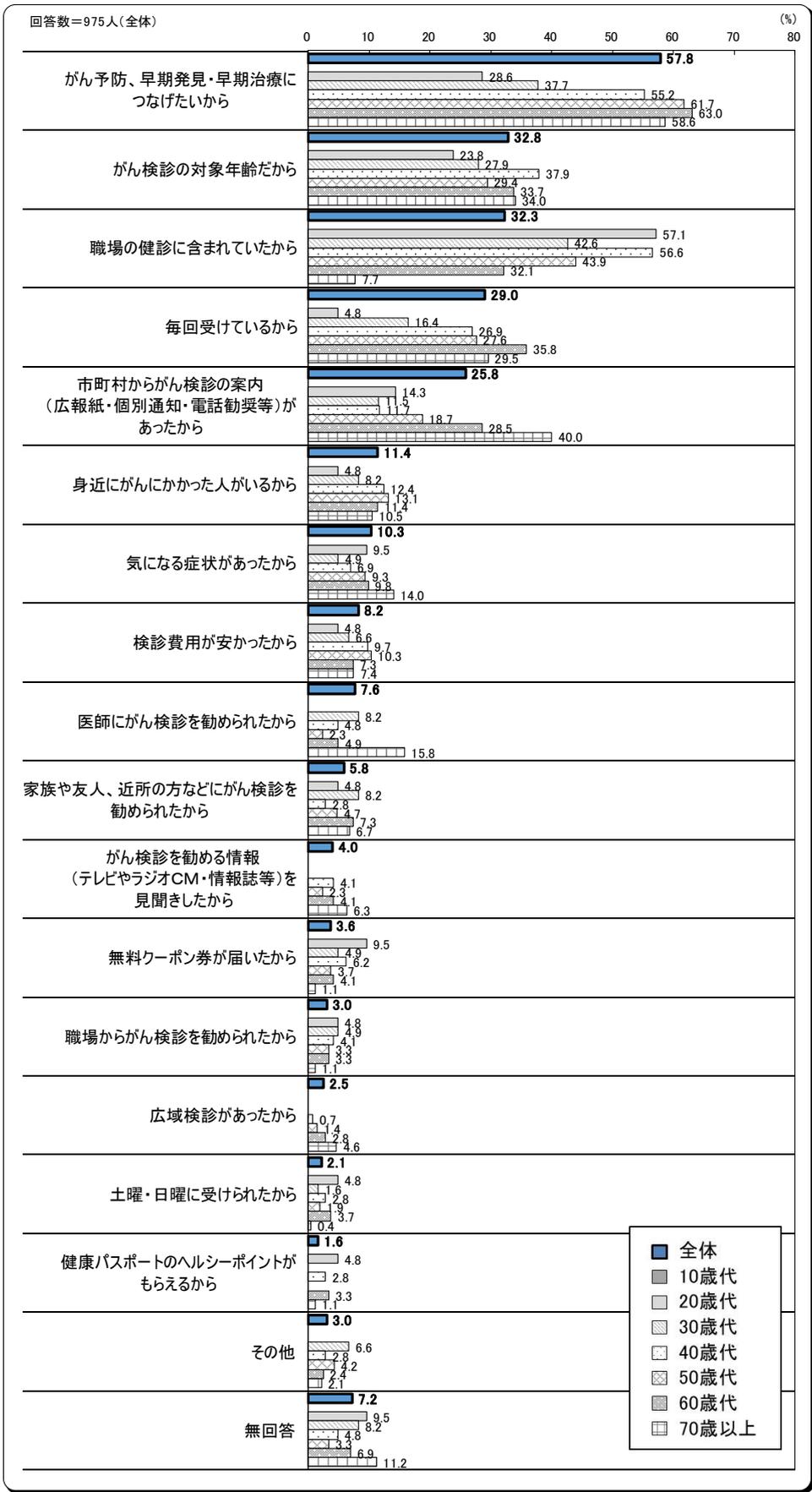
◀性別▶



【年代別】

20歳代、30歳代、40歳代では「職場の健診に含まれていたから」が、50歳代、60歳代、70歳以上では「がん予防、早期発見・早期治療につなげたいから」が最も高くなっている。

《年代別》



6. 高知県の文化振興について

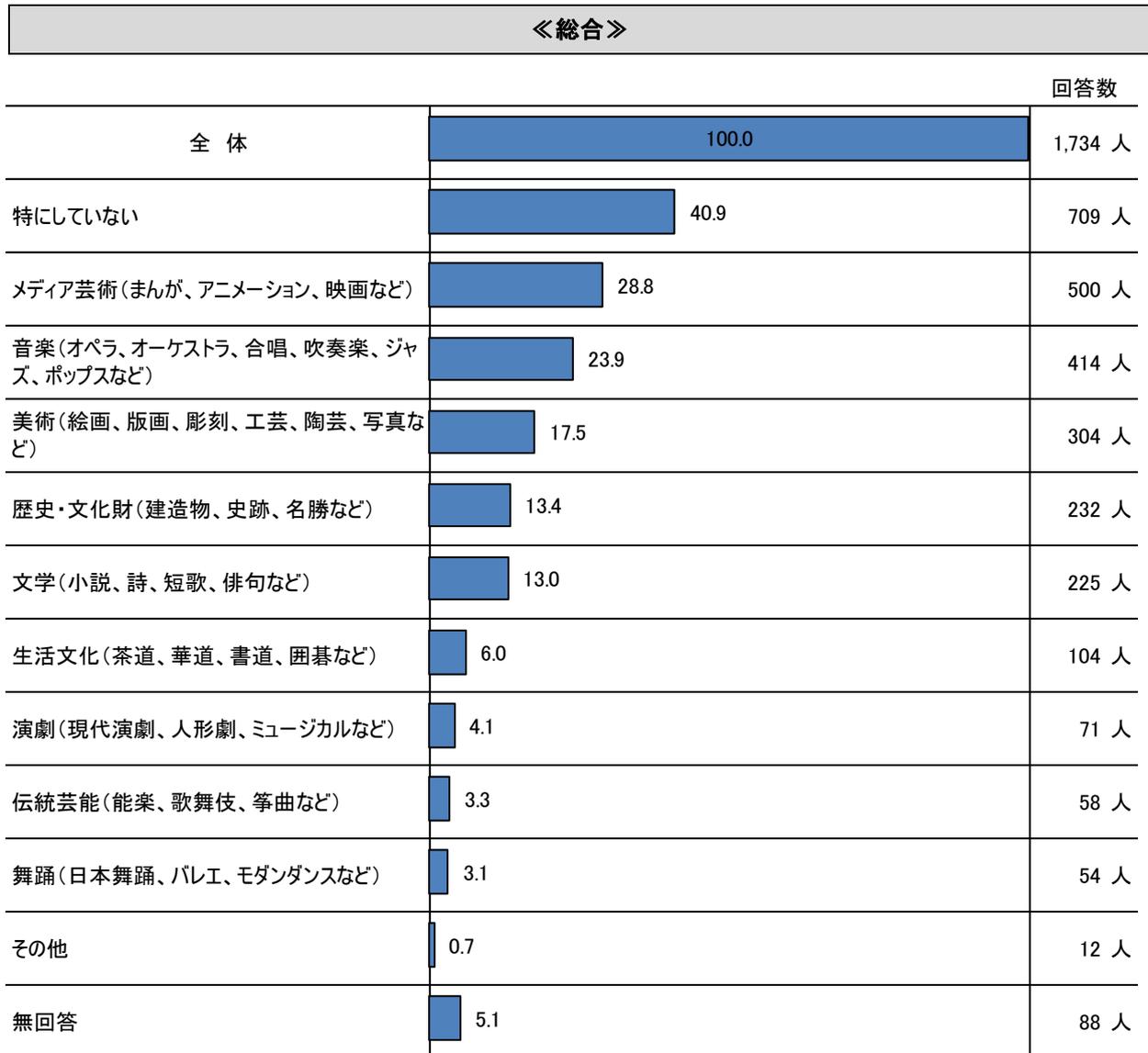
(1)文化芸術活動の取り組み状況

問 44 日ごろどのような文化芸術活動に取り組んだり、鑑賞等されていますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「特にしていない」が40.9%と1位になっている。

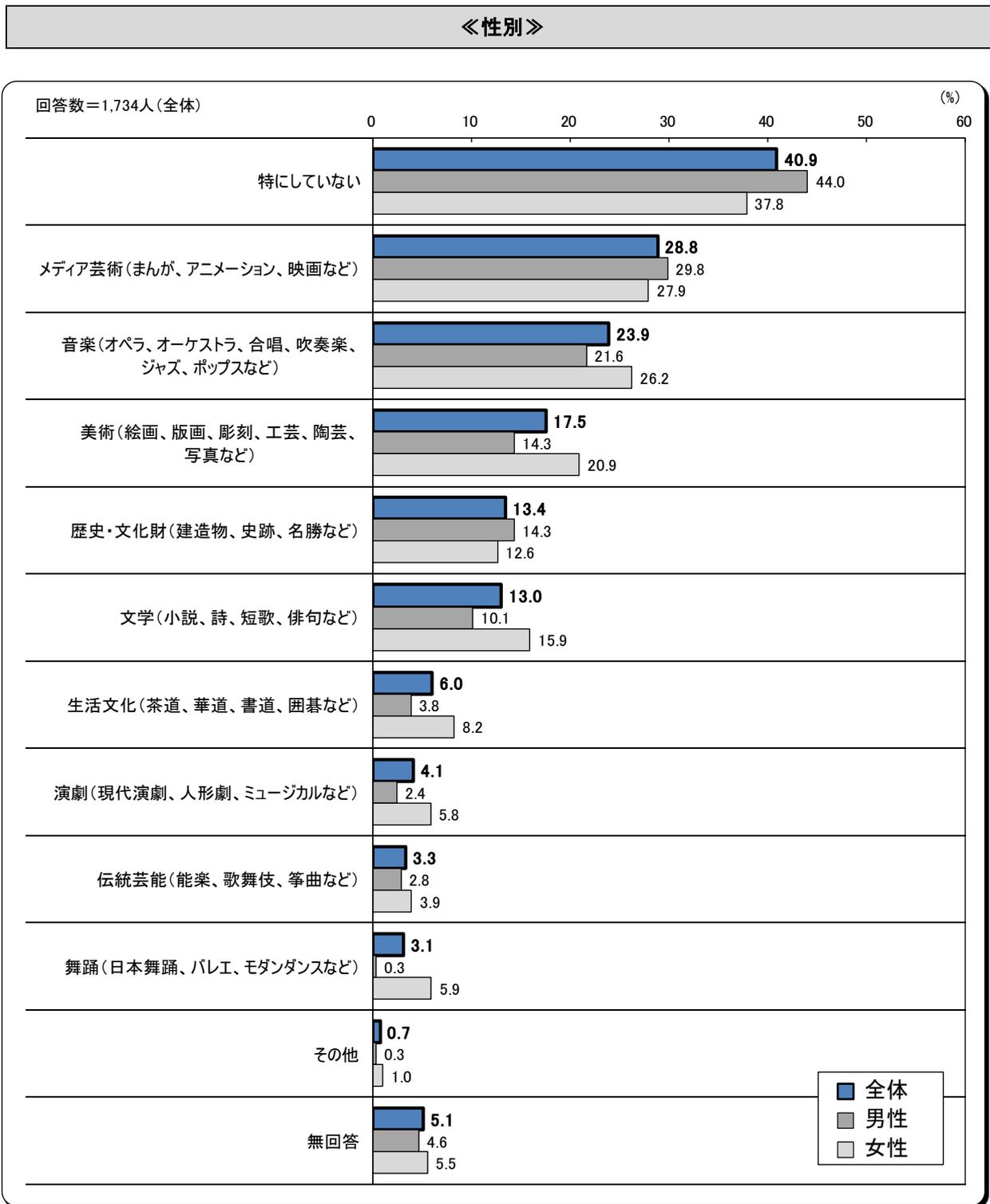
次いで、「メディア芸術（まんが、アニメーション、映画など）」が28.8%、「音楽（オペラ、オーケストラ、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップスなど）」が23.9%と続いている。



グラフ単位：(%)

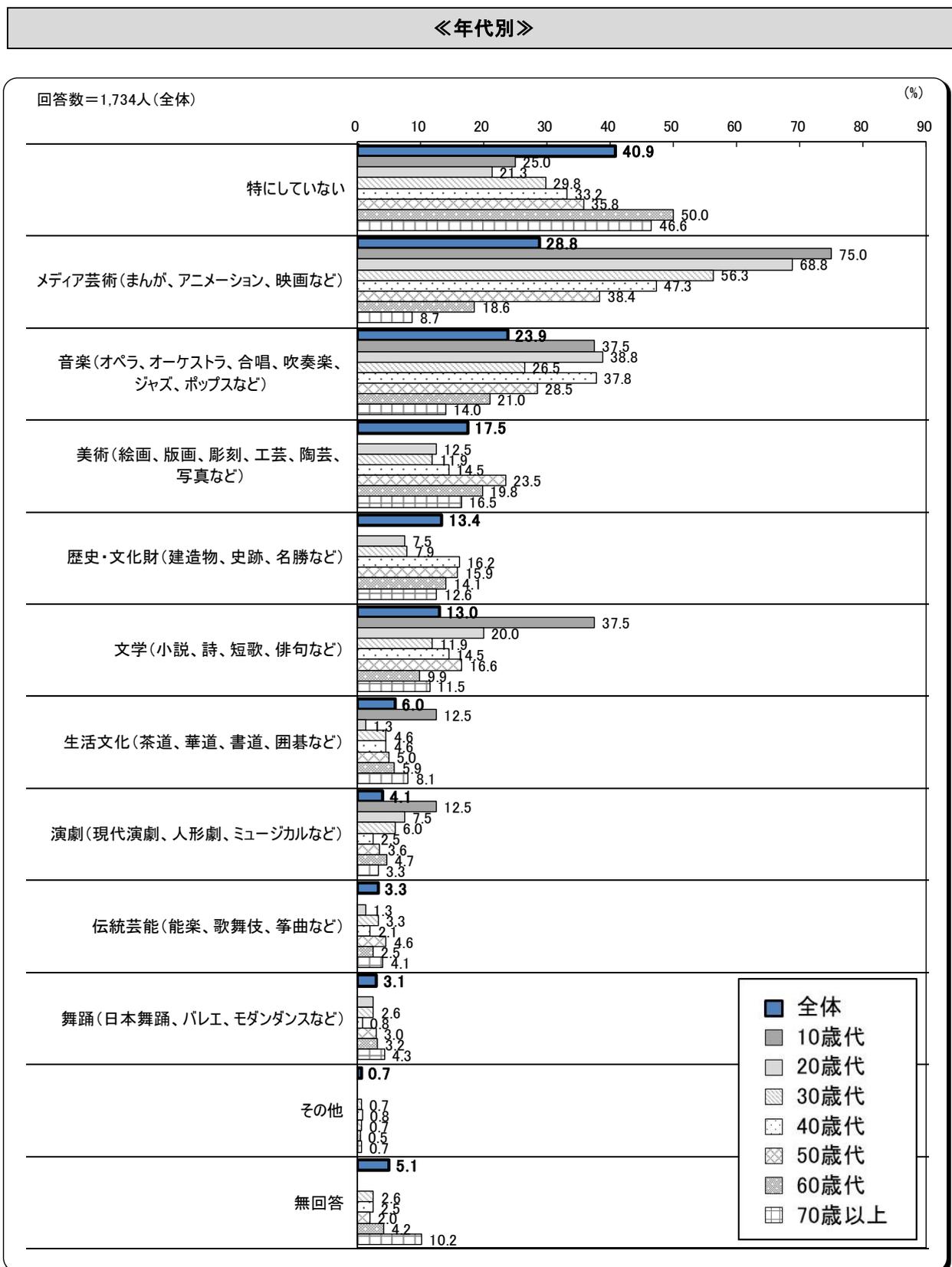
【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「メディア芸術（まんが、アニメーション、映画など）」が最も高く、60歳代、70歳以上では「特にしていない」が最も高くなっている。



(2) 発信していきたい高知の文化芸術

問 45 今後、国内外に発信していきたい高知の文化芸術は何だと思えますか。(2つまで○印)

【総合】

「よさこい祭り」が61.0%と1位になっている。

次いで、「食文化（皿鉢料理、おきやく等）」が44.9%、「お遍路文化」が25.9%と続いている。

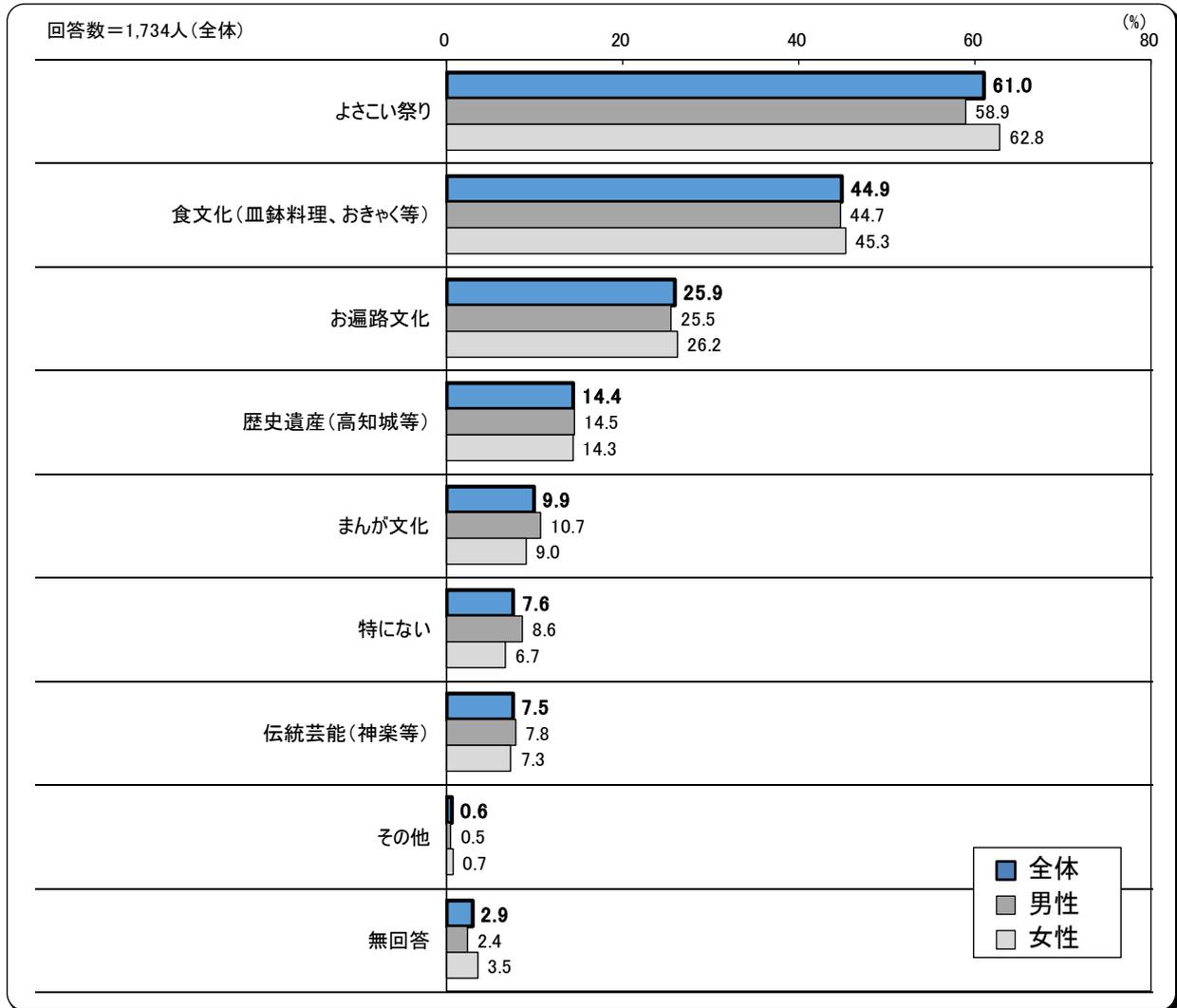
《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,734 人
よさこい祭り	61.0	1,057 人
食文化(皿鉢料理、おきやく等)	44.9	779 人
お遍路文化	25.9	449 人
歴史遺産(高知城等)	14.4	249 人
まんが文化	9.9	171 人
特にない	7.6	132 人
伝統芸能(神楽等)	7.5	130 人
その他	0.6	10 人
無回答	2.9	51 人

グラフ単位：(%)

【性別】

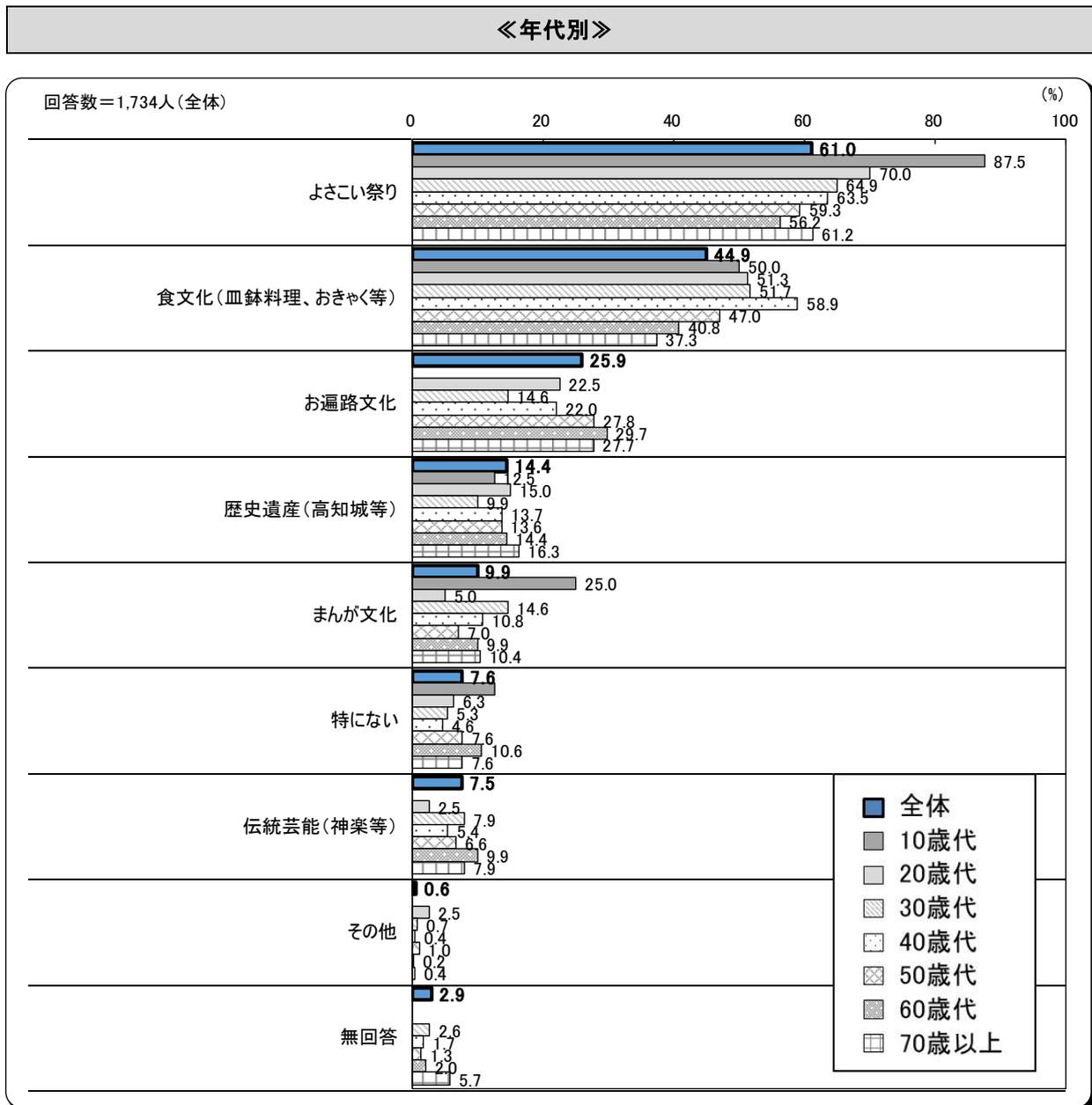
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「よさこい祭り」が半数を超えて最も高くなっている。



(3)高知の文化芸術の振興で期待すること

問 46 高知の文化芸術の振興を図ることにより社会にもたらされる効果として期待することは何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「地域社会・経済の活性化」が61.9%と1位になっている。

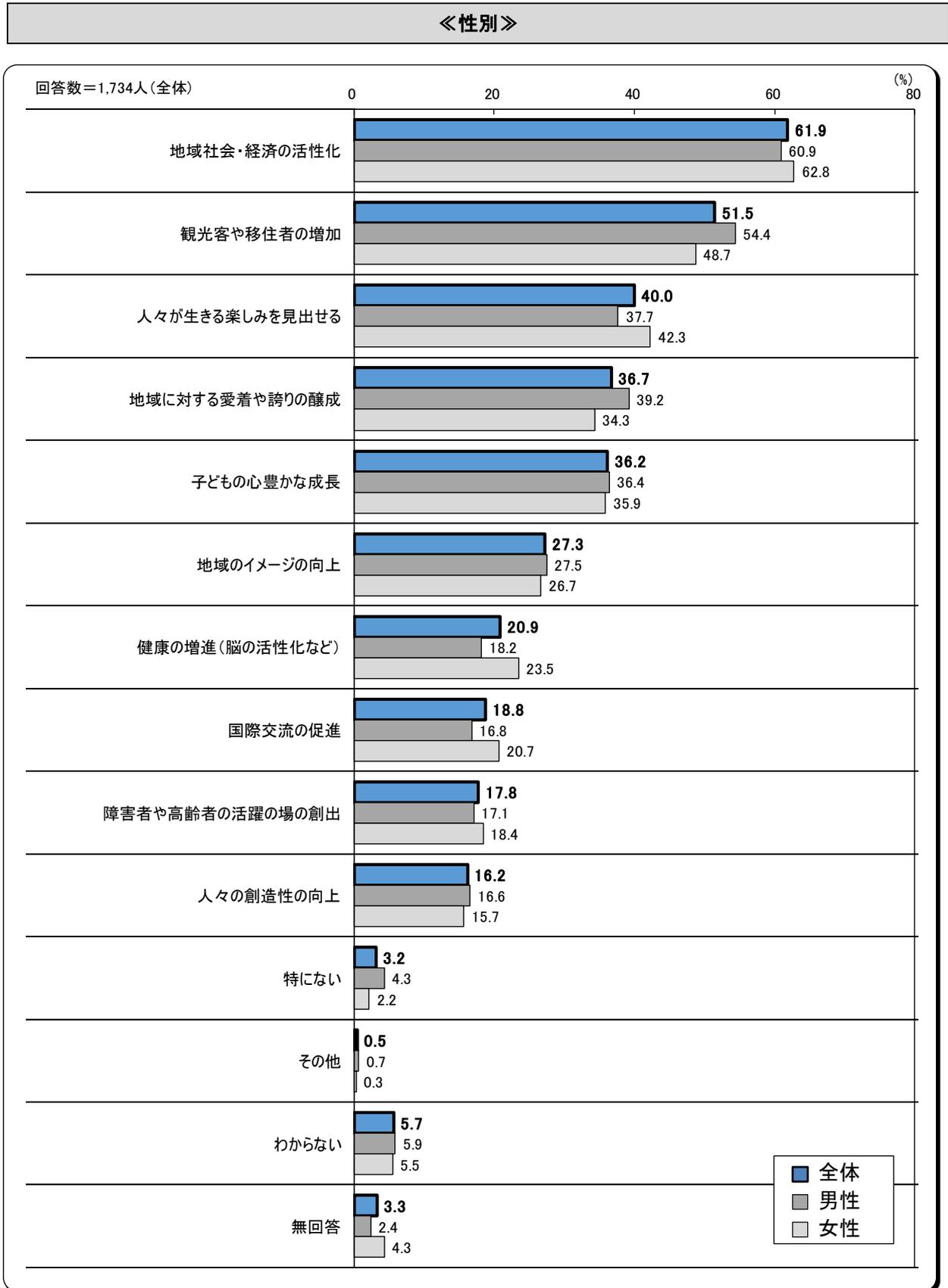
次いで、「観光客や移住者の増加」が51.5%、「人々が生きる楽しみを見出せる」が40.0%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,734 人
地域社会・経済の活性化	61.9	1,073 人
観光客や移住者の増加	51.5	893 人
人々が生きる楽しみを見出せる	40.0	693 人
地域に対する愛着や誇りの醸成	36.7	637 人
子どもの心豊かな成長	36.2	627 人
地域のイメージの向上	27.3	473 人
健康の増進(脳の活性化など)	20.9	363 人
国際交流の促進	18.8	326 人
障害者や高齢者の活躍の場の創出	17.8	308 人
人々の創造性の向上	16.2	281 人
特にない	3.2	56 人
その他	0.5	9 人
わからない	5.7	99 人
無回答	3.3	58 人

グラフ単位:(%)

【性別】

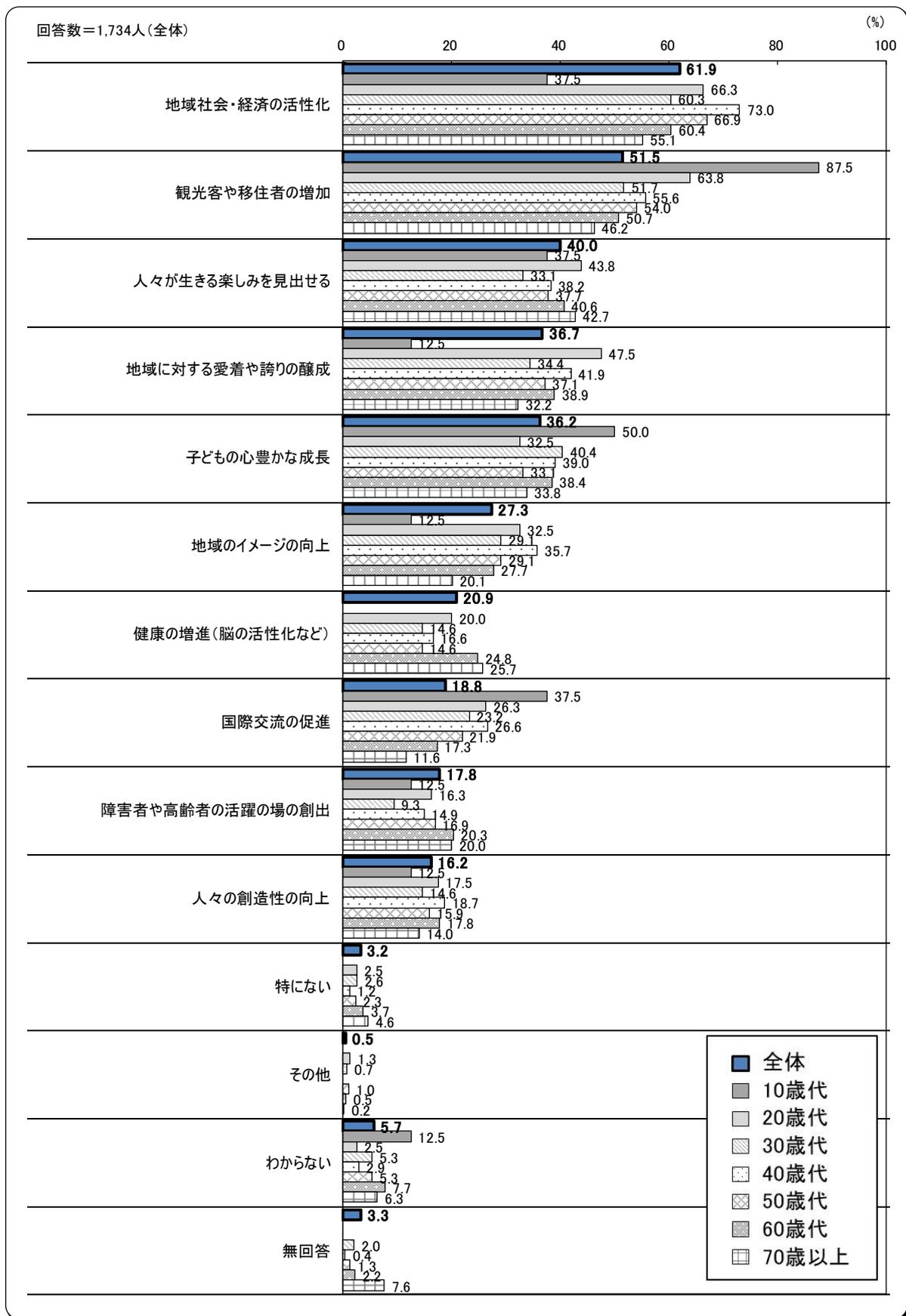
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「地域社会・経済の活性化」が半数を超えて最も高く、10歳代では「観光客や移住者の増加」が最も高くなっている。

《年代別》



【問 46×問 44 のクロス分析】

「日ごろどのような文化芸術活動に取り組んだり、鑑賞等されていますか。」という質問に対し、「高知の文化芸術の復興を図ることにより社会にもたらされる効果として期待することは何ですか。」について見ると、日ごろ取り組んでいる文化芸術活動に関わらず、「地域社会・経済の活性化」が高く、「その他」では「健康の増進（脳の活性化など）」が最も高くなっている。

《問 46×問 44 のクロス分析》

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)		
		地域社会・経済の活性化	観光客や移住者の増加	人々が生きる楽しみを見出せる	地域に対する愛着や誇りの醸成	子どもの心豊かな成長	地域のイメージの向上	健康の増進（脳の活性化など）	国際交流の促進	障害者や高齢者の活躍の場の創出	人々の創造性の向上	特にない	その他	わからない	無回答	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)																
全体		1,734 100.0	1,073 61.9	893 51.5	693 40.0	637 36.7	627 36.2	473 27.3	363 20.9	326 18.8	308 17.8	281 16.2	56 3.2	9 0.5	99 5.7	58 3.3
日 ご ろ 文 化 取 組 み 活 動	音楽	414	72.7	60.4	52.9	50.2	45.9	34.3	27.8	26.6	24.6	24.4	1.7	1.0	1.7	0.7
	美術	304	68.4	60.9	51.6	49.3	49.7	32.6	30.6	24.7	26.0	27.3	2.0	1.6	1.0	0.7
	演劇	71	73.2	69.0	69.0	54.9	56.3	49.3	39.4	31.0	32.4	35.2	-	2.8	2.8	-
	舞踊	54	70.4	50.0	63.0	40.7	42.6	27.8	37.0	16.7	29.6	18.5	3.7	1.9	-	-
	文学	225	71.6	56.9	53.3	52.0	49.3	36.0	29.8	27.1	27.6	25.3	1.3	0.9	2.2	-
	メディア芸術	500	70.0	61.0	44.2	46.2	42.2	36.0	20.0	27.4	21.8	20.2	1.4	0.6	2.8	0.6
	生活文化	104	70.2	53.8	59.6	51.9	47.1	31.7	32.7	22.1	26.0	28.8	1.9	1.0	1.0	1.9
	伝統芸能	58	74.1	62.1	62.1	53.4	60.3	44.8	39.7	36.2	32.8	29.3	-	1.7	-	-
	歴史・文化財	232	69.0	62.1	49.1	55.6	48.7	33.6	26.7	26.3	25.9	27.6	2.2	0.9	0.9	0.9
	その他	12	50.0	50.0	58.3	33.3	58.3	33.3	66.7	33.3	33.3	58.3	-	16.7	16.7	-
特にしていない		709	55.9	46.1	32.6	28.6	29.9	23.1	16.8	14.0	13.7	11.3	5.5	0.3	11.1	1.7

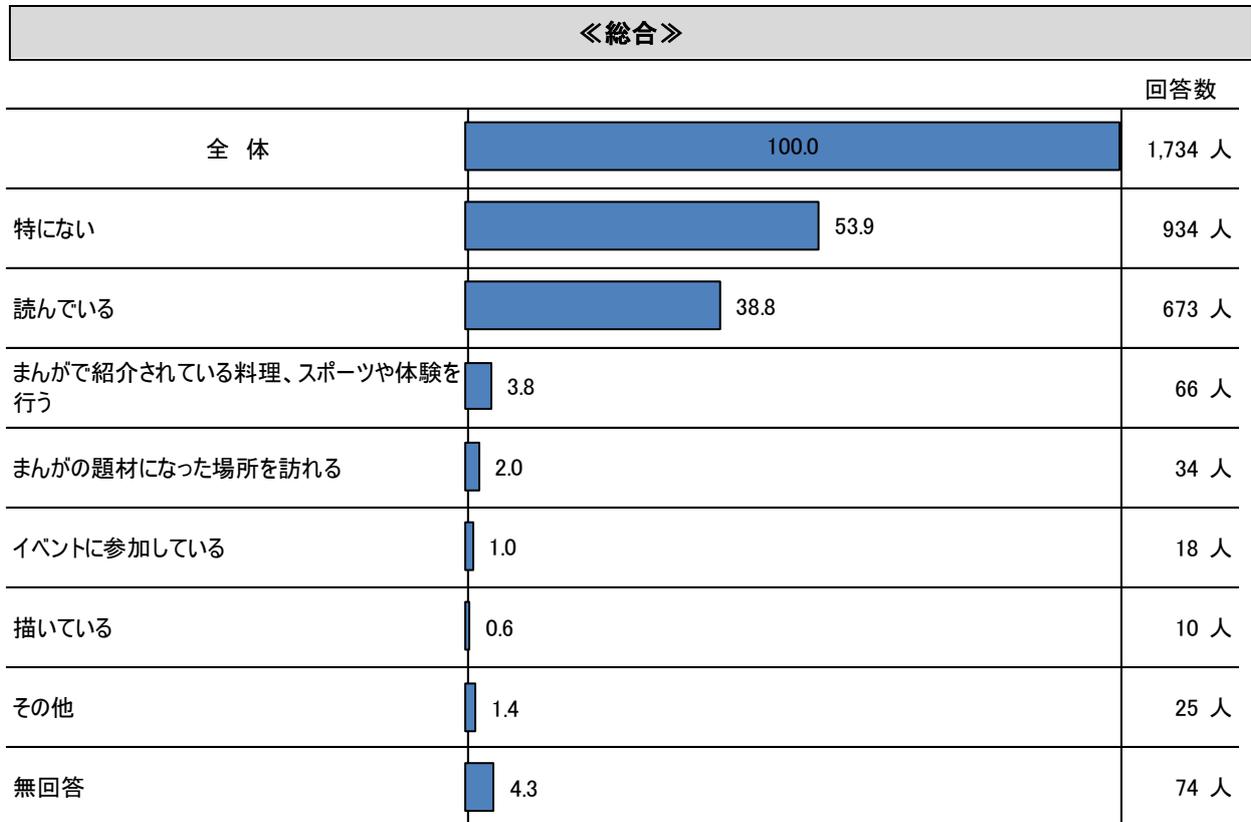
(4)まんが文化

問 47 あなたは、まんが文化にどのように親しんでいますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「特にない」が53.9%と1位になっている。

次いで、「読んでいる」が38.8%と続いている。

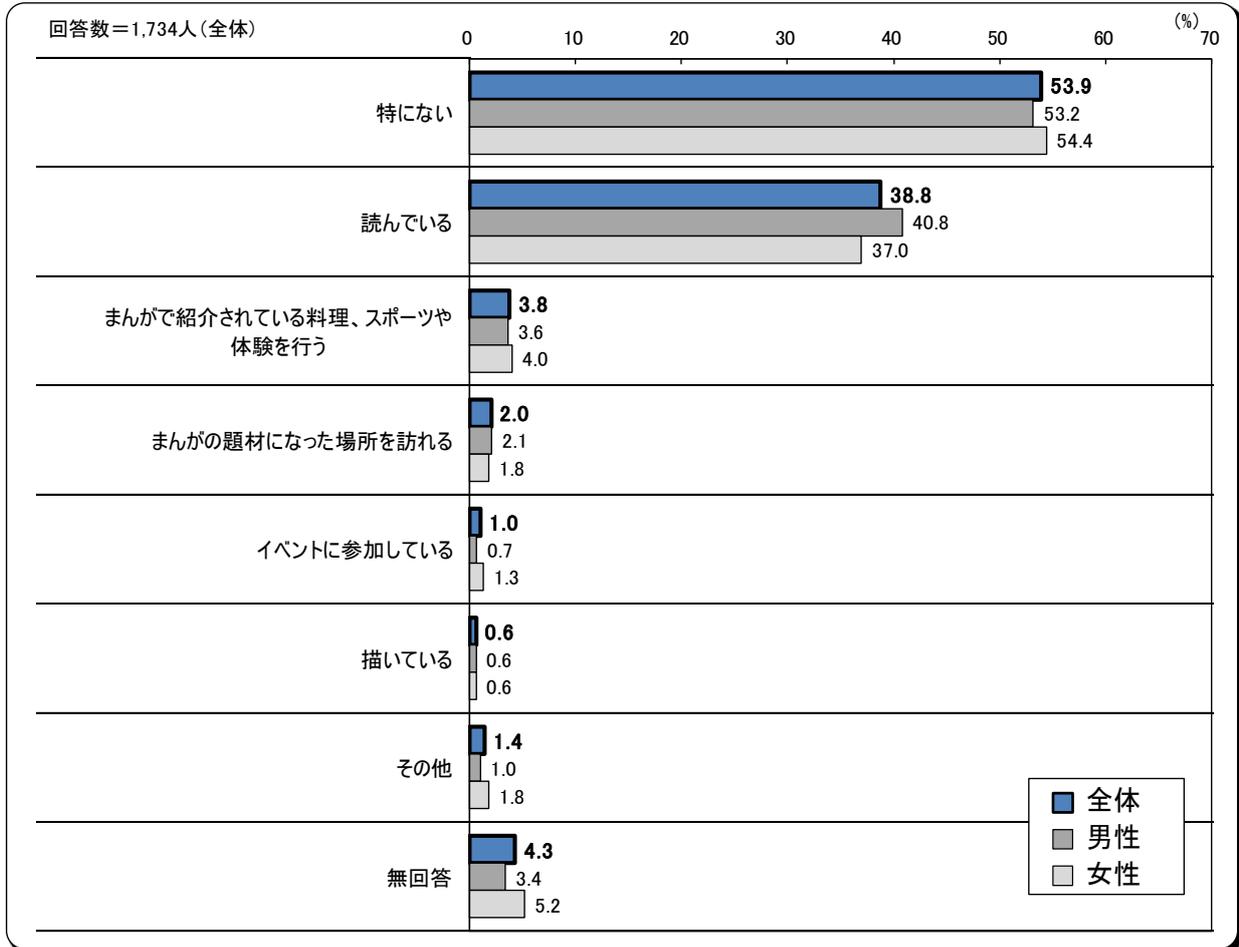


グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている

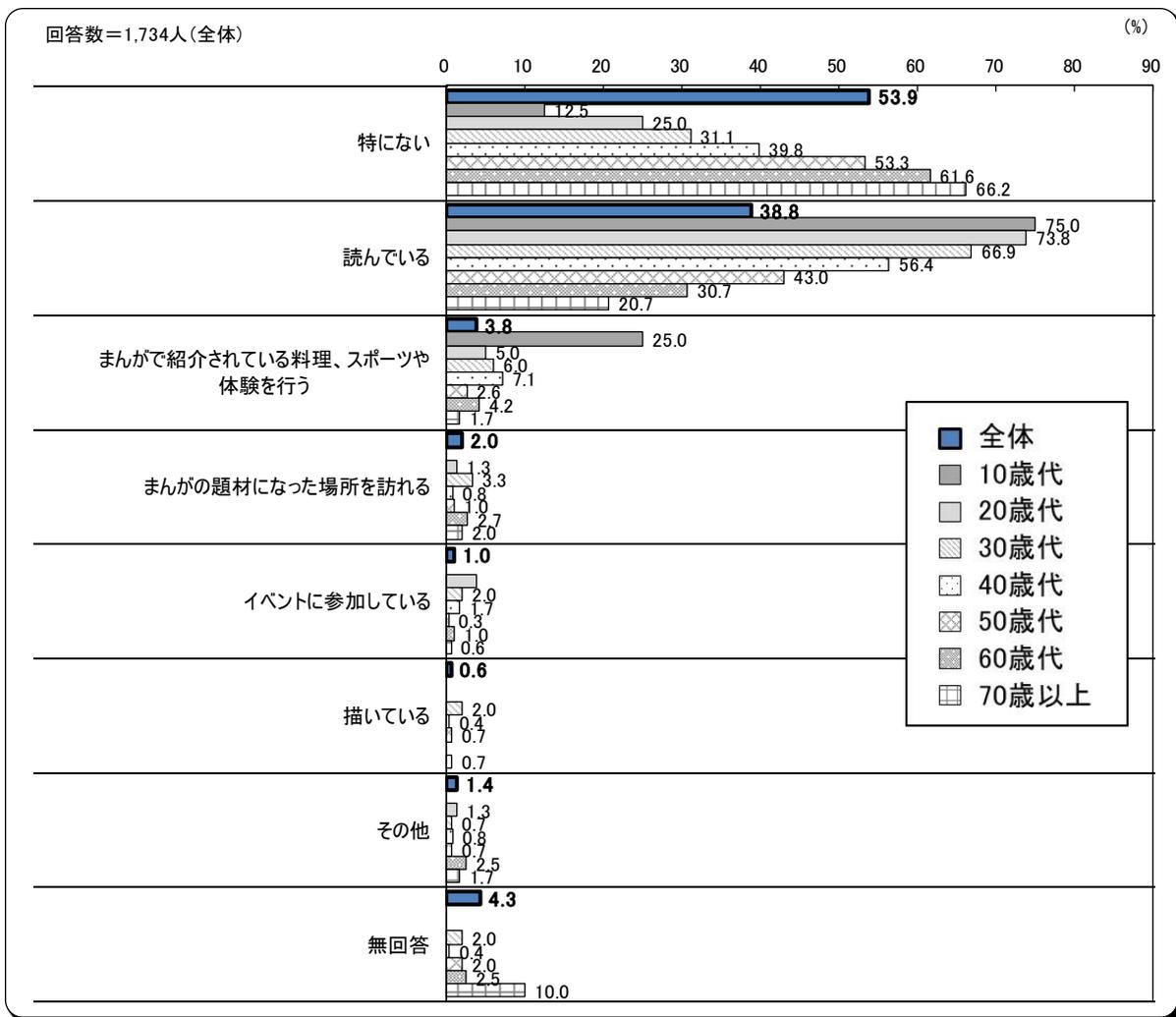
◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代では「読んでいる」が最も高く、50歳代、60歳代、70歳以上では「特にない」が最も高くなっている。

《年代別》



【問47×問44のクロス分析】

「日ごろどのような文化芸術活動に取り組んだり、鑑賞等されていますか。」という質問に対し、「あなたは、まんが文化にどのように親しんでいますか。」について見ると、「音楽」、「美術」、「演劇」、「文学」、「メディア芸術」、「伝統芸能」、「歴史・文化財」、「その他」では「読んでいる」が、「舞踊」、「生活文化」では「特にない」が最も高くなっている。

《問47×問44のクロス分析》

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		全体	特にない	読んでいる	ポ ー ツ が や 体 験 を 行 う	ま ん が の 題 材 に な っ た 場 所 を 訪 れ る	イ ベ ン ト に 参 加 し て い る	描 い て い る	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)										
全体		1,734 100.0	934 53.9	673 38.8	66 3.8	34 2.0	18 1.0	10 0.6	25 1.4	74 4.3
日 ご ろ 文 化 取 り 組 み 活 動 中 に い る	音楽	414	39.1	56.8	6.3	2.9	1.9	1.0	1.7	1.2
	美術	304	41.1	50.7	7.9	4.6	2.3	2.3	3.6	1.6
	演劇	71	32.4	57.7	12.7	2.8	5.6	-	5.6	-
	舞踊	54	57.4	31.5	5.6	1.9	1.9	-	3.7	5.6
	文学	225	35.1	60.0	9.3	2.7	1.3	0.9	2.7	-
	メディア芸術	500	26.0	71.0	7.2	3.4	2.6	1.6	1.2	0.4
	生活文化	104	46.2	45.2	4.8	2.9	1.0	-	5.8	2.9
	伝統芸能	58	39.7	50.0	6.9	5.2	-	1.7	5.2	1.7
	歴史・文化財	232	40.9	51.3	7.8	5.6	1.3	1.3	3.4	0.9
	その他	12	41.7	50.0	8.3	16.7	8.3	-	-	8.3
特にしていない		709	74.0	21.7	1.0	1.0	0.1	0.1	1.0	2.1

7. 障害者スポーツ振興について

(1) 障害者スポーツへの参加状況

問 48 この1年間で障害者スポーツにどのような形で参加しましたか(「みる」「する」「ささえる」のいずれでも可)。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「参加したことがない」が61.5%と1位になっている。

次いで、「テレビやインターネットなどで観戦した」が31.7%、「身近な地域の活動に参加した(「する」「ささえる」のいずれでも可)」が2.2%と続いている。

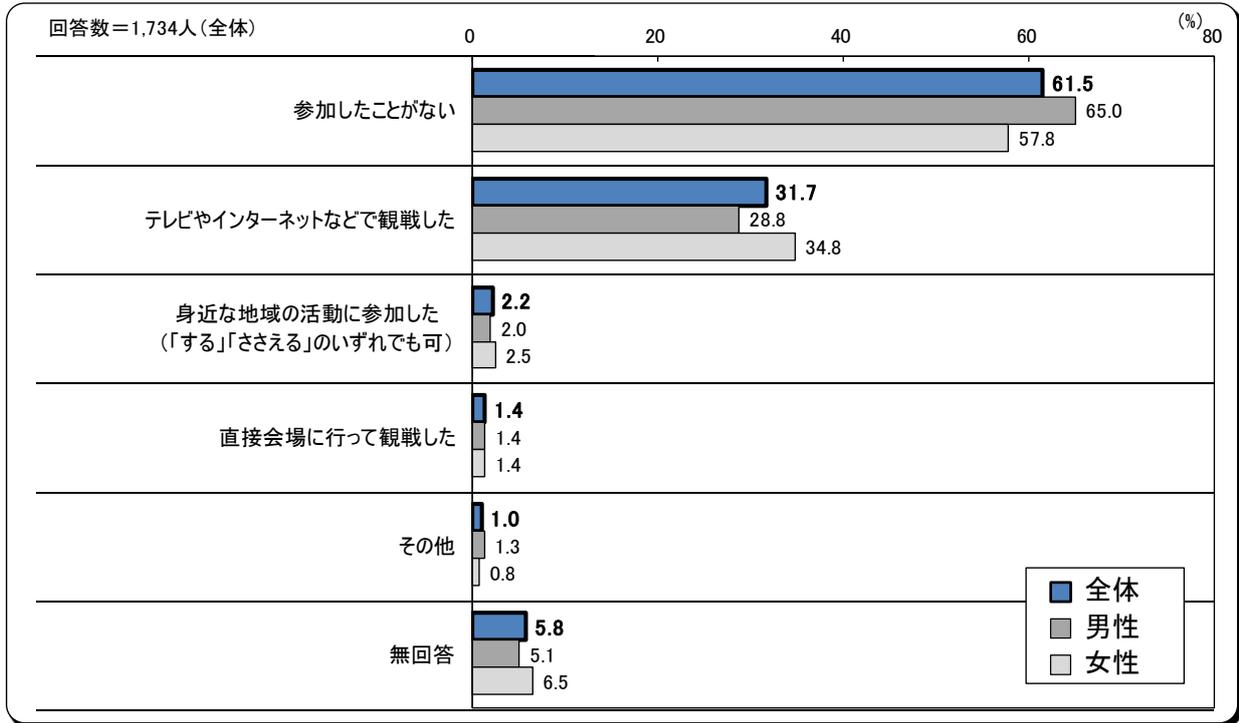
《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,734 人
参加したことがない	61.5	1,066 人
テレビやインターネットなどで観戦した	31.7	550 人
身近な地域の活動に参加した(「する」「ささえる」のいずれでも可)	2.2	39 人
直接会場に行って観戦した	1.4	24 人
その他	1.0	18 人
無回答	5.8	100 人

グラフ単位：(%)

【性別】

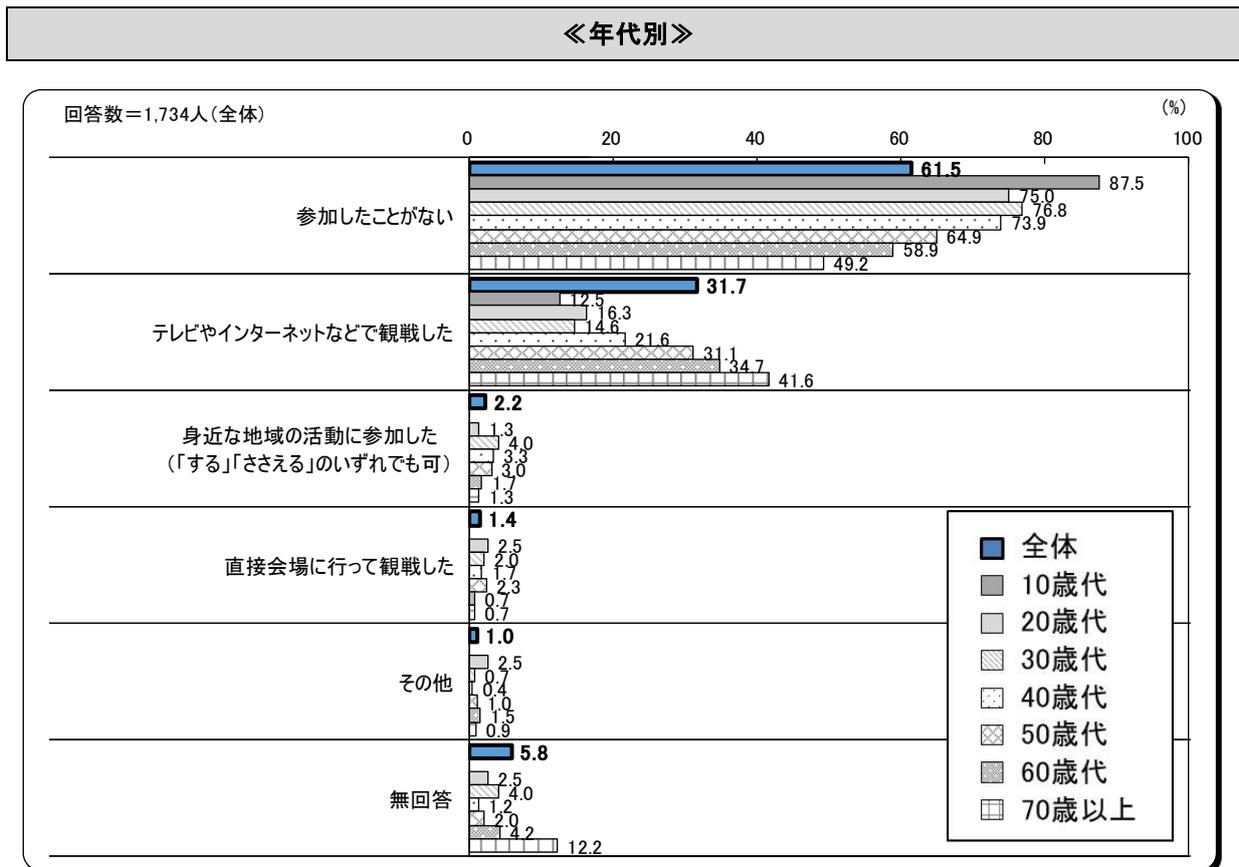
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている

◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「参加したことがない」が最も高くなっている。



(2)障害者スポーツに参加したことがない理由

副問1(問48で「4」を選んだ方のみお答えください。)その理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「関わっている人が身近にいないから」が49.8%と1位になっている。

次いで、「身近な場所で行われていないから」が39.3%、「興味がないから」が31.2%と続いている。

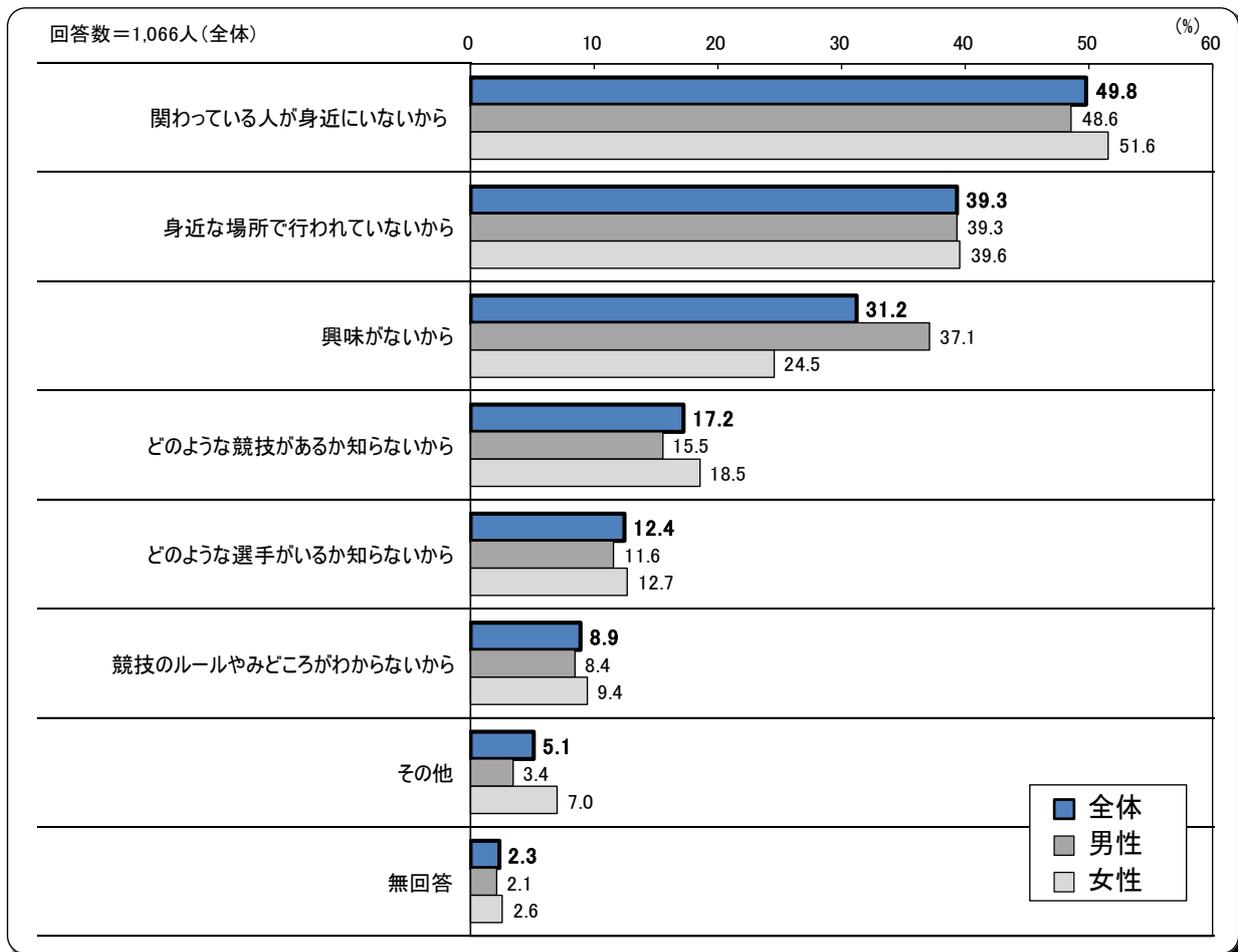
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,066 人
関わっている人が身近にいないから	49.8	531 人
身近な場所で行われていないから	39.3	419 人
興味がないから	31.2	333 人
どのような競技があるか知らないから	17.2	183 人
どのような選手がいるか知らないから	12.4	132 人
競技のルールやみどころがわからないから	8.9	95 人
その他	5.1	54 人
無回答	2.3	25 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

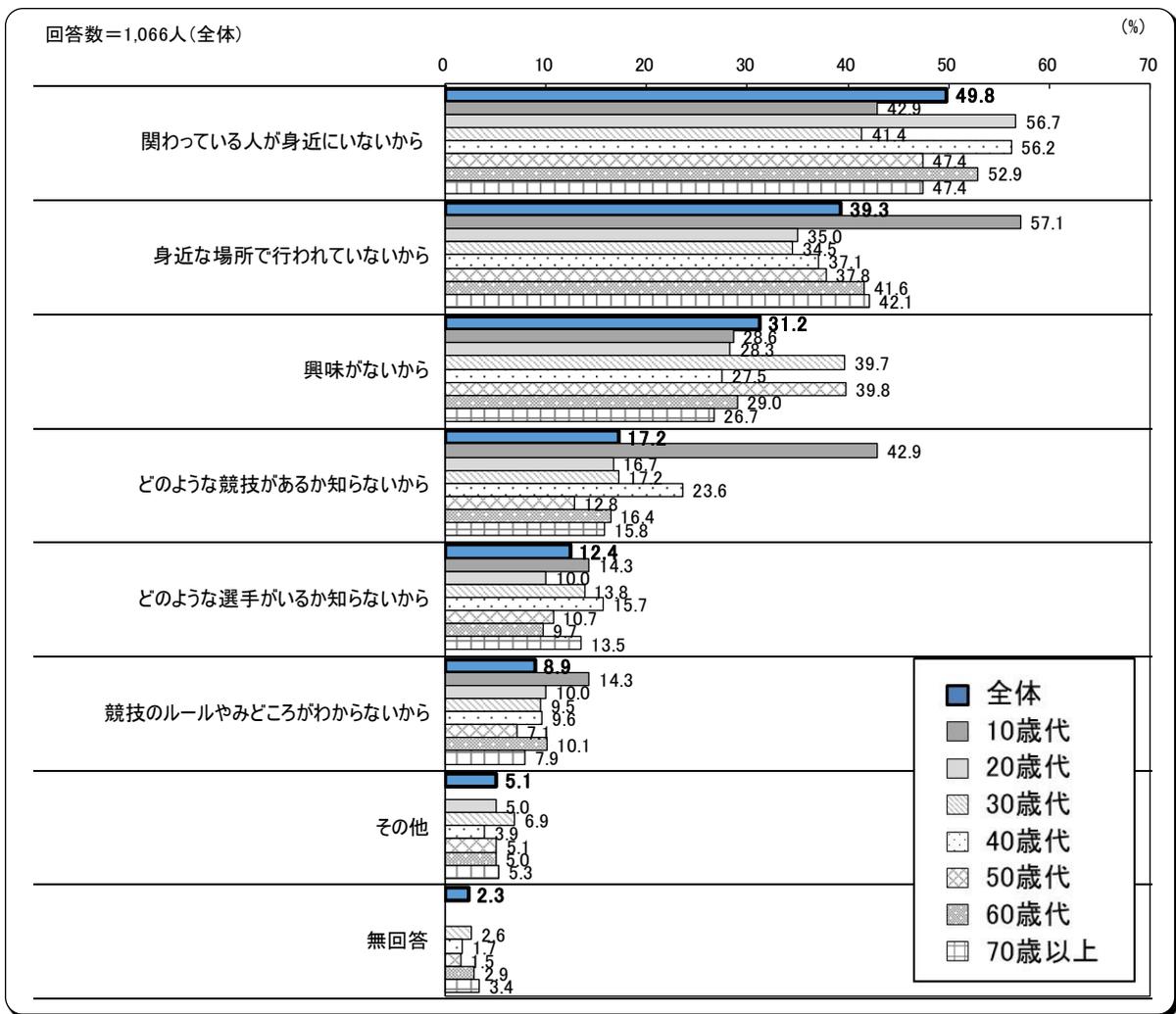
◀性別▶



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「関わっている人が身近にいないから」が最も高く、10歳代では「身近な場所で行われていないから」が最も高くなっている。

《年代別》



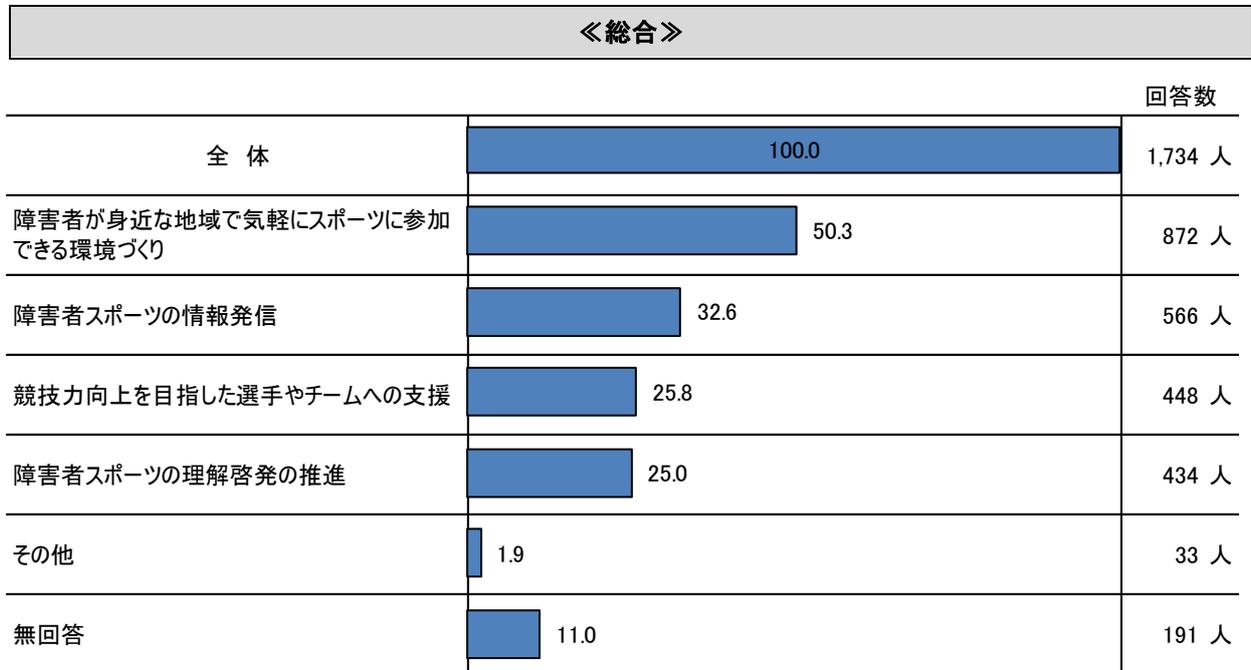
(3)障害者スポーツ活動で県として力を入れるべきもの

問 49 障害者スポーツ活動の充実に向けて、県として力を入れるべきだと思うものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】

「障害者が身近な地域で気軽にスポーツに参加できる環境づくり」が50.3%と1位になっている。

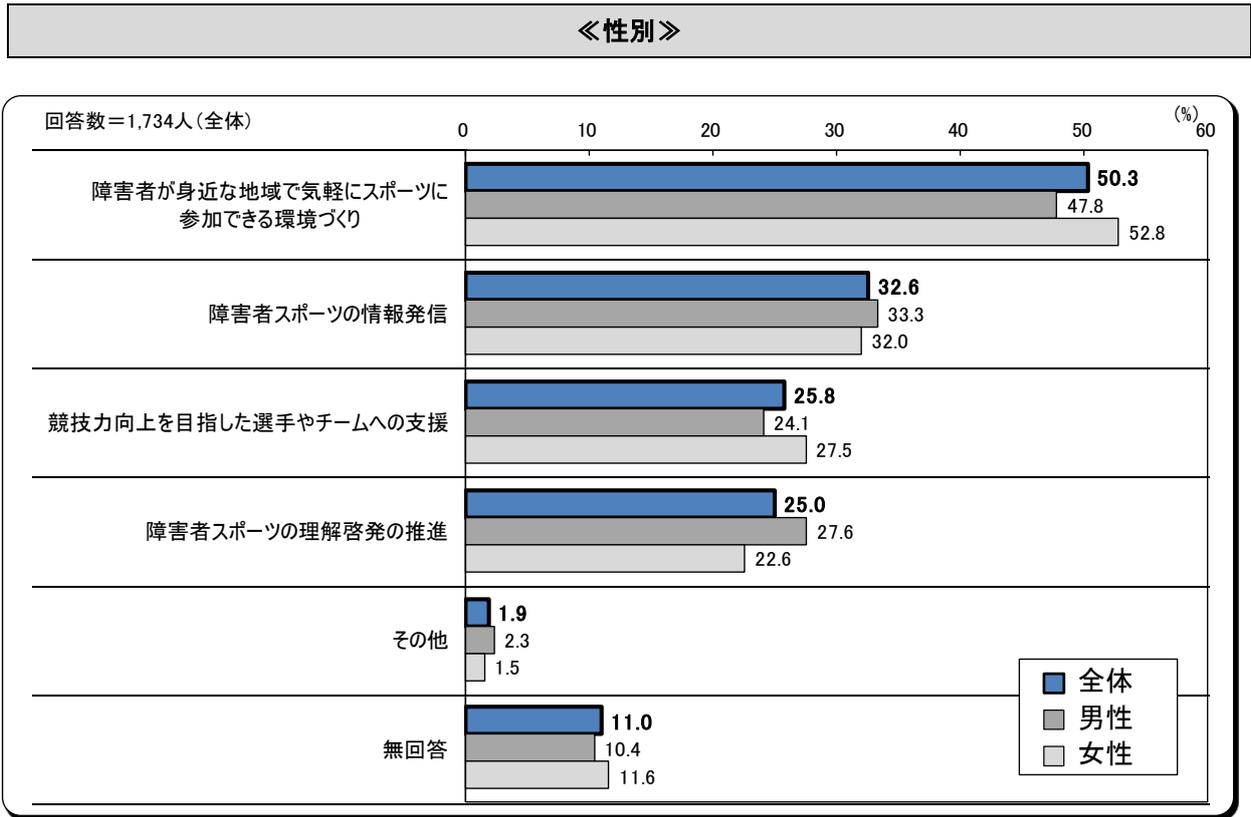
次いで、「障害者スポーツの情報発信」が32.6%、「競技力向上を目指した選手やチームへの支援」が25.8%と続いている。



グラフ単位：(%)

【性別】

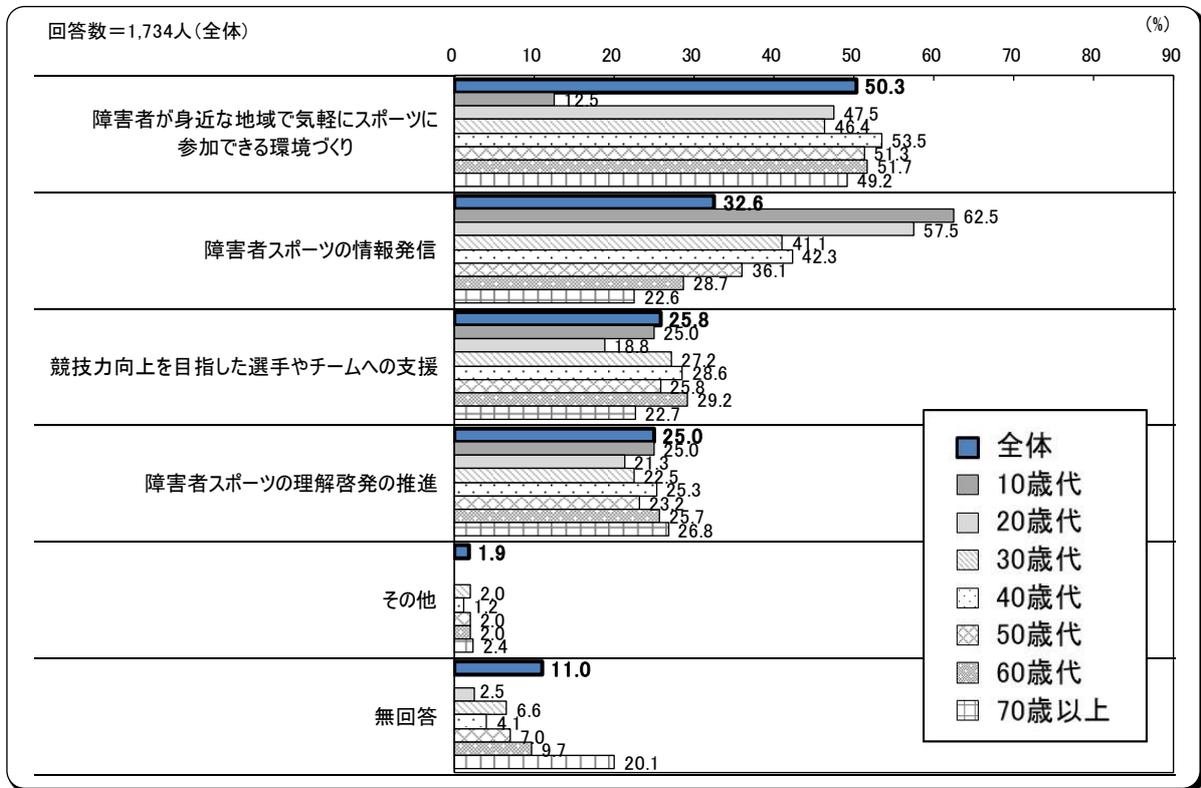
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている



【年代別】

10歳代、20歳代では「障害者スポーツの情報発信」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「障害者が身近な地域で気軽にスポーツに参加できる環境づくり」が最も高くなっている。

《年代別》



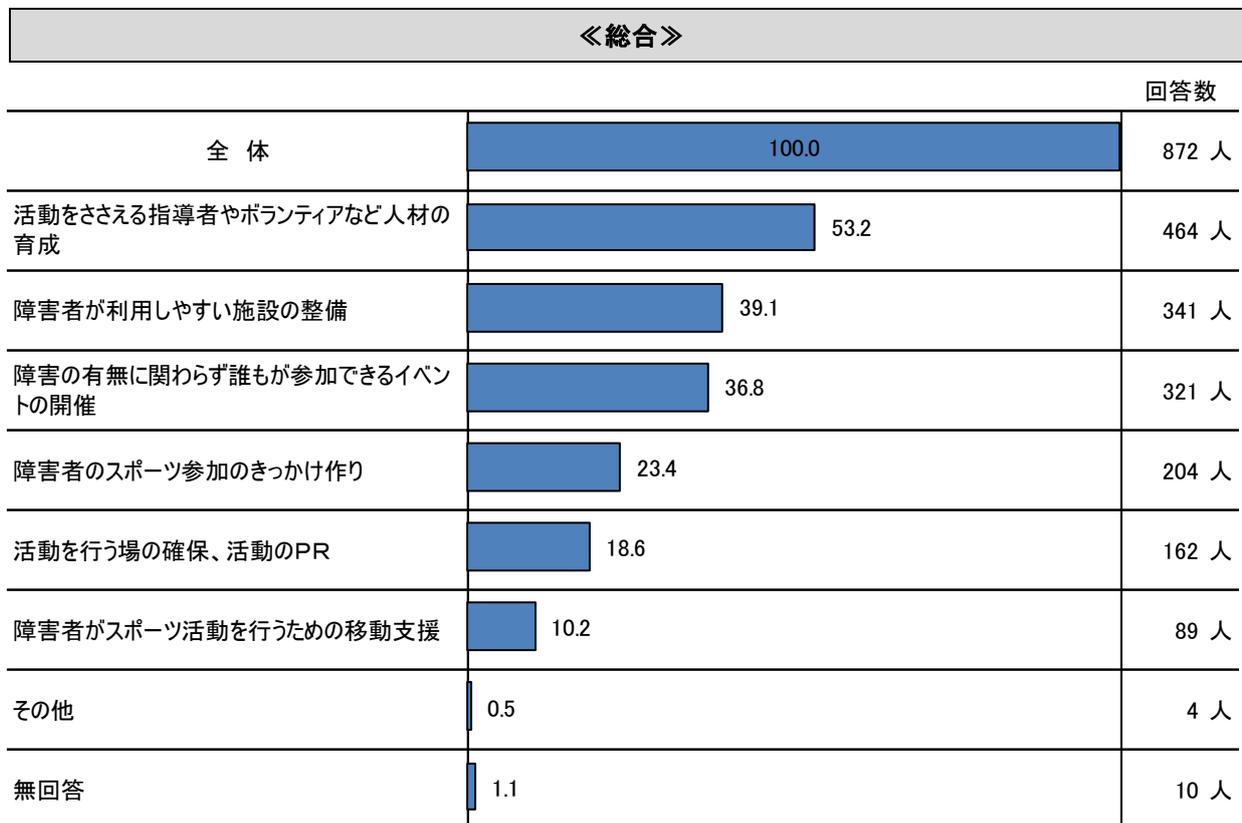
(4)環境づくりで重要なこと

副問1(問 49 で「1」を選んだ方のみお答えください。)
「環境づくり」において重要だと思うものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】

「活動をささえる指導者やボランティアなど人材の育成」が53.2%と1位になっている。

次いで、「障害者が利用しやすい施設の整備」が39.1%、「障害の有無に関わらず誰もが参加できるイベントの開催」が36.8%と続いている。

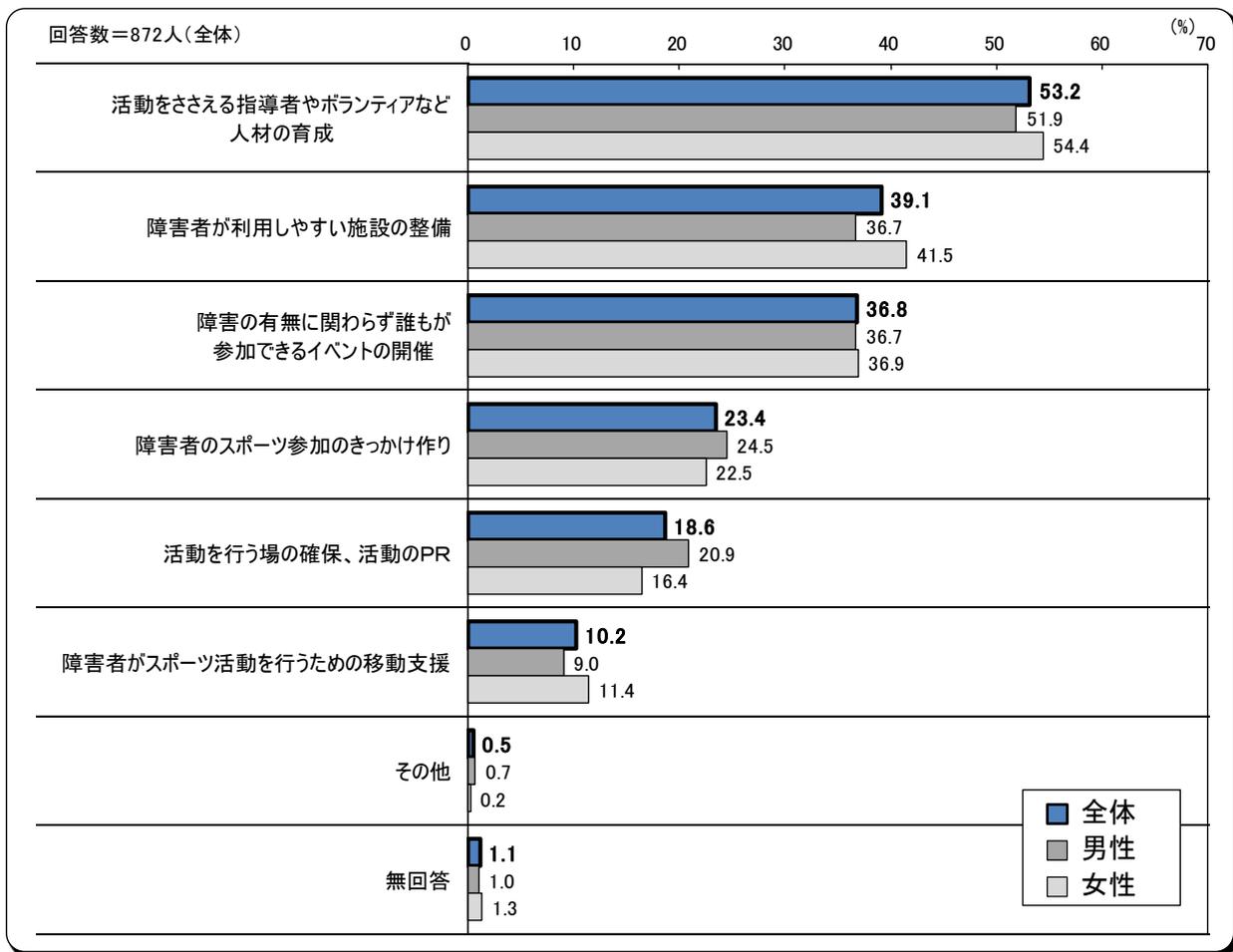


グラフ単位：(%)

【性別】

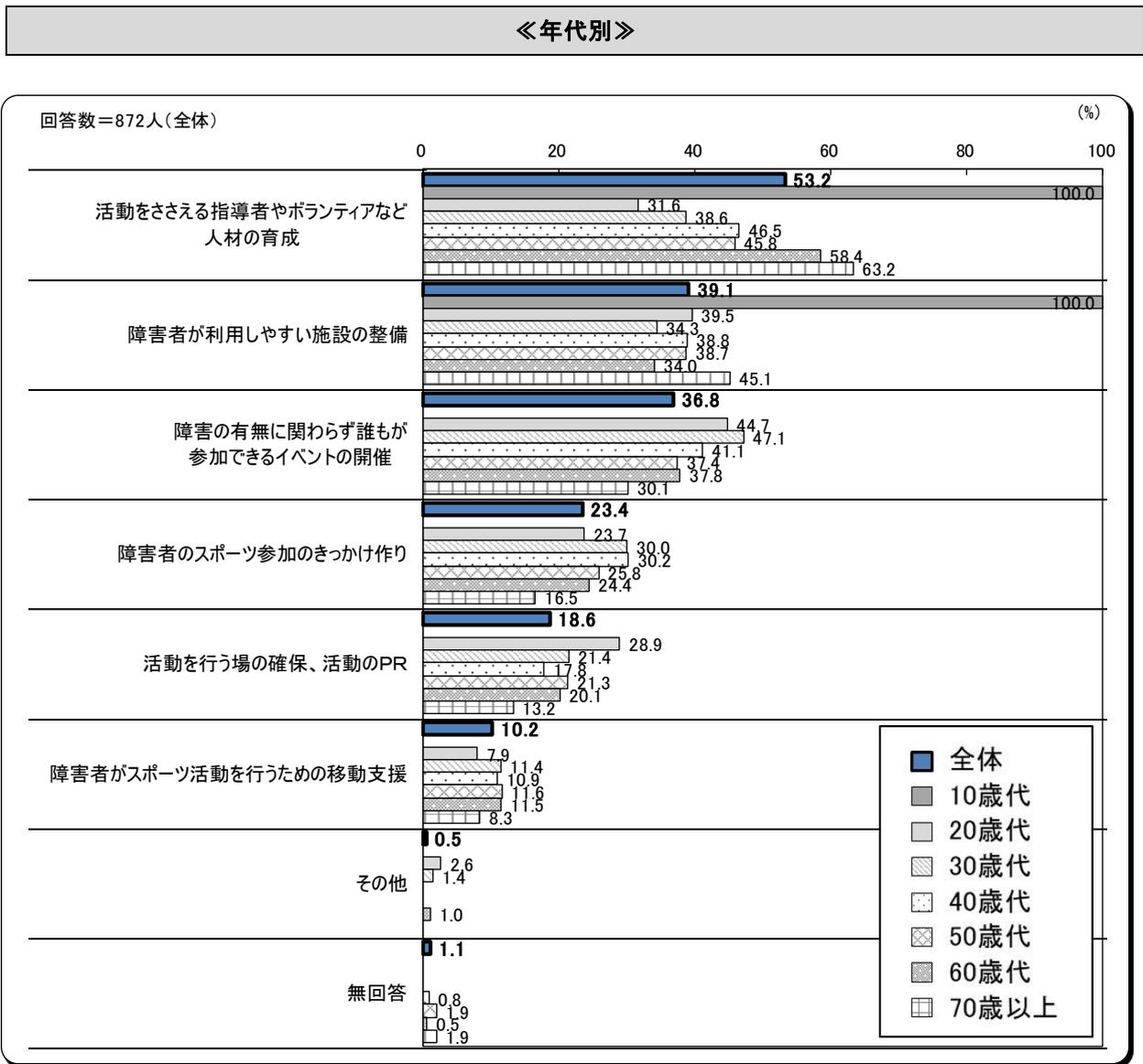
男女ともに「活動をささえる指導者やボランティアなど人材の育成」が最も高く、次いで、男性では同率で「障害者が利用しやすい施設の整備」と「障害の有無に関わらず誰もが参加できるイベントの開催」が、女性では「障害者が利用しやすい施設の整備」、「障害の有無に関わらず誰もが参加できるイベントの開催」と続いている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「活動をささえる指導者やボランティアなど人材の育成」と「障害者が利用しやすい施設の整備」が最も高く、20歳代、30歳代では「障害の有無に関わらず誰もが参加できるイベントの開催」が、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「活動をささえる指導者やボランティアなど人材の育成」が最も高くなっている。



8. 県の広報について

(1) 県の広報活動で知っているもの

問 50 県が行っている次の広報活動で、ご覧になったり、お聴きになったりしたことがあるものはどれですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「県広報紙「さんSUN高知」」が70.1%と1位になっている。

次いで、「テレビ番組「おはようこうち」」が47.9%、「テレビ番組「県民ニュース」」が47.2%と続いている。

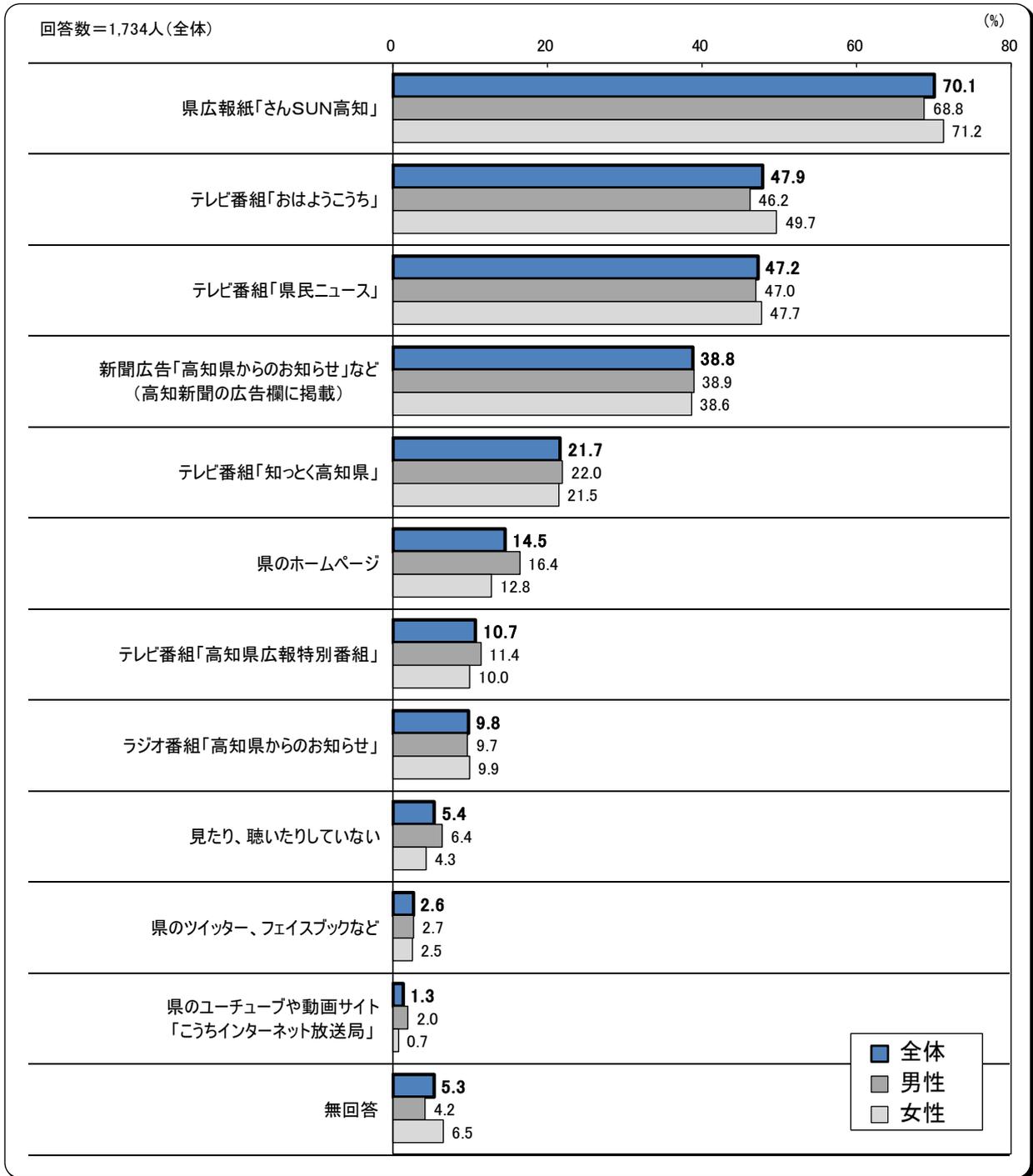
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,734 人
県広報紙「さんSUN高知」	70.1	1,215 人
テレビ番組「おはようこうち」	47.9	831 人
テレビ番組「県民ニュース」	47.2	819 人
新聞広告「高知県からのお知らせ」など(高知新聞の広告欄に掲載)	38.8	672 人
テレビ番組「知っとく高知県」	21.7	377 人
県のホームページ	14.5	252 人
テレビ番組「高知県広報特別番組」	10.7	185 人
ラジオ番組「高知県からのお知らせ」	9.8	170 人
見たり、聴いたりしていない	5.4	94 人
県のツイッター、フェイスブックなど	2.6	45 人
県のユーチューブや動画サイト「こうちインターネット放送局」	1.3	23 人
無回答	5.3	92 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「県広報紙「さんSUN高知」」が最も高く、次いで、男性では「テレビ番組「県民ニュース」」、
「テレビ番組「おはようこうち」」が、女性では「テレビ番組「おはようこうち」」、「テレビ番組「県民ニ
ュース」」と続いている。

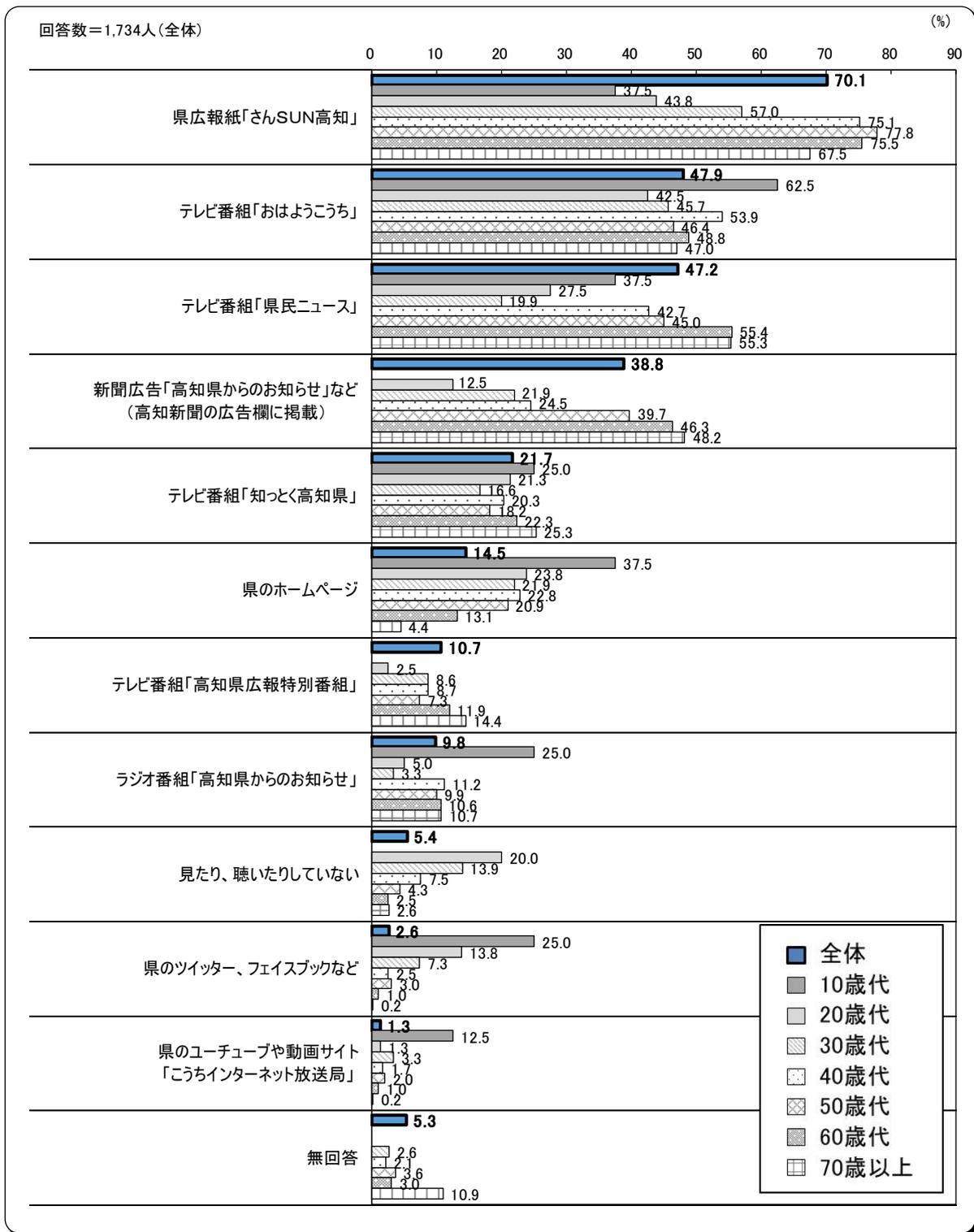
◀性別▶



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「県広報紙「さんSUN高知」」が最も高く、10歳代では「テレビ番組「おはようこうち」」が最も高くなっている。

《年代別》



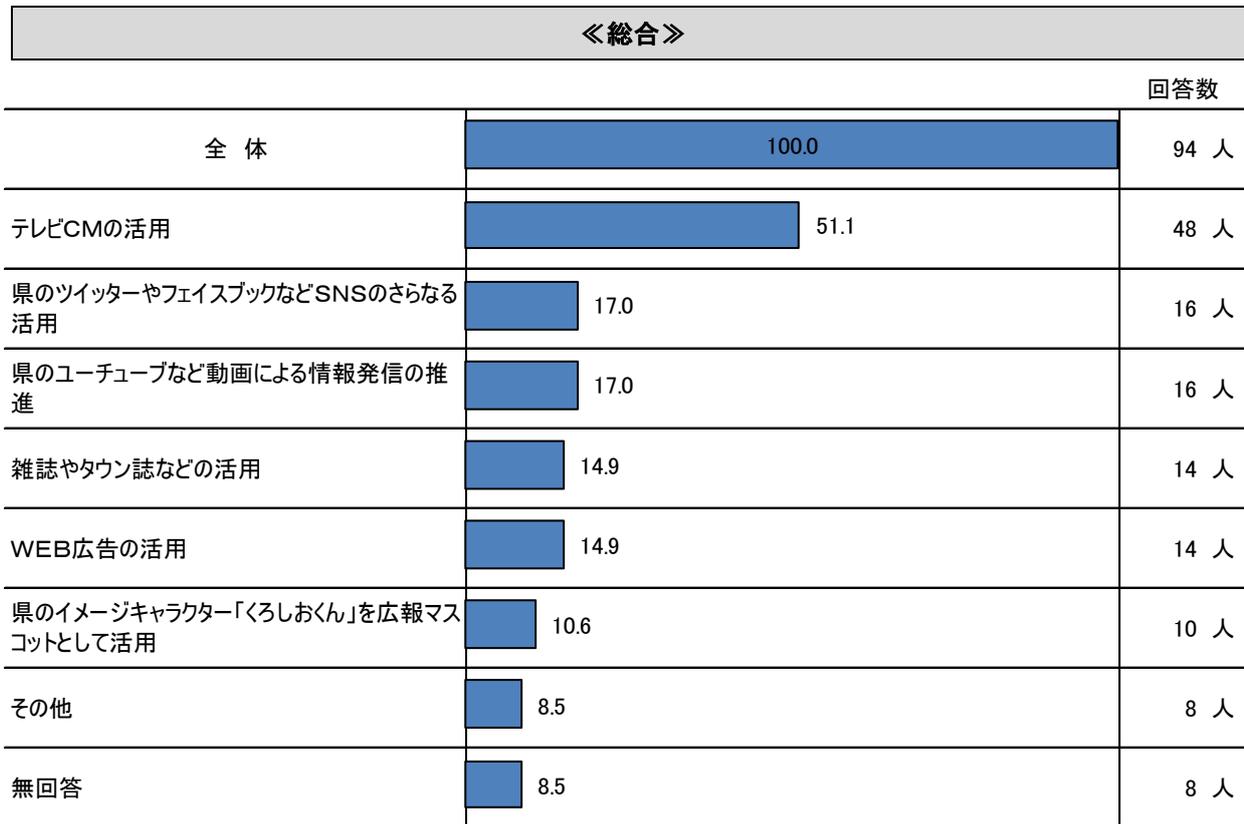
(2)効果的な広報ツール

副問1(問50で「11」を選んだ方のみお答えください。)今後どのような広報ツールを活用すれば県の広報を見たり聴いたりしていただけるようになると思いますか。(2つまで○印)

【総合】

「テレビCMの活用」が51.1%と1位になっている。

次いで、同率で「県のツイッターやフェイスブックなどSNSのさらなる活用」と「県のユーチューブなど動画による情報発信の推進」が17.0%、「雑誌やタウン誌などの活用」と「WEB広告の活用」が14.9%と続いている。

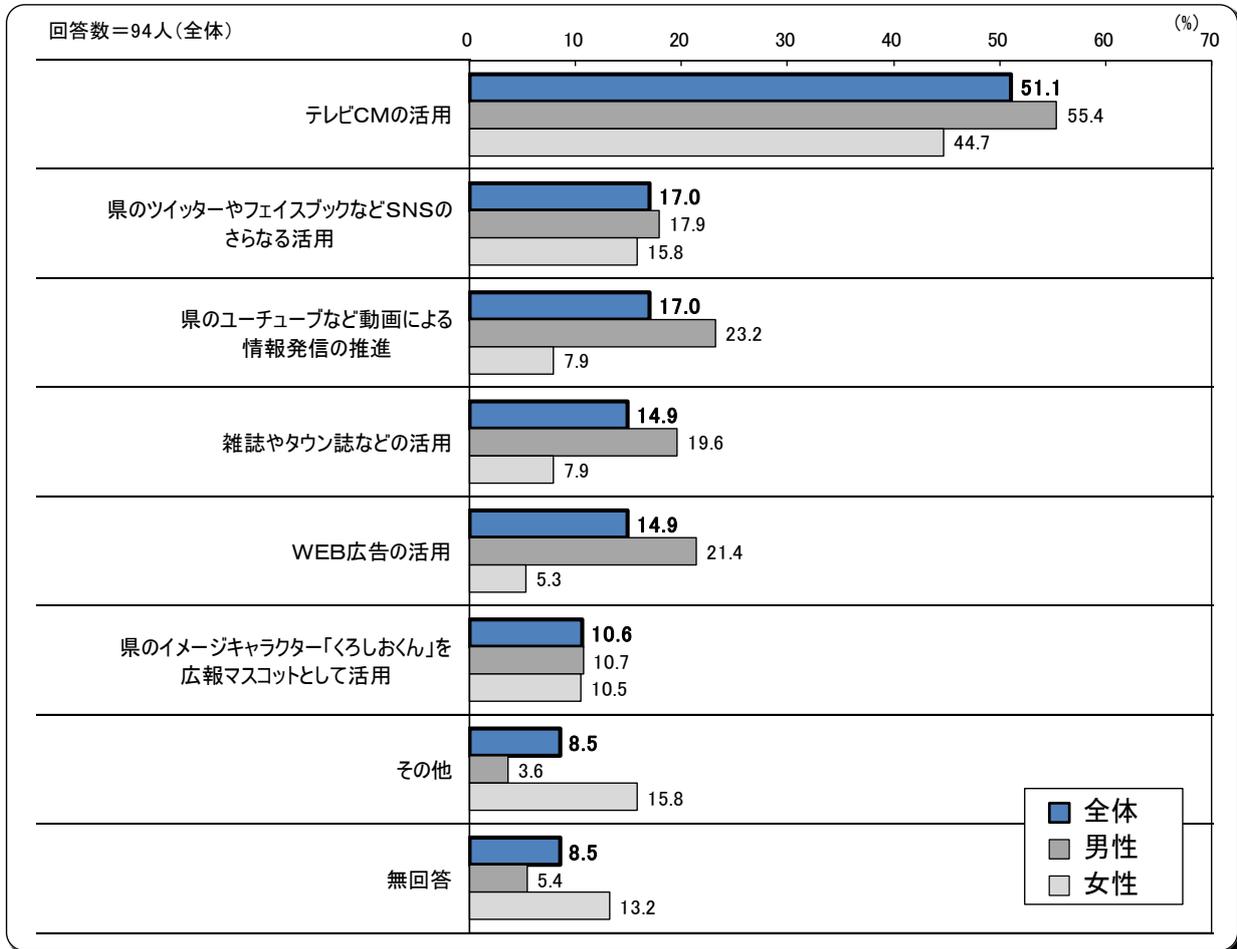


グラフ単位:(%)

【性別】

男女ともに「テレビCMの活用」が最も高くなっており、次いで、男性では「県のユーチューブなど動画による情報発信の推進」、「WEB広告の活用」が、女性では同率で「県のツイッターやフェイスブックなどSNSのさらなる活用」と「その他」と続いている。

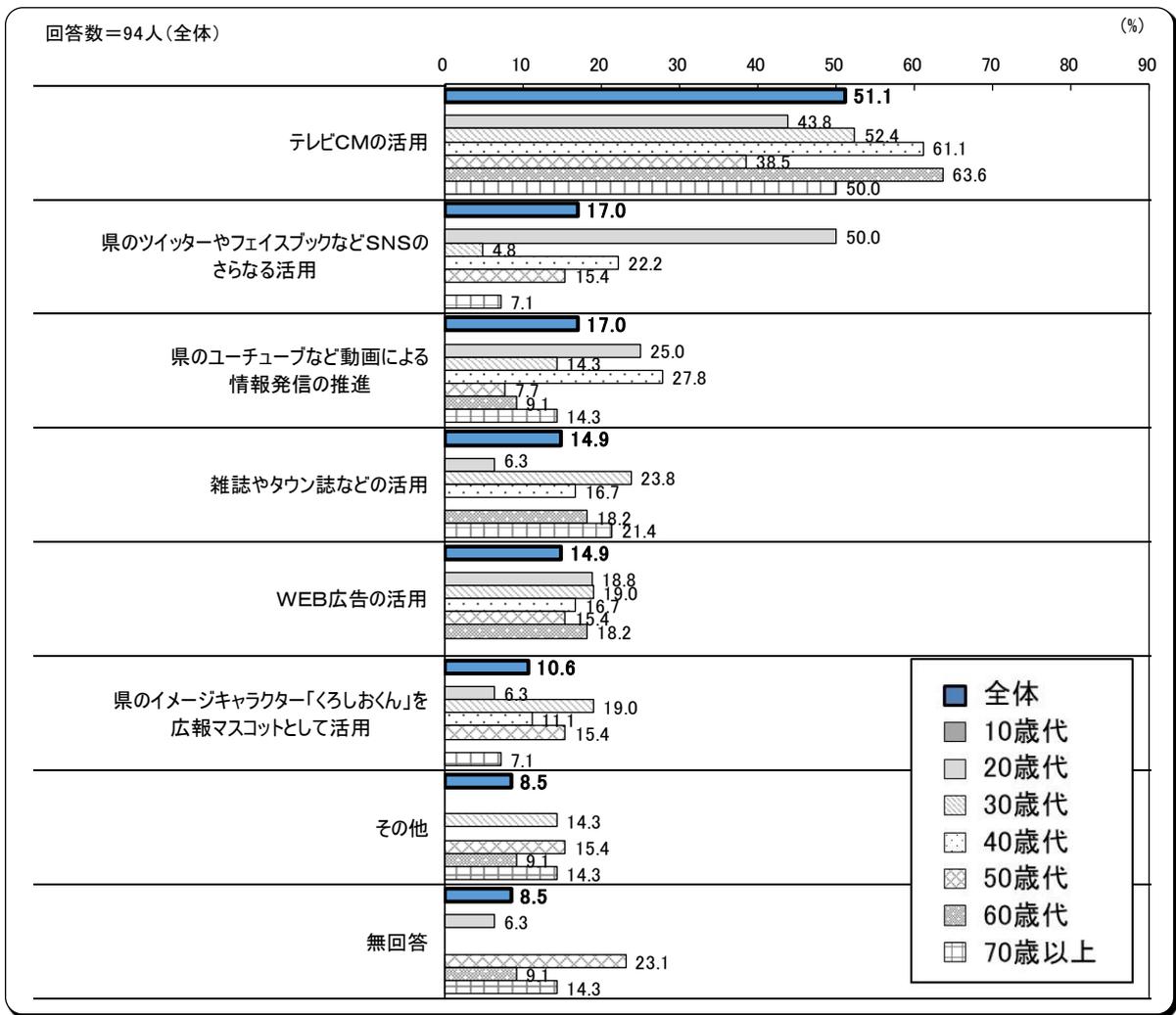
◀性別▶



【年代別】

10歳代と20歳代を除くすべての年代で「テレビCMの活用」が最も高く、20歳代では「県のツイッターやフェイスブックなどSNSのさらなる活用」が最も高くなっている。

《年代別》



(3)くろしおくんをどこで見かけるか

問 51 高知県では、県政情報や県の重要施策、取り組みを県民の皆さまに、より親しみやすく伝えるため、県のイメージキャラクター「くろしおくん」を活用しているところです。最近(平成30年度以降)、くろしおくんをどういったところで見かけますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「県広報紙「さんSUN高知」が47.2%と1位になっている。

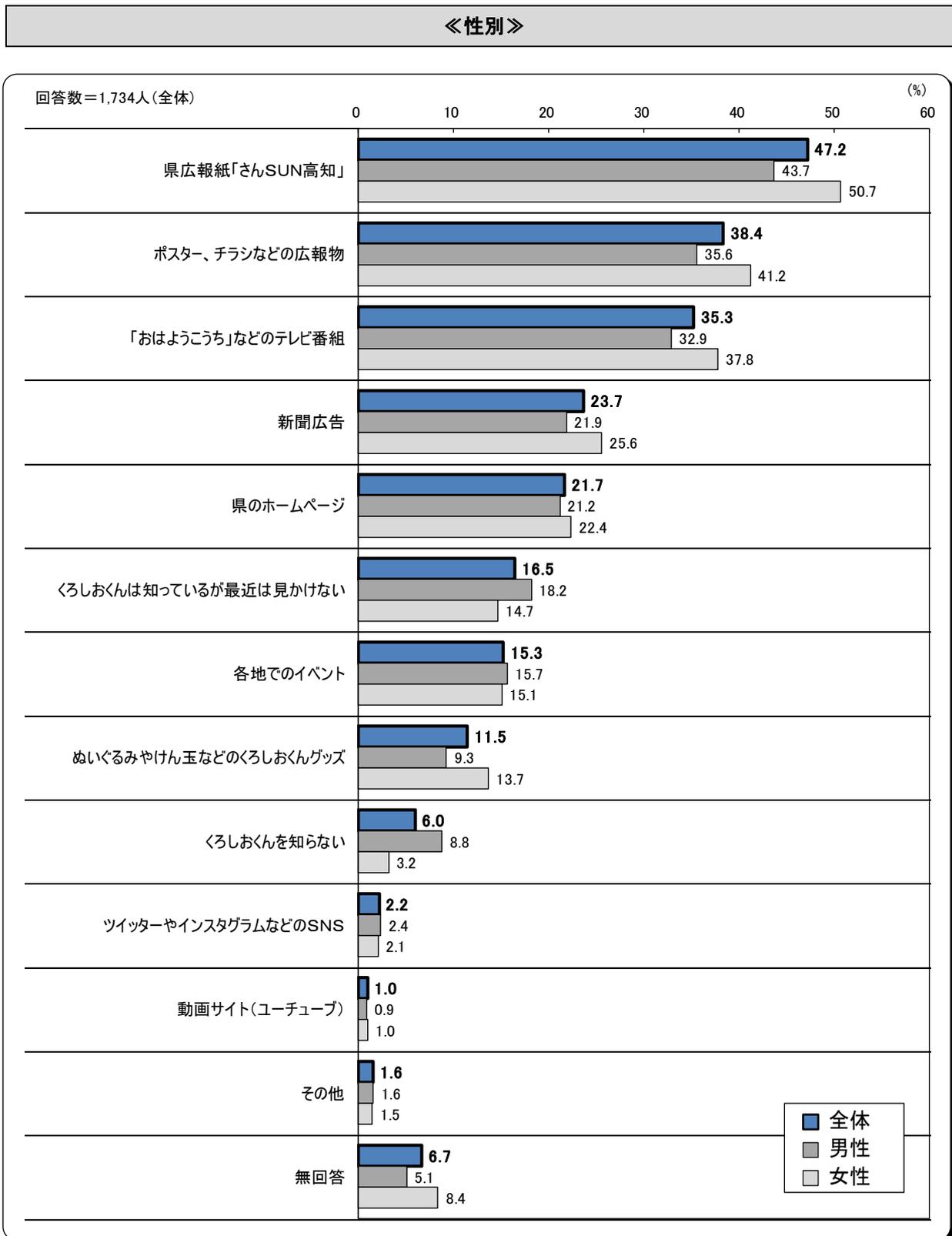
次いで、「ポスター、チラシなどの広報物」が38.4%、「「おはようこうち」などのテレビ番組」が35.3%と続いている。

《総合》		回答数
全 体	100.0	1,734 人
県広報紙「さんSUN高知」	47.2	819 人
ポスター、チラシなどの広報物	38.4	666 人
「おはようこうち」などのテレビ番組	35.3	612 人
新聞広告	23.7	411 人
県のホームページ	21.7	377 人
くろしおくんは知っているが最近は見かけない	16.5	286 人
各地でのイベント	15.3	266 人
ぬいぐるみやけん玉などのくろしおくんグッズ	11.5	199 人
くろしおくを知らない	6.0	104 人
ツイッターやインスタグラムなどのSNS	2.2	39 人
動画サイト(ユーチューブ)	1.0	17 人
その他	1.6	27 人
無回答	6.7	117 人

グラフ単位：(%)

【性別】

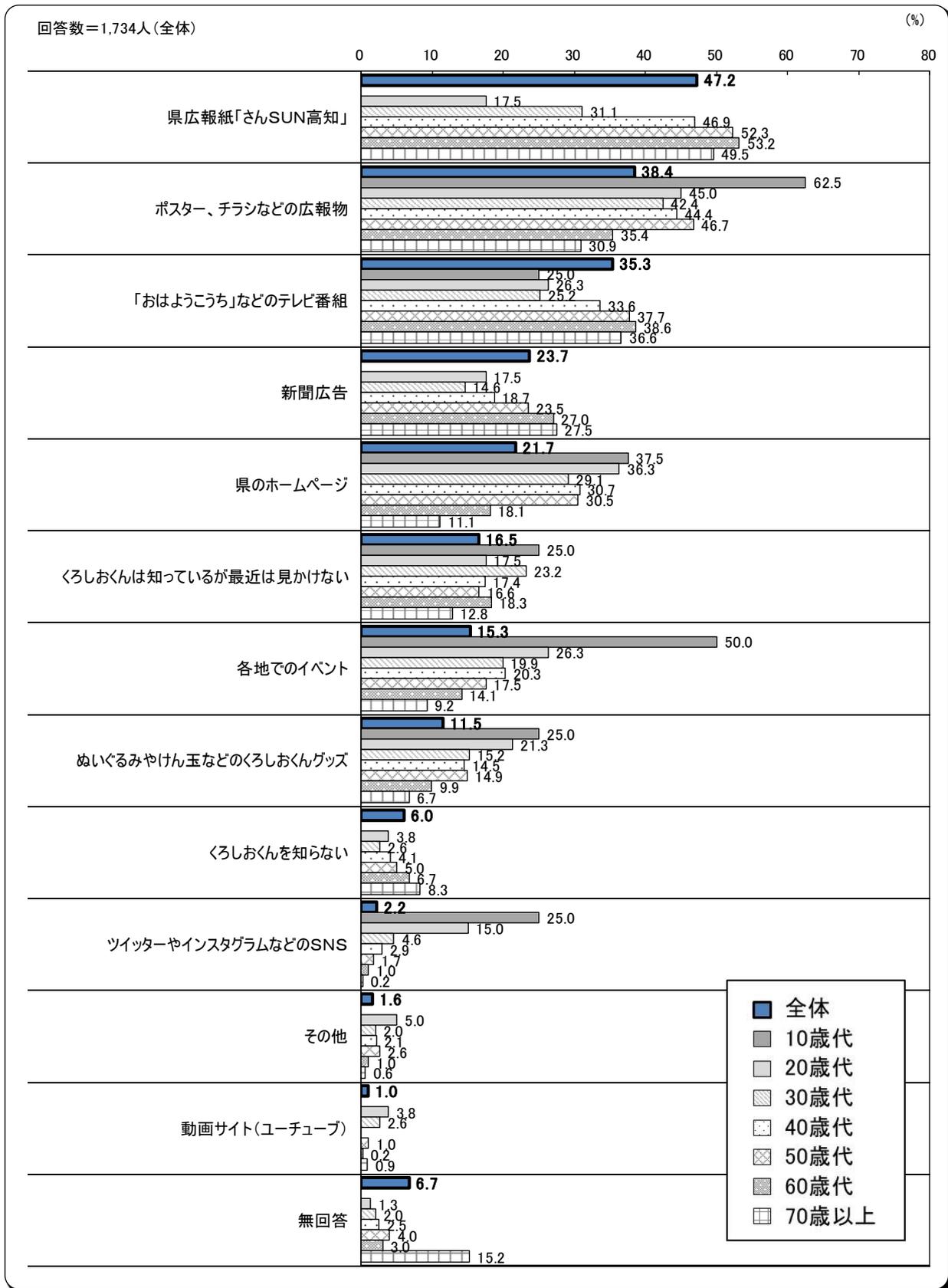
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代では「ポスター、チラシなどの広報物」が最も高く、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「県広報紙「さんSUN高知」」が最も高くなっている。

《年代別》



(4)くろしおくんの活用

副問1(問 51 で「1~11」を選んだ方のみお答えください。)県の広報をより魅力あるものとするため、今後くろしおくんをどのように活用すればよいと思いますか。(2つまで○印)

【総合】

「県のテレビ広報番組への積極的な出演」が39.4%と1位になっている。

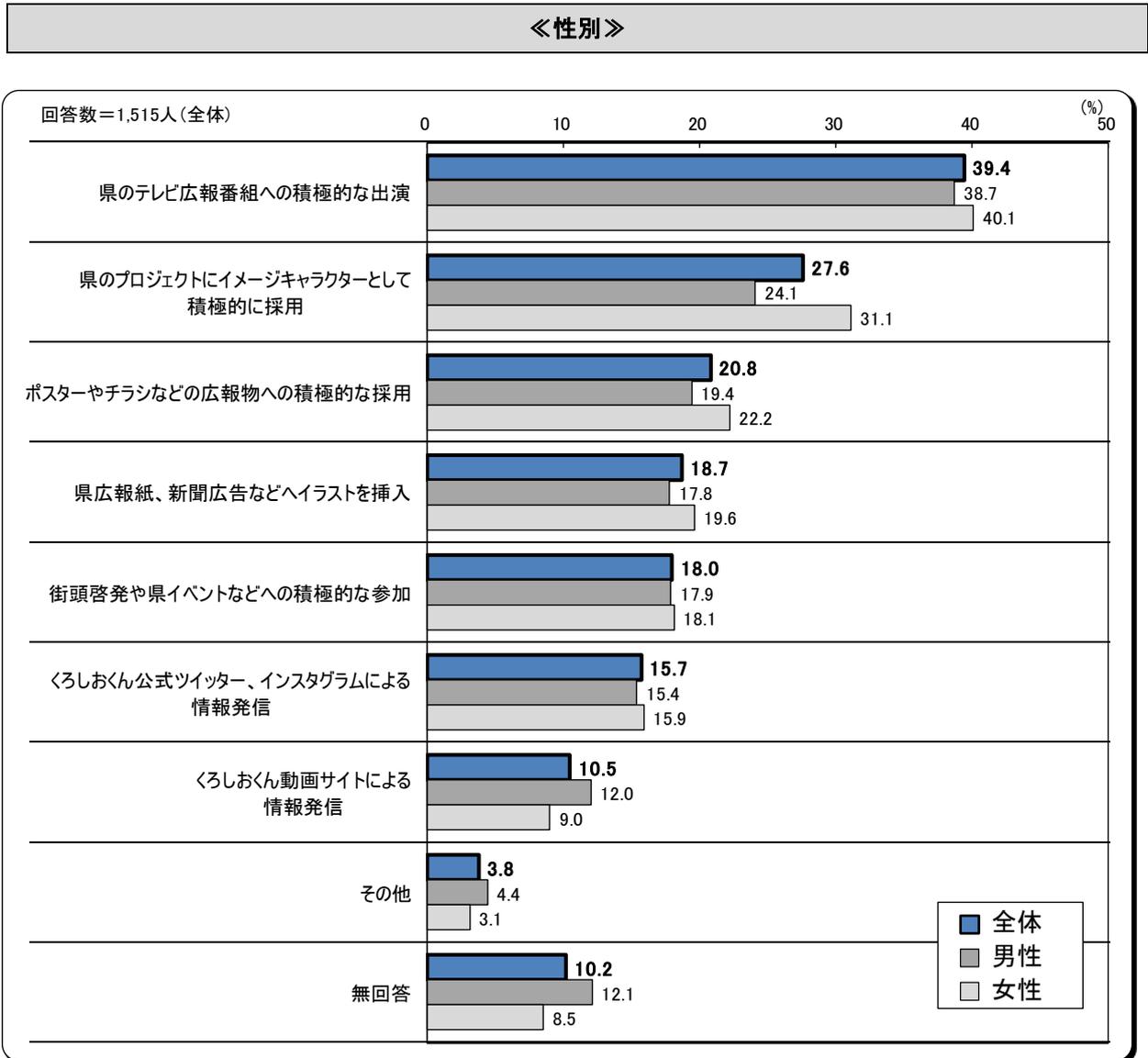
次いで、「県のプロジェクトにイメージキャラクターとして積極的に採用」が27.6%、「ポスターやチラシなどの広報物への積極的な採用」が20.8%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,515 人
県のテレビ広報番組への積極的な出演	39.4	597 人
県のプロジェクトにイメージキャラクターとして積極的に採用	27.6	418 人
ポスターやチラシなどの広報物への積極的な採用	20.8	315 人
県広報紙、新聞広告などヘイラストを挿入	18.7	284 人
街頭啓発や県イベントなどへの積極的な参加	18.0	273 人
くろしおくん公式ツイッター、インスタグラムによる情報発信	15.7	238 人
くろしおくん動画サイトによる情報発信	10.5	159 人
その他	3.8	57 人
無回答	10.2	155 人

グラフ単位：(%)

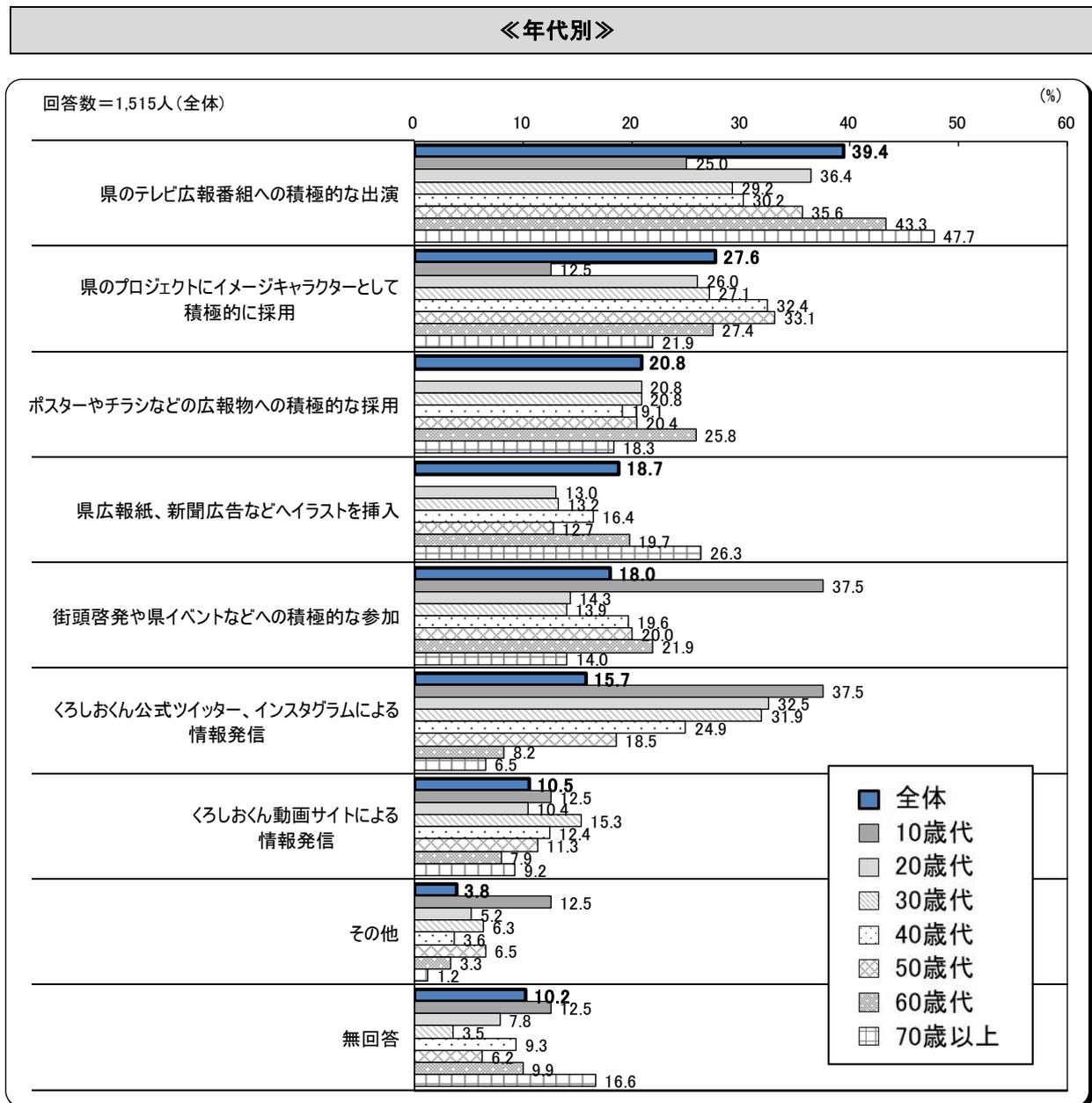
【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。



【年代別】

10歳代では同率で「街頭啓発や県イベントなどへの積極的な参加」と「くろしおくん公式ツイッター、インスタグラムによる情報発信」が最も高く、20歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「県のテレビ広報番組への積極的な出演」が、30歳以上では「くろしおくん公式ツイッター、インスタグラムによる情報発信」が、40歳以上では「県のプロジェクトにイメージキャラクターとして積極的に採用」が最も高くなっている。



<第6章 調査票〔単純集計結果〕>